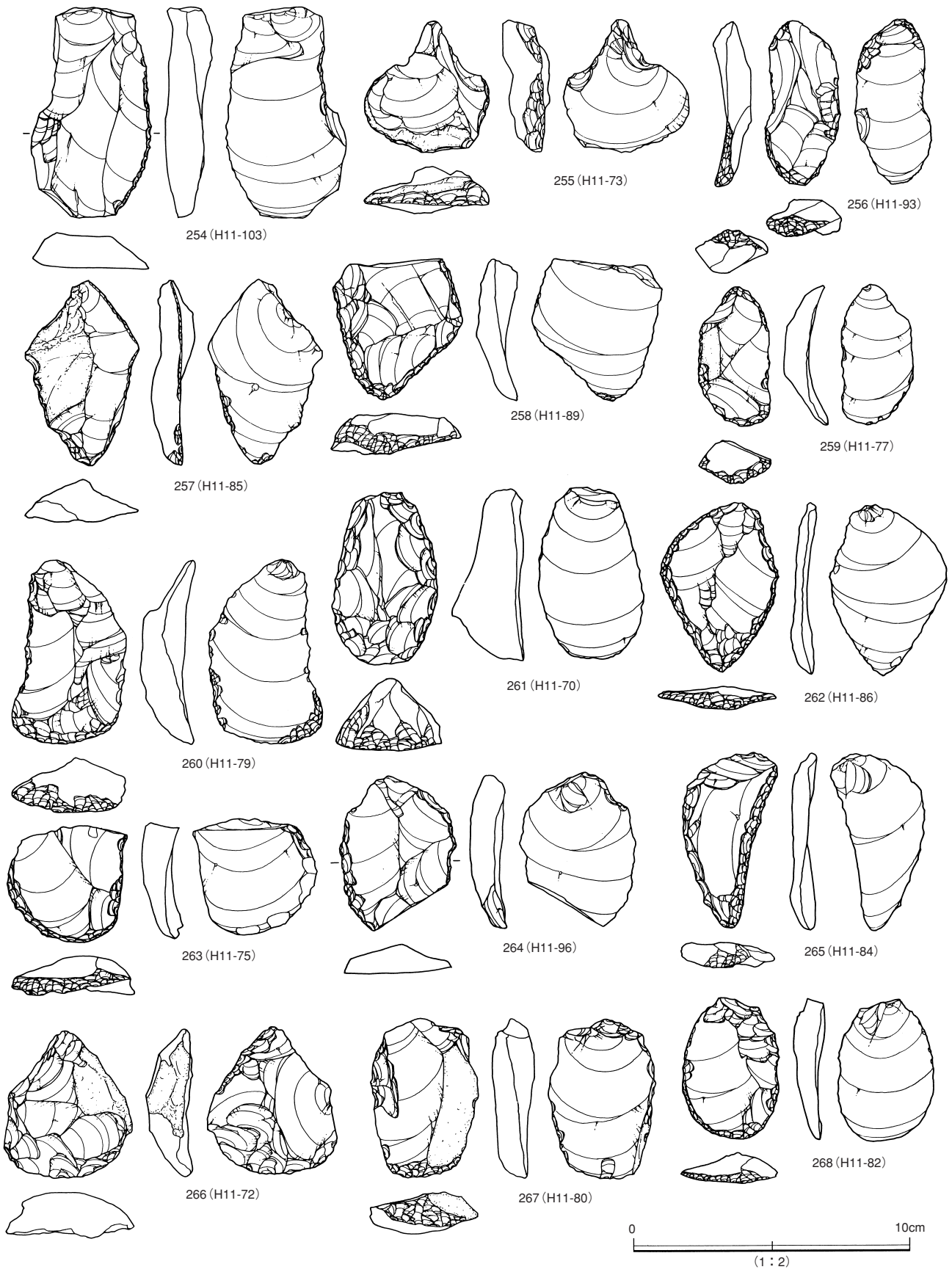
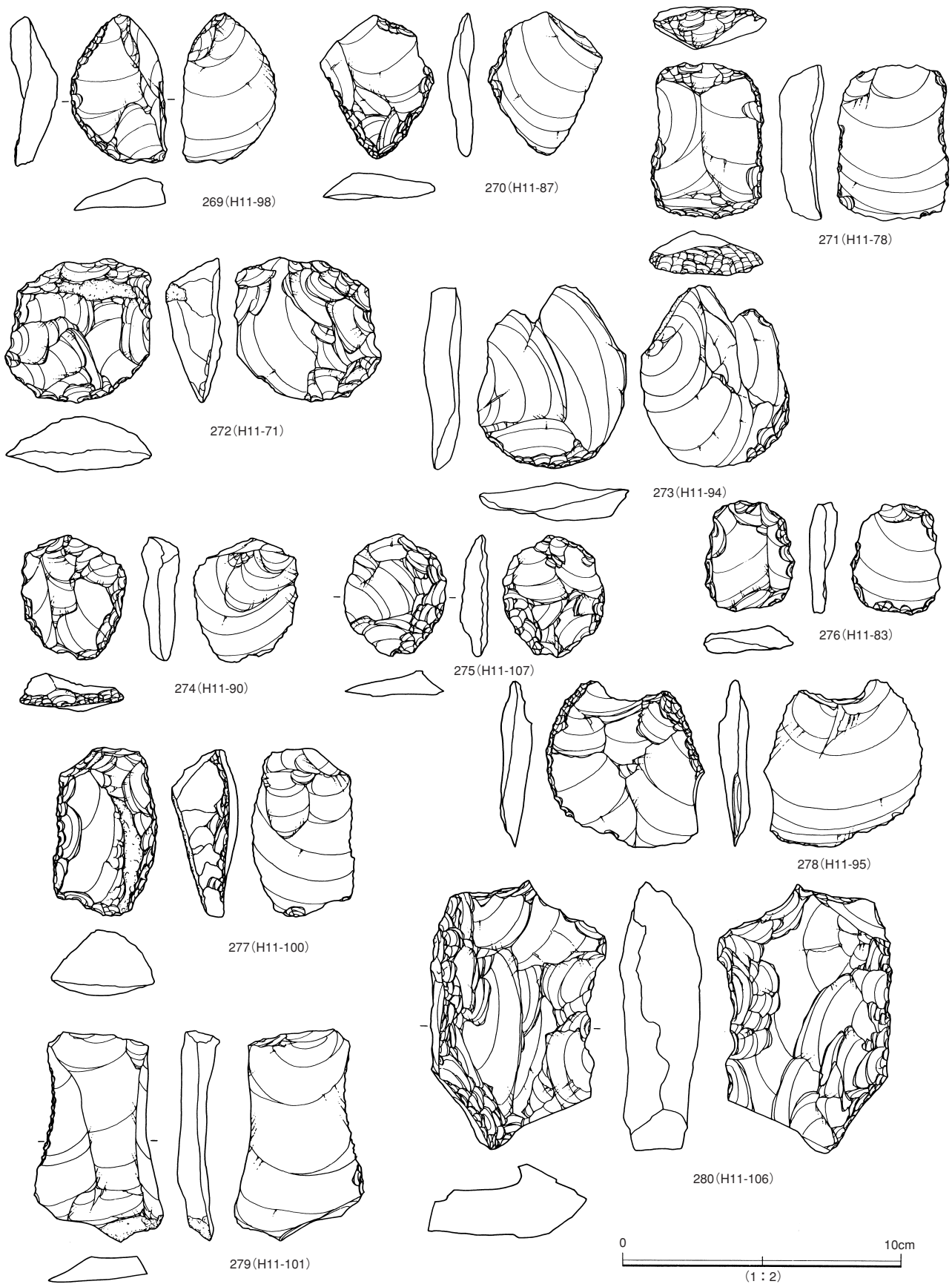
Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:143 Date: 2005/03/19 Sat 10:51:12



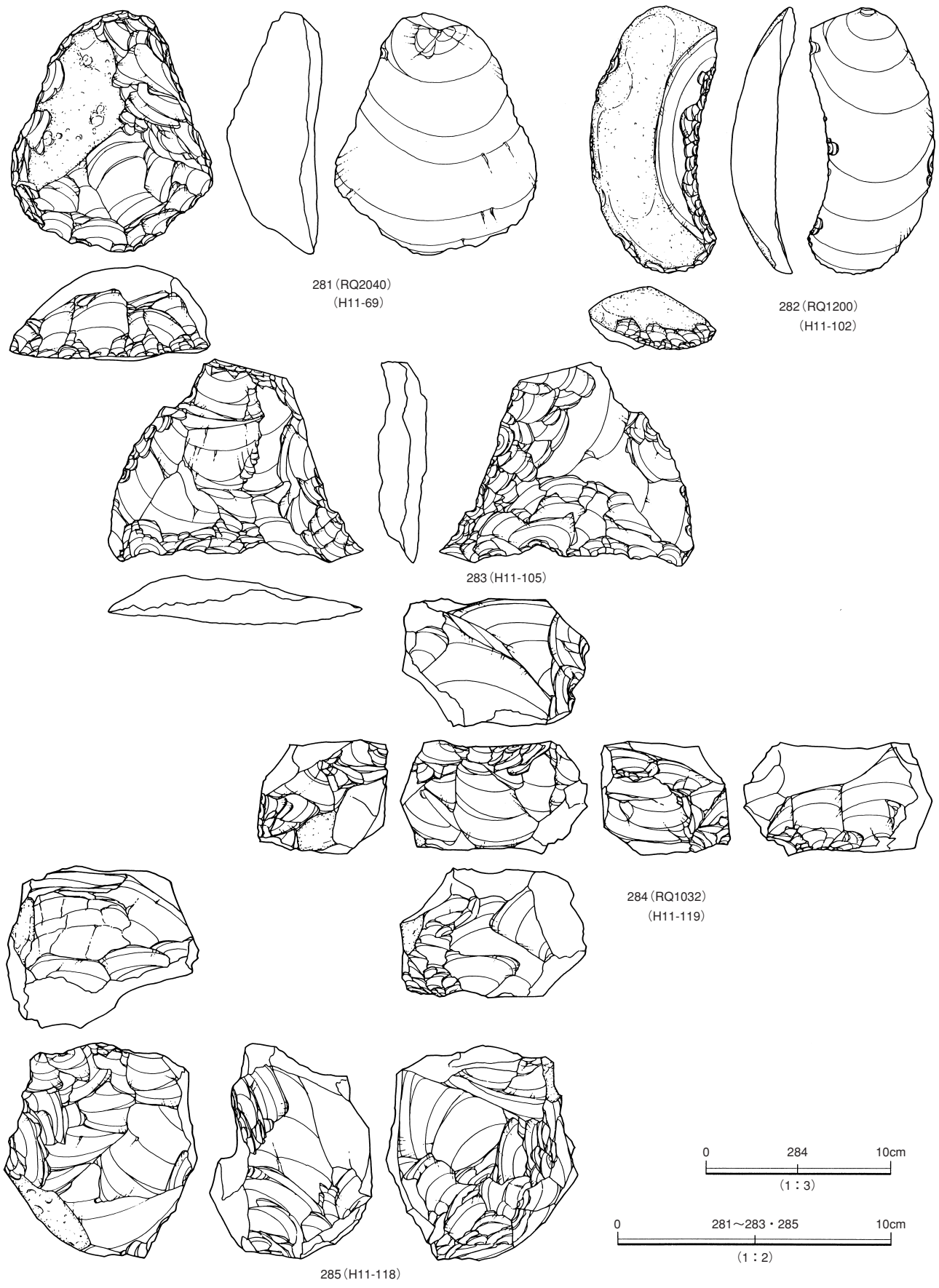
第117図　ST1341 住居跡出土遺物（16）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:144 Date: 2005/03/19 Sat 10:53:43



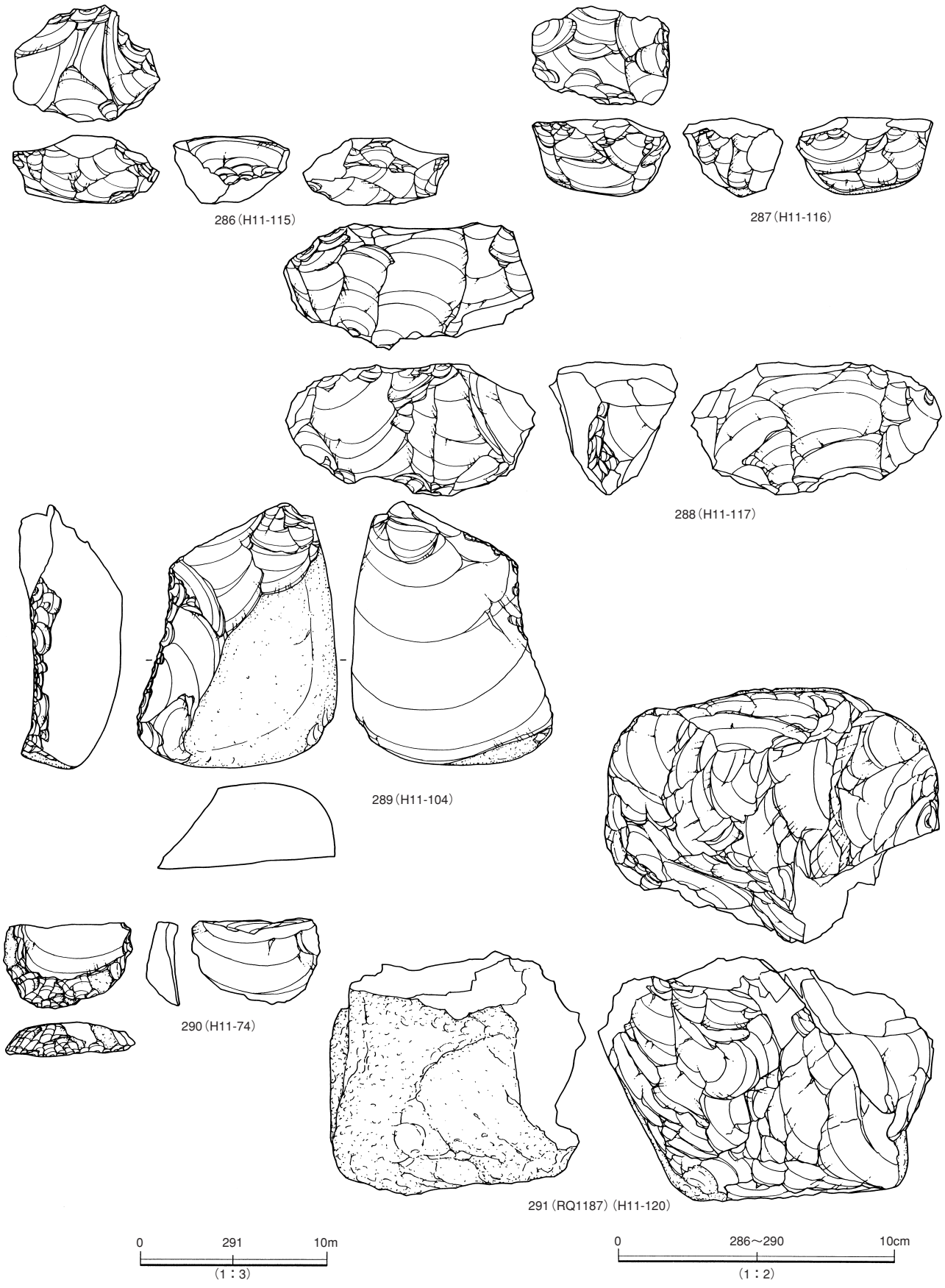
第118図　ST1341 住居跡出土遺物（17）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:145 Date: 2005/03/19 Sat 10:58:36



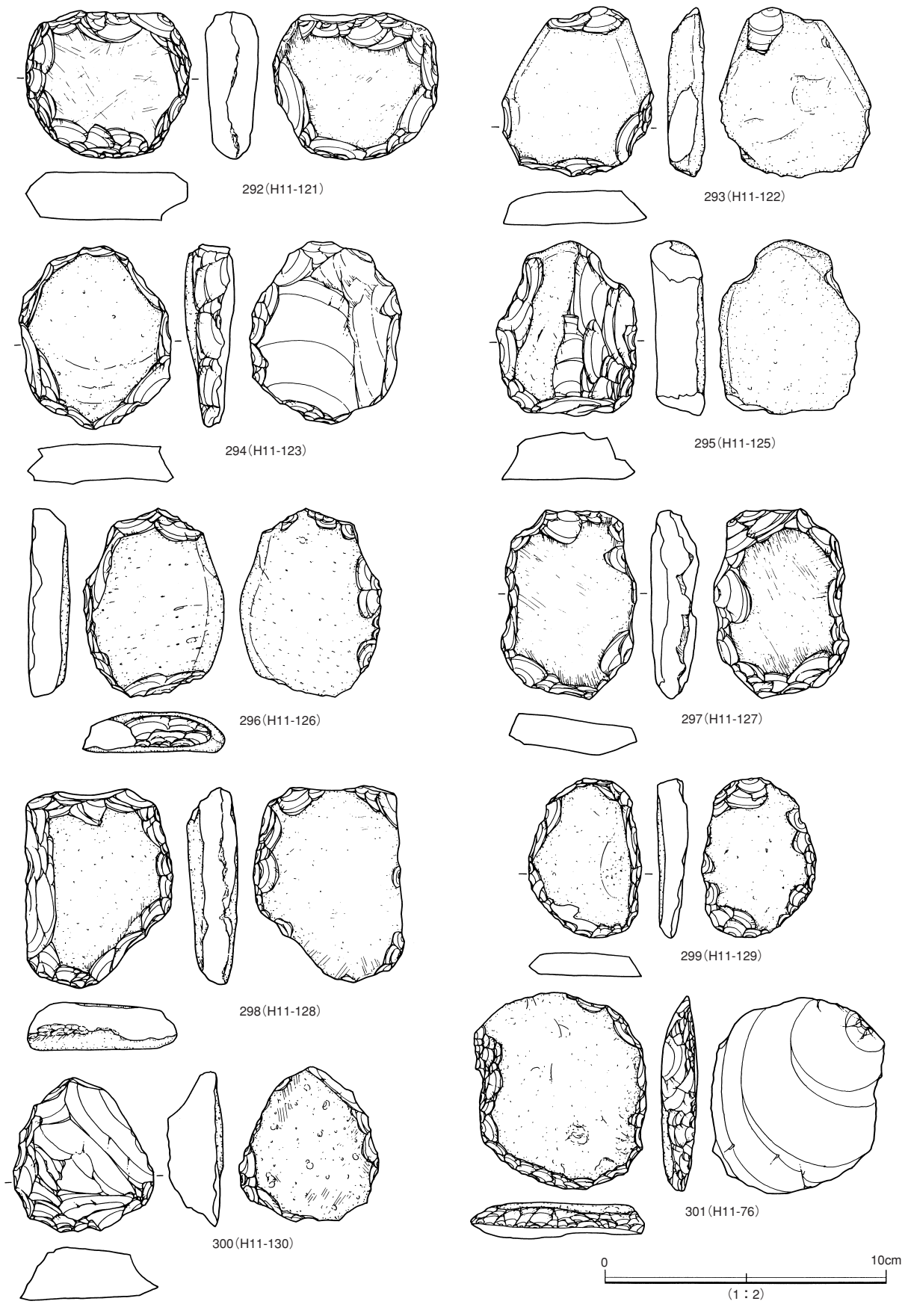
第119図　ST1341 住居跡出土遺物（18）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:146 Date: 2005/03/19 Sat 11:01:58



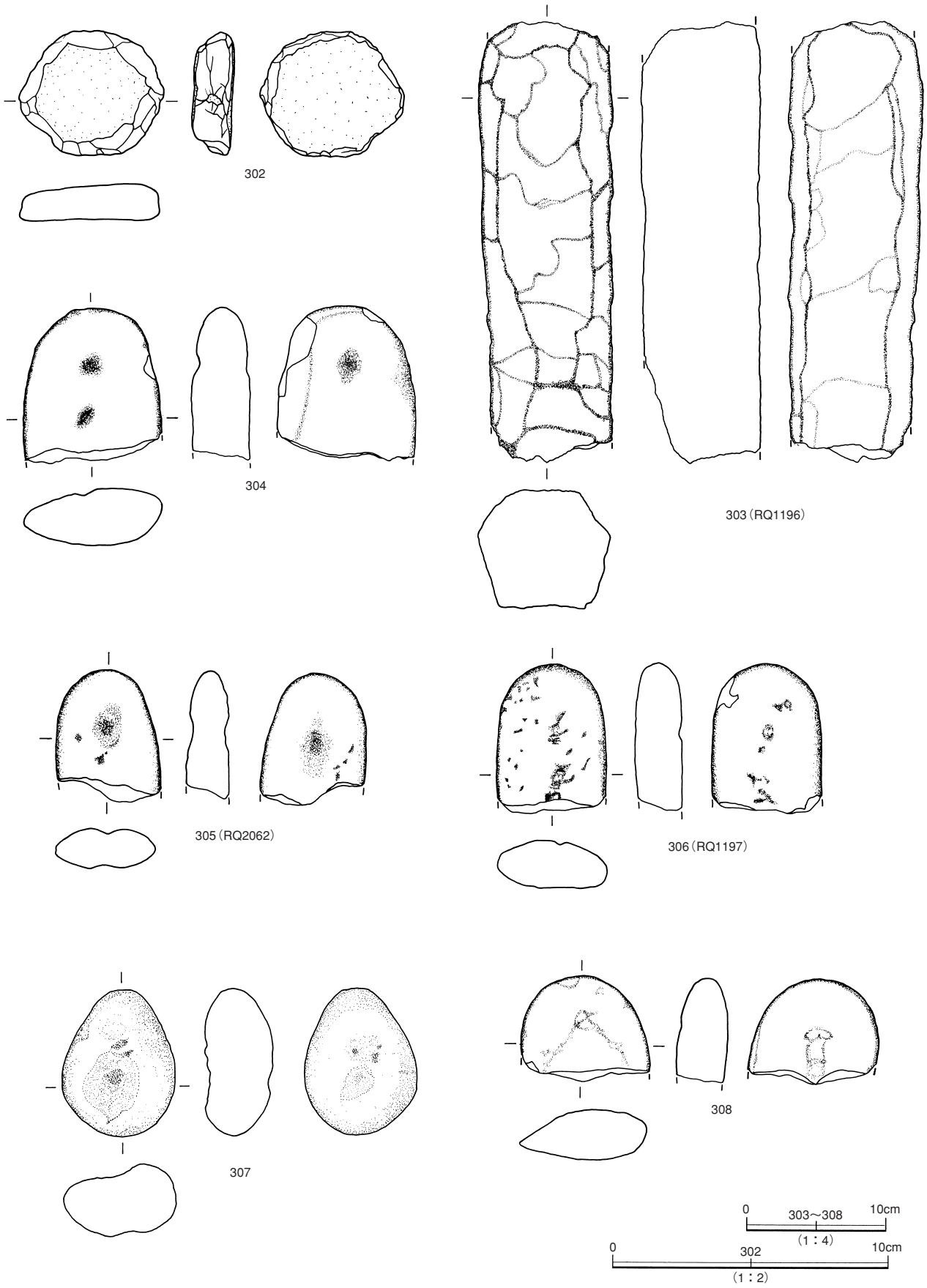
第120図　ST1341 住居跡出土遺物（19）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:147 Date: 2005/03/19 Sat 11:04:41



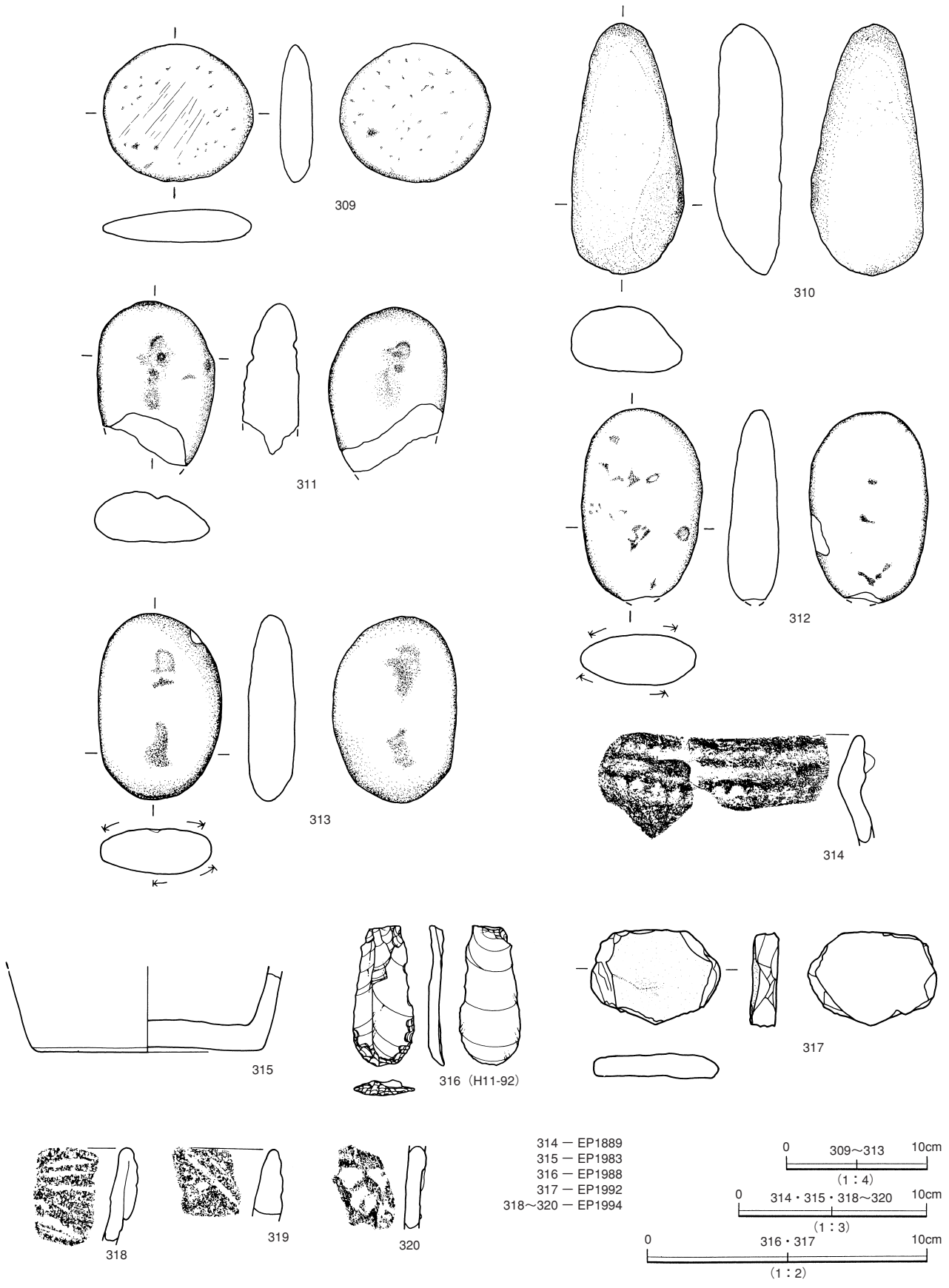
第121図　ST1341 住居跡出土遺物（20）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:148 Date: 2005/03/19 Sat 11:07:26



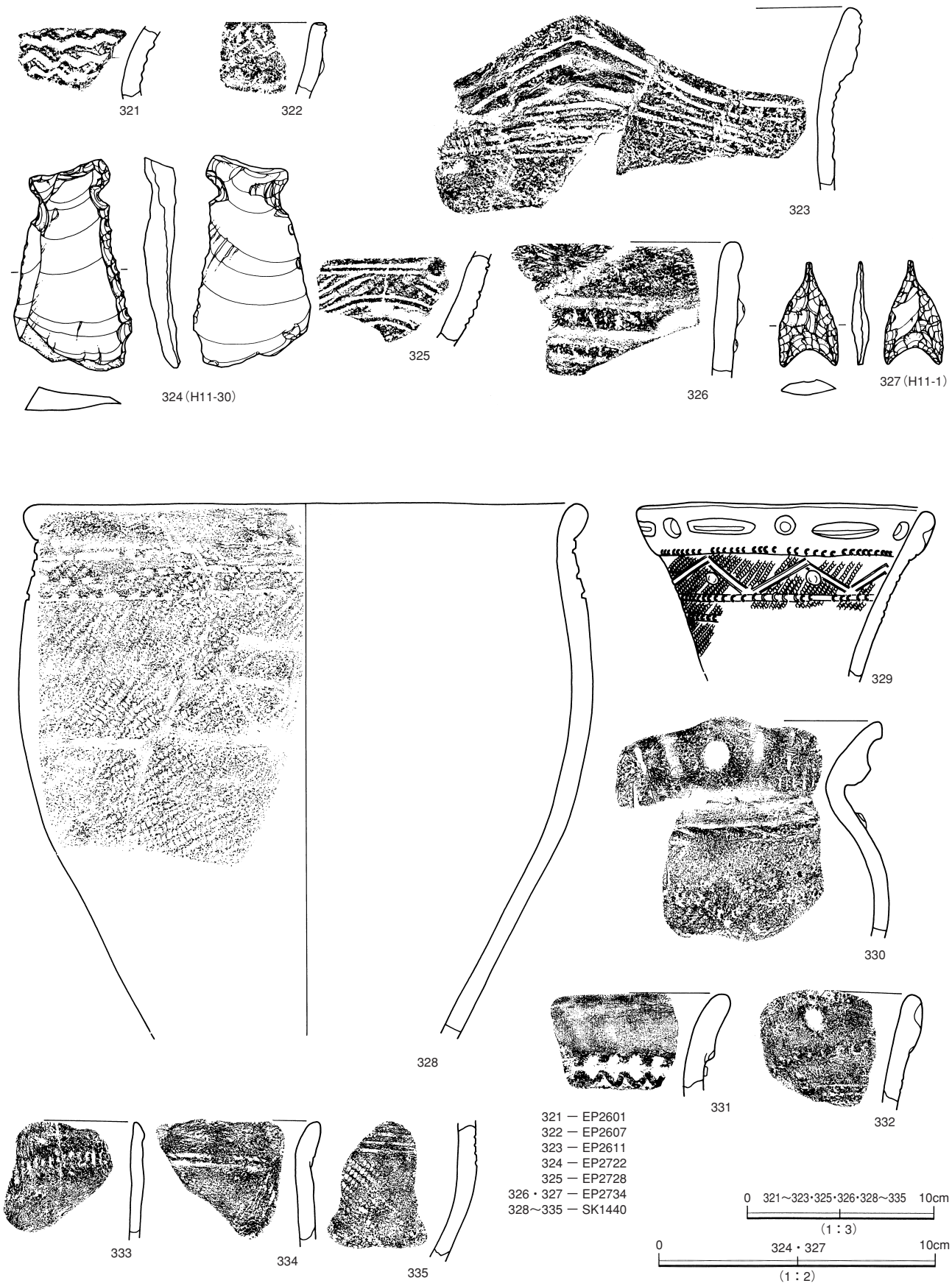
第122図　ST1341 住居跡出土遺物（21）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:149 Date: 2005/03/19 Sat 11:10:03



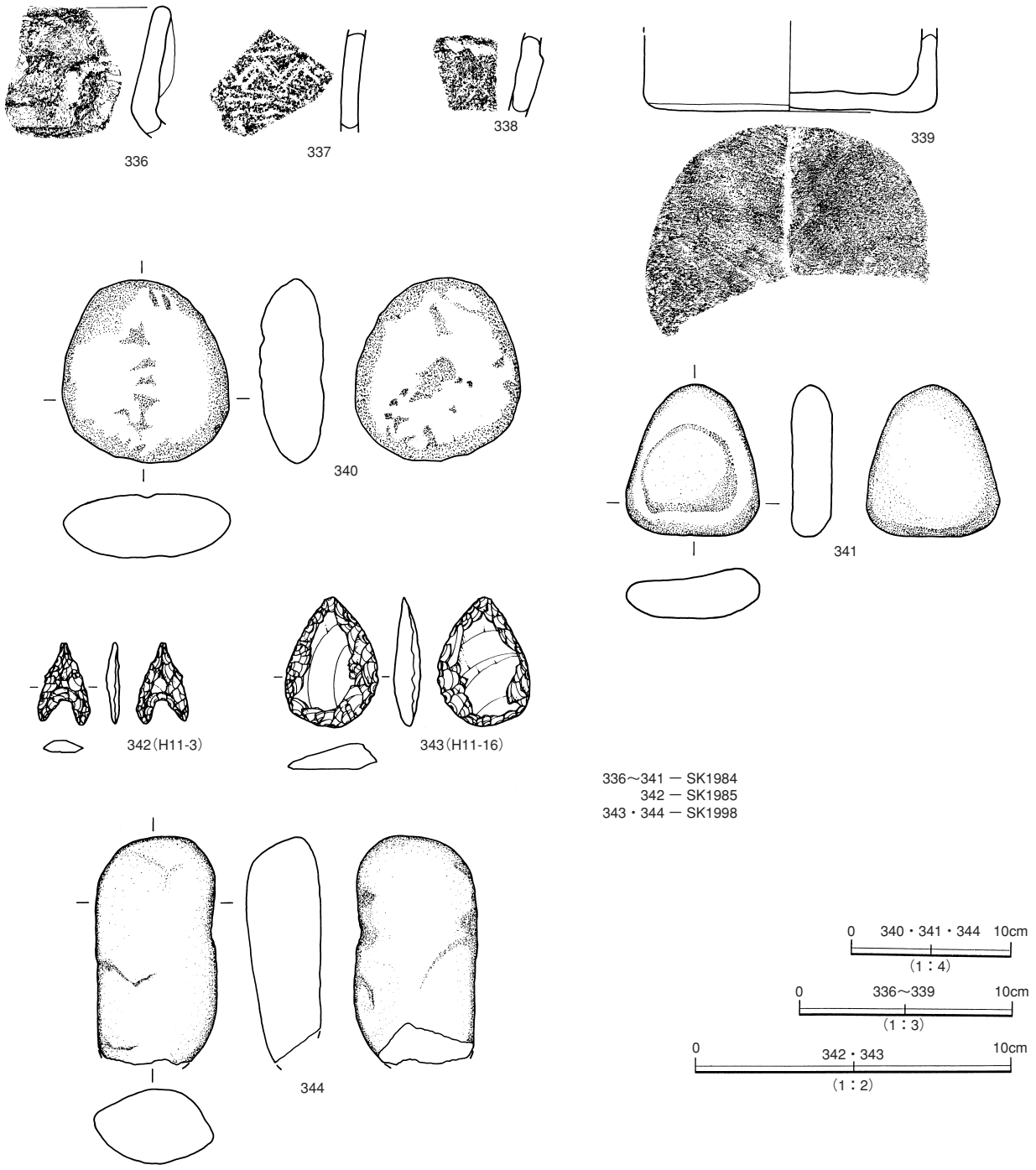
第123図　ST1341 住居跡出土遺物（22）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:150 Date: 2005/03/19 Sat 11:14:11



第124図　ST1341 住居跡出土遺物（23）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:151 Date: 2005/03/19 Sat 11:18:24



第125図　ST1341 住居跡出土遺物（24）

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:152 Date: 2005/03/25 Fri 10:46:00

ＳＴ1415（1658）住居跡（第126～133図　写遺構－144　写遺物－36・49・130）

グリッド９～13－78～81で確認された。ＳＫ1618・2744・2833・2839等の土坑や多数の小穴と重複する。奈良～平安時代のＳＤ1502溝跡に切られる。

本址は当初、ＳＤ1502の西側と東側に方形のプランを検出し、それぞれを別遺構の住居跡として登録し調査を進めた。西側をＳＴ1415、東側をＳＴ1658とした。

ＳＴ1415は東西５ｍ南北４ｍの長方形プランで、ＳＤ1502からＥＰ2558付近までを考えていた。覆土は６～14cmの残存で、木炭粒や焼土粒・黄褐色土粒を混入する暗褐色土～黒褐色土を主体とする。ＳＴ1658は東西４ｍ、南北３ｍで隅丸方形プラン、覆土は４～６cmの残存でＳＴ1415と同様の覆土であった。

両方とも覆土が検出されているが壁面や床面の構築は明確ではない。この様なことと、炉が東西に一列に並ぶこと、また深さのばらつきはあるものの炉の両側に柱穴が一直線上に並ぶことから、かなり長大で細長いプランではあるが一棟の大型住居跡と想定した。

長軸27.5ｍの住居跡

本址は柱列から推測して細長い楕円形の形態である。柱穴をもとにした規模は長軸27.5m、中央部幅4.2mを測る。覆土は、当初ＳＴ1415･1658として検出した覆土以外に残存していない。建物の東側半分は床面での確認である。壁は、確認されていない。床は地山の黄褐色粘土層の直上を床とし、床面は緩やかな凹凸がある。

床面及び住居範囲で約90カ所の柱穴・小穴が検出された。これらは規模や深さからいくつかに分けられる。径20cm前後のピットは主柱穴と思われ、壁内側や周溝に沿うように配置されていたとみられる。

主柱穴は不整円形の掘り方を持つものが多く、住居の長軸線に平行する形で配置されている。これらを検討するとＥＰ2837－ＥＰ2829、ＥＰ2838－Ｐ１、ＥＰ1657－Ｐ13、ＥＰ2825－ＥＰ2840、Ｐ３－Ｐ２、ＥＰ1886－ＥＰ1884、ＥＰ1883－Ｐ14等、長軸線をはさむ２つの相対関係が認められ、相対関係のつかめなかった柱穴も主柱穴の可能性がある。

内外に位置する小穴は壁際･壁外柱穴と考えられる。また、Ｐ17など長軸中心付近に並ぶピットも、上屋を支える支柱と考えられる。

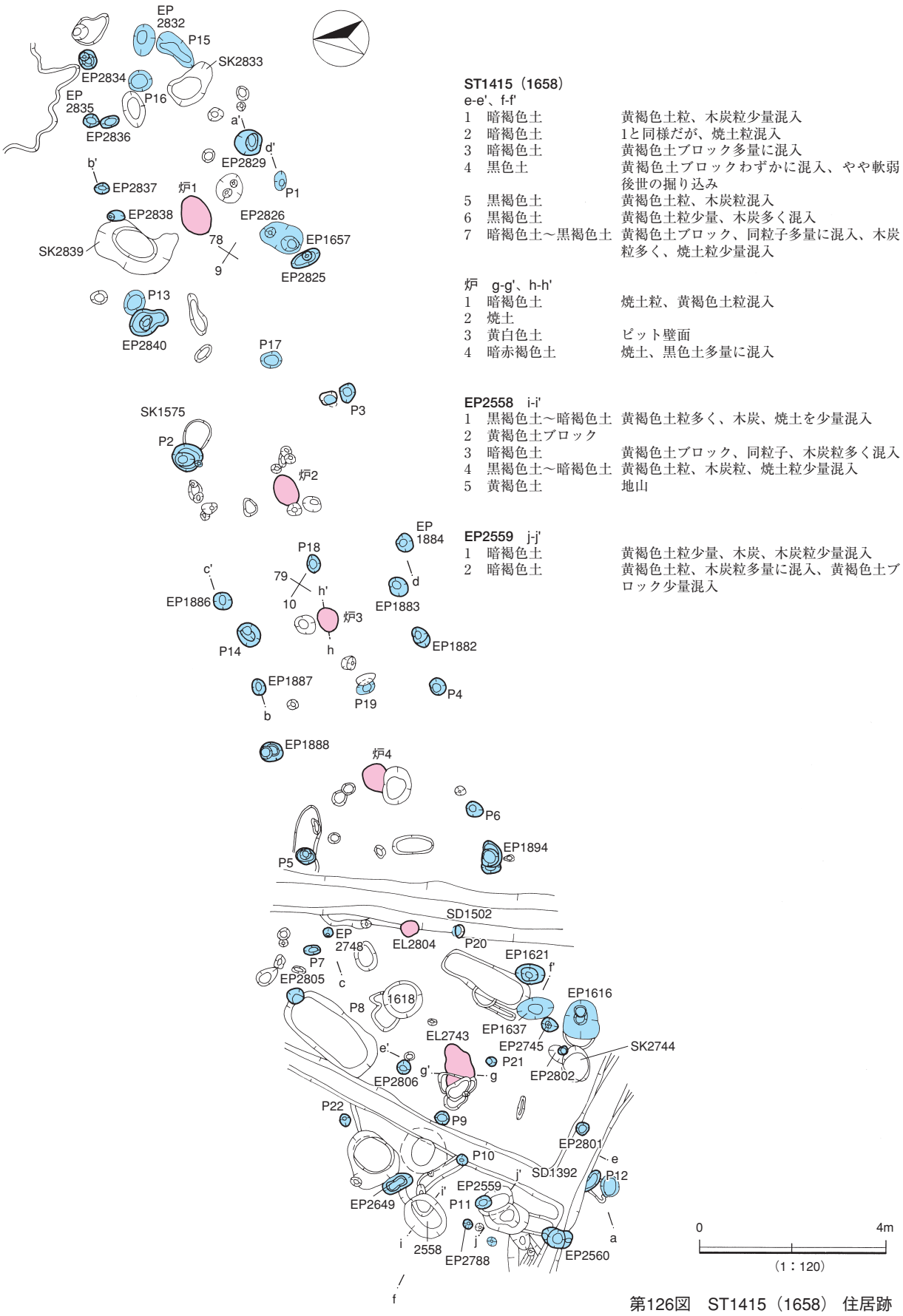
６基の炉

炉は床面で６カ所検出され、ＥＬ2743炉は焼土が多く、炉４は良く焼けていた。他は検出時の上面削平により焼土面は２～３cm程度の遺存である。真夏の乾燥時の検出であったが、良く焼けていたため乾燥時にも検出できたと考える。いずれも地床炉と考えられる。

炉はいわゆる「定位置」炉であり、柱間間隔で住居長軸中央部に配置される。堅く焼けており使用頻度が高かったものとみられる。埋設土器などはみられない。西側の炉は、中央よりやや西北側にずれている。炉は長軸では50～90cmの範囲を残している。周溝は確認していない。

柱穴の深さは次の通りである。ＥＰ2838（63cm）、ＥＰ2835（46cm）、ＥＰ2836（52cm）、ＥＰ2837（33cm）、ＥＰ2838（30cm）、Ｐ13（12cm）、ＥＰ2840（46cm）、Ｐ２（68cm）、ＥＰ1886（60cm）、Ｐ14（60cm）、ＥＰ1887（30cm）、ＥＰ1888（69cm）、Ｐ５（96cm）、Ｐ７（34cm）、Ｐ８（10cm）、ＥＰ2806（58cm）、Ｐ９（18cm）、Ｐ10（20cm）、Ｐ11（34cm）、ＥＰ2560（76cm）、Ｐ12（４cm）、ＥＰ2801（71cm）、ＥＰ2745（45cm）、ＥＰ2802（52cm）、ＥＰ1621（70cm）、

Title:P138-153_縄文時代.ec6 Page:153 Date: 2005/03/25 Fri 13:21:42



ST1415（1658）

e-e'、f-f'

1	暗褐色土	黄褐色土粒、木炭粒少量混入
2	暗褐色土	1と同様だが、焼土粒混入
3	暗褐色土	黄褐色土ブロック多量に混入
4	黒色土	黄褐色土ブロックわずかに混入、やや軟弱 後世の掘り込み
5	黒褐色土	黄褐色土粒、木炭粒混入
6	黒褐色土	黄褐色土粒少量、木炭多く混入
7	暗褐色土～黒褐色土	黄褐色土ブロック、同粒子多量に混入、木炭粒多く、焼土粒少量混入

炉　g-g'、h-h'

1	暗褐色土	焼土粒、黄褐色土粒混入
2	焼土	
3	黄白色土	ピット壁面
4	暗赤褐色土	焼土、黒色土多量に混入

EP2558　i-i'

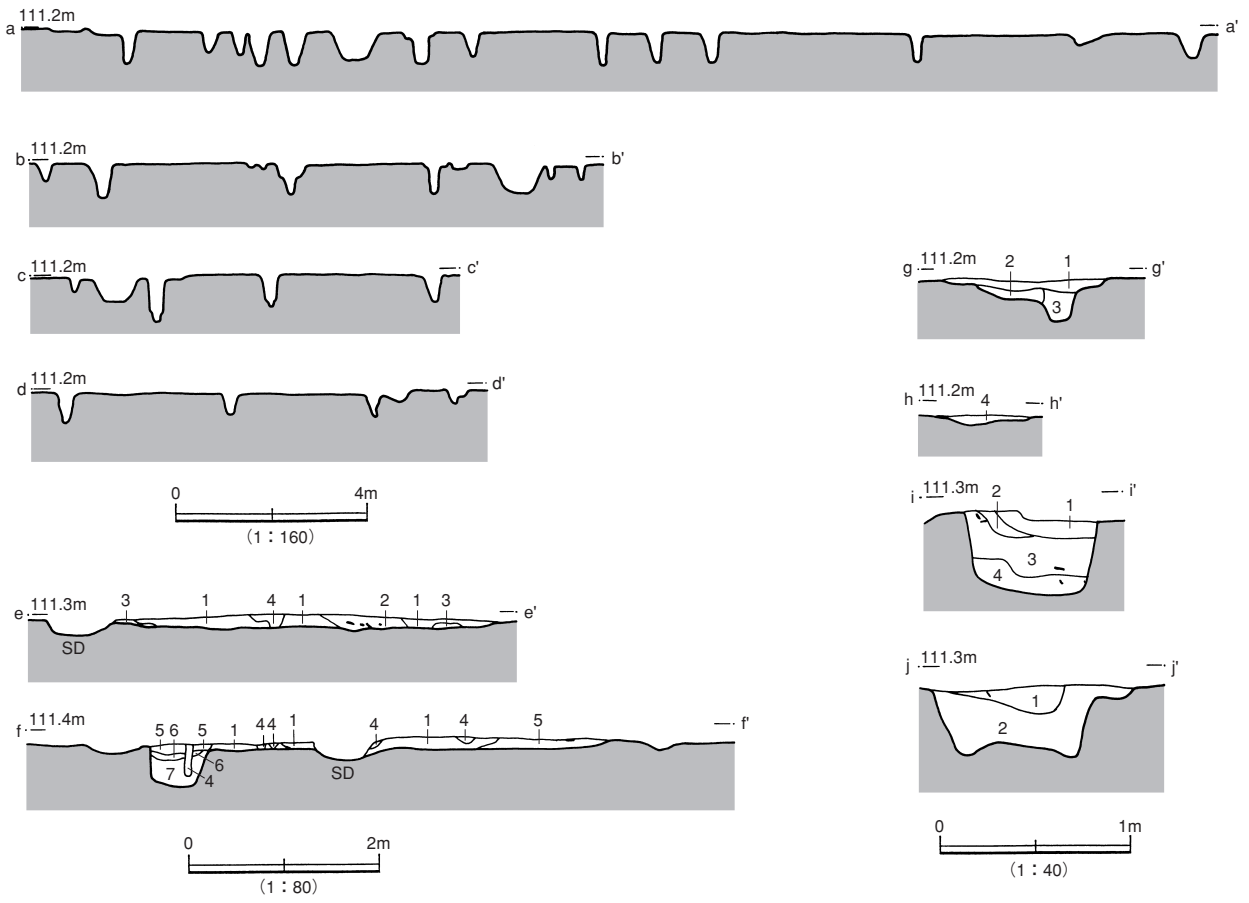
1	黒褐色土～暗褐色土	黄褐色土粒多く、木炭、焼土を少量混入
2	黄褐色土ブロック	
3	暗褐色土	黄褐色土ブロック、同粒子、木炭粒多く混入
4	黒褐色土～暗褐色土	黄褐色土粒、木炭粒、焼土粒少量混入
5	黄褐色土	地山

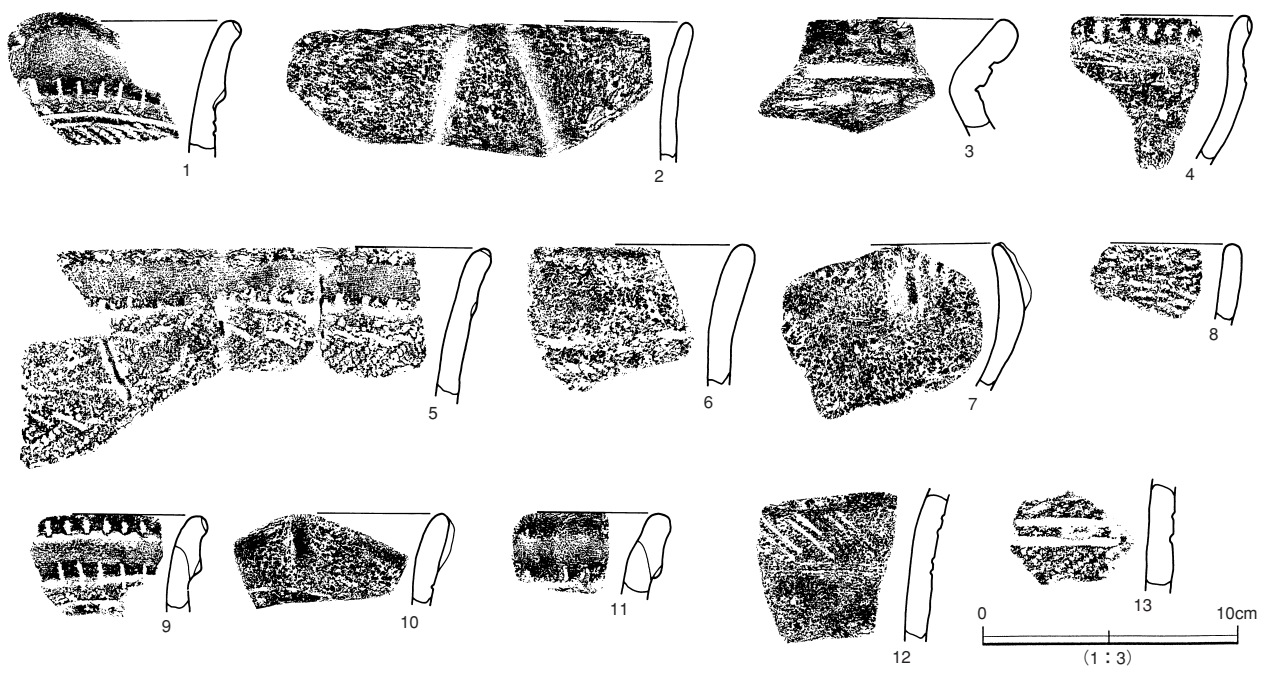
EP2559　j-j'

1	暗褐色土	黄褐色土粒少量、木炭、木炭粒少量混入
2	暗褐色土	黄褐色土粒、木炭粒多量に混入、黄褐色土ブロック少量混入

第126図　ST1415（1658）住居跡

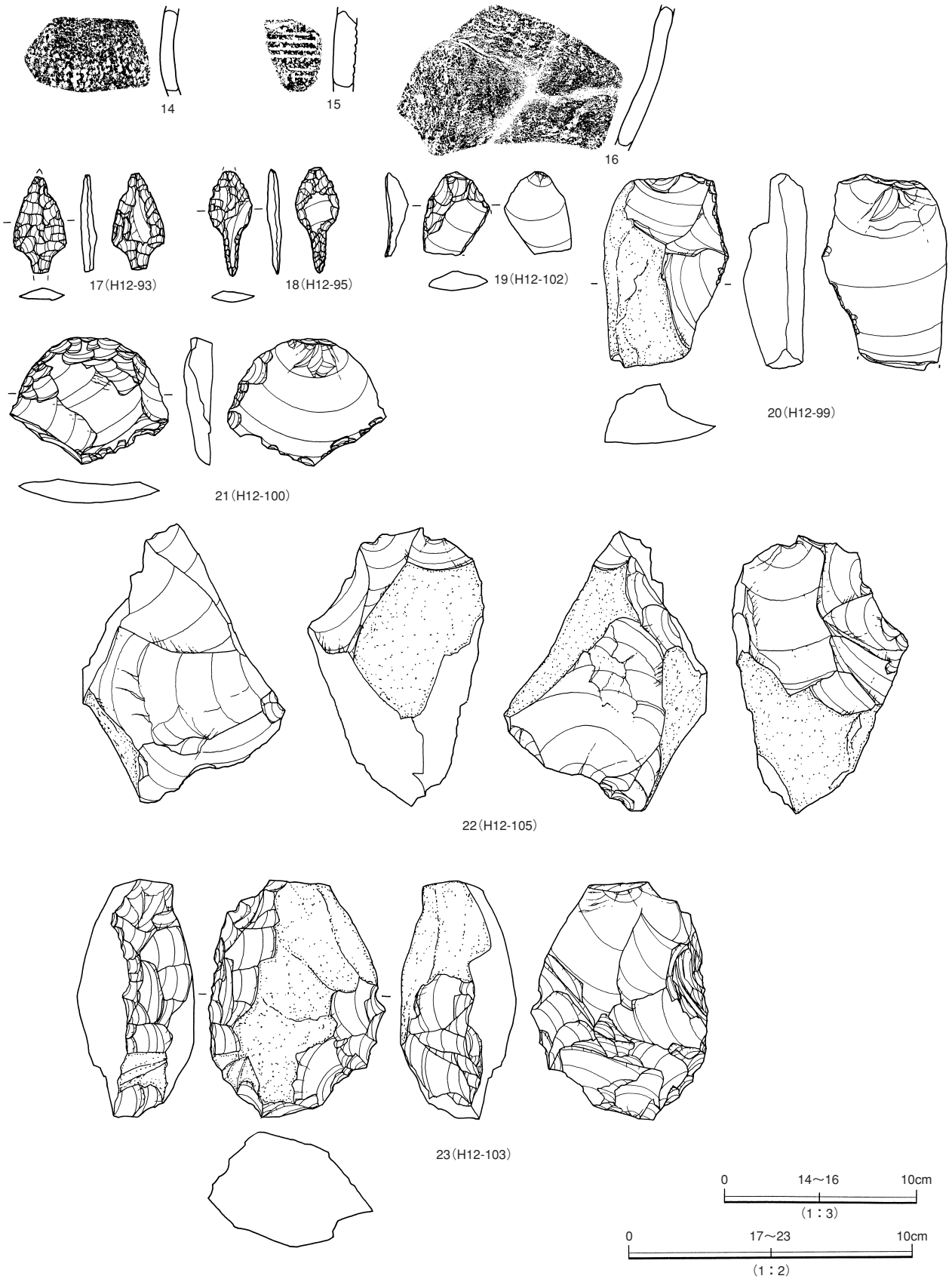
Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:154 Date: 2005/03/19 Sat 11:28:40





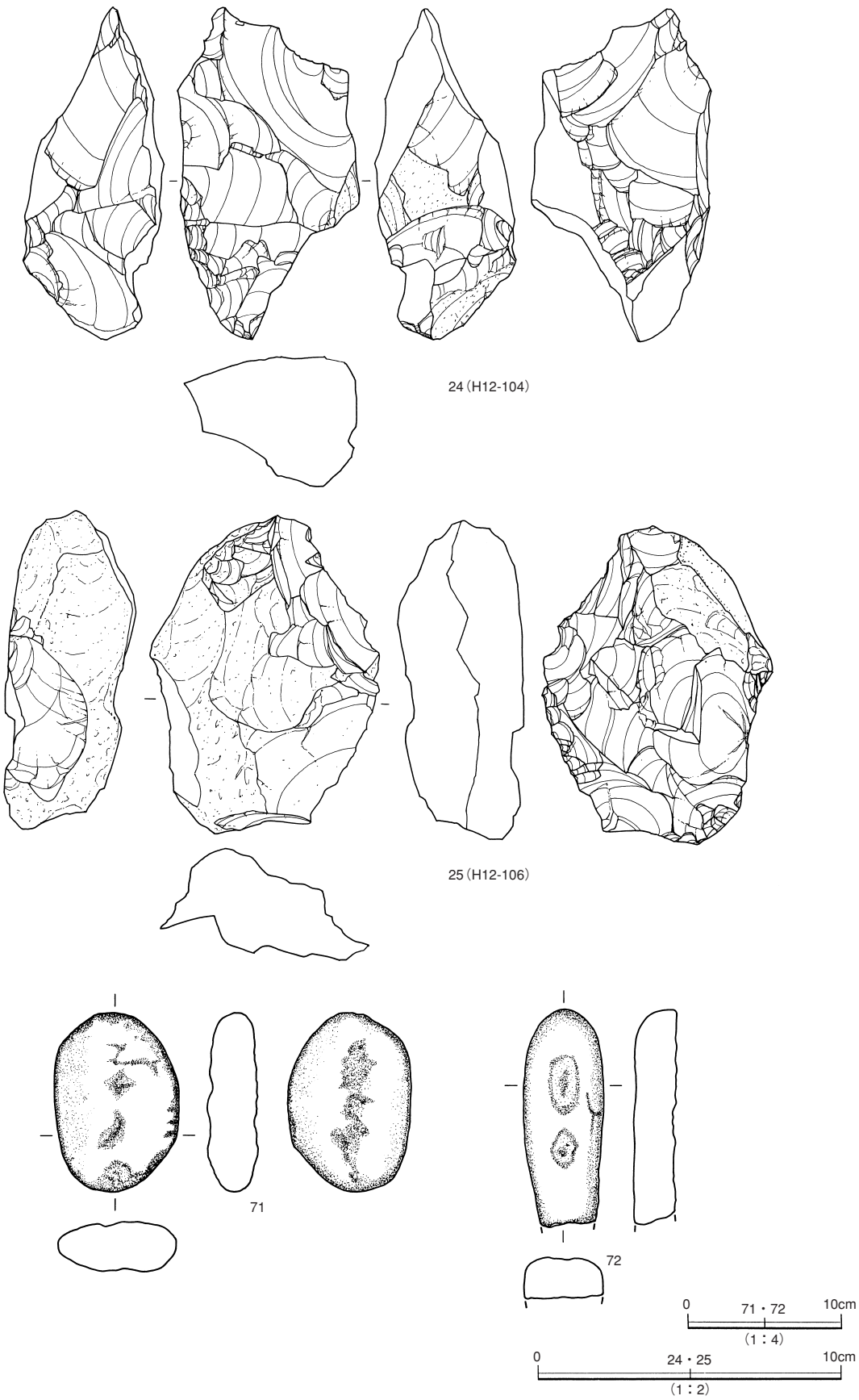
第127図　ST1415（1658）住居跡・出土遺物（１）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:155 Date: 2005/03/19 Sat 11:32:33



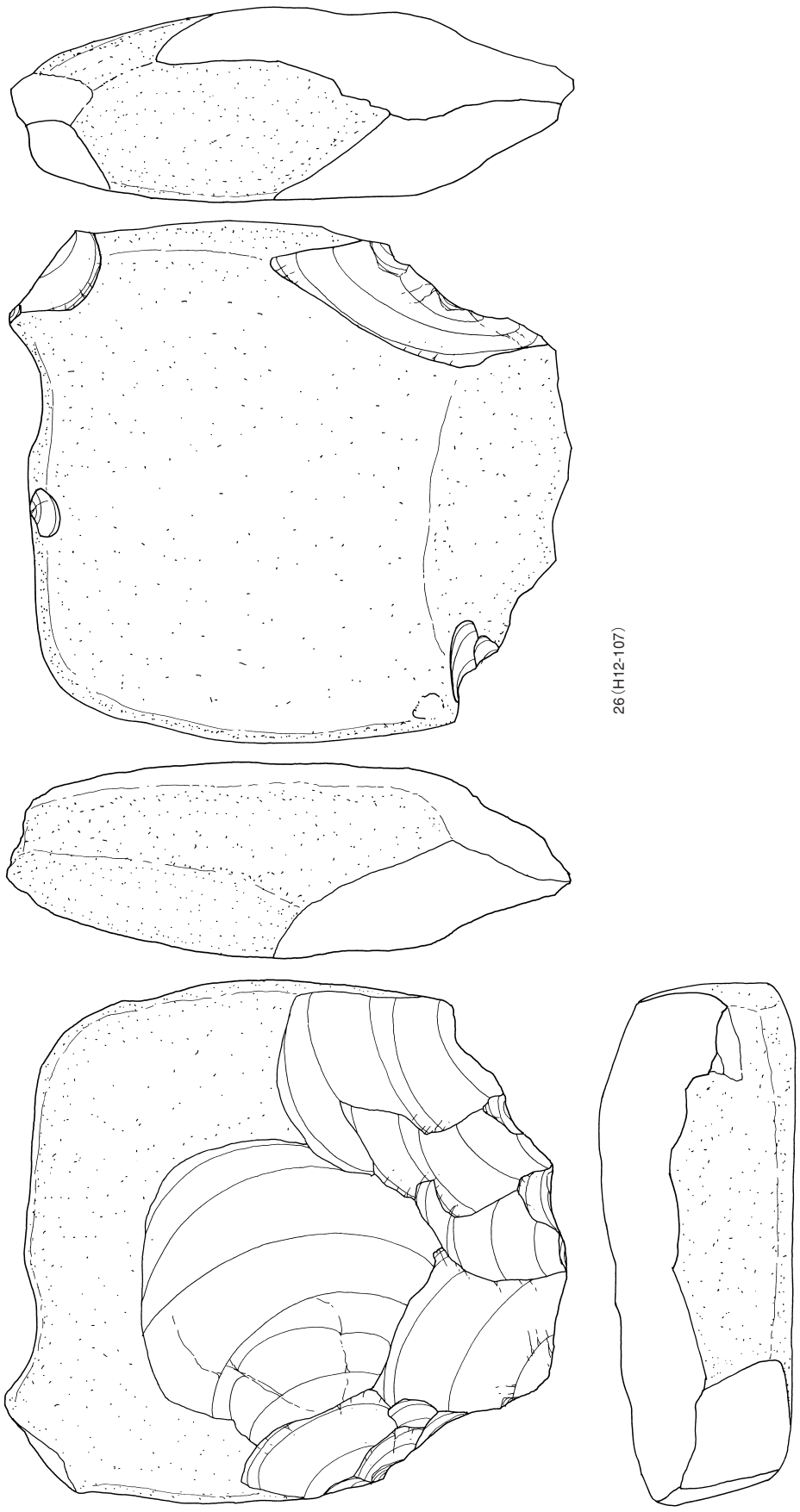
第128図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（２）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:156 Date: 2005/03/19 Sat 11:36:01



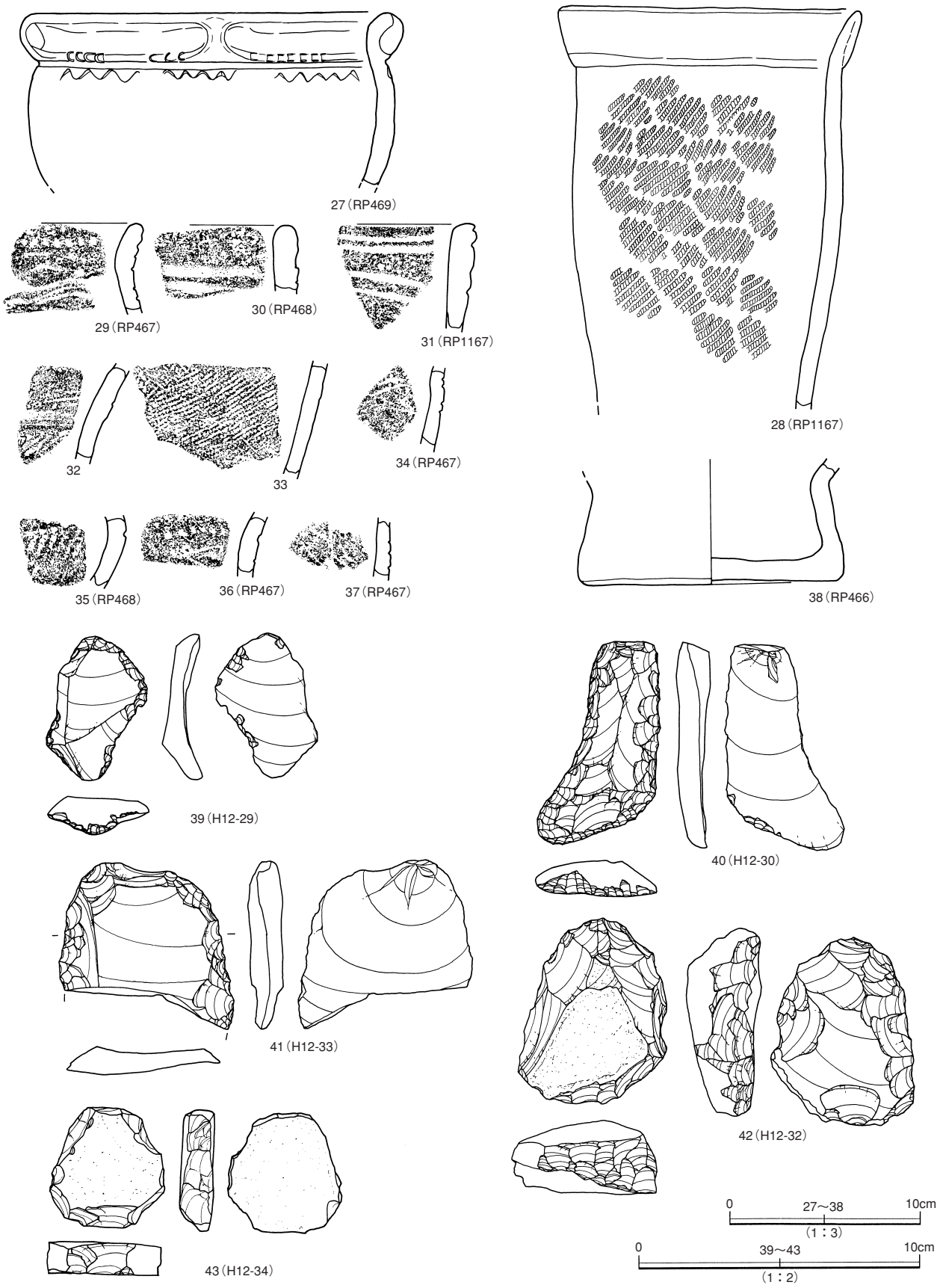
第129図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（３）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:157 Date: 2005/03/19 Sat 11:39:47



第130図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（４）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:158 Date: 2005/03/19 Sat 11:43:09

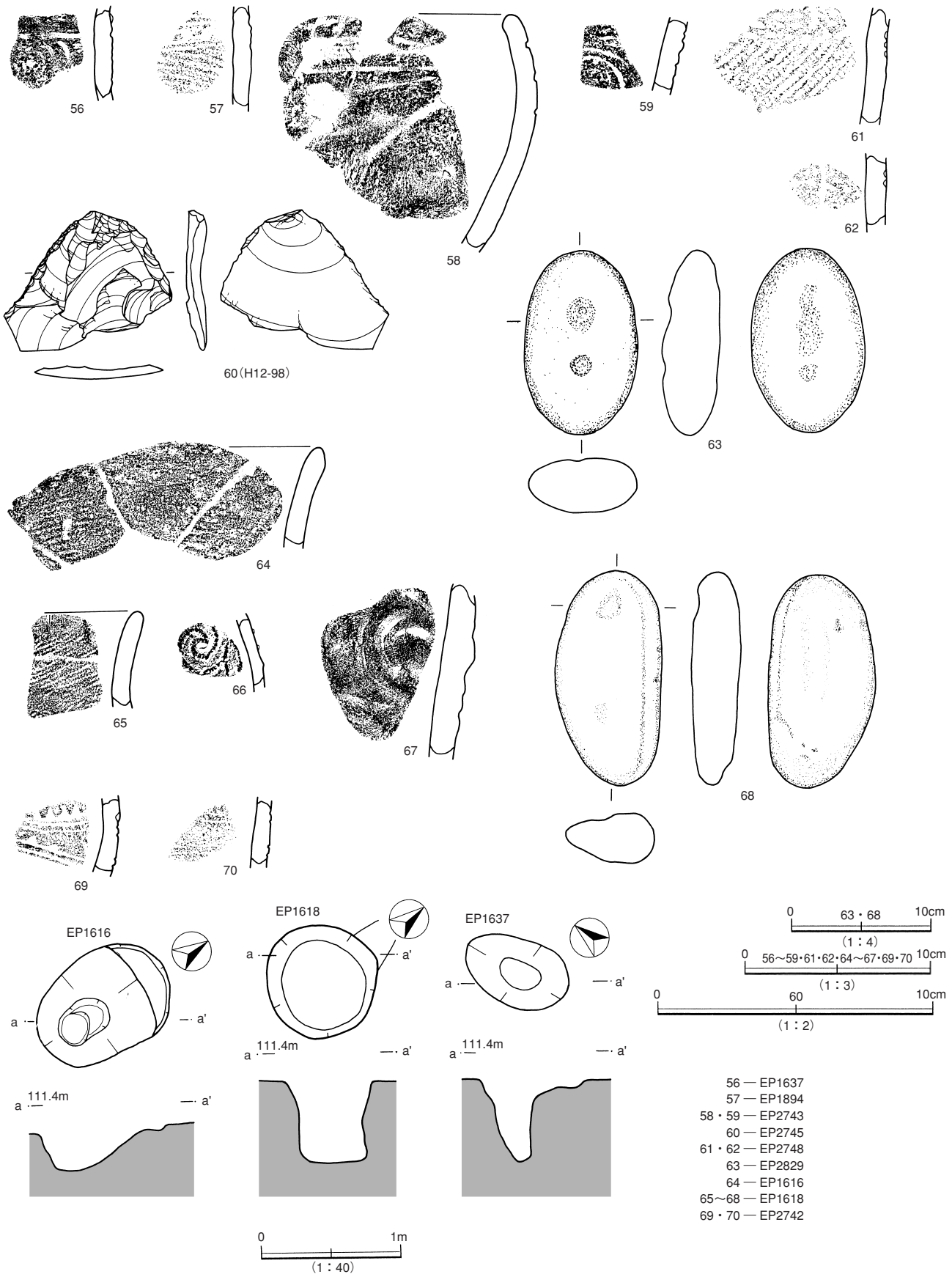


第131図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（５）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:159 Date: 2005/03/19 Sat 11:46:19

第132図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（６）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:160 Date: 2005/03/19 Sat 11:48:00



第133図　ST1415（1658）住居跡出土遺物（７）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:161 Date: 2005/03/19 Sat 11:49:06

ＥＰ1894（76cm）、Ｐ６（53cm）、Ｐ４（70cm）、ＥＰ1882（63cm）、ＥＰ1883（63cm）、ＥＰ1884（68cm）、Ｐ３（49cm）、Ｐ23（60cm）、ＥＰ2825（50cm）、ＥＰ1657（25cm）、ＥＰ2826（56cm）、Ｐ１（27cm）、ＥＰ2829（58cm）、Ｐ15（20cm）、ＥＰ2832（32cm）、Ｐ16（16cm）、Ｐ17（22cm）、Ｐ18（10cm）、Ｐ19（40cm）、Ｐ20（50cm）、Ｐ22（58cm）である。重複する土坑との新旧関係は判然としない。ＥＰ1616は浅い柱穴、ＥＰ1637は良好な柱穴、ＥＰ1618は小土坑である。

遺物は覆土、床面、柱穴から縄文土器と石器が多数出土した。１～26はＳＤ1502の西側、27～44は東側での出土で、深鉢片や石鏃・石錐・掻器・削器・凹石・磨石がある。各柱穴からも縄文土器や石器が多数出土している。

ＳＴ1505住居跡（第134～141図　写遺構－145　写遺物－24・50・131・132）

グリッド11・12－82・83に位置する。検出時に長方形プランと、その中に円形プランが検出されたため、円形プランをＳＴ1505ａ、方形プランをｂとした。新旧関係はａが新しく、ｂが古いとみられる。

２棟重複の住居

ＳＴ1505ａは円形プランに方形の張り出し部分を有する平面形である。直径3.1ｍ、張り出し部分までは3.5ｍである。壁は地山黄褐色粘土をほぼ垂直に掘り込む。覆土は20cmほど残り、黒褐色土～暗褐色土を主体とする堆積土である。

床は黄褐色砂質粘土の直床で、平坦で非常に堅緻である。北側壁際でフラスコ状土坑のＳＫ2620と重複する。土坑は床面での検出だが貼床は施されていない。

柱穴は床面・周溝・壁面・壁外などで30基ほどが検出されている。各柱穴の床面からの掘り込みの深さは次の通りである。ＥＰ2618（44cm）、ＥＰ2619（33cm）、ＥＰ2641（23cm）、ＥＰ2642（33cm）、ＥＰ2643（25cm）、Ｐ３（20cm）、ＥＰ2644（20cm）、ＥＰ2692（26cm）、ＥＰ2645（14cm）、Ｐ５（14cm）、Ｐ６（３cm）、Ｐ７（４cm）、ＥＰ2681（７cm）、ＥＰ2682（７cm）、ＥＰ2683（10cm）、Ｐ８（10cm）、Ｐ９（７cm）、Ｐ10（７cm）である。

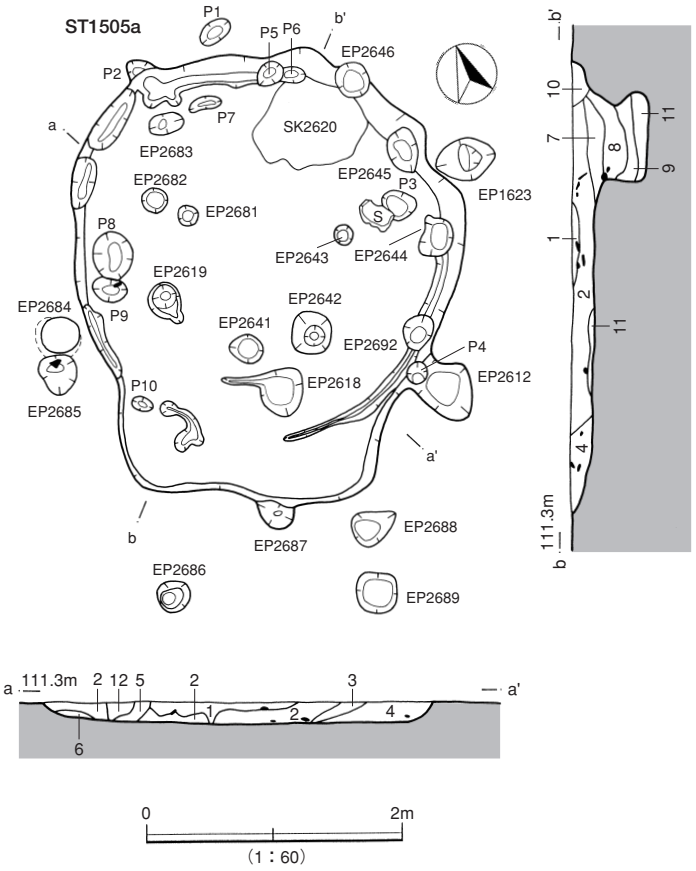
壁外柱穴の確認面からの深さはＰ１（９cm）、Ｐ２（10cm）、ＥＰ2684（26cm）、ＥＰ2685（15cm）、ＥＰ2686（19cm）、ＥＰ2687（13cm）、ＥＰ2688（14cm）、ＥＰ2689（8cm）、Ｐ４（26cm）、ＥＰ2612（19cm）、ＥＰ1623（26cm）、ＥＰ2646（13cm）である。

主柱穴は明確では無いがＥＰ2619・ＥＰ2618・ＥＰ2642は深くしっかりしている。周溝は所々、検出されない部分がある。周溝は幅10cm、深さ３～８cmを測る。張り出し部分は緩やかに立ち上がり確認面に至る。張り出し部分では周溝が途切れるため入口施設と推測される。炉は検出されない。

遺物は１～40がある。１は口唇部と口縁部に爪形文を施文し、その下部に細い粘土紐貼付による連続山形文などを施文する深鉢で、２～９は口縁部に太い沈線や半截竹管文を施文する深鉢片である。20～39は石鏃・石匙・掻器・削器で、40は磨製石斧である。

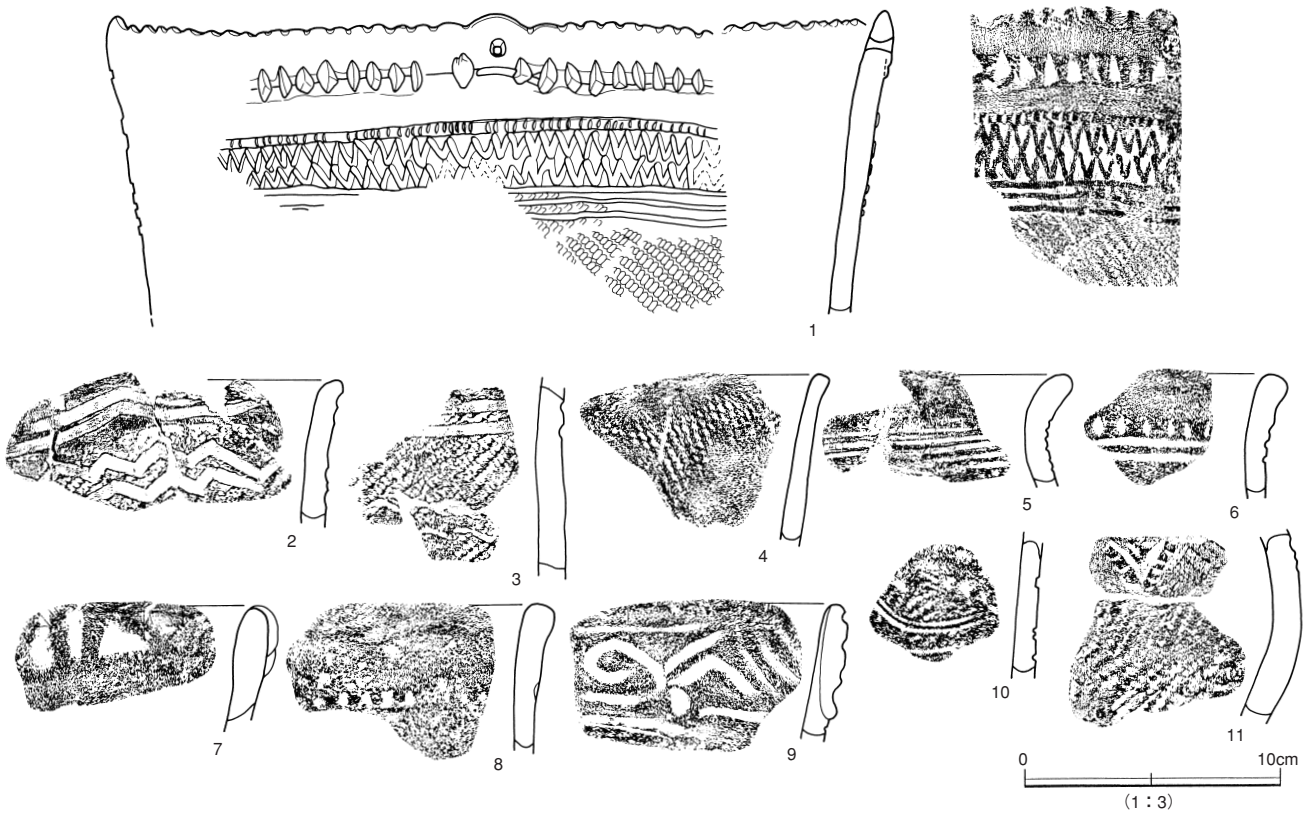
ＳＴ1505ｂは、柱穴を結ぶラインを住居の規模と考えると南北８ｍ、東西５ｍを測る。その平面形は楕円形を呈する。遺構検出当初は長方形のプランが検出されたが、遺構確認のため面削りを重ね、覆土をほとんど削ってしまった。このため、本来の平面形は長方形で、これら柱穴の外側までのプランであったものと推定される。北側で平面形の一部が残る。覆土は黒褐色土を主体とする。壁は北側の一部で検出されるのみで、深さは10cmほどで僅かである。床は直

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:162 Date: 2005/03/19 Sat 11:50:56



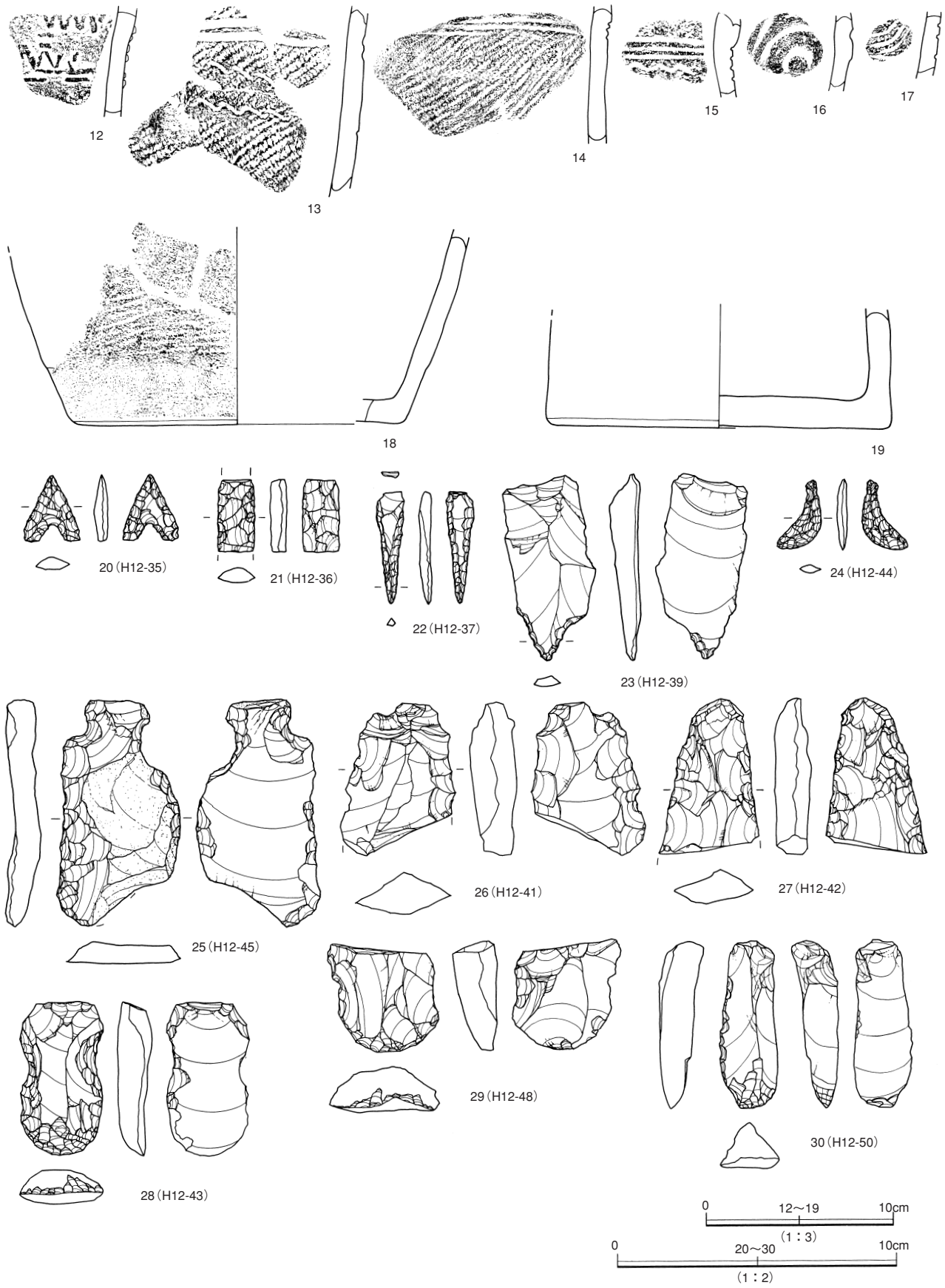
ST1505a

1	黒褐色土	木炭粒、黄褐粒少量混入
2	暗褐色土	黄褐色砂質粘土粒、木炭粒を少量混入、一部木根撹乱を受ける
3	暗褐色土	黄褐色土を多量に混入
4	暗褐色土	黄褐色土粒を多量に混入し、木炭粒・焼土粒を少量混入
5	暗褐色土	黄褐ブロック、黒色土を多量に混入
6	暗褐色土	黄褐土ブロック多量に混入
7	暗褐色土	2と似るが、2よりやや黄褐色土粒多く混入
8	暗褐色土	7と似るが7よりやや黄褐色土粒多い
9	暗褐色土	黄褐粒多量に混入し、同ブロックわずかに混入
10	黒褐色土	黄褐ブロック、同粒子多く混入
11	黒褐色土	黄褐粒、木炭粒多量に混入
12	黒色土	黄褐粒わずかに混入、後世のピット



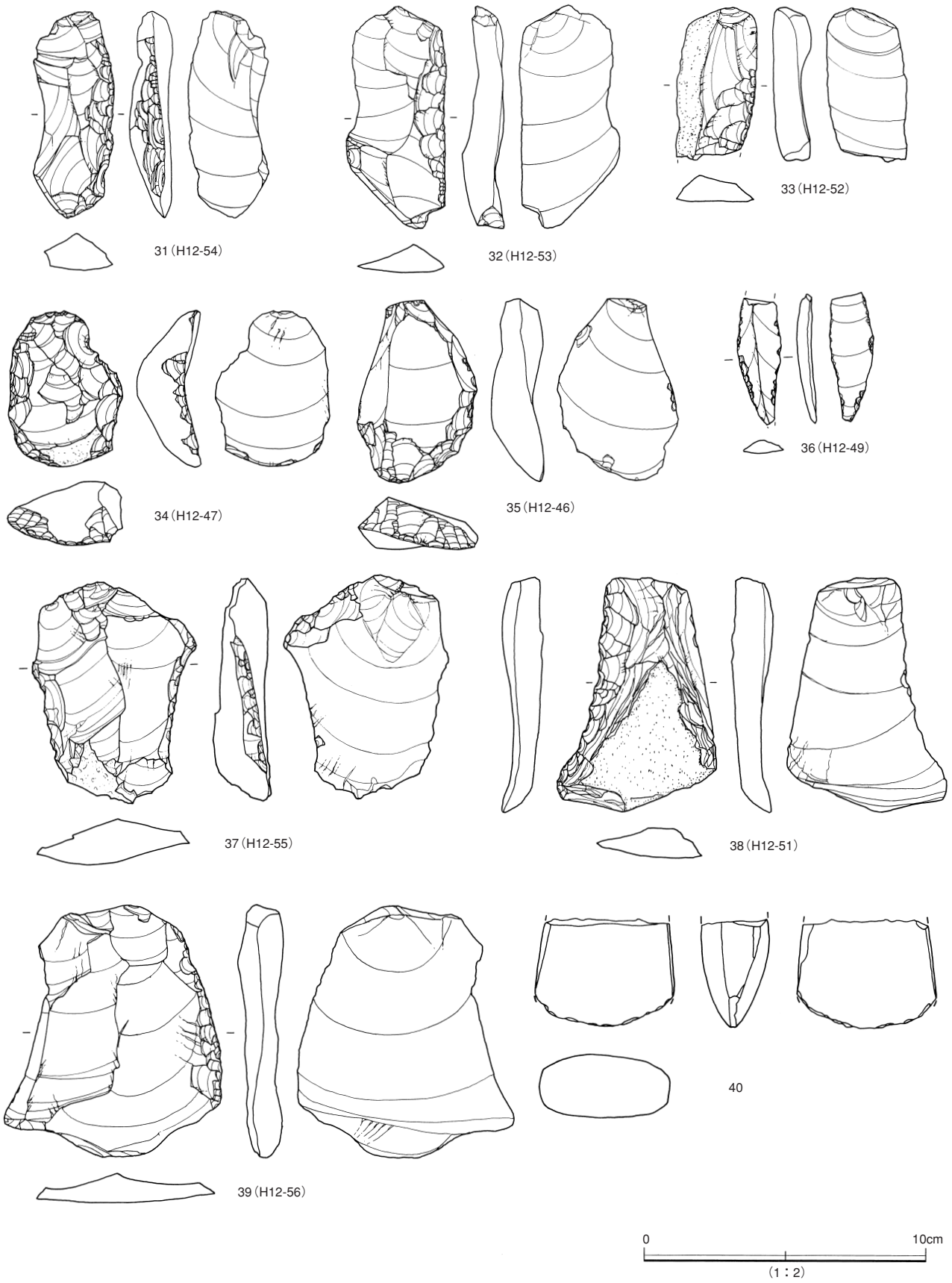
第134図　ST1505a 住居跡・出土遺物（1）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:163 Date: 2005/03/19 Sat 11:53:27



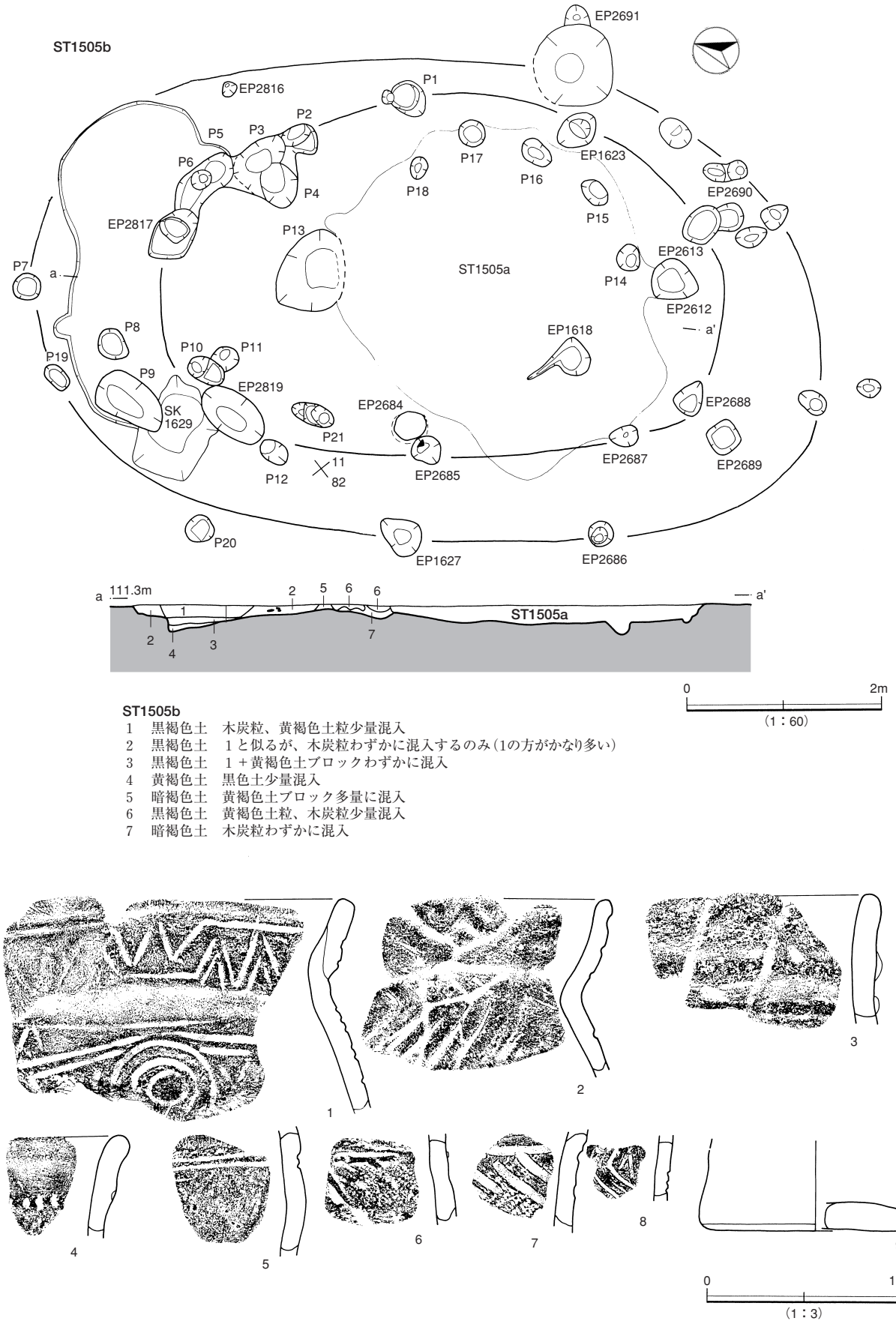
第135図　ST1505a 住居跡出土遺物（２）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:164 Date: 2005/03/19 Sat 11:55:59



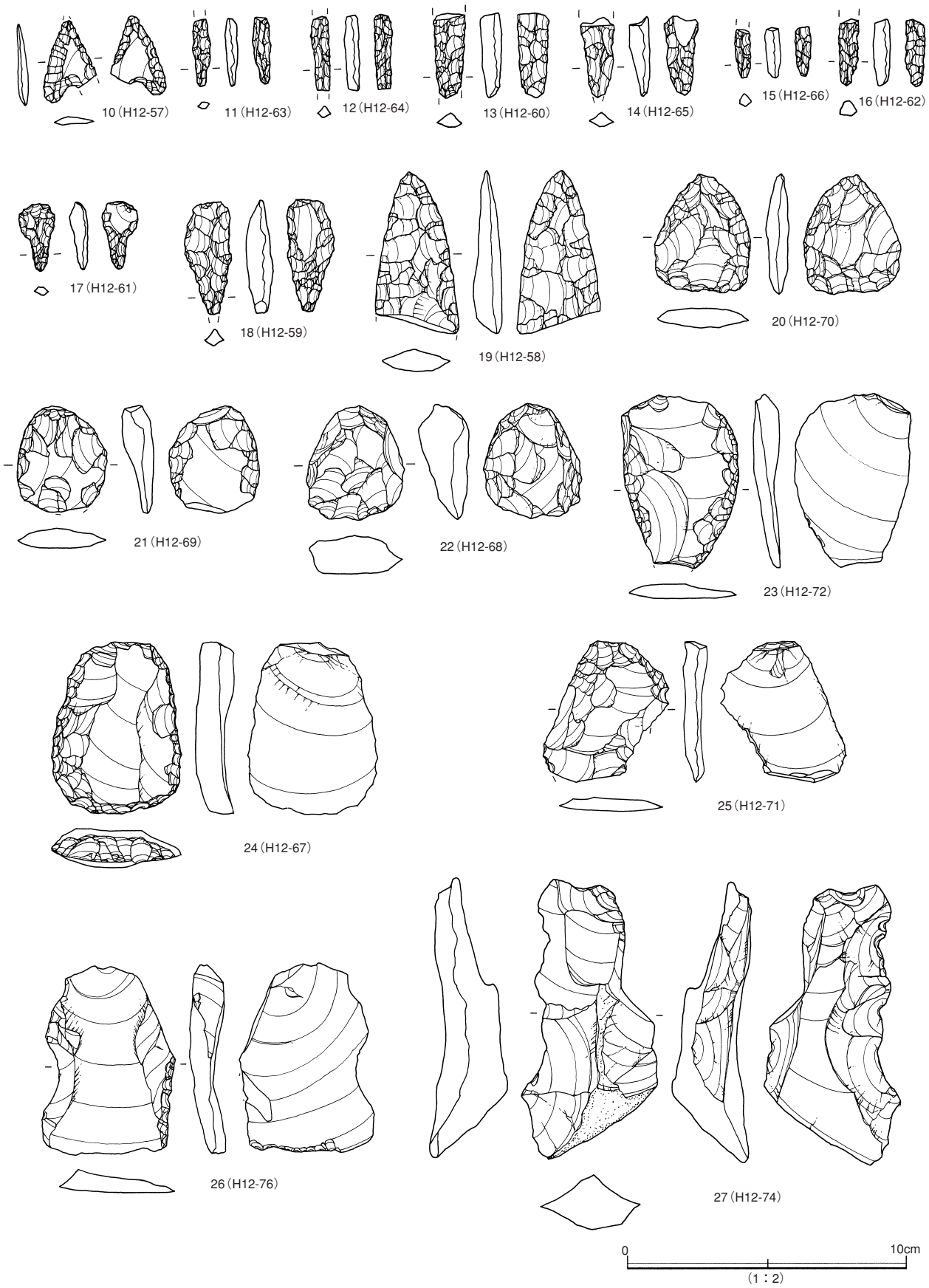
第136図　ST1505a 住居跡出土遺物（３）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:165 Date: 2005/03/19 Sat 11:58:13



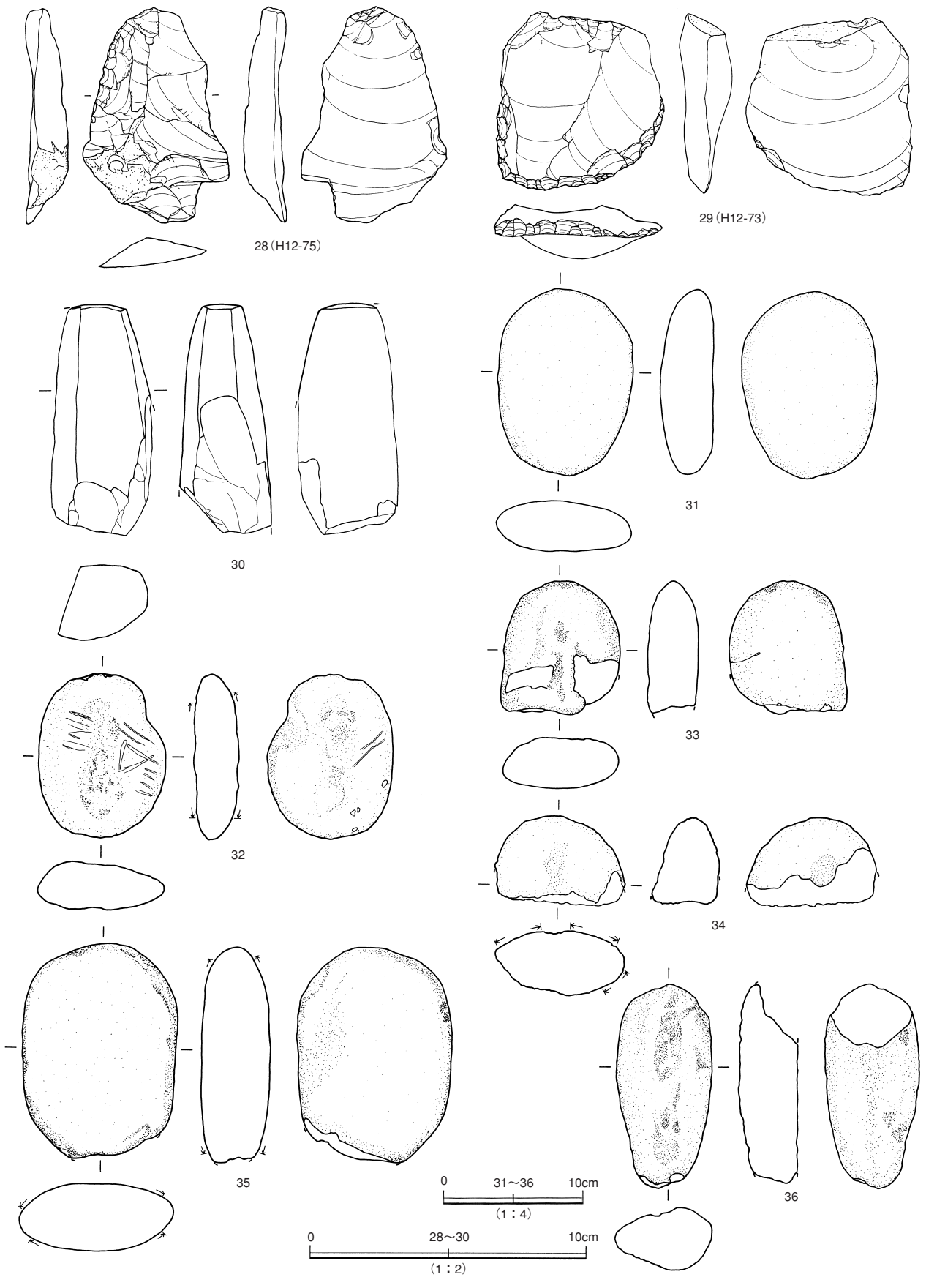
第137図　ST1505b 住居跡・出土遺物（４）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:166 Date: 2005/03/19 Sat 12:00:32



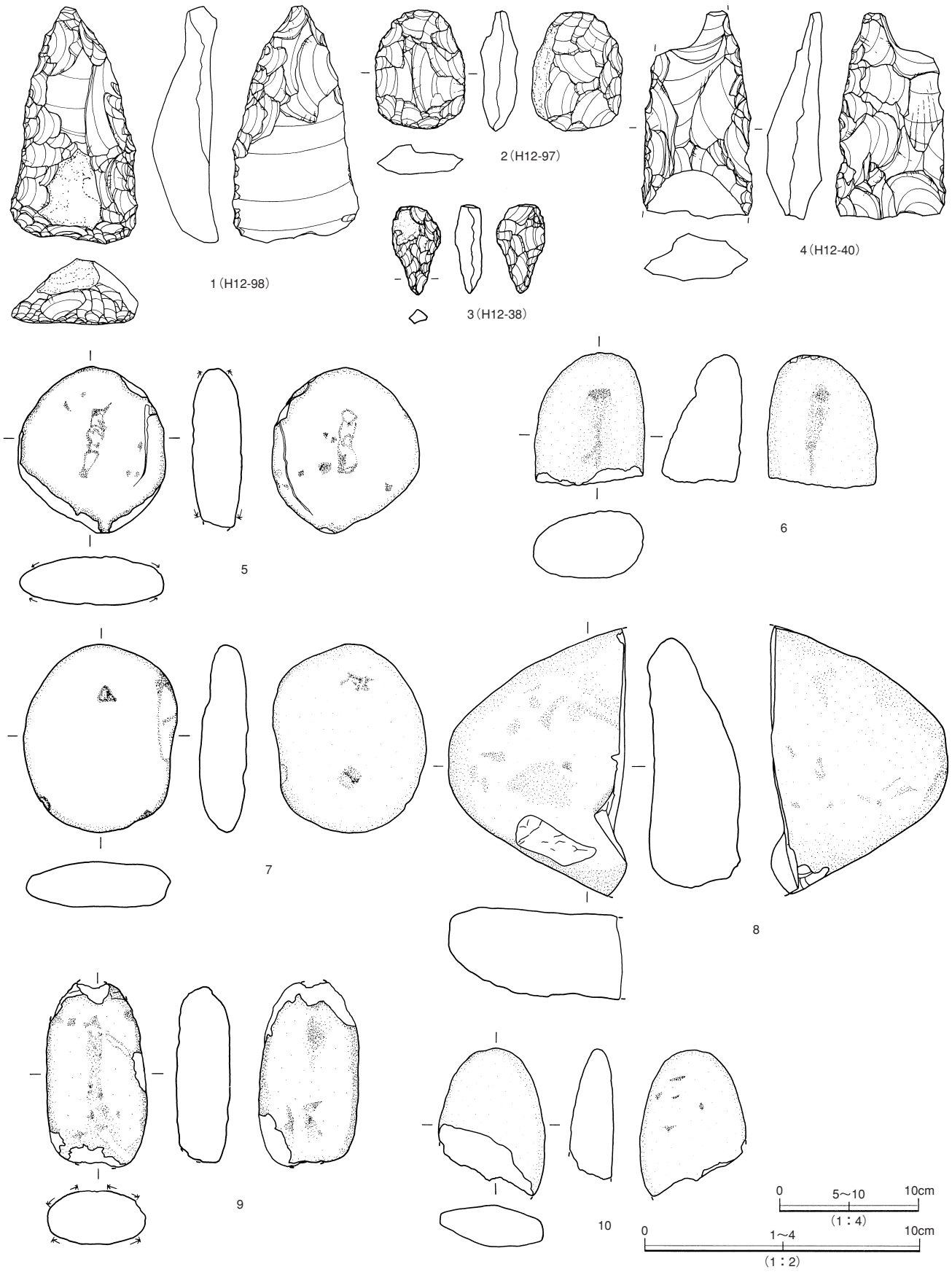
第138図　ST1505b 住居跡出土遺物（５）

Title:P154-167_縄文時代.ec6 Page:167 Date: 2005/03/19 Sat 12:53:33



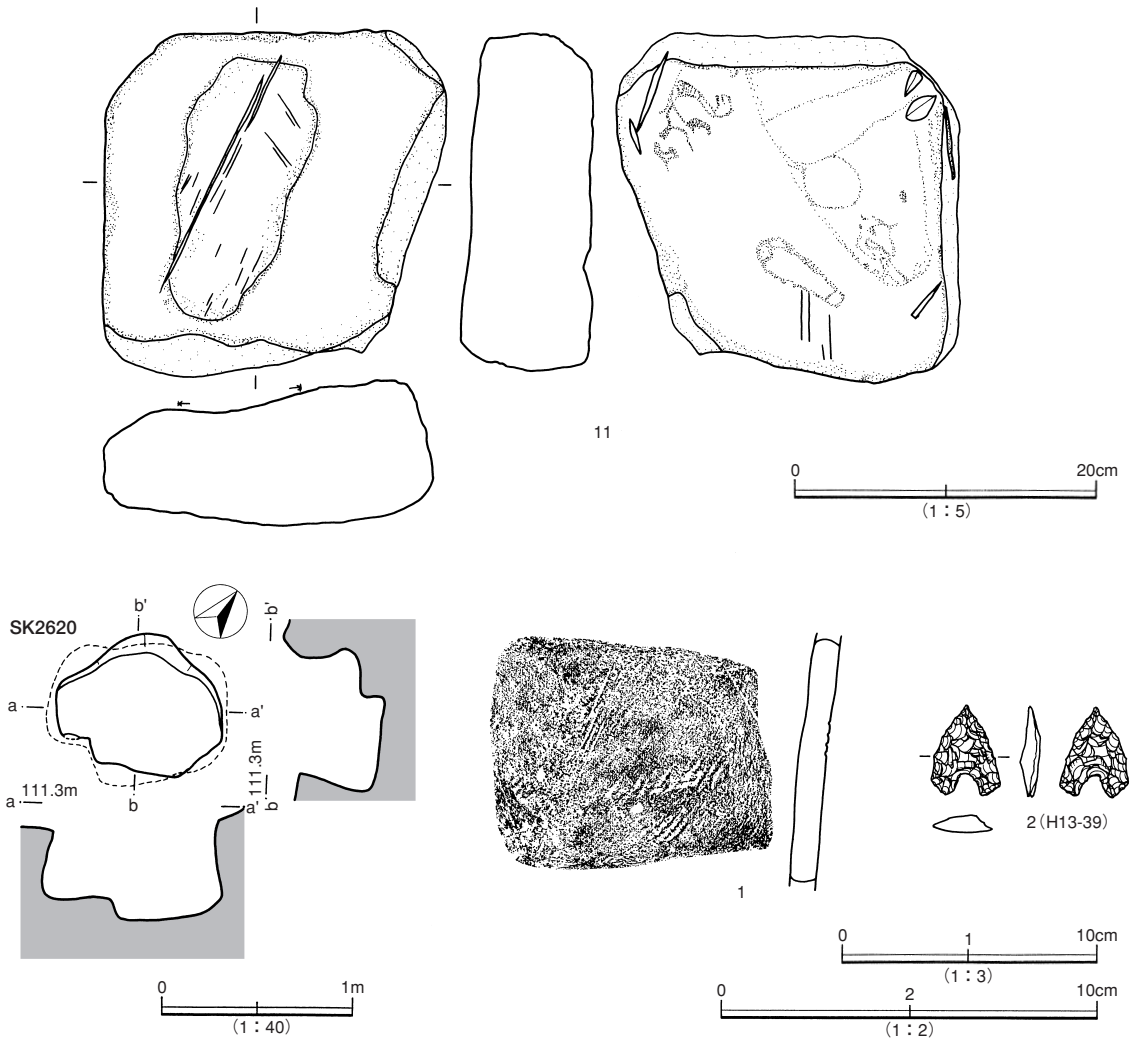
第139図　ST1505b 住居跡出土遺物（６）

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:168 Date: 2005/03/19 Sat 12:56:53



第140図　ST1505 住居跡出土遺物（７）

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:169 Date: 2005/03/19 Sat 13:00:01



第141図　ST1505 住居跡・出土遺物（８）

床でやや凹凸はあるもののほぼ平坦である。柱穴はａ・ｂどちらに所属するか明確で無く、両者に所属させてしまうものもあるが、それも含めて以下に記載する。住居跡の範囲内では大小40数基の柱穴が検出された。深さはＰ１（61cm）、Ｐ２（25cm）、Ｐ３（34cm）、Ｐ４（46cm）、Ｐ５（22cm）、Ｐ６（34cm）、ＥＰ2817（94cm）、Ｐ７（８cm）、Ｐ8（15cm）、Ｐ９（30cm）、Ｐ10（16cm）、Ｐ11（17cm）、ＥＰ2819（26cm）、Ｐ12（21cm）、Ｐ13（14cm）、Ｐ14（44cm）、Ｐ15（40cm）、Ｐ16（31cm）、Ｐ17（13cm）、Ｐ18（28cm）、Ｐ19（５cm）、Ｐ20（10cm）、Ｐ21（43cm）、ＥＰ1627（73cm）、ＥＰ2691（50cm）、ＥＰ1618（65cm）、ＥＰ2686（18cm）、ＥＰ2687（13cm）、ＥＰ2688（14cm）、ＥＰ2689（８cm）、ＥＰ2612（19cm）、ＥＰ2613（20cm）、ＥＰ2690（24cm）、ＥＰ1623（25cm）である。周溝及び炉は検出されない。

遺物は１～36がある。１～４はやや太い沈線文や半截竹管文の深鉢口縁部、10～29は石鏃・石錐・掻器・削器、30は磨製石斧、31～36は凹石・磨石などである。図140・141の１～11はａ・ｂどちらの所属か区別の付かない遺物である。１～４は石器等で、５～10は凹石である。11は石皿で中央部に線状の擦痕がある。

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:170 Date: 2005/03/19 Sat 13:01:40

ＳＴ1854住居跡（第142図　写遺構－146）

グリッド17－89に位置する。環状集落の中央広場南端に位置する。南西コーナーでＳＫ1865、南東コーナーでＳＫ881に重複し、これらに切られる。

平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北1.8m、東西2.6mを測る。覆土は黒褐色シルト～暗褐色シルトの自然堆積層である。１・３層には遺物が混入し、２・３層には地山黄褐色土をブロック状ないしは斑状に混入する。

壁はほぼ垂直に地山を掘り込み、深さは30cm程である。床は黒褐色土と地山黄褐色土の貼床で中央に向かい低くなる。柱穴・周溝・焼土等は検出されない。

床面に溝

床面に住居跡の長軸と平行してピットと溝が配置される。溝の幅は24～42cm、深さ20～40cmを測る。ピットは径30cm、深さ70cmを測る。溝の底面はピット東側と西側では20cmほどの高低差があり平坦ではない。

遺物は１～３の縄文土器深鉢片と石鏃・石錐・掻器等が出土している。

ＳＴ1903住居跡（第143・144図）

グリッド15・16－88・89に位置する。上面は削平を受け、焼土・柱穴・土坑のみの検出である。焼土はほぼ南北に一列に並んで検出され、地床炉と炉１・２・４・６は１～２cmの厚さで表面のみが焼けている。炉３・５・７は５～6.5cmの厚さで、良く焼けている。

一列に並ぶ焼土

柱穴はＰ１～11及びＥＰ1875～ＥＰ1878が考えられる。確認面からの深さは32～90cmである。いずれもしっかりした掘り込みの柱穴で焼土の東側から検出されている。北側でＳＫ877・ＳＴ880、西側でＳＴ1880・1854、南側でＳＫ881等に切られるため、北側や西側では柱穴は検出されなかった。

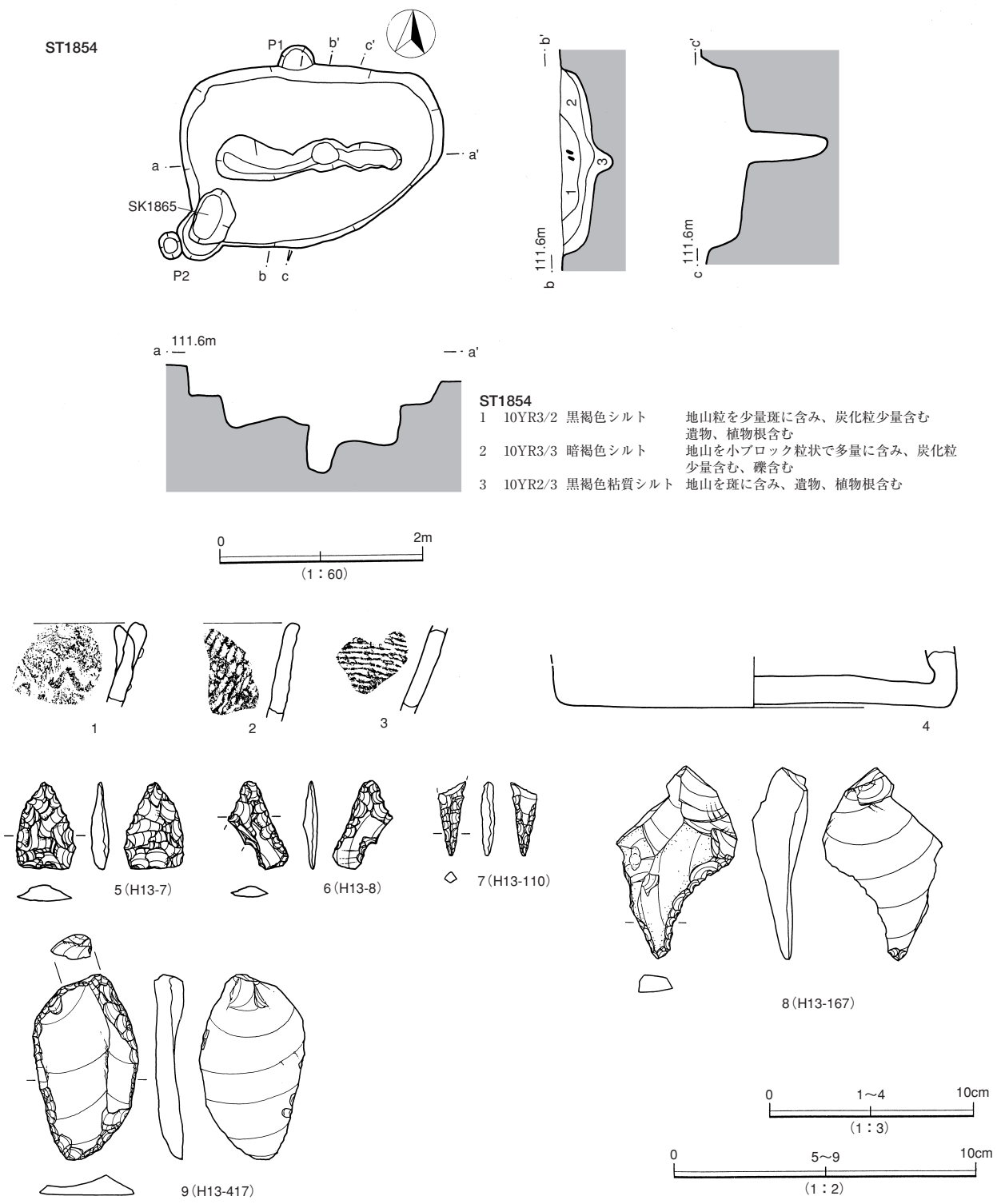
各柱穴の深さはＰ１(34cm)、Ｐ２(90cm)、Ｐ３（50cm)、Ｐ４（32cm)、Ｐ５（35cm)、Ｐ６(58cm)、Ｐ７(34cm)、Ｐ８(43cm)、Ｐ９(40cm)、Ｐ10(27cm)、Ｐ11(20cm)、ＥＰ1875(47cm)、ＥＰ1876（44cm)、ＥＰ1877（61cm)、ＥＰ1878（39cm）を測る。

炉が一直線上に並ぶことや柱穴が大きくしっかりしていることから大型住居跡の可能性も考えられる。ただし前述した様に炉址の東側のみでの柱穴の確認であることから、推定の域を出ない。本址の推定規模は南北９ｍ以上、東西4.5mである。

遺物は１～９の半截竹管文・爪形文・結節状沈線文の深鉢口縁部片と剥片のみである。１・２はＰ９、３はＰ２・３から出土。４～６はＳＫ1852、７はＳＫ1857、８・９はＳＫ1866から出土している。

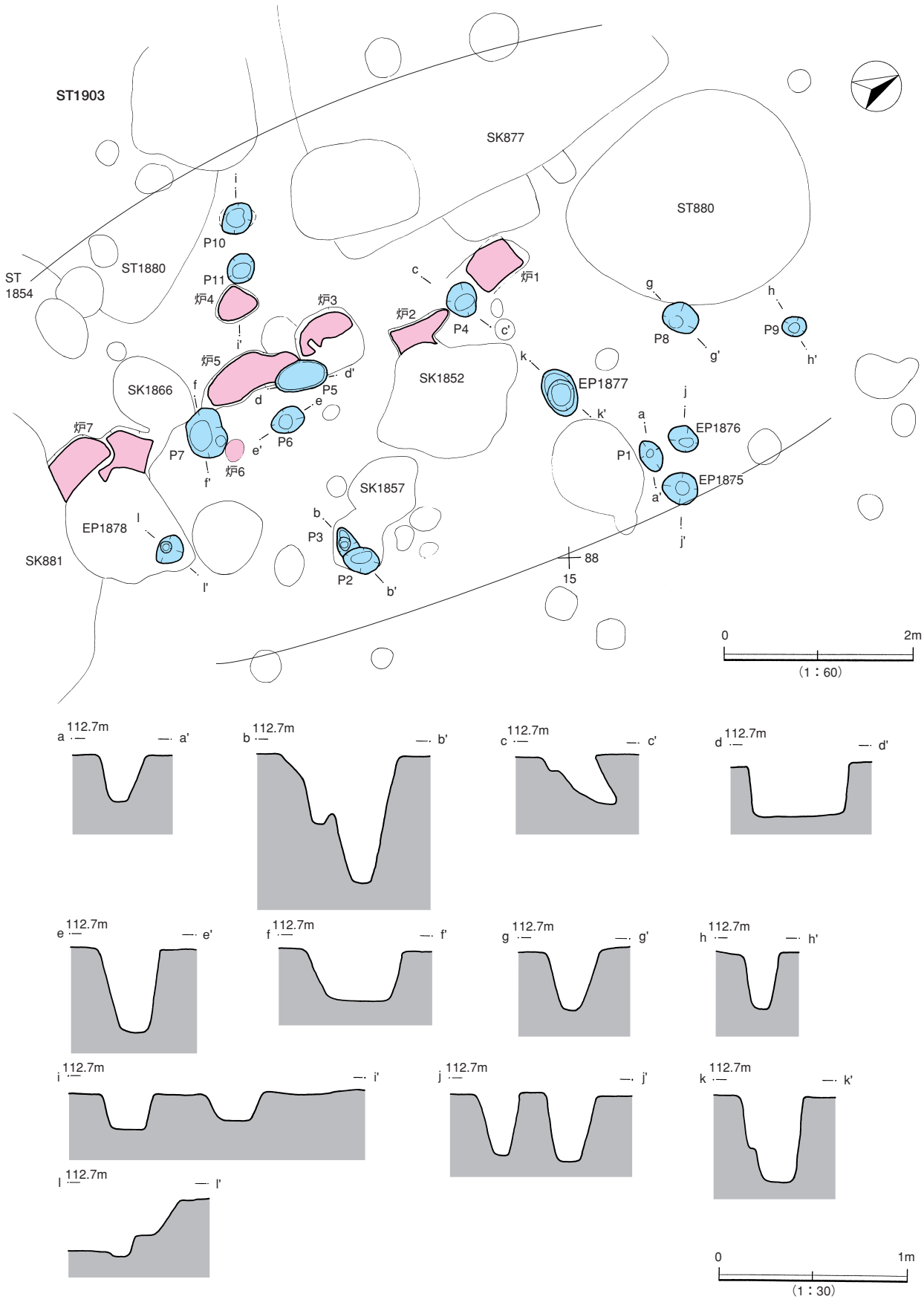
１・４は縄文時代中期中葉大木８ｂ・８ａ式土器、他は前期末葉の時期と考える。

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:171 Date: 2005/03/19 Sat 13:02:48



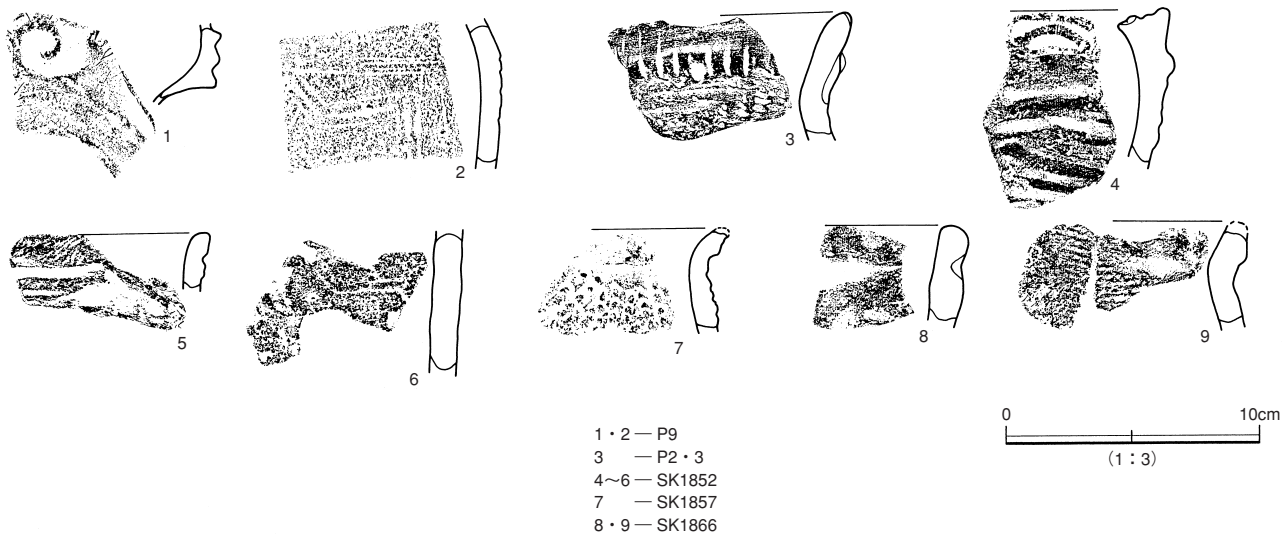
第142図　ST1854 住居跡・出土遺物

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:172 Date: 2005/03/19 Sat 13:04:37



第143図　ST1903 住居跡

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:173 Date: 2005/03/19 Sat 13:07:22



第144図　ST1903 住居跡出土遺物

ＳＴ1958住居跡（第145～151図　写遺構－146　写遺物－107）

グリッド11・12－83・84に位置する。ＳＴ1341・ＳＴ1505付近に所在する。上面削平を受け焼土・柱穴・土坑のみの検出である。

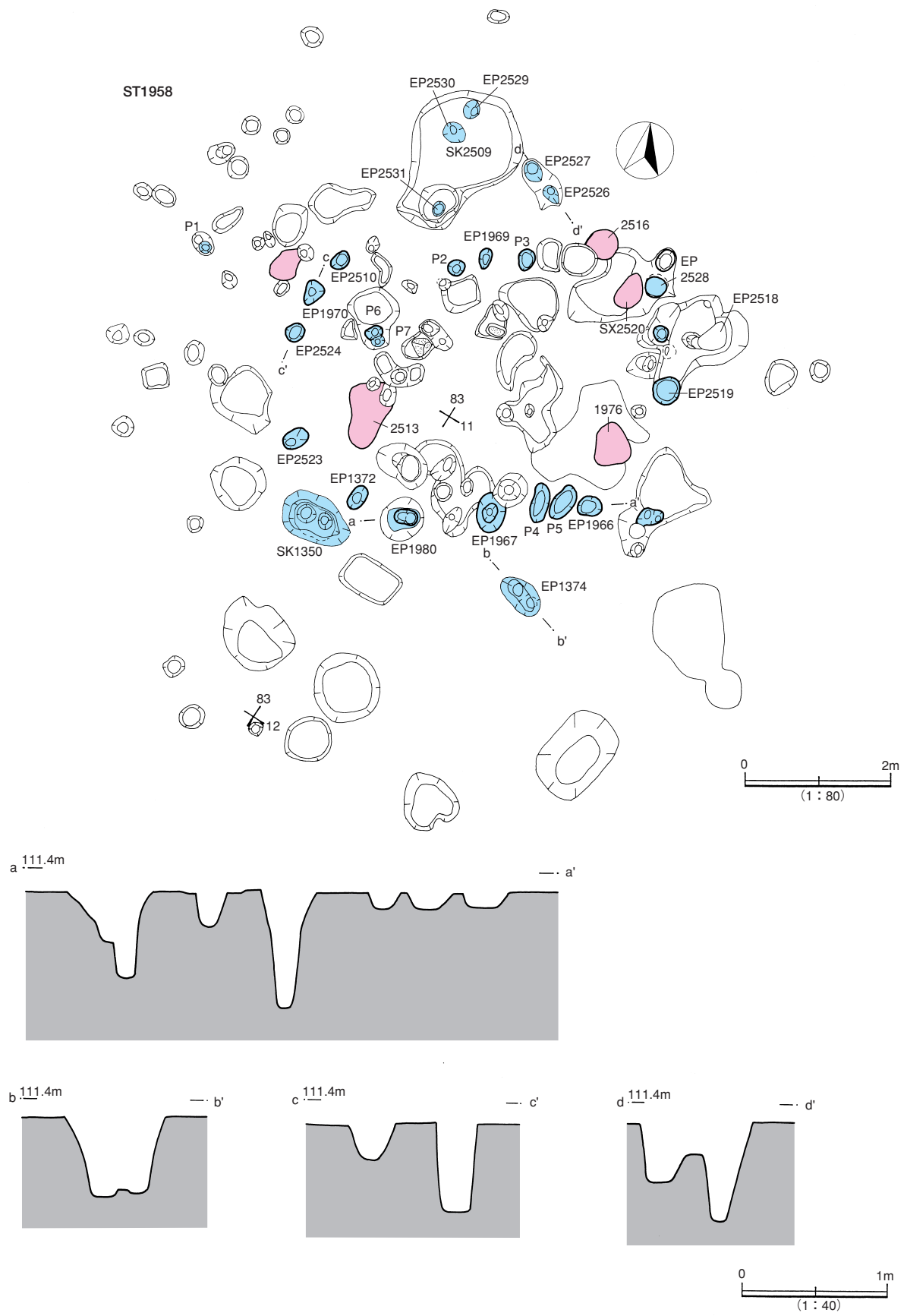
焼土を囲む柱穴

平面形は柱穴からの推定で隅丸長方形を呈し、規模は東西７ｍ、南北５ｍを測る。焼土は柱穴に囲まれた内部や周辺のものも含め６カ所検出した。いずれも床表面が焼けている程度で焼土の堆積は薄く、炉とする確証はない。

柱穴は南北方向では検出できたが、東西ではあまり検出されず明確なプラン規模は不明である。各柱穴の確認面からの深さは次の通りである。ＥＰ2529（55cm）、ＥＰ2530（82cm）、ＥＰ2531（100cm）、ＥＰ2510（34cm）、ＥＰ1970（26cm）、ＥＰ2524（62cm）、ＥＰ2523（22cm）、ＥＰ1372（27cm）、ＥＰ1980（36～61cm）、ＥＰ1967（81cm）、ＥＰ1374（53～52cm）、ＥＰ1966（３cm）、ＥＰ2519（20cm）、ＥＰ2528（70cm）、ＥＰ2526（67cm）、ＥＰ2527（41cm）、Ｅ　Ｐ1969（19cm）、Ｐ１（49cm）、Ｐ２（10cm）、Ｐ３（14cm）、Ｐ４（11cm）、Ｐ５（６cm）、Ｐ６（27cm）、Ｐ７（16cm）を測る。

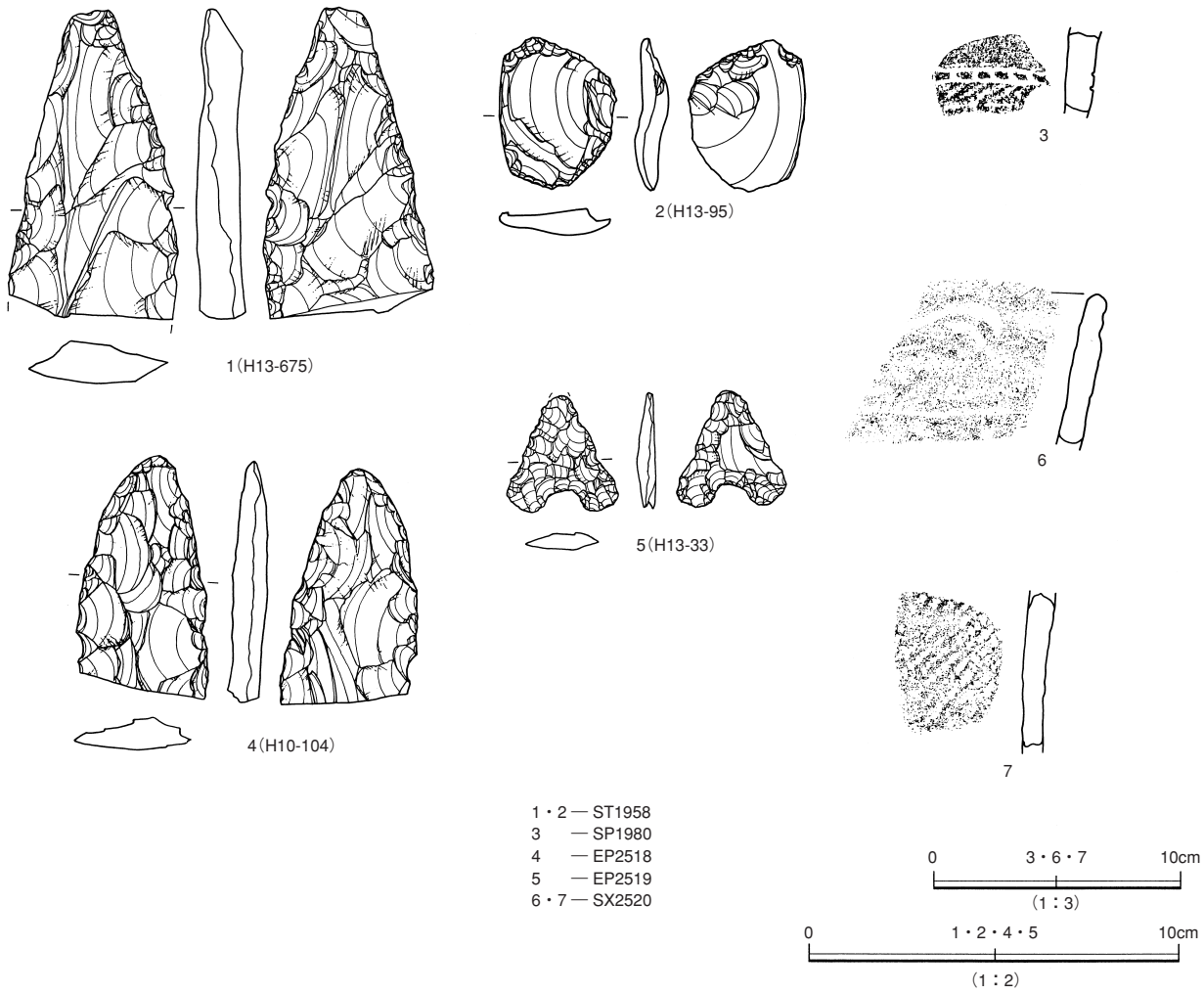
本址内に所在するＳＫ1350は当初土坑として精査を進めたが、完掘の結果２基の柱穴と確認された。本址の柱穴の可能性がある。規模・形態は平面形が卵形の遺構検出であったが、完掘時には、底面が瓢箪形にくびれた状況となった。底面にはやや浅めの２つの凹みが見られる。それぞれが埋甕の下に位置する。ＳＫ1350の規模は、長さ105cm、幅65cm、深さ50～56cmを測る。覆土は判然としないが、３層まで確認された。この中で一括土器の１・２（ＲＰ1058･1054）は２層に包含される。１の鉢は斜位の状態で潰れた状況で出土した。二次焼成を受けているとみられ器面の磨滅剥落した部分が広範囲に見られる。２はほぼ完形ながら、同じく斜めに傾いた状況で出土した。１と同様、二次焼成を受け器面の剥落した部分が多くみられる。また、内外面とも炭化物が非常に多量に付着している。ＳＫ1350の覆土は１・２層は締まりが弱く、炭化物粒も混入する。１層は、上位層の入り込んだものである。３層は地山との漸移層的で、腐植し堅く締まっている。

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:174 Date: 2005/03/19 Sat 13:09:45



第145図　ST1958 住居跡

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:175 Date: 2005/03/19 Sat 13:12:49



第146図　ST1958 住居跡出土遺物（１）

遺物は１の口縁部に半截竹管の平行沈線文を施す深鉢と、２の結節状浮線文の台付鉢がある。ほぼ完形の一括土器であり、埋設したものと考えられる。その他、太い篦状施文具による沈線文や半截竹管文を施された深鉢片が出土している。

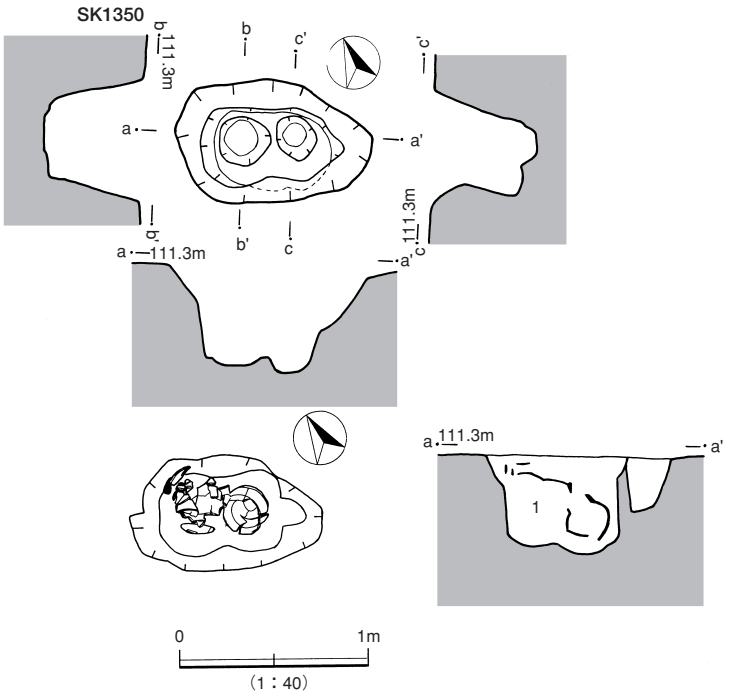
完形の一括土器

ＳＫ2509内部からは３基の柱穴が検出されている。ＥＰ2529・ＥＰ2530・ＥＰ2531である。これらは住居跡とした長方形のプランからやや外れるが、掘り込みが深くしっかりした柱穴であり、本址の柱穴となる可能性がある。遺物は１～16がある。１の篦状施文具による沈線文の台付鉢や平行沈線文の小破片などが出土している。石器は石錐・石匙がある。

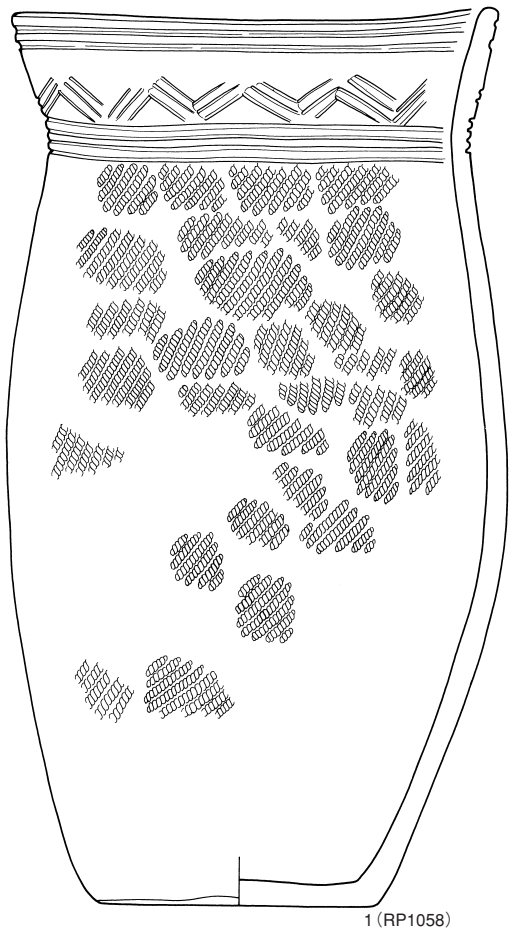
第150・151図の１～22は、本址ＳＴ1958が検出された地区の上面で、表土除去時ないしはプラン検出時に出土した遺物である。大型の土器や石器が多く、本址に伴う可能性が考えられる。

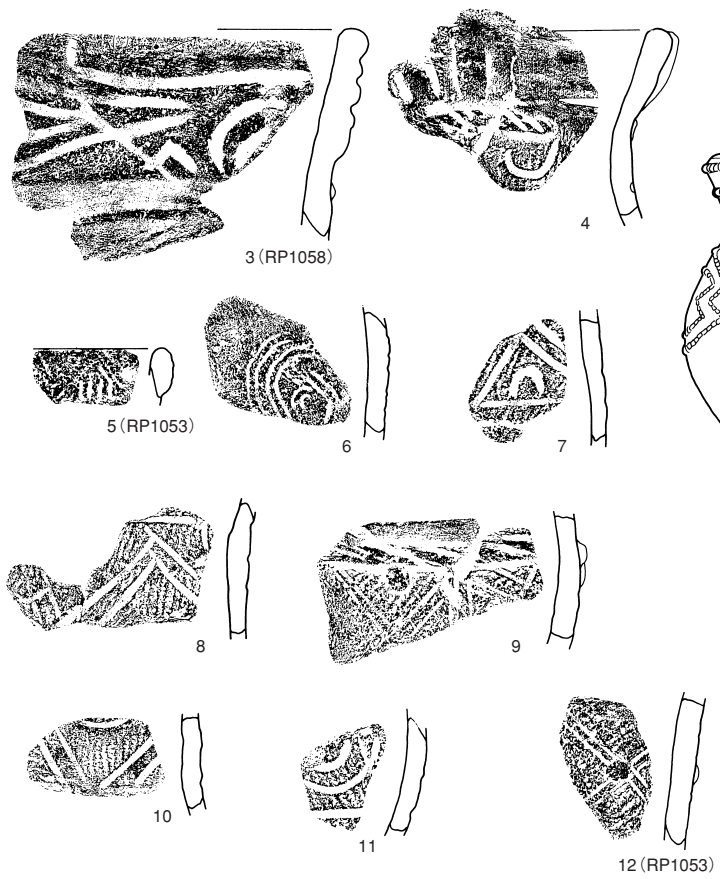
１～15はグリッド11－83より出土した。１の深鉢は平口縁だが、一部口唇部が竹管により刻みを施され波状を呈する。その下部には同様の施文具により刺突が施される。頸部には突帯文が巡り、その上を半截竹管により刺突され、その下部に細い粘土紐による鋸歯文を２段に渡り施文する。この他に８～15の石鏃・尖頭器・石匙・掻器が出土している。

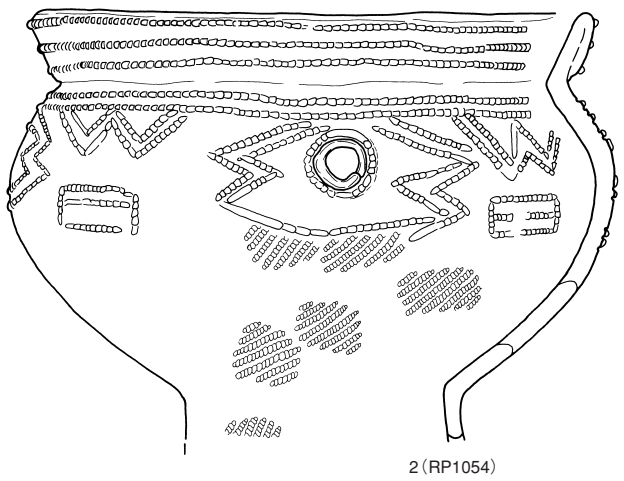
Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:176 Date: 2005/03/19 Sat 13:15:59

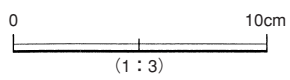


SK1350
1　10YR2/3 黒褐色シルト　粗砂を少量含む、炭化物、炭化粒、遺物含む



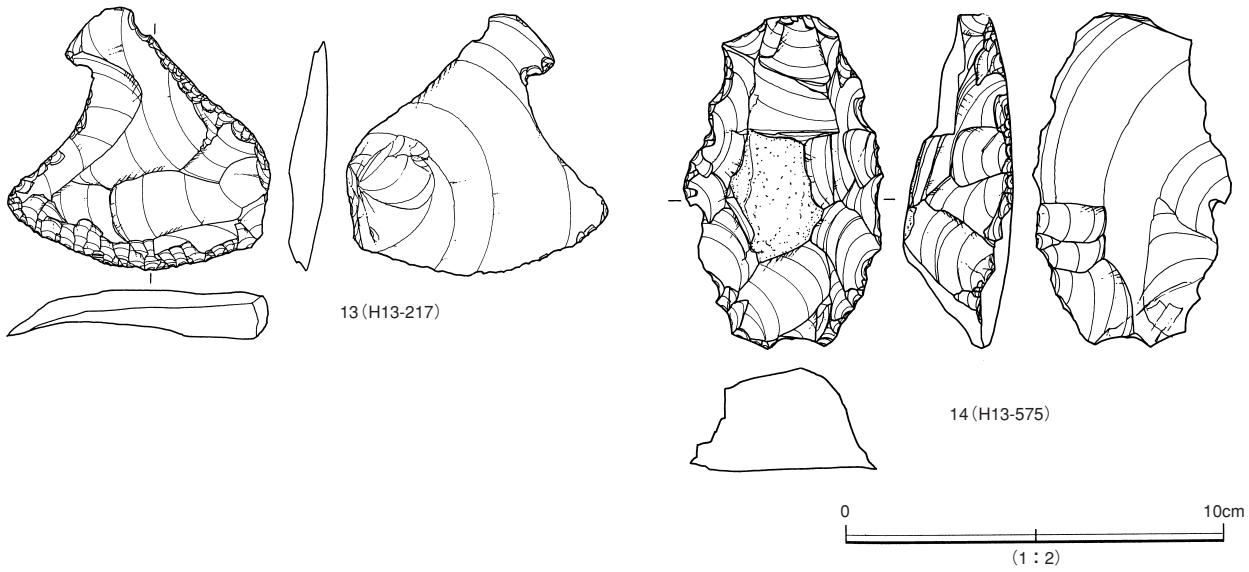






第147図　ST1958 住居跡・出土遺物（２）

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:177 Date: 2005/03/19 Sat 13:18:29



第148図　ST1958 住居跡出土遺物（３）

16～21はグリッド11－84より出土した。16は大型の深鉢型土器で波状口縁部に非常に太い沈線文が施される。17は細い沈線文を斜格子状に施文される。

ＳＴ2740住居跡（第152図）

グリッド９－80に位置する。ＳＴ1341の東に隣接して所在する。ほとんどが調査区外に位置する。平面形は円形を呈し、全体では径４ｍを超えるものと見られるが、今回の調査では南北3.1ｍ、東西1.1ｍほどが検出された。

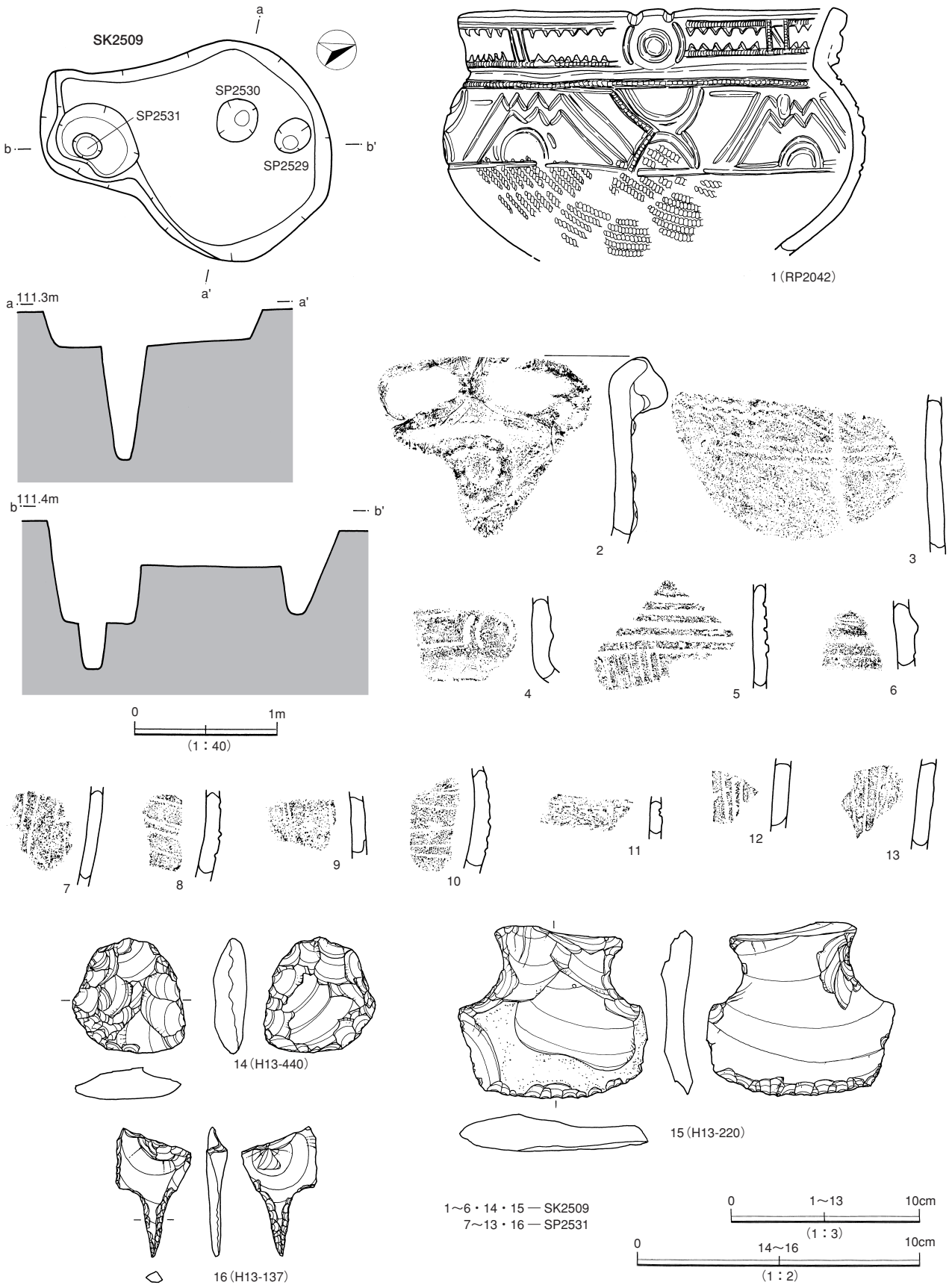
覆土は、１層が現表土であり、２層は旧表土で黒色土・焼土粒・木炭粒を混入する。３・４層は焼土粒・木炭粒を混入する暗褐色土を主体とする。

壁は当初、ほぼ垂直に掘り込まれていたとみられるが、崩落してやや傾斜している。これは断面図の５・６層から確認されている。検出面からの壁高は35cm、現地表面からは85cmを測る。床面は黄褐色土と黒褐色土、白色粘土混じりの貼床で平坦である。

周溝は壁の下端から20cmほど内側で検出される。幅10cm、深さ10～40cmを測り、長さ30～50cmを１つの単位として連続する。その形状から細長い板状のものを使用し、壁の保護などを行っていたことが推測される。

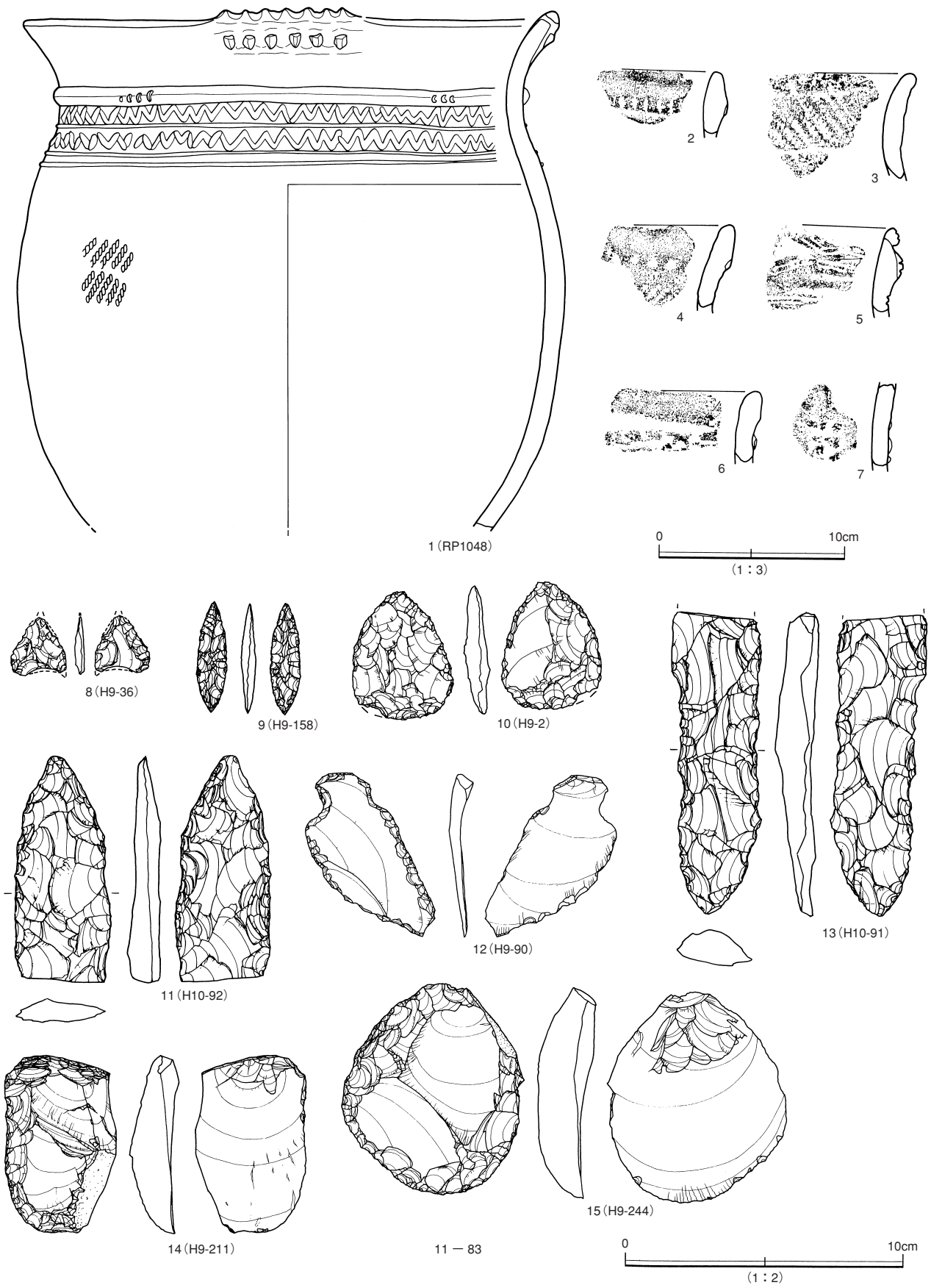
遺物は縄文を地文とする土器片や半截竹管文の施文されるものなど数点が出土しているが、いずれも小破片で図示できるものはない。この他に石器が数点出土している。

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:178 Date: 2005/03/19 Sat 13:22:50



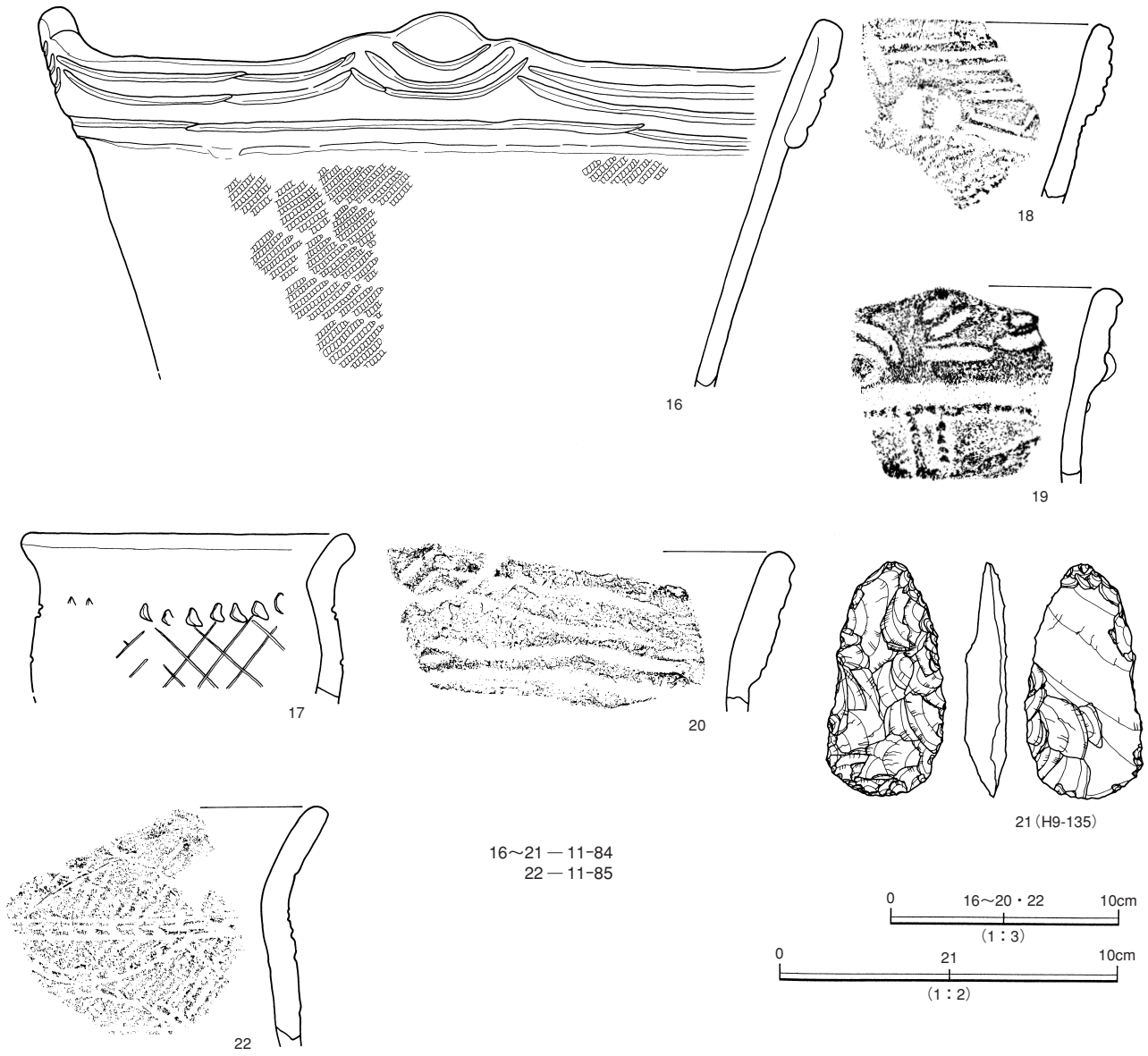
第149図　ST1958 住居跡・出土遺物（４）

Title:P168-179_縄文時代.ec6 Page:179 Date: 2005/03/19 Sat 13:27:31



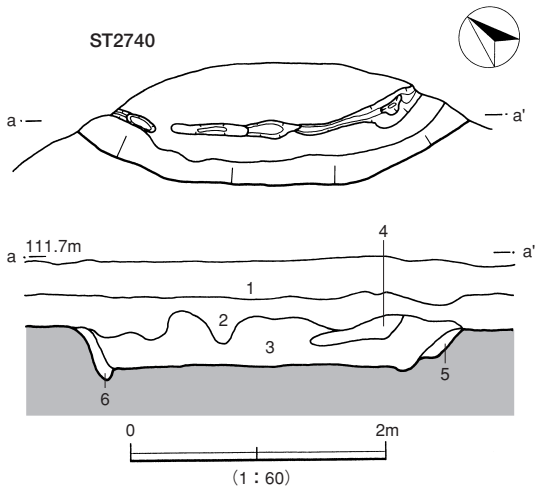
第150図　ST1958 住居跡出土遺物（５）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:180 Date: 2005/03/19 Sat 13:32:40



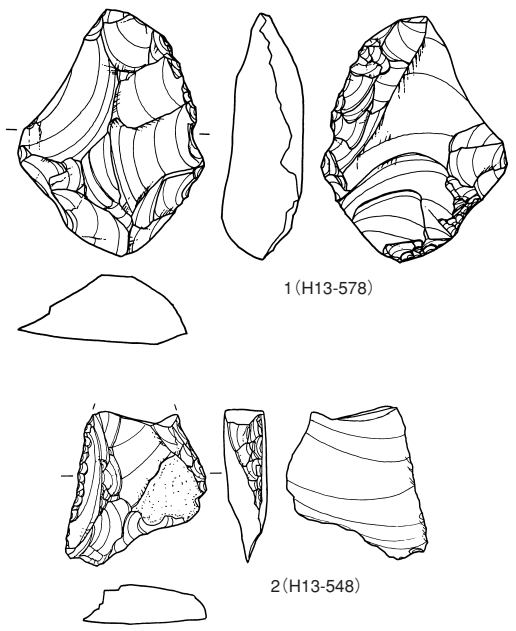
第151図　ST1958 住居跡出土遺物（６）

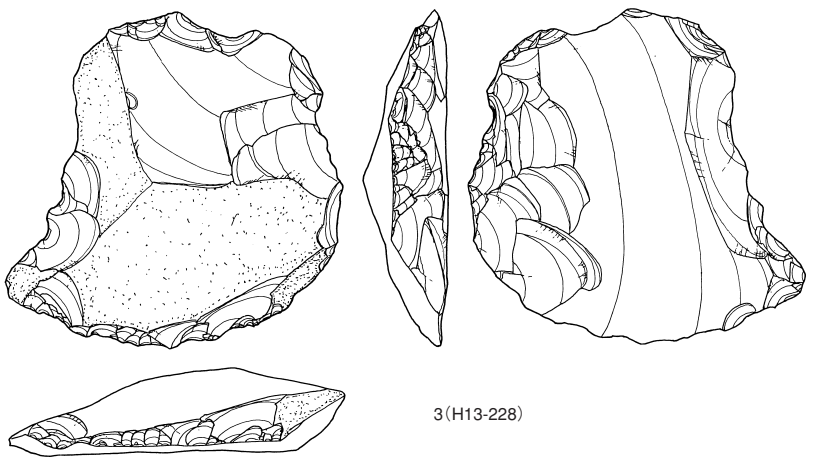
Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:181 Date: 2005/03/19 Sat 13:37:11



ST2740

1	黒褐色土	細砂利混入（表土）
2	黒色土	旧表土及び覆土、木炭粒、焼土粒わずかに混入
3	暗褐色土	やや黒褐色を呈する、焼土粒、木炭粒少量混入
4	暗褐色土	3と似るが、3よりもかなり明るい色調
5	暗黄褐色土	黄褐色土、同ブロックを多量に混入
6	暗褐色土	黄褐色土ブロックを混入





0　10cm
（1：2）

第152図　ST2740 住居跡・出土遺物

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:182 Date: 2005/03/19 Sat 13:38:40

ＳＴ2759住居跡（第153～159図　写遺構－148　写遺物－11・25・51・133）

グリッド23・24－82に位置する。第７調査区の東南端に所在する。平面形は隅丸長方形又は小判形を呈し、規模は南北3.8m、東西2.6mを測る。

壁は上面付近は崩落しているため斜めであるが、他はほとんど垂直に掘り込まれている。確認面からの掘り込みは１ｍを測る。

床面の溝と対向する壁柱穴

床面は非常に平坦である。底面の中央部から長軸方向に走る溝状遺構を検出している。溝と壁とが接する両端部には柱穴が配置される。

溝は幅40～50cm、深さ25cmを測る。柱穴はＰ１が径20～30cm、深さ40cm、Ｐ２は径20～40cm、深さ64cmを測る。

西壁では柱穴２基が接するように検出されている。Ｐ３は径25～40cm、深さ25cm、Ｐ４は径35～40cm、深さ23cmを測る。

また西壁ではフラスコ状土坑ＳＫ2790と重複し、本址が切られる。土層断面の１～６層は自然堆積層、７・８層は人為的堆積層とみられる。

遺物の出土状況や土層堆積状況から７・８層まで一気に埋没し、その後に遺物が混入したと見られる。遺物は中位より出土している。

鍋屋町式土器

１は鍋屋町式土器で床面から53cmの高さで出土している。口唇部には縦に短い粘土紐を貼付け巡らせている。胴部を半截竹管による横位の沈線で３段に区画し、その中に同心円文を施文する。また、口縁部内面にも渦巻様の文様を施文している。２は口縁部に押圧縄文を施文し胴部は縄文を地文とする。

３は地文に縄文を施す器高45cm以上の大型の深鉢で、床面から51～61cmの高さで出土している。底部に網代痕を残す。４は中期前半の有孔鍔付土器である。

この他には太い沈線により施文されるものや、半截竹管による平行沈線文が施文されるものや刺突されるものなどがみられる。38～41は縄文中期大木９式土器深鉢片である。

石器は42～70が出土している。石鏃（42）、石錐（43～47）、尖頭器（48）、石匙（49～51）、掻器（52・53・56・57）、削器（54・55・58～62・65・68）、石核（63・66・70）が出土している。69は石皿片である。

ＳＴ2760・2753住居跡（第160・161図　写遺構－149　写遺物－60）

グリッド22・23－83・84に位置し、第７調査区南東端に所在する。円形プランのＳＴ2760と方形プランのＳＴ2753が重複して検出された。全体の約１/３が調査区外に位置し、全容は確認されていない。検出当初は土色などからＳＴ2753がＳＴ2760を切っていると見られたが精査を進めた結果、実はその逆でＳＴ2760がＳＴ2753を切っていることが判った。

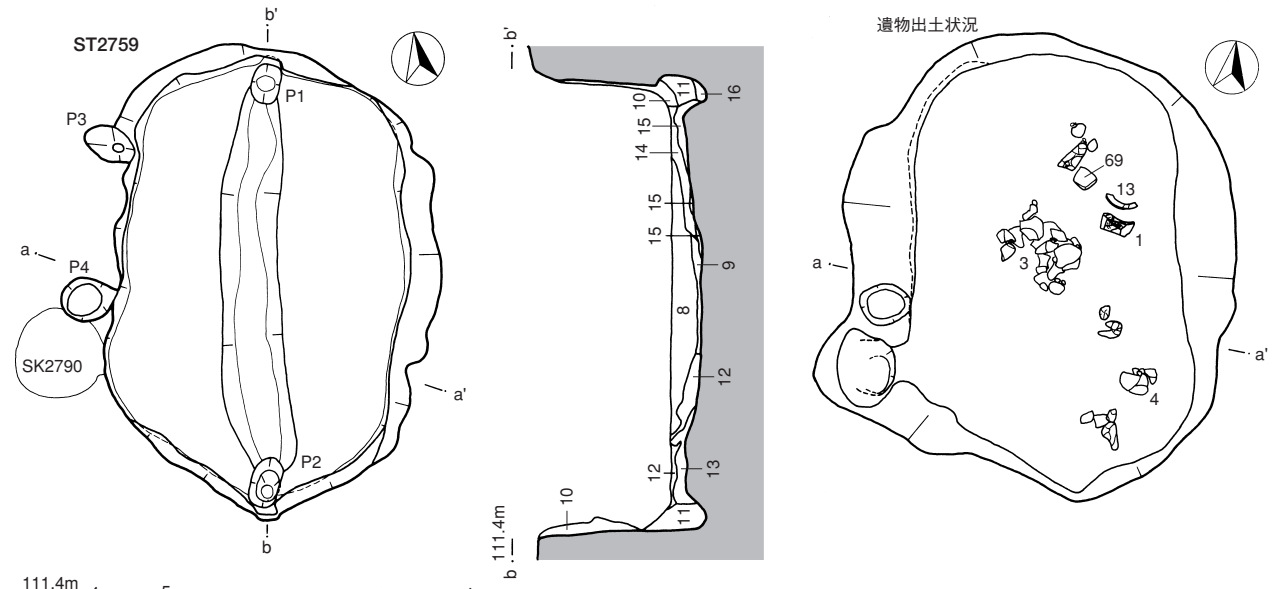
円形プランのＳＴ2760は直径4.5mを測る。この内側に径3.5mの規模で周溝が検出されているため拡張ないしは建て替えが行われた住居跡と推測される。

壁は地山黄褐色土を掘り込み、ほぼ垂直である。約20cmの壁高である。床は地山黄褐色土に黒色土を混入する貼床で構築され、非常に堅緻で平坦な床面である。

二重の周溝

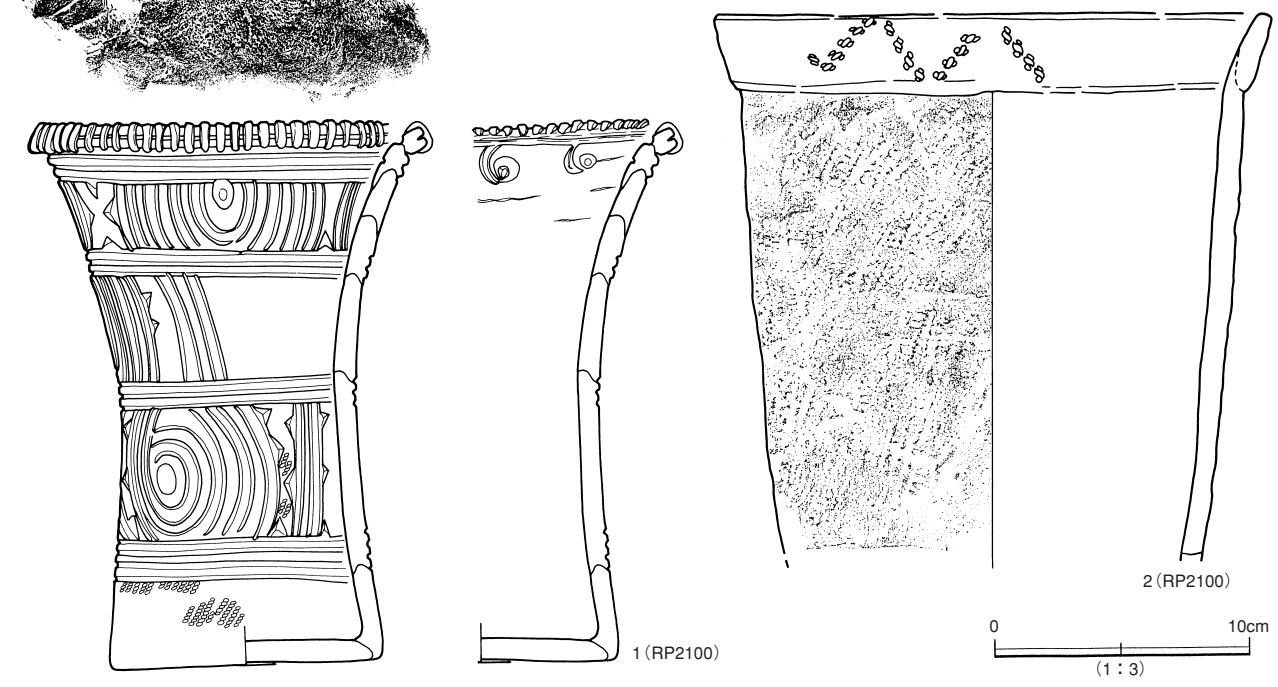
周溝は二重に検出された。内側の周溝は、やや貼床されていたため内側が古く、外側が新しいものと考える。外側の周溝はほぼ全周し、幅は15cm前後で、深さは３～10cmを測る。内側の周溝は幅10～15cm、深さ３～７cmである。

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:183 Date: 2005/03/19 Sat 13:40:53



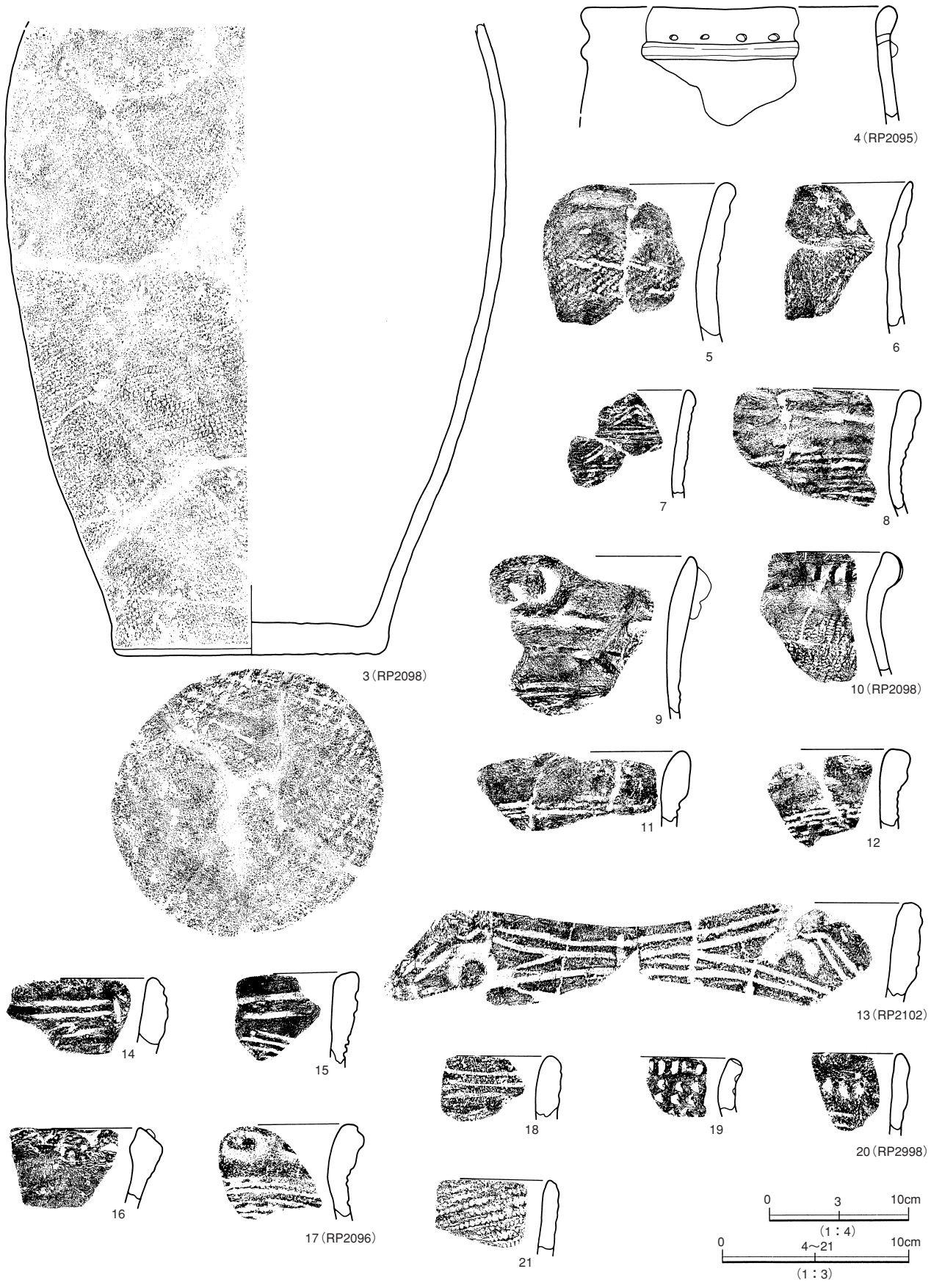
ST2759

1	黒褐色土	黄褐色土粒少量混入、よくしまる
2	黒褐色土	黄褐色土、木炭粒を比較的多く(ややボソボソした土)混入し 焼土粒を少量混入
3	黒褐色土	黄褐色土粒、同土を少量混入、木炭、木炭粒多く混入、焼土粒も少量混入 比較的しまっている
4	暗黄褐色土	黄褐色土多く、木炭粒、焼土粒少量混入
5	暗褐色土	黄褐色土、木炭粒、焼土粒少量混入
6	黒褐色土	木炭多量、黄褐色土多量、同ブロックわずか(やや軟弱層)
7	黄褐色土	黒褐色土を多く混入
8	黄褐色～黄白色土	軟弱である
9	黒褐色砂質土	黄褐色～白色砂質土粒多量に混入、白色砂質土ブロック少量混入
10	暗褐色土	木炭粒少量混入(かなりしまっている)
11	暗黄褐色砂質土	黒色土粒少量混入
12	黒色土	白色～黄褐色砂質土粒多く混入
13	黄褐色～黄白色土	8と似るが、やや黒色土粒多く、砂質が強い
14	暗褐色土	黄褐色砂質土粒に、黒色土粒多く混入、基本的に9と同類と考える
15	黄褐色～黄白色土	13と似るが、黒色土がほとんど混入せず、地山に近い黄褐色砂
16	暗黄褐色土	11と似るが、しまりなし



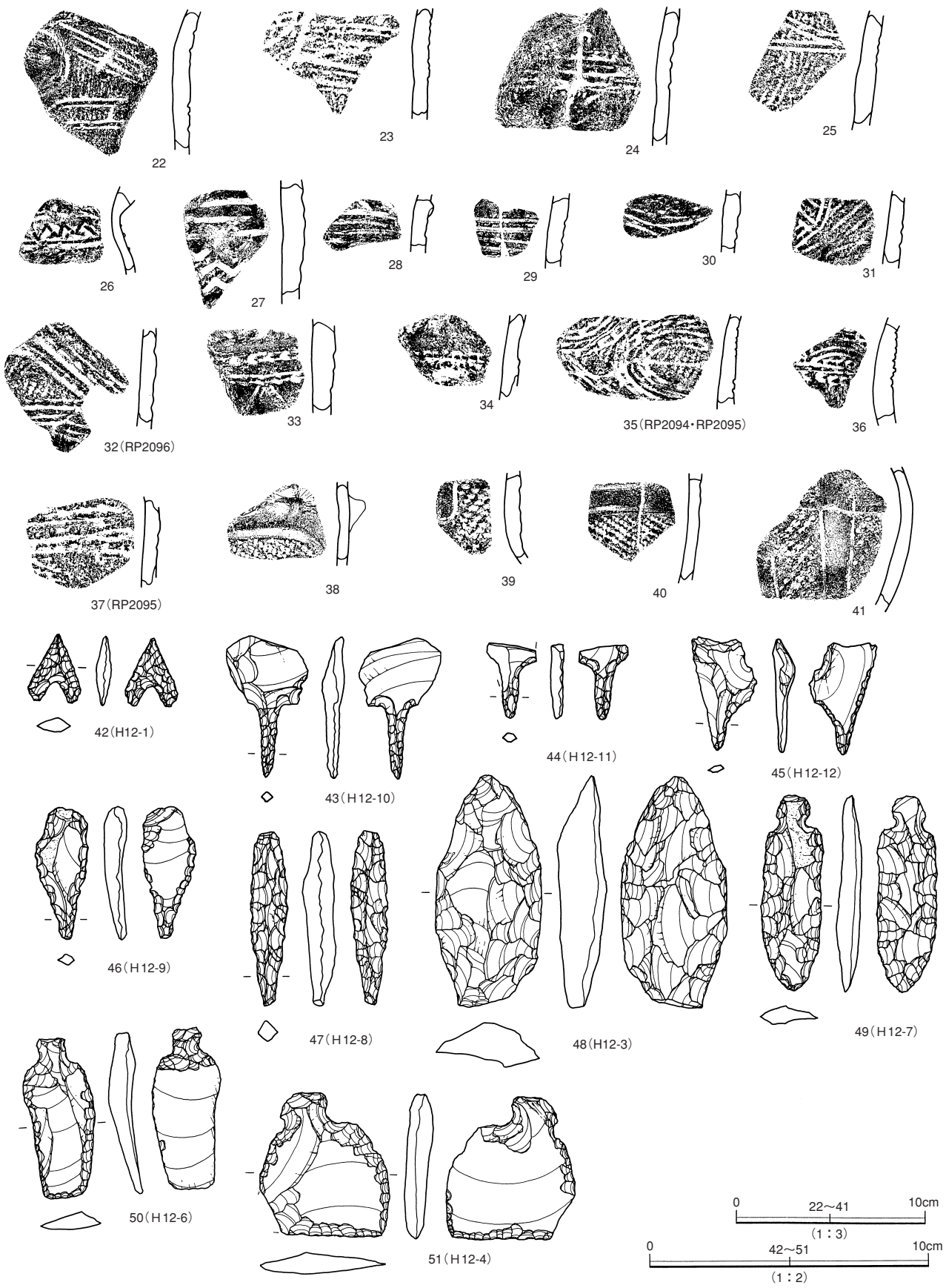
第153図　ST2759 住居跡・出土遺物（１）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:184 Date: 2005/03/19 Sat 14:18:33



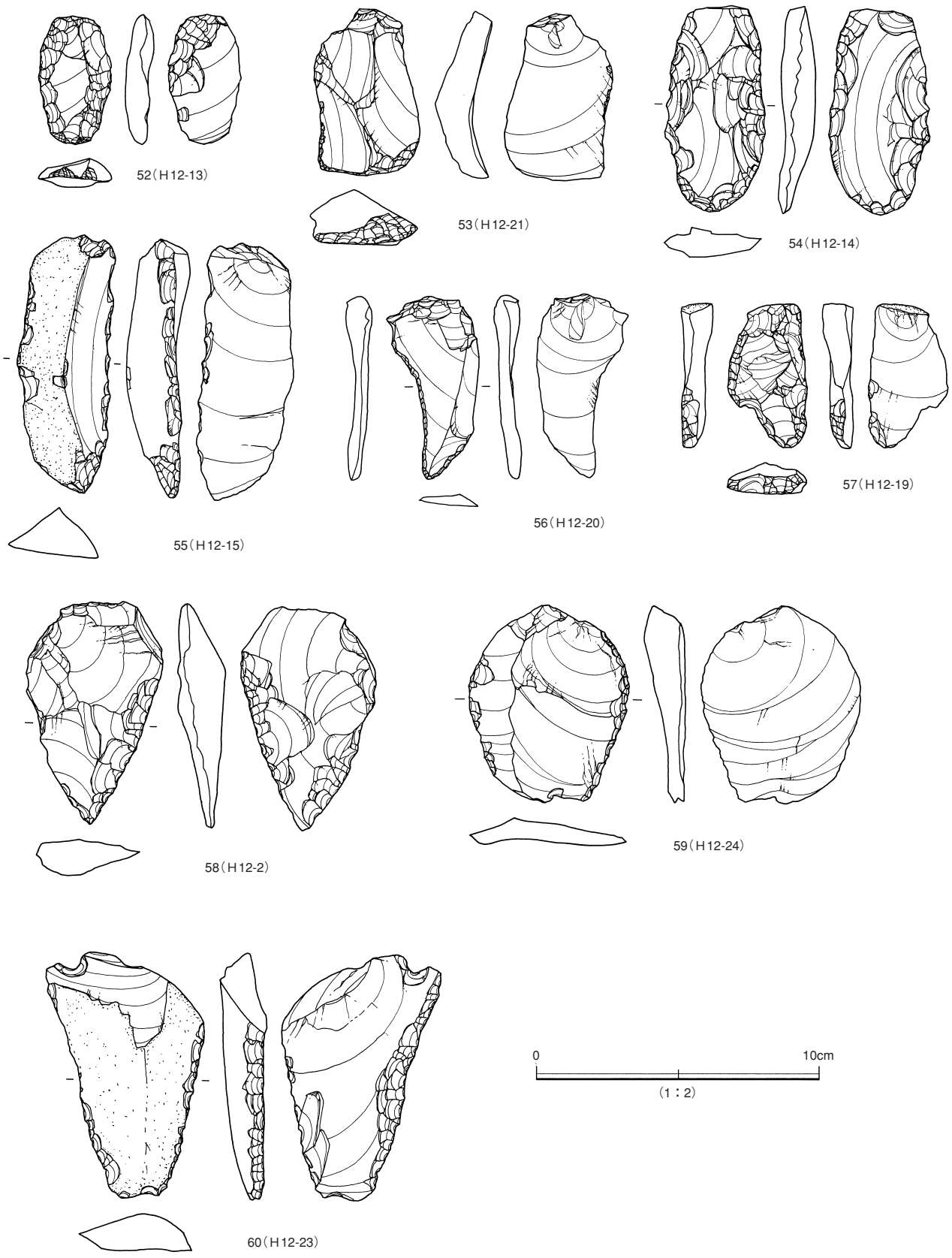
第154図　ST2759 住居跡出土遺物（２）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:185 Date: 2005/03/19 Sat 14:22:30



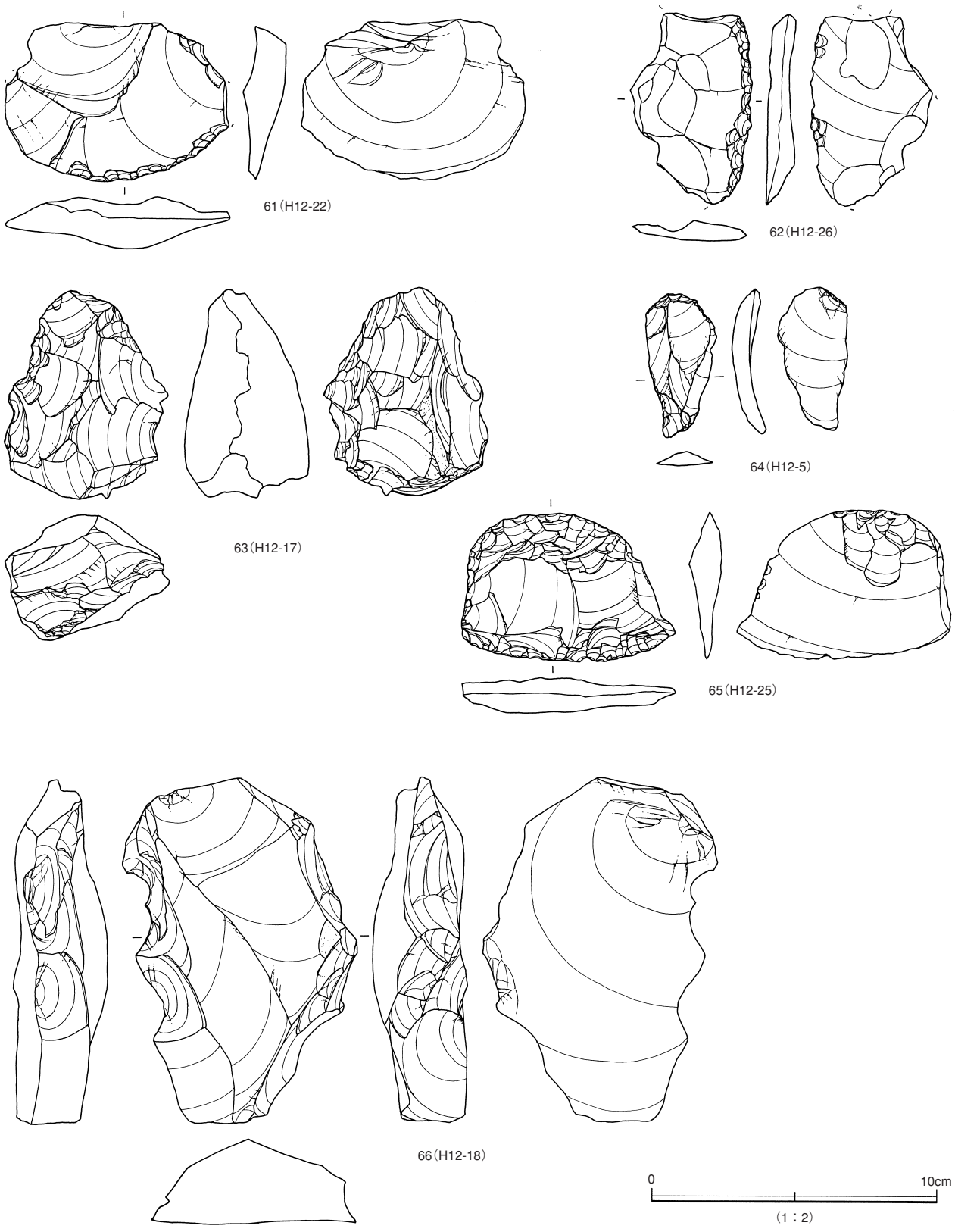
第155図　ST2759 住居跡出土遺物（３）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:186 Date: 2005/03/19 Sat 14:24:40



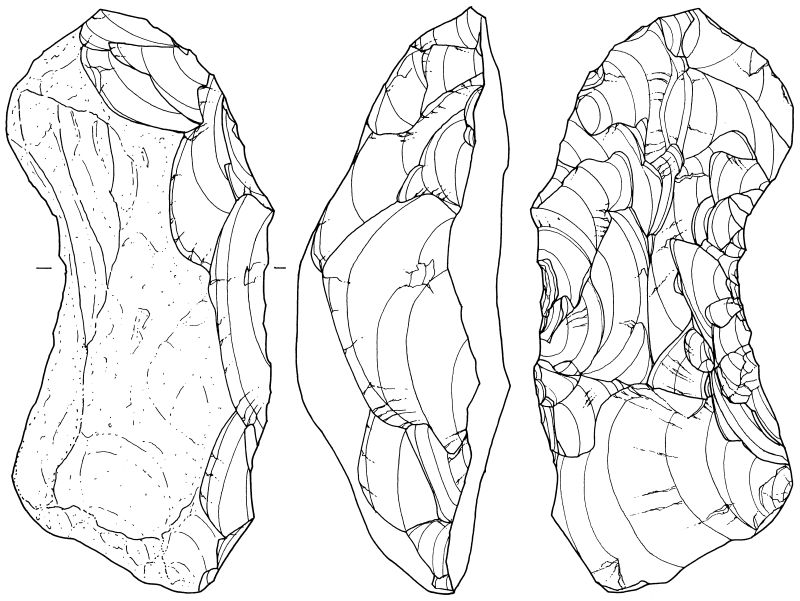
第156図　ST2759 住居跡出土遺物（４）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:187 Date: 2005/03/19 Sat 14:26:18

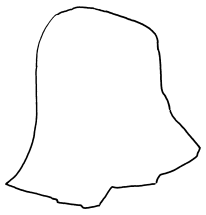


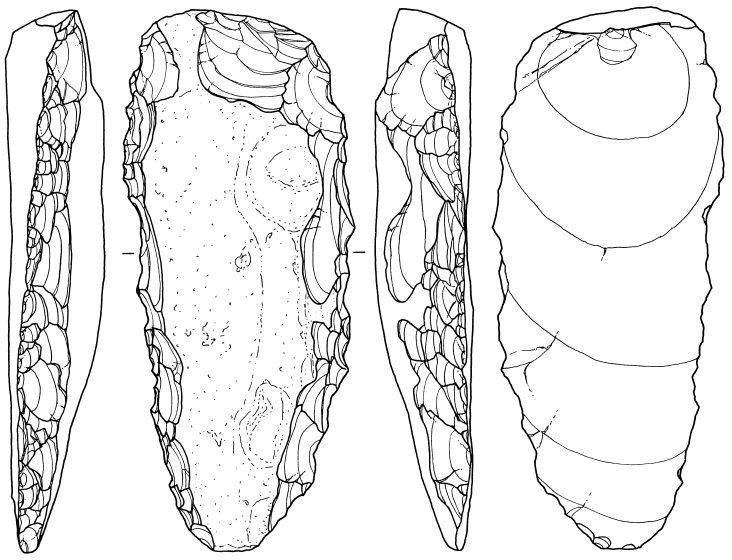
第157図　ST2759 住居跡出土遺物（５）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:188 Date: 2005/03/19 Sat 14:32:39

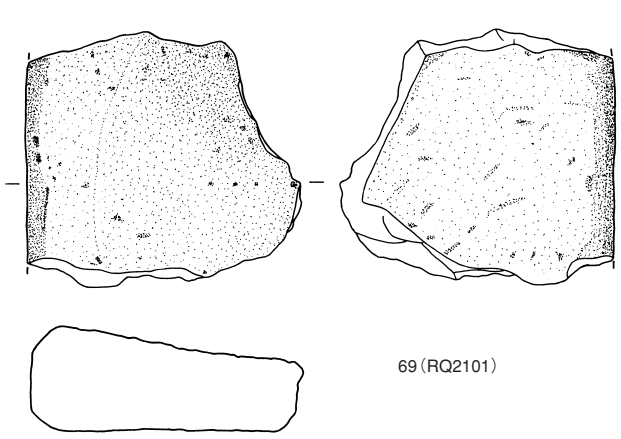


67（H12-28）





68（H12-16）



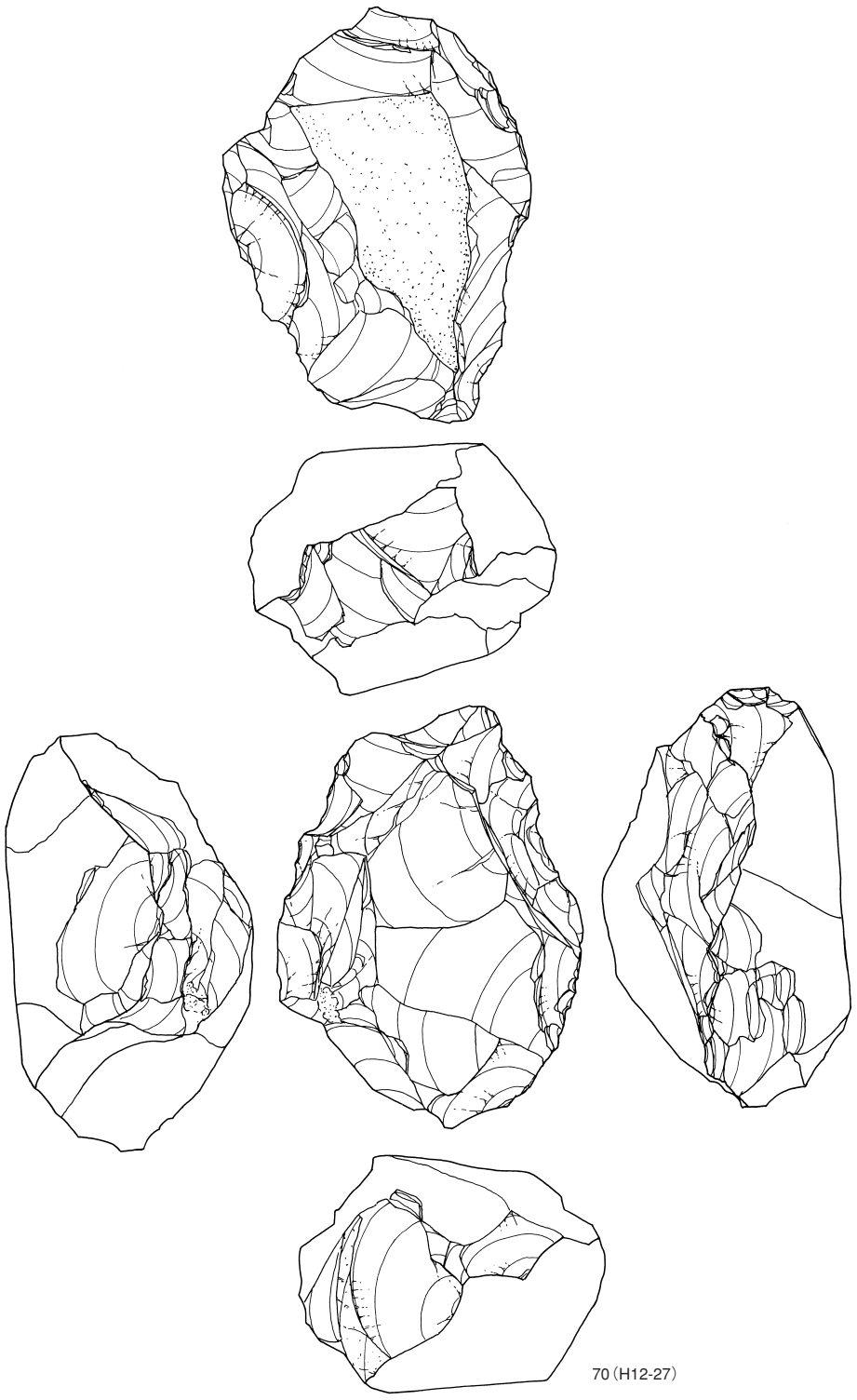
69（RQ2101）

0　69　10cm
（1：4）

0　67・68　10cm
（1：2）

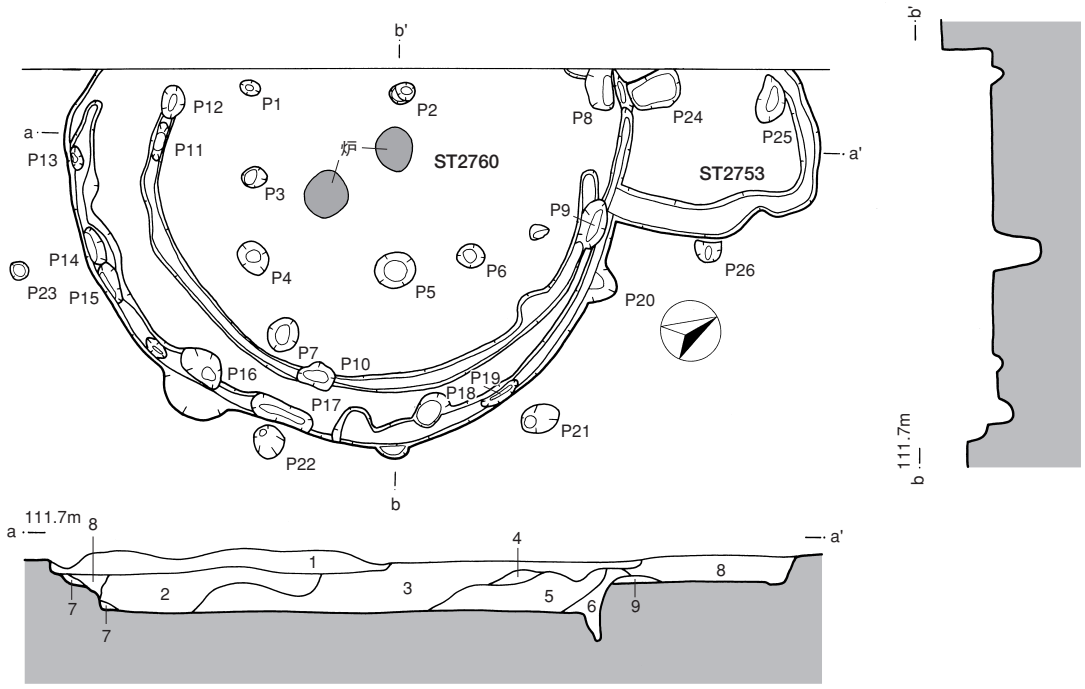
第158図　ST2759 住居跡出土遺物（６）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:189 Date: 2005/03/19 Sat 14:35:06



第159図　ST2759 住居跡出土遺物（７）

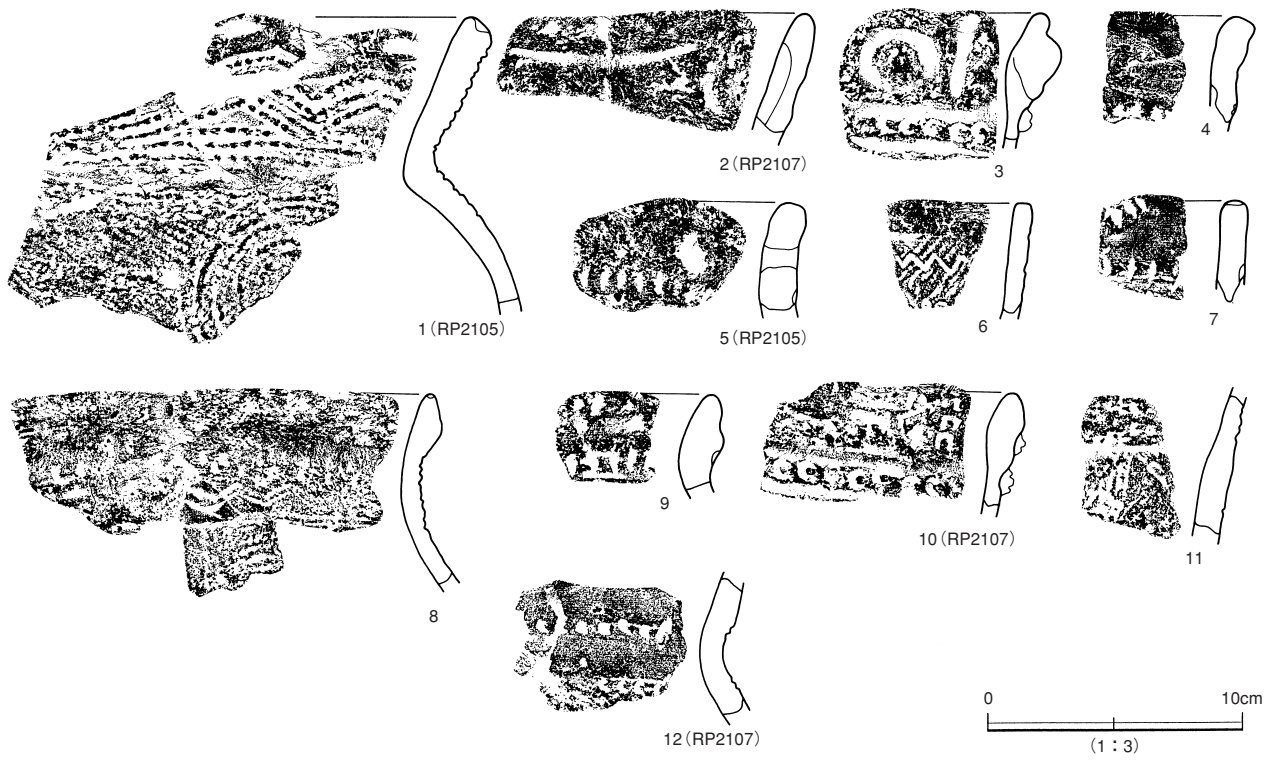
Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:190 Date: 2005/03/19 Sat 14:38:12



ST2760・ST2753

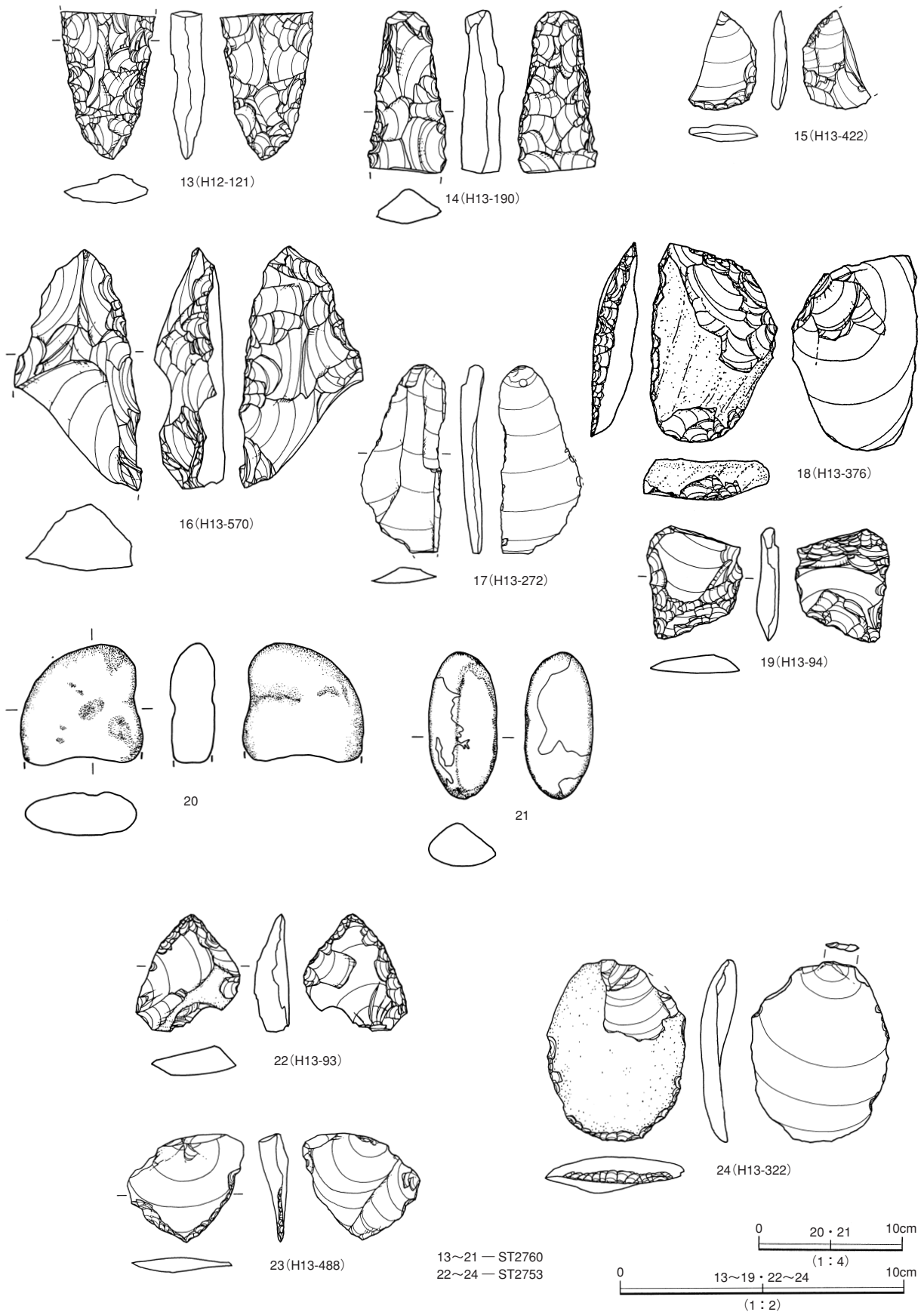
1　暗褐色土　黄褐色土粒少量混入、軟弱、表土
2　黒褐色土　黄褐色土粒少量混入、木根撹乱受ける、軟弱部分多い
3　黒褐色土　黄褐色土粒少量、よくしまる、やや暗褐色がかる
4　黒褐色土　黄褐色土、同ブロック多い
5　黒褐色土　黄褐色土粒多く、焼土粒、木炭粒少量混入、よくしまる、やや暗褐色がかる
6　黒褐色土　黄褐色土粒多く、焼土粒わずかに混入
7　黒褐色土　黄褐色土粒多い、軟弱、木根撹乱
8　黒褐色土　黄褐色土粒多い、やや軟弱、木根撹乱
9　黒褐色土　黄褐色土多く混入、よくしまる

0　2m
（1：60）



第160図　ST2760・2753 住居跡・出土遺物（１）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:191 Date: 2005/03/19 Sat 14:41:32



第161図　ST2760・2753 住居跡出土遺物

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:192 Date: 2005/03/19 Sat 14:43:14

周溝の中に円形のピットや楕円形のピットを有する。これは板状のものと杭状の材を組み合わせて壁面の保護、土止めなどに使用した痕跡と推測する。

柱穴は内外で23基が確認されている。主柱穴と考えられる柱穴とその深さはＰ１（33cm）、Ｐ４（37cm）、Ｐ５（38cm）、Ｐ６（22cm）である。Ｐ２（10cm）、Ｐ３（６cm）、Ｐ７（19cm）は補助的な柱穴とみられる。

この他に壁柱穴が多数確認され、壁外柱穴もいくつか見られる。壁柱穴は周溝上で検出された。深さはＰ８(38cm)、Ｐ９(41cm)、Ｐ10(８cm)、Ｐ11(７cm)、Ｐ12(４cm)、Ｐ13(５cm)、Ｐ14(17cm)、Ｐ15(16cm)、Ｐ16（57cm)、Ｐ17（13cm)、Ｐ18（14cm)、Ｐ19（22cm)、Ｐ20（10cm）などである。Ｐ８・９・16・19等はしっかりした掘り込みで、規模は長さ30～40cm、幅５～８cmの細長い形状を呈する。丸柱ではなく、板状の材を埋設していたと推測される。Ｐ21（33cm)、Ｐ22（14cm)、Ｐ23（21cm）は壁外柱穴である。住居の中央部に２カ所の床面の焼けている範囲が検出され、地床炉と考える。

板材埋設

ＳＴ2753は1.5m方形のプランが検出されているが、調査区外にかかることやＳＴ2760と重複するため不明な点が多い。本址は方形プランと周溝を有するため住居跡と考えた。掘り込みは浅く５cm程であるが、床面は堅緻で平坦な貼床である。周溝は幅15～25cm、深さ５～10cmである。柱穴はＰ25･26があるが掘り込みは10cmほどで浅い。Ｐ24は果樹アンカーの撹乱である。

遺物はＳＴ2760では１～12の結節状浮線文や半截竹管文の深鉢口縁部片、13～21の尖頭器・石鏃などがある。20・21は凹石・磨石である。ＳＴ2753では22～24の石鏃・掻器・削器が出土している。

ＳＴ3136住居跡（第162・163図　写遺構－158）

グリッド９－96・97のＳＴ3812大型住居跡の中央部付近に重複して位置する。西壁に近世墓と見られるＳＫ3120と切り合う。ＳＴ3136→ＳＴ3812→ＳＫ3120と新旧が追える。

平面形は卵形又は楕円形を呈する。規模は確認面で長径3.4m、短径1.9mを測る。床面までの深さは73cmである。

覆土は10層を確認している。６層は黒褐色・明黄褐色・にぶい黄褐色の粘土混じりの人為的な埋め戻しによる堆積である。１・２層は自然堆積層、３・４層は切り合うＳＴ3812の焼土層(炉)となる。これは本址が人為的に埋め戻された後にＳＴ3812の炉址が構築されているためとみられる。１・２層はＳＴ3812の覆土である。

大型住居の炉址

各壁面ともに、ほぼ垂直に立ち上がる。壁の高さは70cmほどである。床は平坦で締まりがある。褐色粘質シルトを敷いている。入口部分は不明である。床に炉の痕跡は認められなかった。

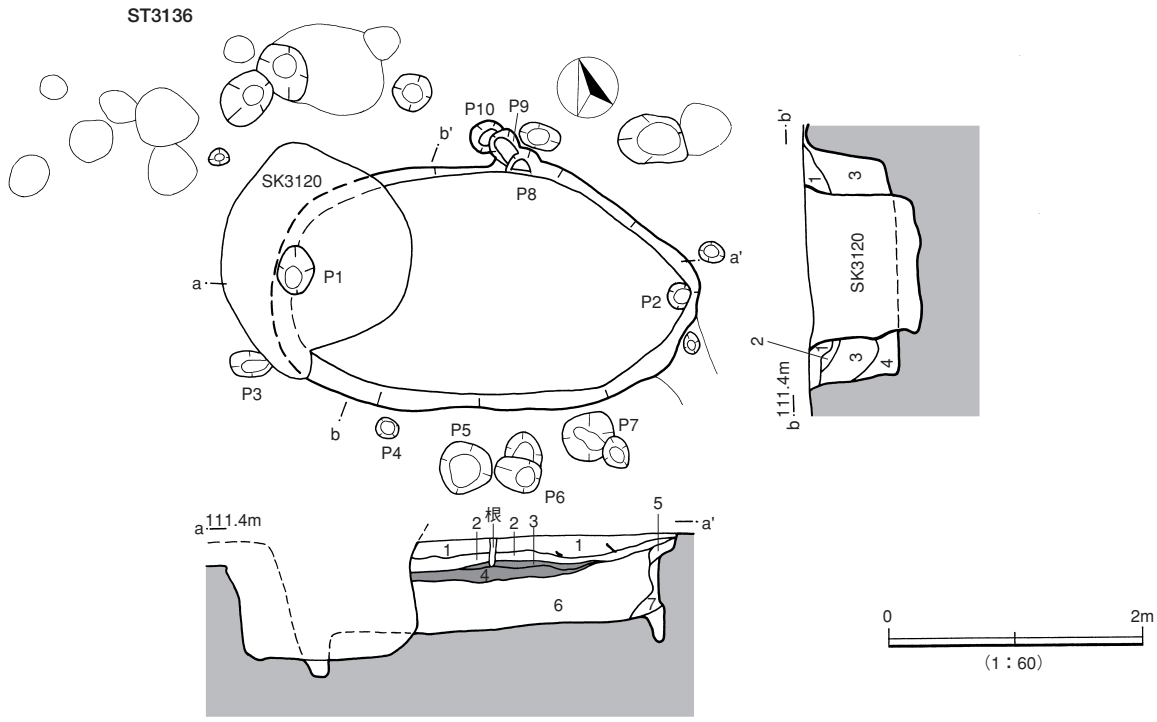
対向する壁柱穴

柱穴は床面で２基を確認した。この対になっているＰ１・２が主柱穴と思われる。床面からの深さはＰ１が47cm、Ｐ２が20cmを測り、かなりしっかりしたものである。

壁の外側を巡る径10cm前後の小穴は垂木穴と見られる。確認面からの柱穴の掘り込みはＰ３(35cm)、Ｐ４(13cm)、Ｐ５(37cm)、Ｐ６(40cm)、Ｐ７(10cm)、Ｐ８(65cm)、Ｐ９(25cm)、Ｐ10（15cm）である。

遺物は９層から土器数点、石器数点が出土している。１～４は竹管の刺突文や平行沈線文の深鉢口縁部片。５～13は石鏃・掻器、14は磨石である。

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:193 Date: 2005/03/19 Sat 14:46:07



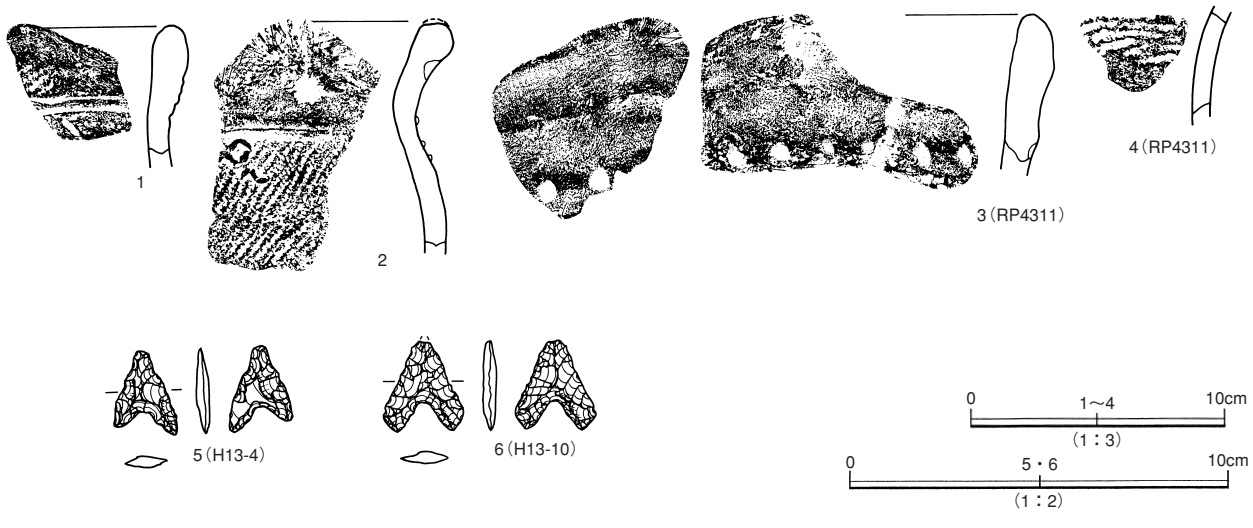
ST3136

a-a'

1	10YR3/3	暗褐色シルト	粗砂混じり、炭化物粒、土器片出土
2	10YR6/6	明黄褐色粘質シルトブロック	帯状に堆積する
3	10YR3/2	黒褐色土	炭化物粒少、焼土少混じり、土器片あり
4	2.5YR4/6	赤褐色焼土	焼土、しまり強い、炭片混じる
5	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	壁崩れ
6		埋土	10YR3/2黒褐色土＋10YR6/6明黄褐色土＋10YR7/3にぶい黄橙色シルトの混合土、炭片まばらに含む、遺物出土
7	10YR6/6	明黄褐色粘質シルト	やや汚れている、壁崩れ

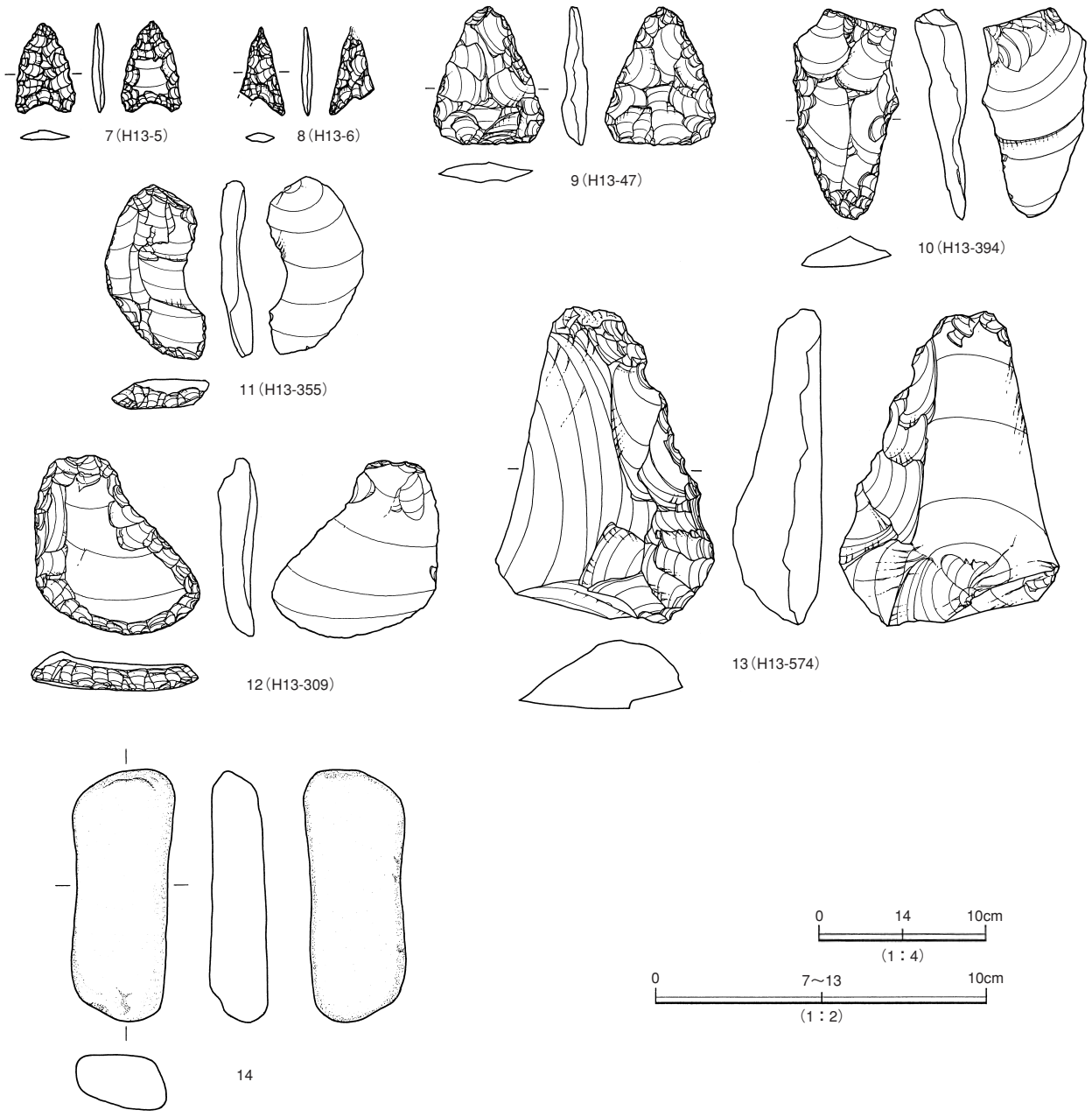
b-b'

1	10YR3/2	黒褐色腐植土	遺物出土、柔らかい
2	10YR4/4	褐色シルト	粘質あり、汚れている
3	10YR3/2	黒褐色腐植土	10YR6/6明黄褐色粘質シルト＋10YR7/3にぶい黄橙色粘質土ブロックの混合土
4	10YR3/2	黒褐色腐植土	3よりも10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロックが多い



第162図　ST3136 住居跡・出土遺物（１）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:194 Date: 2005/03/19 Sat 14:48:43



第163図　ST3136 住居跡出土遺物（２）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:195 Date: 2005/03/25 Fri 11:05:30

ＳＴ3202住居跡（第164～186図　写遺構－150・151　写遺物－３・18・52～56・134～136）

大型住居と重複

グリッド８・９－98の地山面で検出された。調査区の北西側でＳＴ3703大型住居跡と重複する。この他にＳＫ3200・ＳＫ3203・ＳＫ3861・ＳＫ3768・ＳＫ3858・ＳＫ3860・ＳＫ3782・ＳＫ3767・ＳＫ3862・ＳＴ3812等と切り合う。ＳＴ3202→ＳＴ3703（大型住居）→ＳＴ3812（大型住居）と新旧が追える。

平面形は円形を呈し、確認面での規模は長径６ｍ、短径5.8ｍを測る。床までの深さは約80cmある。覆土はＳＴ3703の堆積土を含めて14層が確認された。１層はＳＴ3703の覆土で焼土層が入る。２層は本址の確認面である。13・14層は周溝の堆積土である。壁面は垂直に立ち上がり、壁高は80cm程ある。周溝は住居跡を全周する。幅と深さは共に30～40cmを測り、かなりしっかりした掘り込みである。柱跡や板塀跡などは確認できなかった。

床面は平坦で締まりがあり、褐色粘質シルトを敷いている。一部、北東コーナーに特に堅い部分があり、入口部分と推測する。床面に焼土など炉の痕跡は認められなかったが、中央付近に炭化物の分布がみられた。

柱穴は床面で６基を確認した。その深さはＥＰ3871・ＥＰ3867は15cm、ＥＰ3879は26cm、ＥＰ3863は22cm、ＥＰ3862は45cmである。ＥＰ3865は主柱穴と思われ、径35cm、深さ60cmを測り、かなりしっかりしたものである。

壁の外側を環状に巡る径10cm前後の小穴は垂木穴とみられる。Ｐ１は30cmの掘り込み、その西に並ぶ直径15cm前後の柱穴列は３～13cm前後の浅い掘り込みである。

この他の主な壁外柱穴の深さは、Ｐ２（50cm）、Ｐ３（55cm）、ＥＰ3706（52cm）、ＥＰ3688（50cm）、Ｐ４（23cm）、Ｐ５（30cm）、Ｐ６（33cm）、Ｐ７（16cm）、Ｐ８（27cm）、Ｐ９（16cm）、Ｐ10（24cm）、Ｐ11（４cm）、Ｐ12（60cm）、Ｐ13（63cm）、Ｐ14（60cm）、Ｐ15（60cm）、Ｐ16（25cm）、Ｐ17（90cm）、Ｐ18（90cm）、Ｐ19（55cm）、Ｐ20（51cm）、Ｐ21（30cm）、ＥＰ3692（33cm）、Ｐ22（32cm）である。いずれもしっかりした深い掘り込みの壁外柱穴が多い。

精査の結果、住居跡内に重複する遺構ではＳＫ3858・ＳＫ3768・ＳＫ3860・ＳＫ3782は本址よりも新しいと見られている。ＳＫ3861は入口施設の可能性が考えられる。

遺物は堆積土から多数出土しているが、切り合う新しい土坑の遺物も多い。１は波状口縁で細い粘土紐貼付文の、２は結節状浮線文とボタン状貼付文の台付鉢である。３は竹管による口縁部刺突文、胴部には半截竹管による沈線文の深鉢。４～12は細い粘土紐による連続山形文、13・14は沈線による連続山形文の深鉢である。この他は半截竹管による平行沈線文や口縁部押捺、爪形文、太い沈線文などの深鉢が出土している。

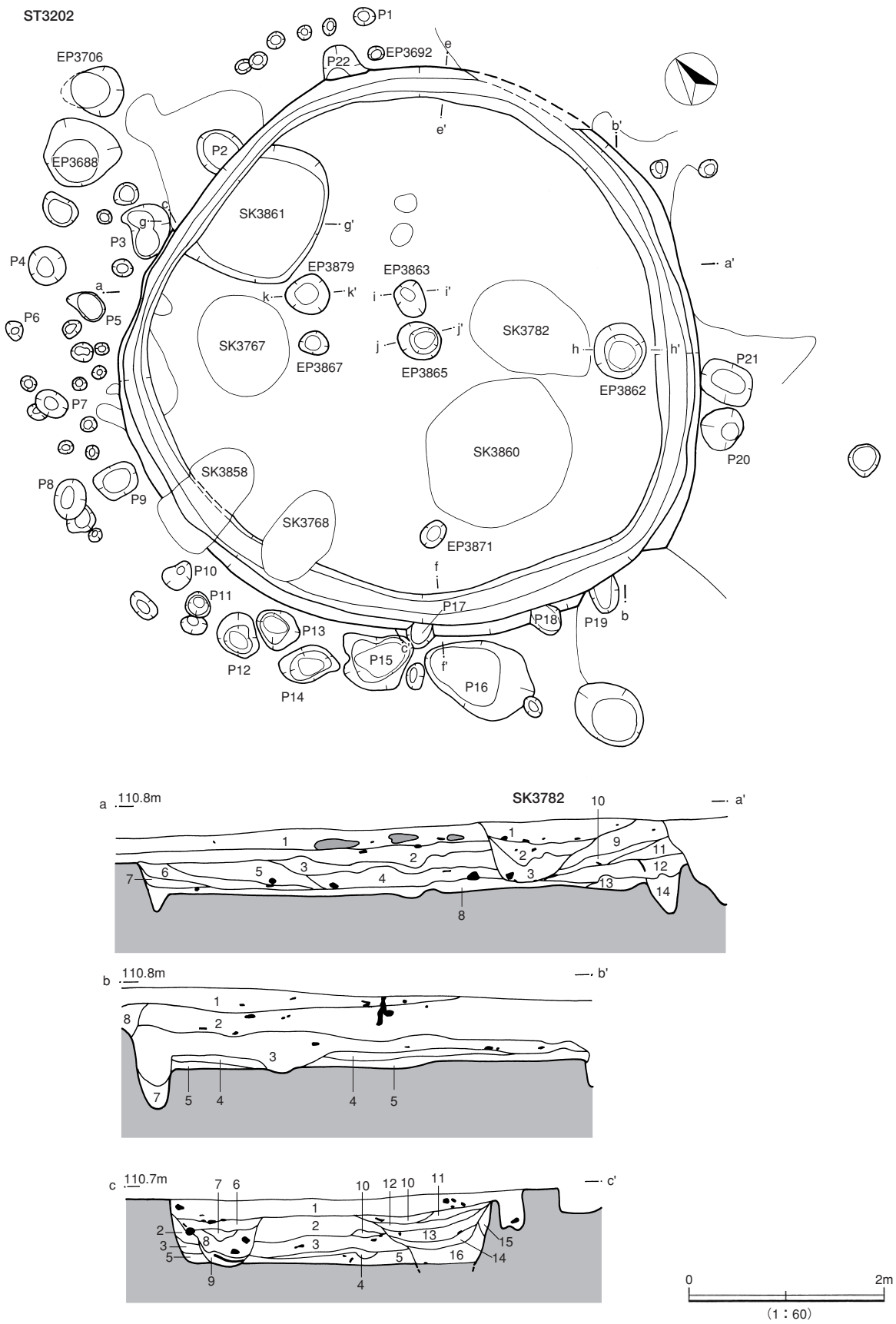
石器は94～148の石鏃・尖頭器・掻器・削器・石錐・石核がある。149～163は凹石、164～166は磨石である。167は砥石、169～170は石皿である。特に147は石剣の破片とみられ注目される。表面に擦痕が多数見られる。

重複するＳＫ3858は東西１ｍ、南北70cmほどの土坑で、床面からの深さは35cmの掘り込みで少量の遺物が出土している。ＳＫ3768も同様の土坑で南北１ｍ、東西60cm、深さ35cmの楕円形の土坑である。出土遺物は１～９の太い沈線文・半截竹管文の深鉢、10は凹石である。

大型の深鉢

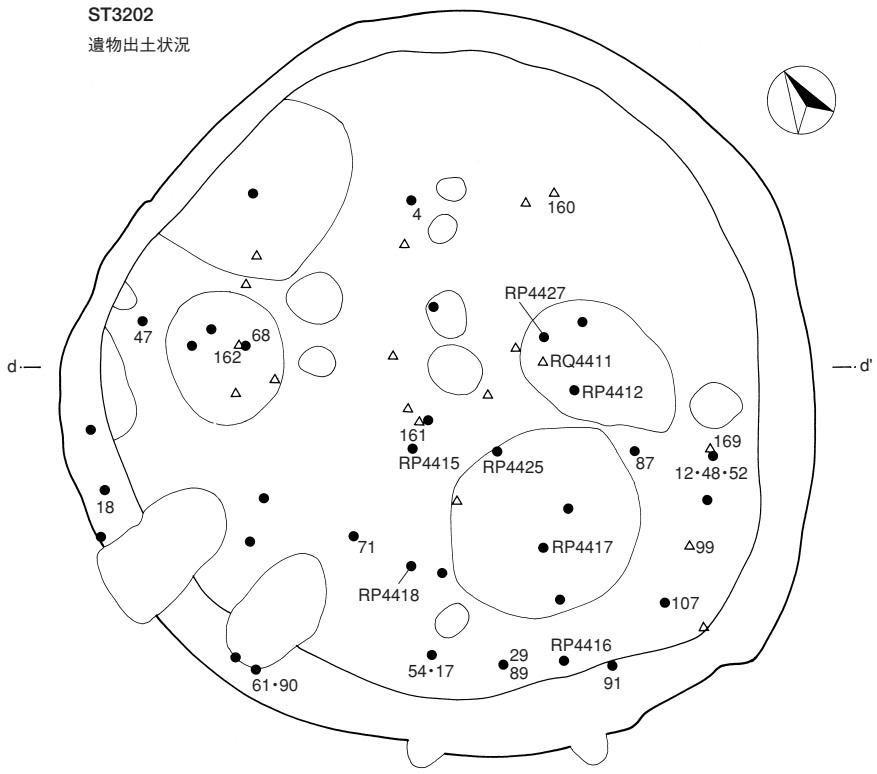
ＳＫ3860は径1.6ｍ、深さ30cmの円形の土坑である。遺物は口縁部に太い沈線を施し、ボタン状貼付文の１の大型深鉢、２の波状口縁の深鉢。８～12は石錐・掻器・削器、13は石皿片、

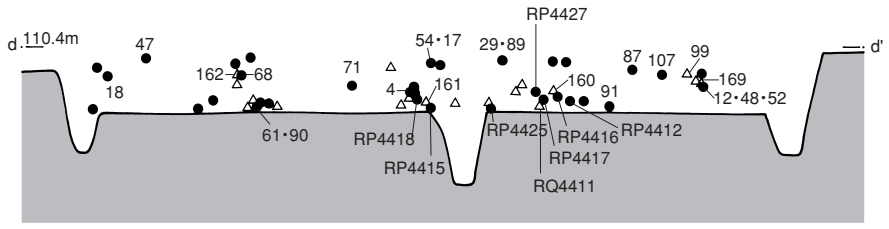
Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:196 Date: 2005/03/19 Sat 14:53:55

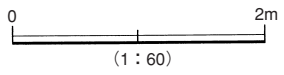


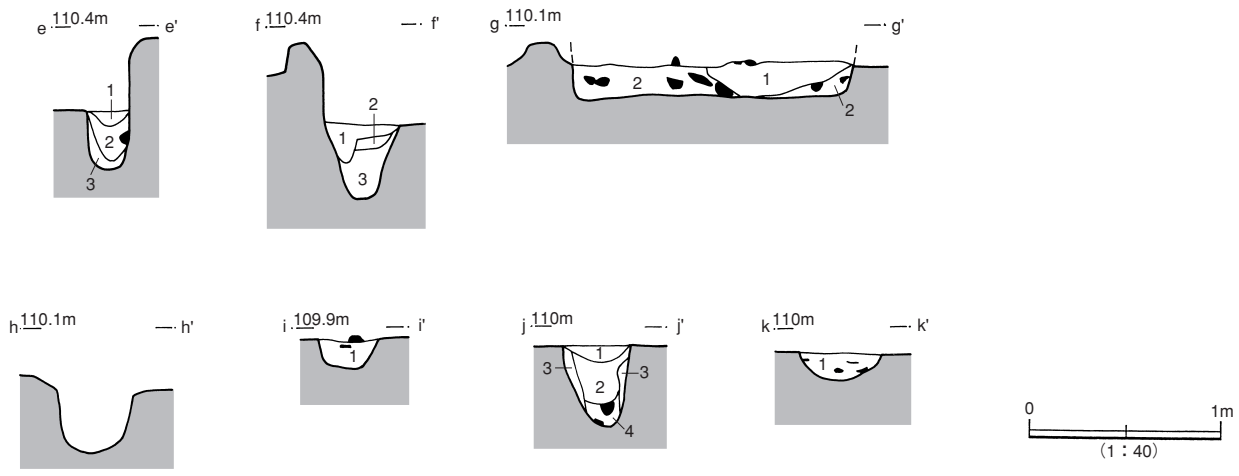
第164図　ST3202 住居跡（1）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:197 Date: 2005/03/25 Fri 11:07:46









第165図　ST3202 住居跡（２）

Title:P180-198_縄文時代.ec6 Page:198 Date: 2005/03/19 Sat 15:08:40

ST3202

a-a'

1	10YR3/2 黒褐色腐植土	ST3703覆土、EL層あり、SKに切られる
2	10YR3/2 黒褐色腐植土	ST3703覆土（上半分）、上面ELに及ぶ、ST3202確認面
3	10YR3/2 黒褐色腐植土	10YR6/6明黄褐色粘質シルト50%混合土
4	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	下部床に接する、焼土（ST3202）が入る
5	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック2～5cm30%、炭化物含む
6	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	固い、粗砂混じり炭化物あり、土器あり
7	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック3～6cm、炭片混じり、固い
8	10YR3/1 黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック5～20cm混じり、固いしまり床土
9	10YR3/2 黒褐色腐植シルト	土器、石器あり
10	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	固い、石器あり、炭化物粒まじり
11	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト	柔らかい、土器、石器あり
12	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック1～3cm、30～40%柔らかい
13	10YR3/1 黒褐色シルト	炭化物混じり、固い
14	10YR3/1 黒褐色砂質シルト	下は砂層、柔らかい

b-b'

1	10YR3/3 暗褐色腐植土	ST3703埋土、床土、横位に入りこむ
2	10YR3/2 黒褐色腐植土	礫10～15cm、土器、石器多い、炭化粒まじり多い、固くしまる
3	10YR3/1 黒褐色腐植土	小礫2～5cm数個、炭化粒小さく、土器、石器あり、固いしまり
4	10YR6/6 明黄褐色粘質シルト	固くしまり、10YR3/1黒褐色腐植土、炭化物粒含む、遺物なし、貼床か
5	10YR3/3 暗褐色砂	4の汚れ、貼床か
6	10YR6/6 明黄褐色粘質土	ブロック大、流れ込み
7	10YR4/4 褐色砂	溝底

c-c'

1	10YR5/3 にぶい黄褐色腐植土	3～13cm礫含む、炭片、焼土粒混じり
2	10YR3/2 黒褐色腐植土	1～6cm礫含む、炭片、焼土粒混じり、土器、石器あり、粘性あり
3	10YR3/2 黒褐色腐植土	1～6cm礫含む、炭片、焼土粒混じり、土器横位あり、しまり固い
4	10YR3/1 黒褐色粘質シルト	炭片まじり
5	10YR5/2 灰黄褐色シルト	下部に砂質シルト、固いしまり（5の下は灰白色粘土）
6	10YR3/3 暗褐色腐植土	上面に横位に遺物大片あり
7	10YR3/1 黒褐色腐植土	固い
8	10YR3/1 黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色土、10YR3/2黒褐色土、混合土
9	10YR3/1 黒褐色砂質シルト	RP4354入る、横位につぶれる
10	10YR6/8 明黄褐色粘質シルト	10YR6/8明黄褐色土、小礫含む、焼土
11	10YR3/3 褐色シルト	粗砂混じり、炭化粒多い
12	10YR6/8 暗黄褐色粘質シルト	小礫含む
13	10YR3/3 暗褐色シルト	5～10cm礫、炭片小、土器、石器横位
14	10YR3/1 黒褐色シルト	炭片多い、石器含む、焼土粒あり
15	10YR4/4 褐色シルト	小礫、土器片、炭化物少量上部にあり
16	10YR3/2 黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色土＋10YR6/6明黄褐色粘質土40%、固いしまり、下部はシルト、下は砂質シルト

e-e'

1	10YR3/2 黒褐色腐植シルト	10YR6/6明黄褐色粘質土との混じり土、粘性あり
2	10YR3/2 黒褐色腐植シルト	1より細かい土、小礫、砂混じる
3	10YR4/4 褐色砂礫	柔らかい

f-f'

1	10YR2/1 黒色腐植質シルト	粘性あり、土器あり
2	10YR3/3 暗褐色砂質シルト	
3	10YR4/2 灰黄褐色砂	柔らかい、壁流れあり

g-g'

1	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック1～6ｃｍ大30%、炭化物粒まじり
2	10YR3/1 黒褐色砂礫	径10～20礫数点含む、下部砂礫層、底面はほぼ平坦

i-i'

1	10YR3/2 黒褐色砂質シルト	上部粘性あり、RP4426を含む、底は砂礫層となる

j-j'

1	10YR3/1 黒褐色腐植シルト	粘性あり、炭化物少なく土器出土、炭片小混じる
2	10YR3/3 暗褐色砂質シルト	柔らかい、炭片小混じる
3	10YR5/3 にぶい黄褐色砂	壁流れ
4	10YR4/2 灰黄褐色砂	

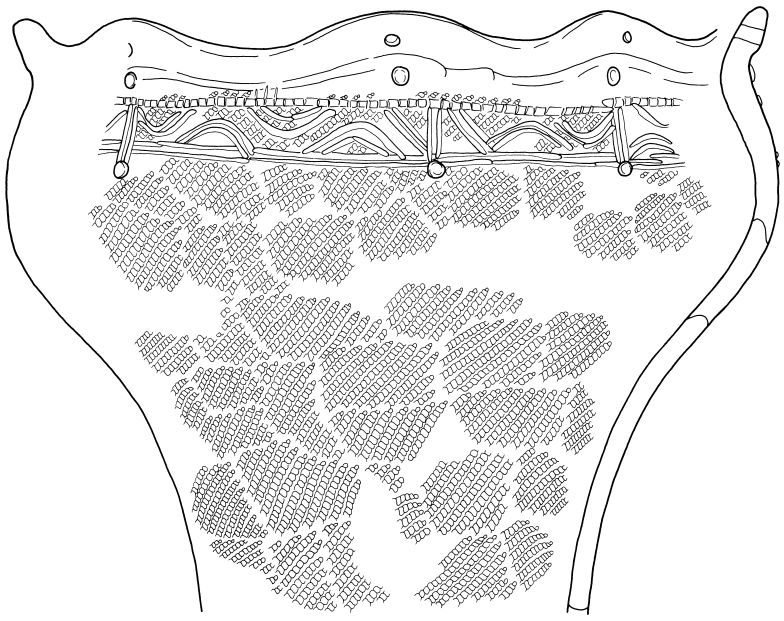
k-k'

1	10YR3/1 黒褐色粘質土	10YR5/6黄褐色粘質土との混合土、礫、砂多く混じる

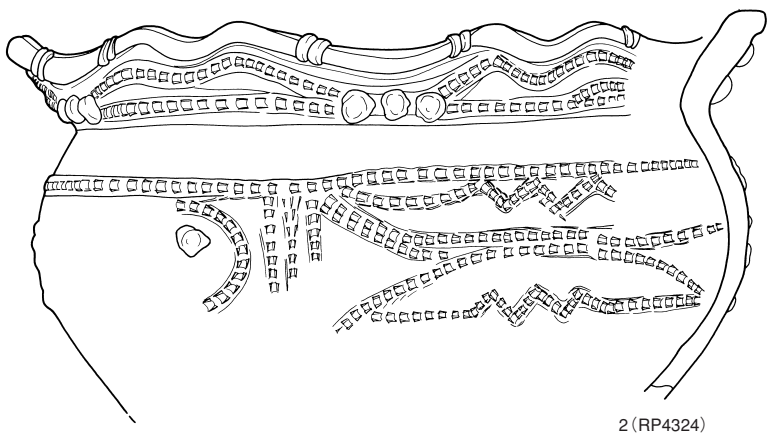
14・15は磨石である。この他の遺物はＳＫ3767では16～23、ＳＫ3782では24～34、ＳＫ3861では35～39、ＳＫ3863では40・41、ＳＫ3879では42が出土している。16は口縁部に細い粘土紐貼付の連続山形文の深鉢、23は磨製石斧である。35は波状口縁で口縁部に粘土紐貼付、その上に半截竹管による刺突文を施す深鉢である。39は磨石である。

床面で、大木５式土器と石皿・凹石・石器が出土しており、本址は大木５式期の竪穴住居と考えられる。

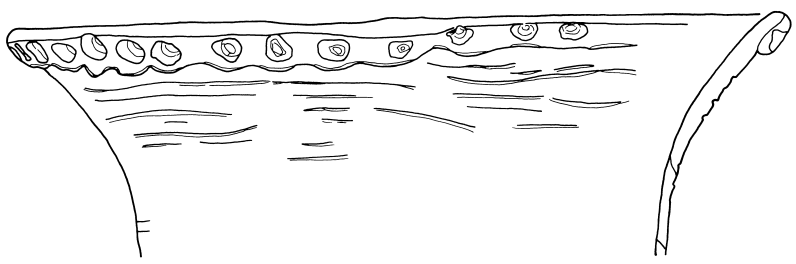
Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:199 Date: 2005/03/19 Sat 15:10:02



1（RP4444）



2（RP4324）

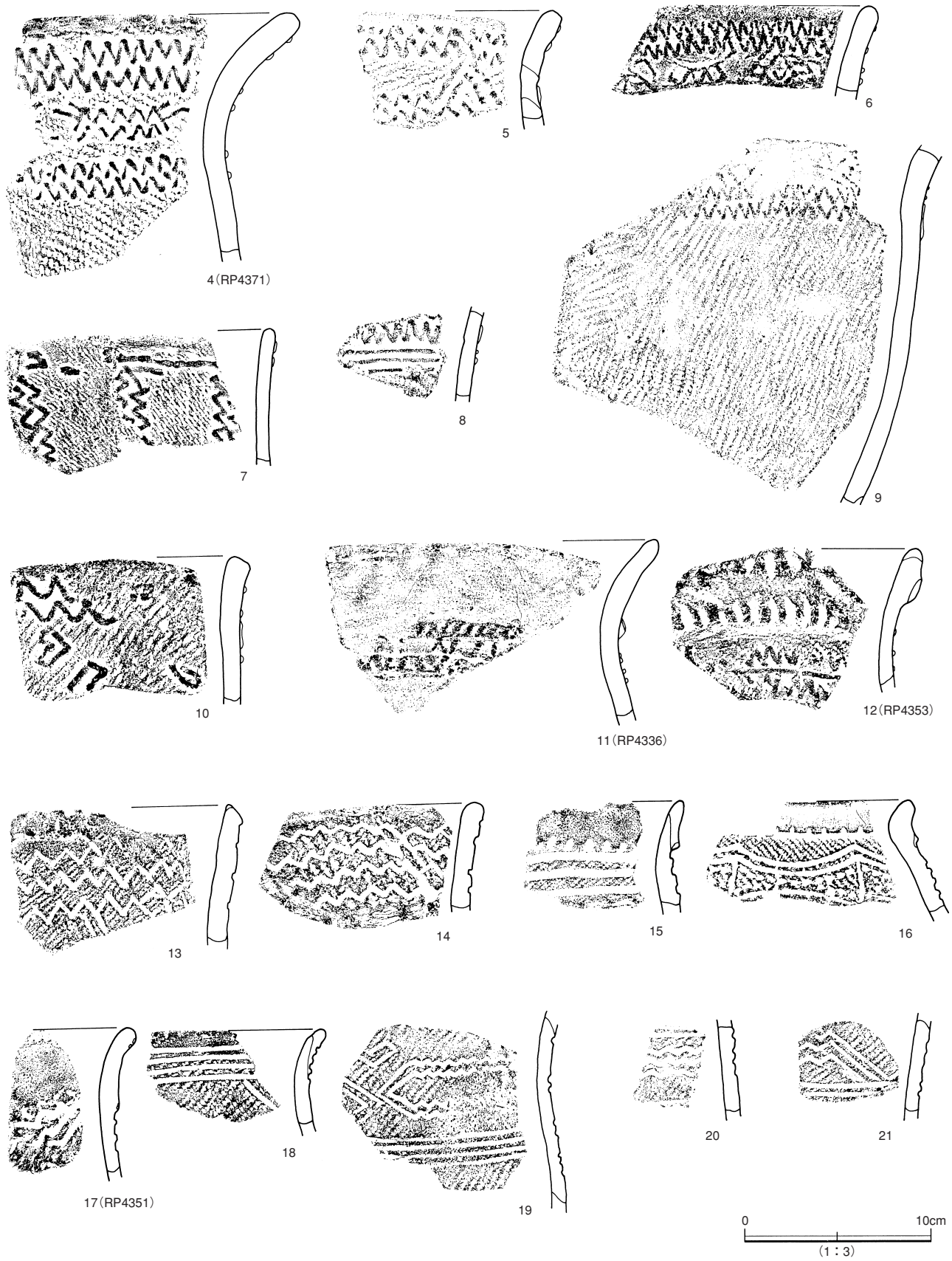


3

0　10cm
（1：3）

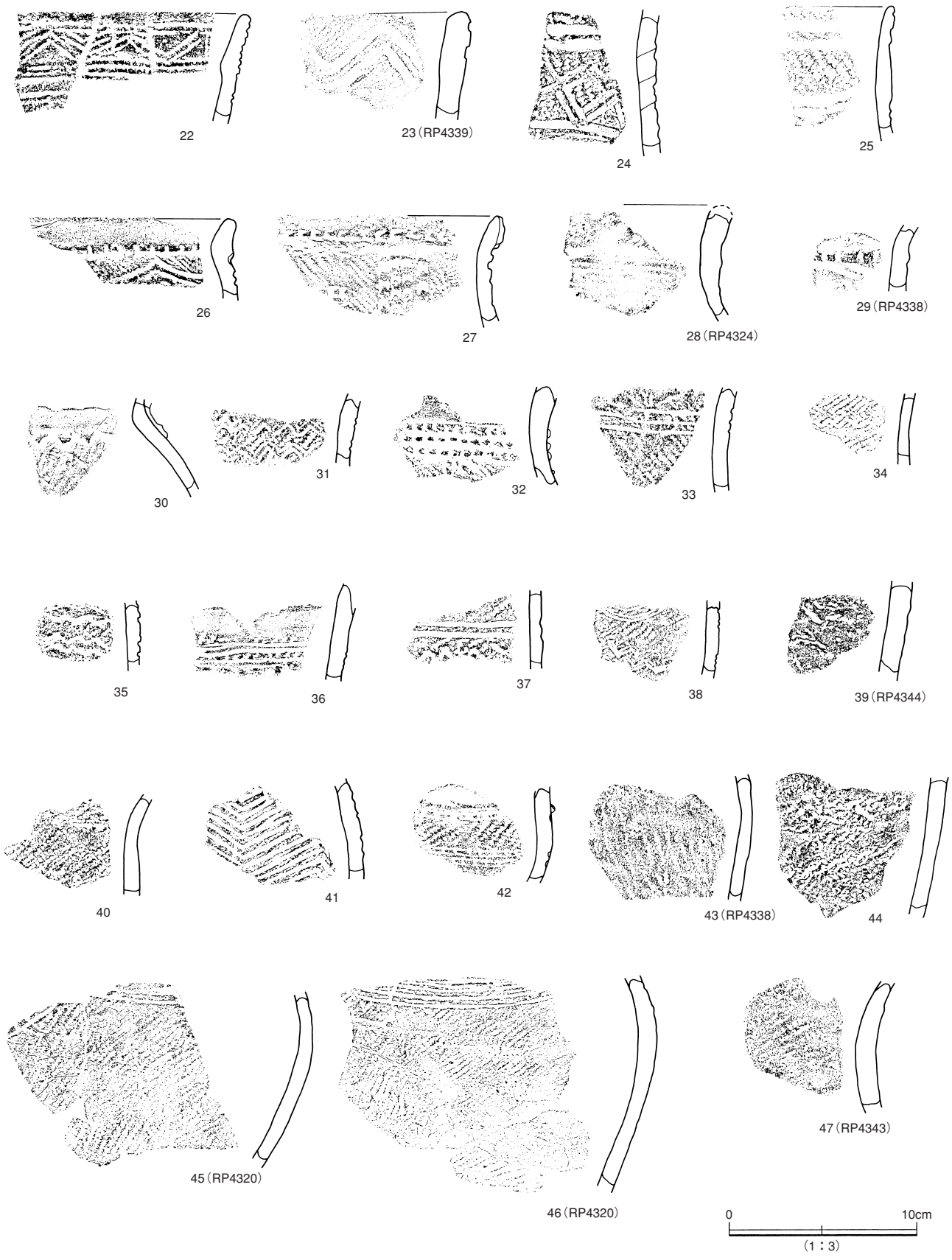
第166図　ST3202 住居跡出土遺物（１）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:200 Date: 2005/03/19 Sat 15:12:45



第167図　ST3202 居住跡出土遺物（２）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:201 Date: 2005/03/19 Sat 15:16:00

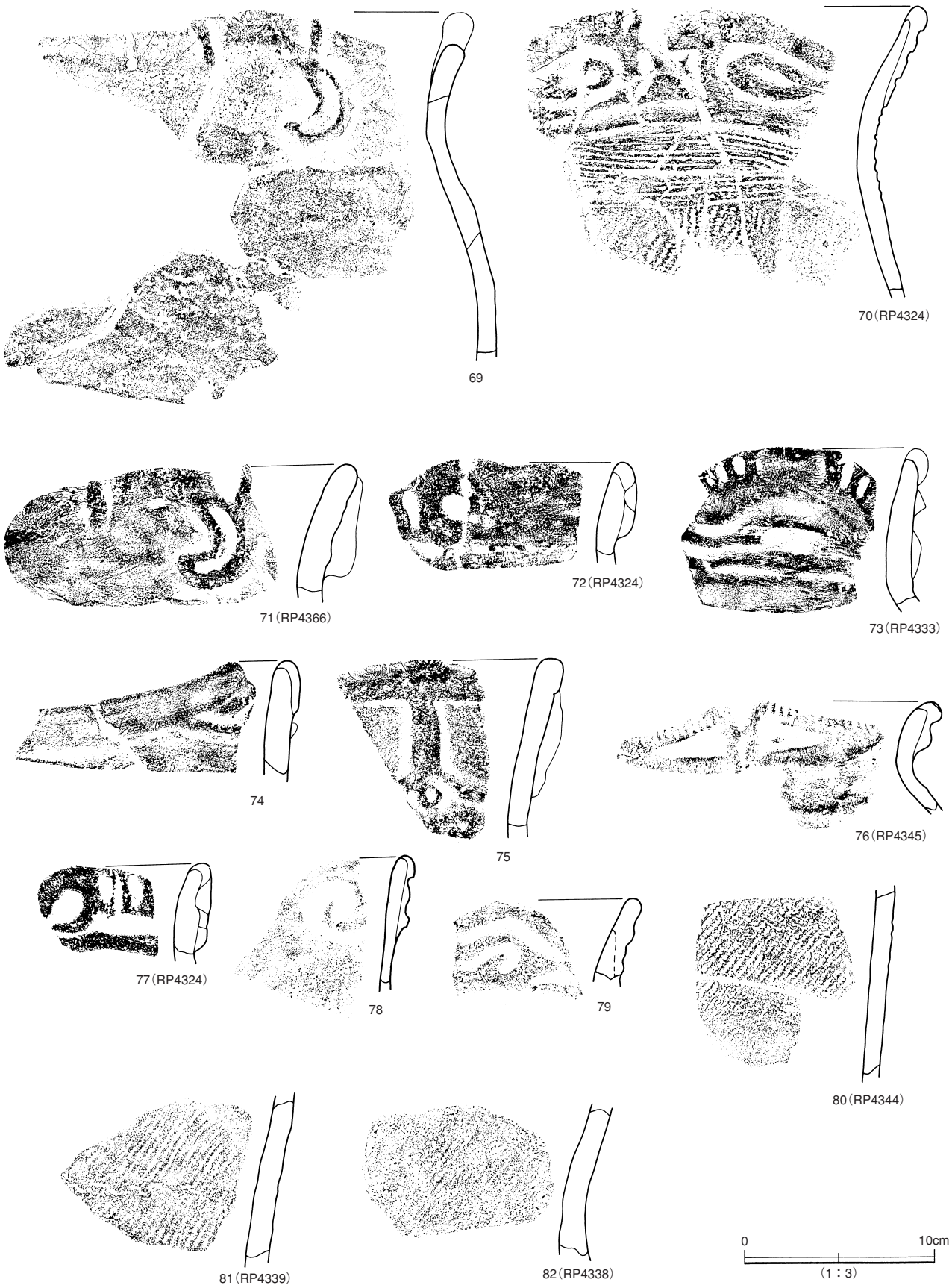


第168図　ST3202 住居跡出土遺物（３）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:202 Date: 2005/03/19 Sat 15:19:18

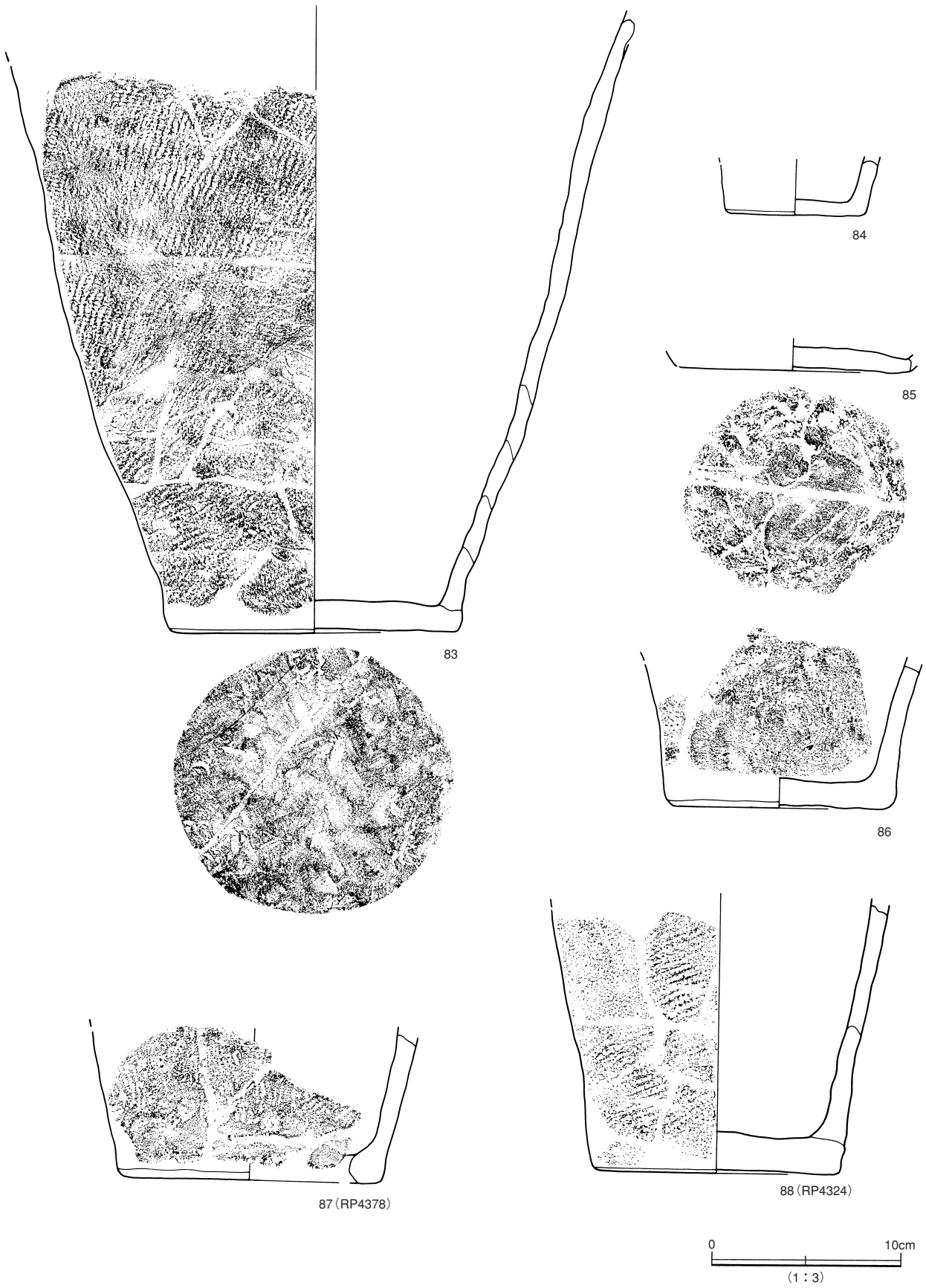
第169図　ST3202 住居跡出土遺物（４）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:203 Date: 2005/03/19 Sat 15:24:34



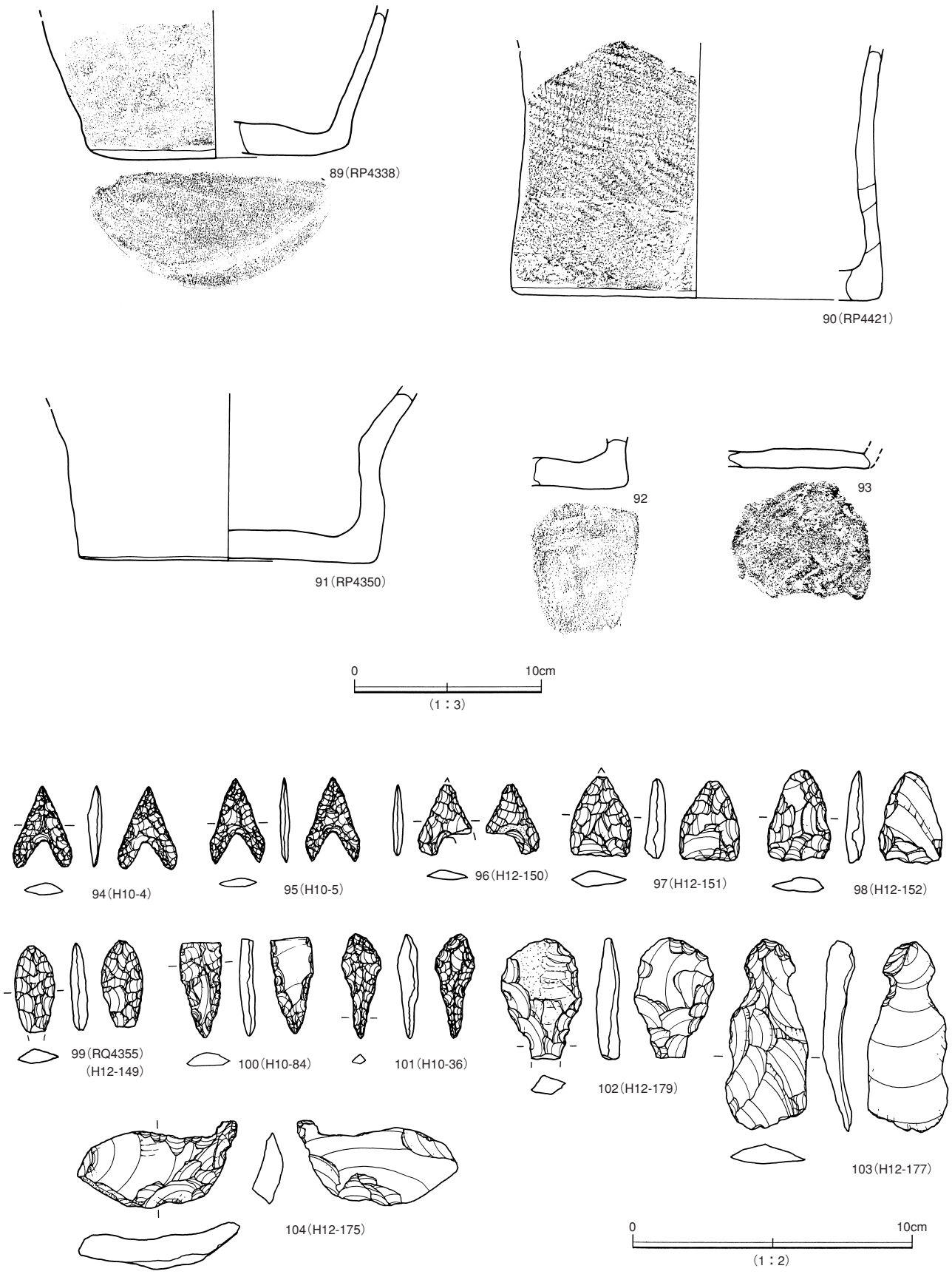
第170図　ST3202 住居跡出土遺物（５）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:204 Date: 2005/03/19 Sat 15:26:57



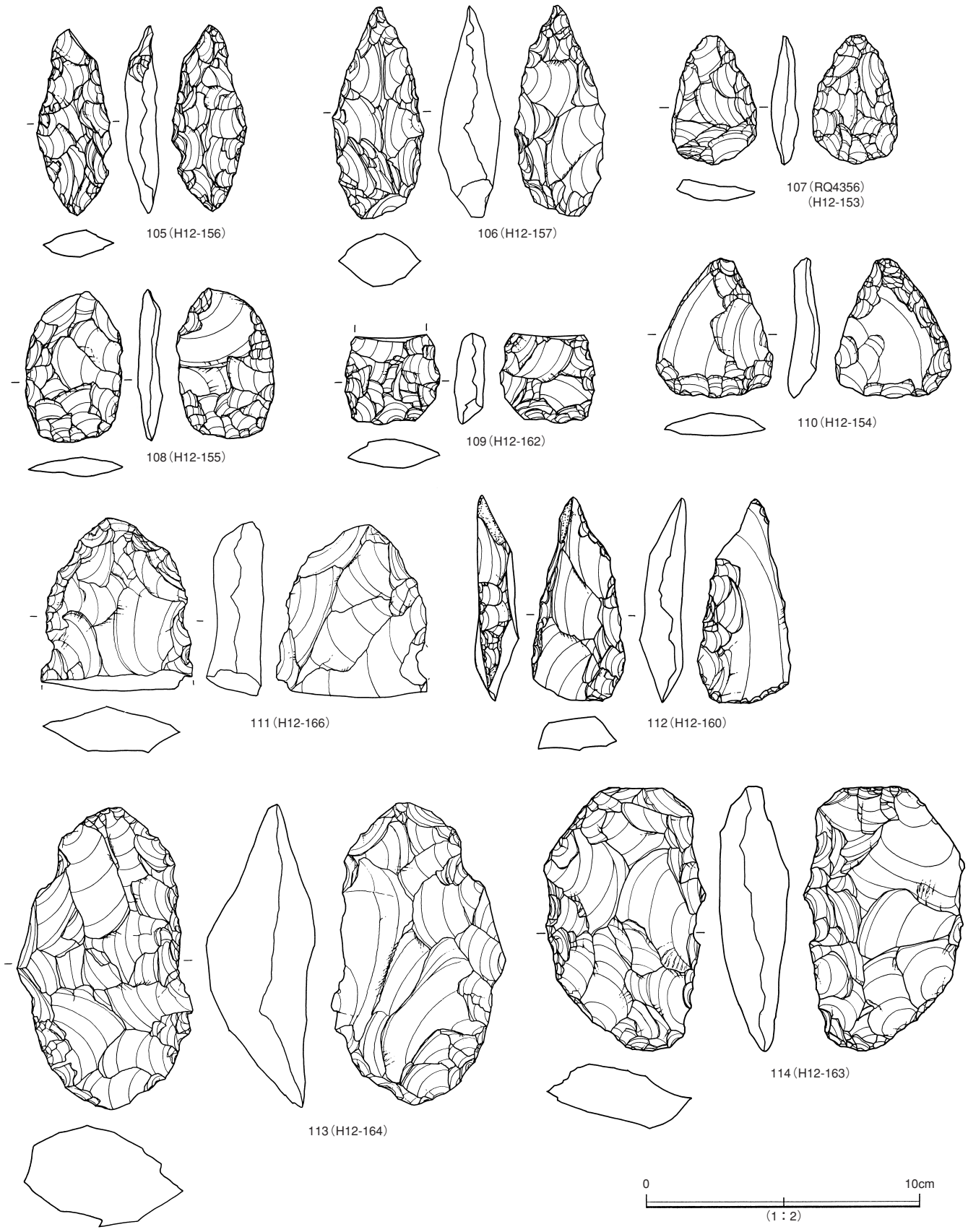
第171図　ST3202 住居跡出土遺物（６）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:205 Date: 2005/03/19 Sat 15:30:14



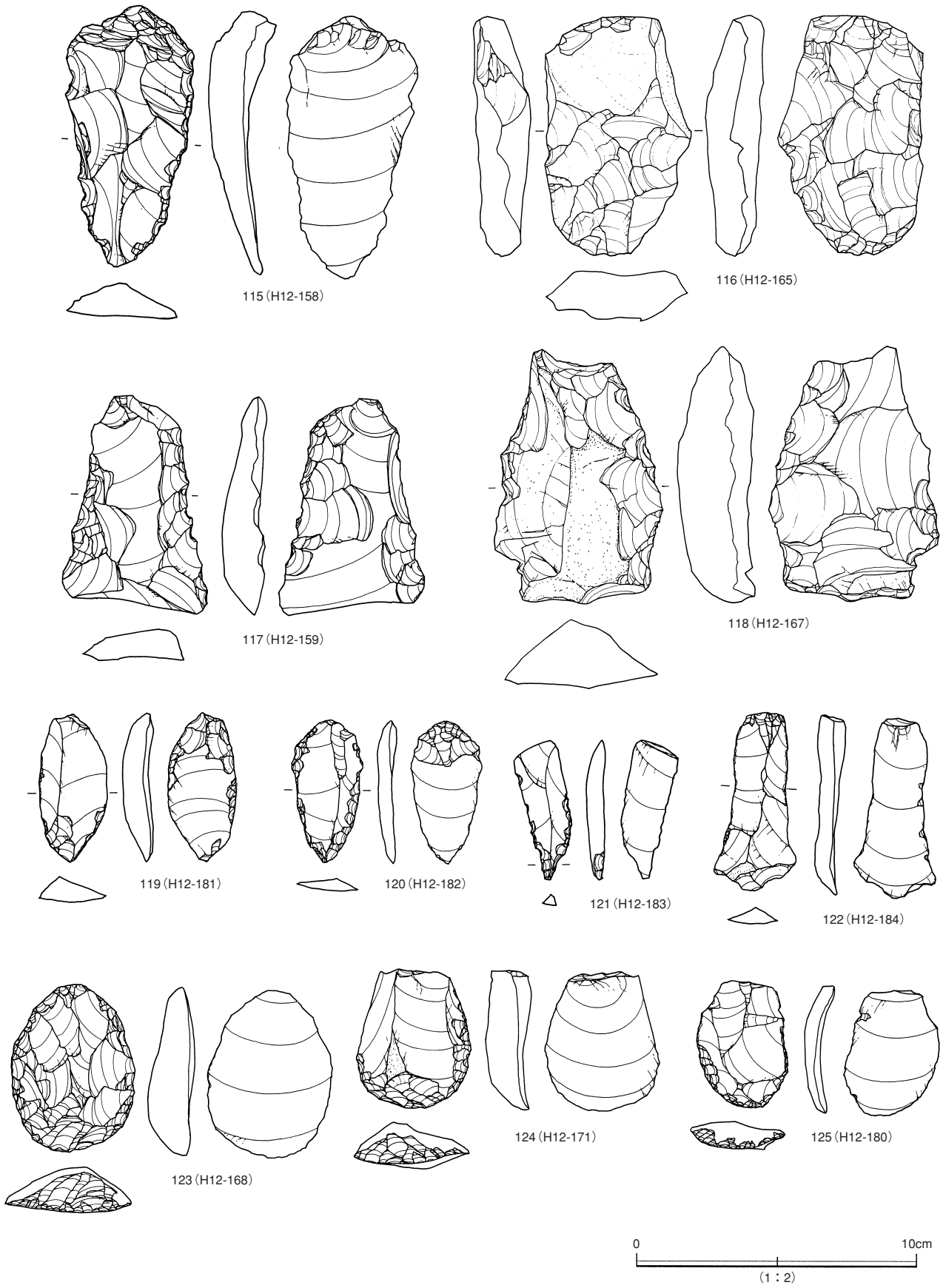
第172図　ST3202 住居跡出土遺物（７）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:206 Date: 2005/03/19 Sat 15:34:04



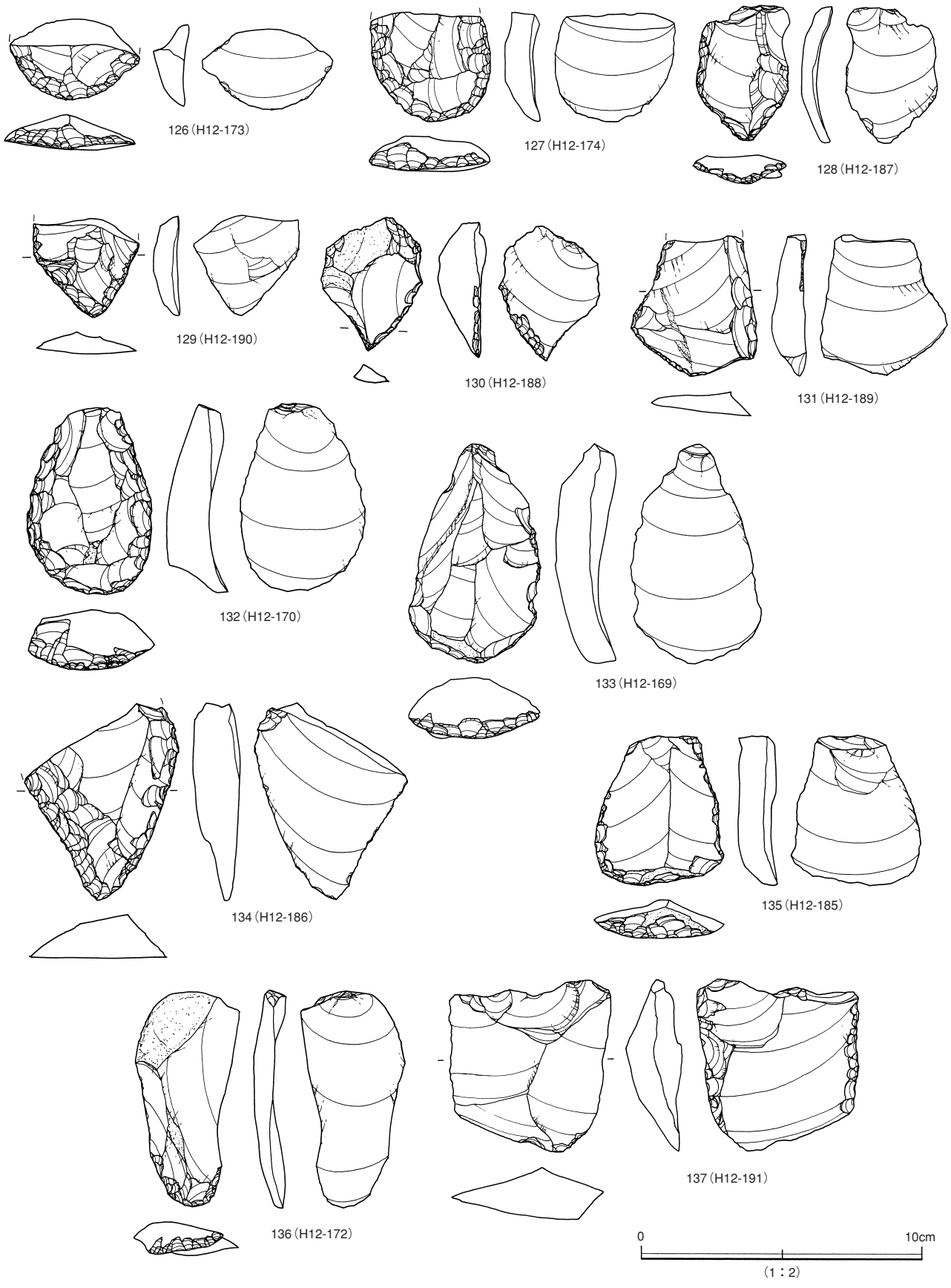
第173図　ST3202 住居跡出土遺物（８）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:207 Date: 2005/03/19 Sat 15:36:36



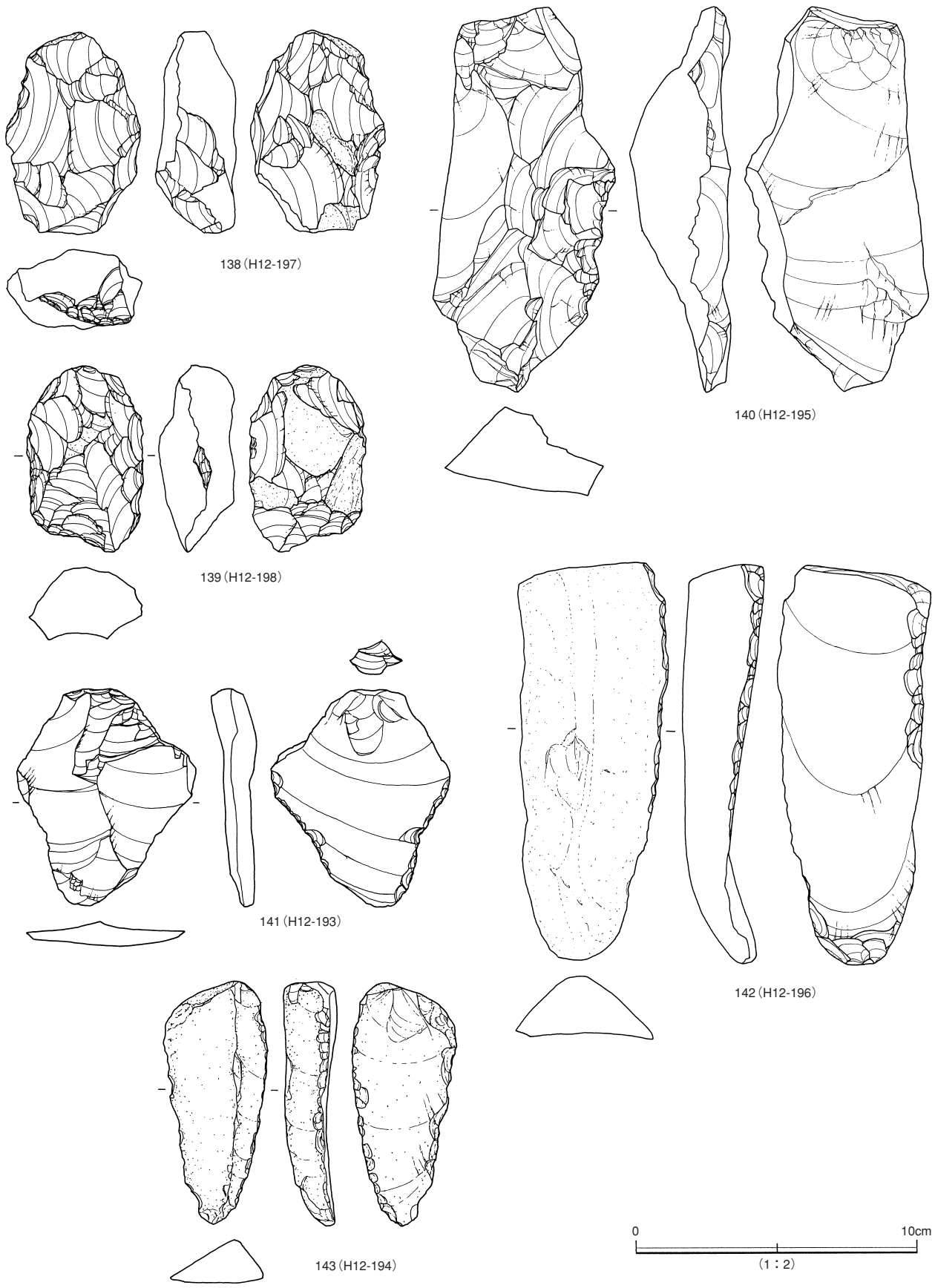
第174図　ST3202 住居跡出土遺物（９）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:208 Date: 2005/03/19 Sat 15:38:56



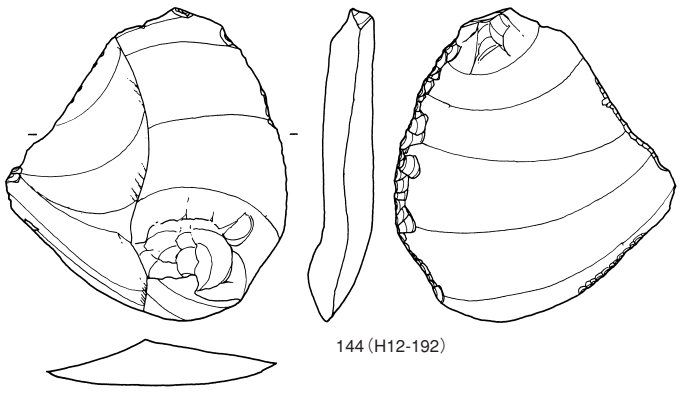
第175図　ST3202 住居跡出土遺物（10）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:209 Date: 2005/03/19 Sat 15:44:50

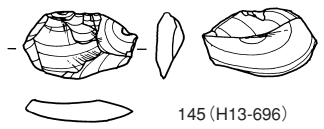


第176図　ST3202 住居跡出土遺物（11）

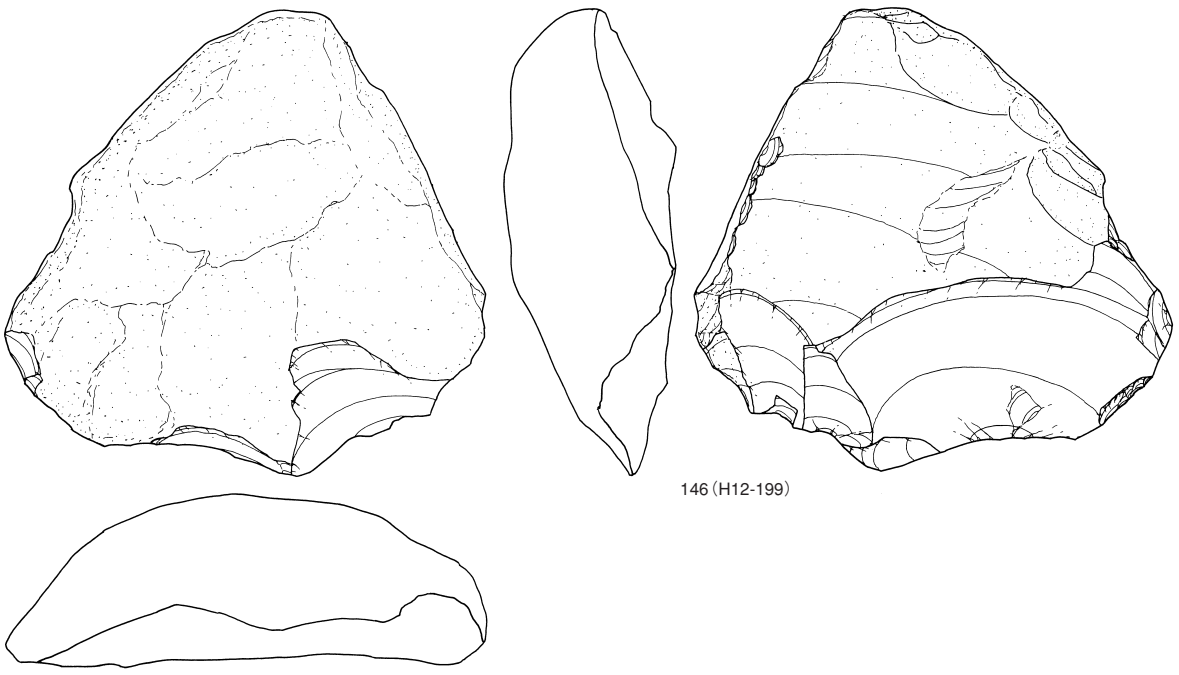
Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:210 Date: 2005/03/19 Sat 15:47:37



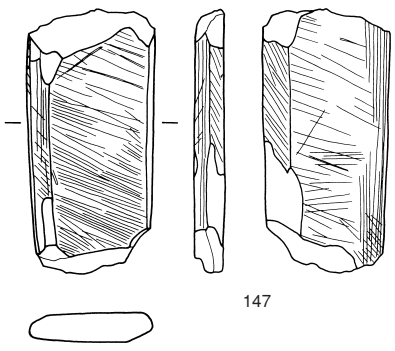
144（H12-192）



145（H13-696）



146（H12-199）

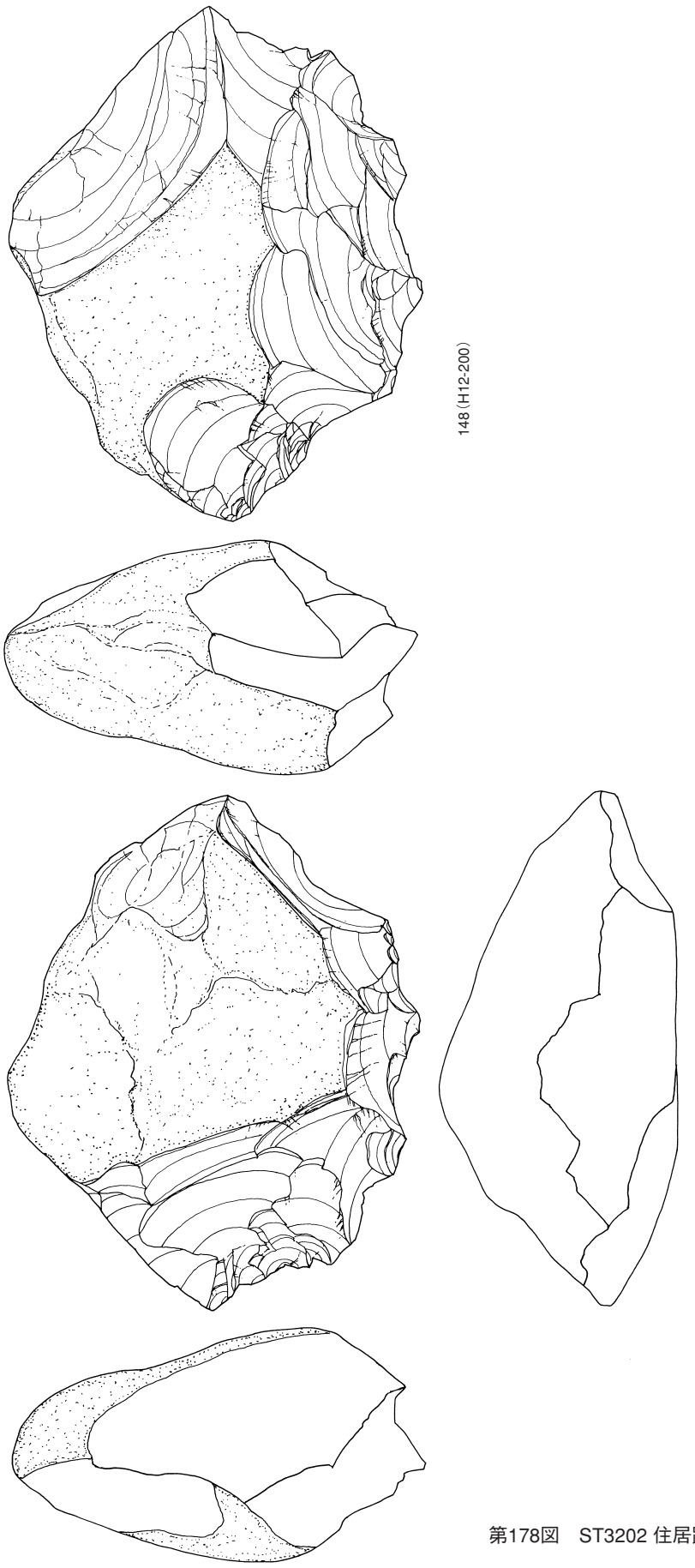


147

0　10cm
（1：2）

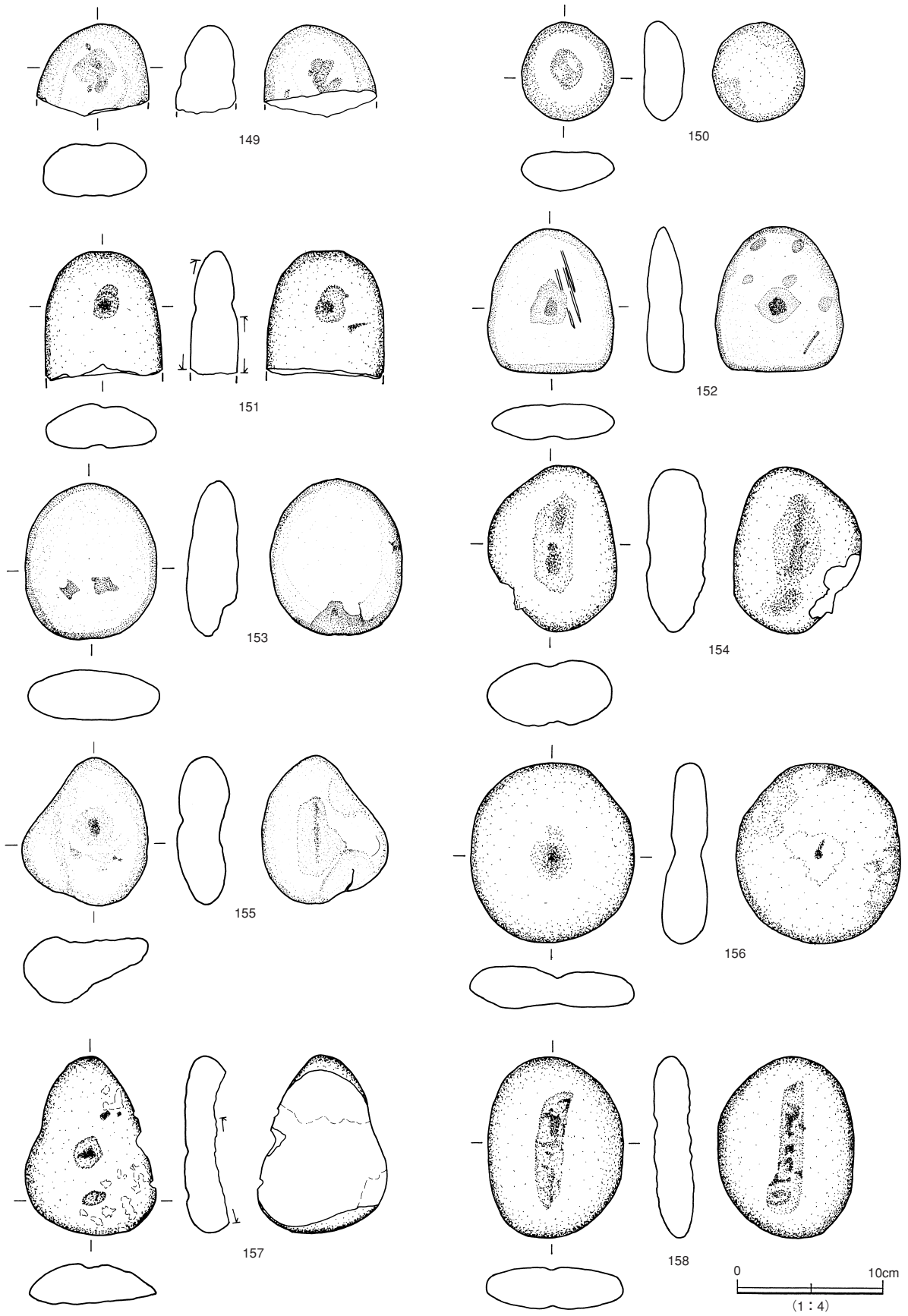
第177図　ST3202 住居跡出土遺物（12）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:211 Date: 2005/03/19 Sat 15:51:25



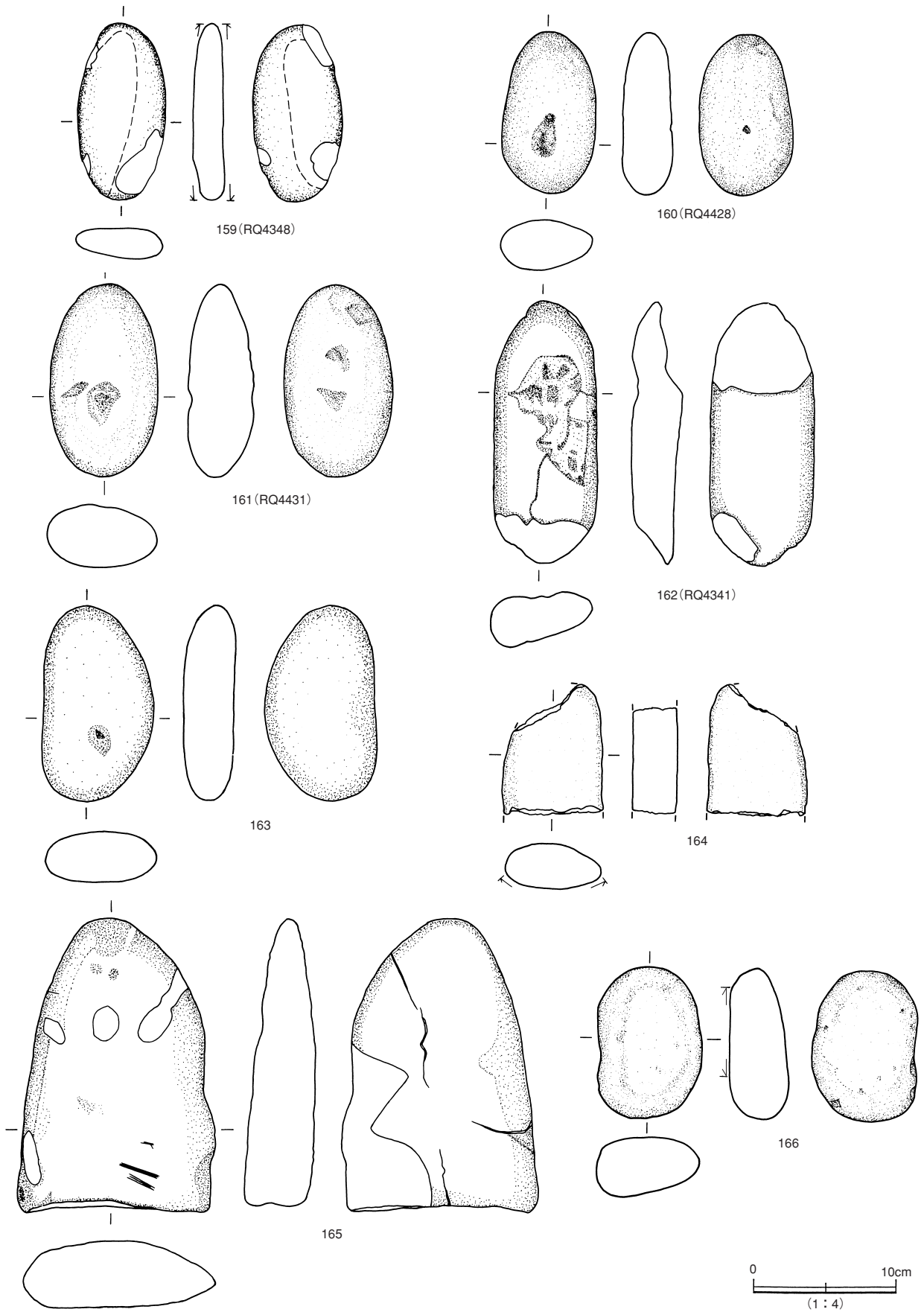
第178図　ST3202 住居跡出土遺物（13）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:212 Date: 2005/03/19 Sat 15:55:25



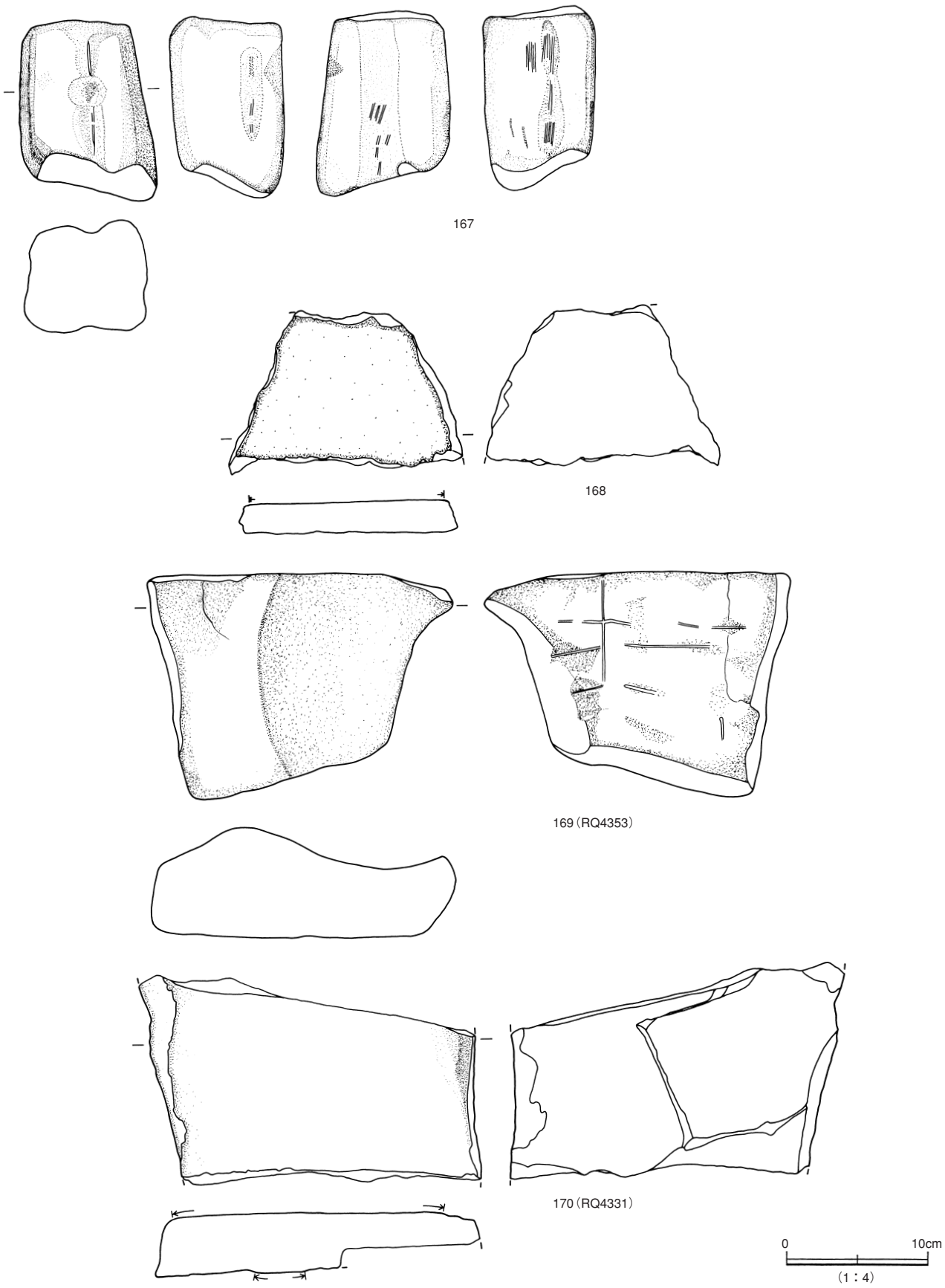
第179図　ST3202 住居跡出土遺物（14）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:213 Date: 2005/03/19 Sat 15:58:28



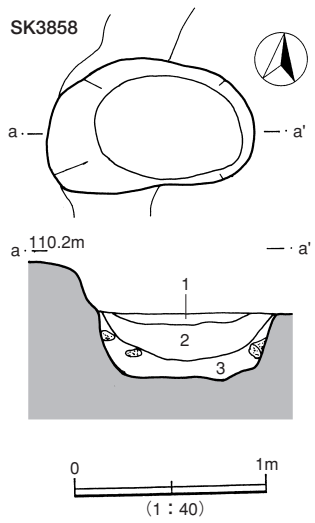
第180図　ST3202 住居跡出土遺物（15）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:214 Date: 2005/03/19 Sat 16:02:04



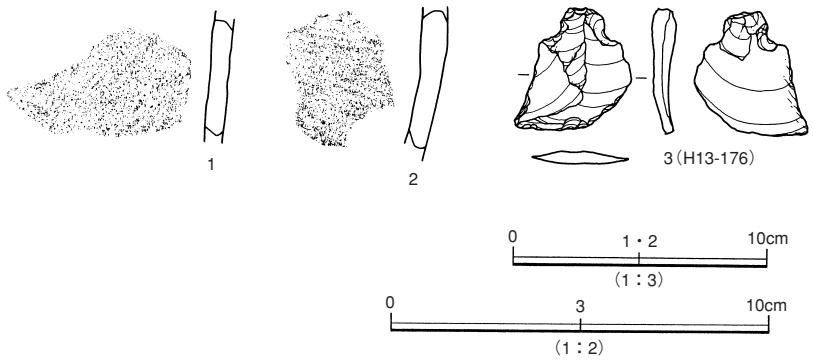
第181図　ST3202 住居跡出土遺物（16）

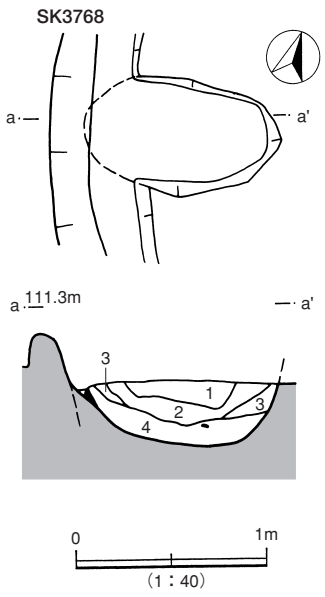
Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:215 Date: 2005/03/19 Sat 16:04:34



SK3858

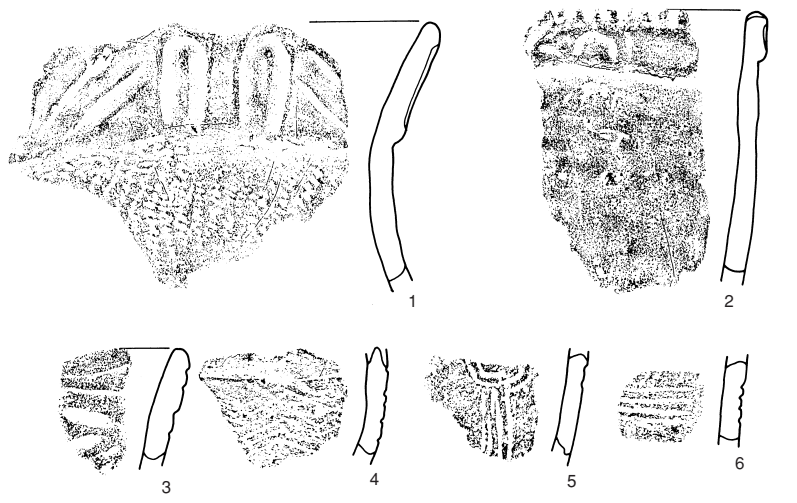
1　10YR3/3 暗褐色腐植シルト　　炭化物混じり、柔らかい
2　10YR3/2 黒褐色シルト　　炭化物粒、石器出土、柔わらかい
3　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト　下部は砂層、5～10cm大礫混じり、柔わらかい

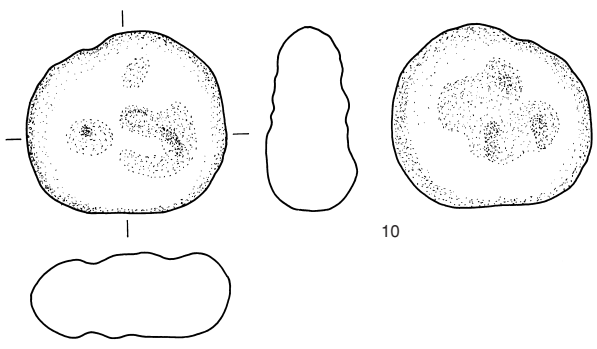


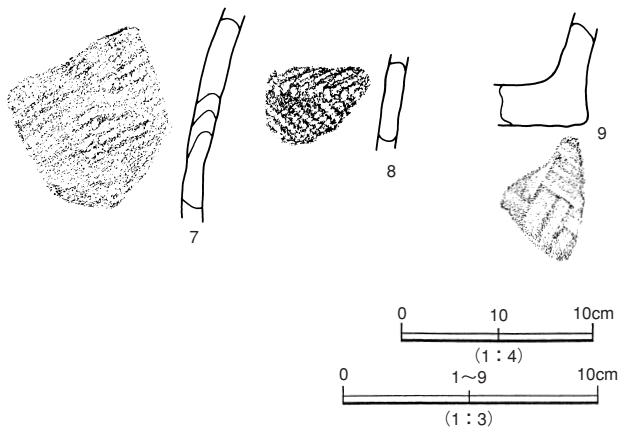


SK3768

1　10YR3/2 黒褐色粘質シルト　10YR6/6明黄褐色粘質土粒1～3cm大30%固いしまり
2　10YR3/2 黒褐色粘質シルト　10YR6/6明黄褐色粘質土粒1～4cm大50%固いしまり、土器出土
3　10YR4/1 褐灰色シルト　　炭片まじり、固い
4　10YR3/1 黒褐色砂質シルト　小礫含む、下部～底は砂礫層

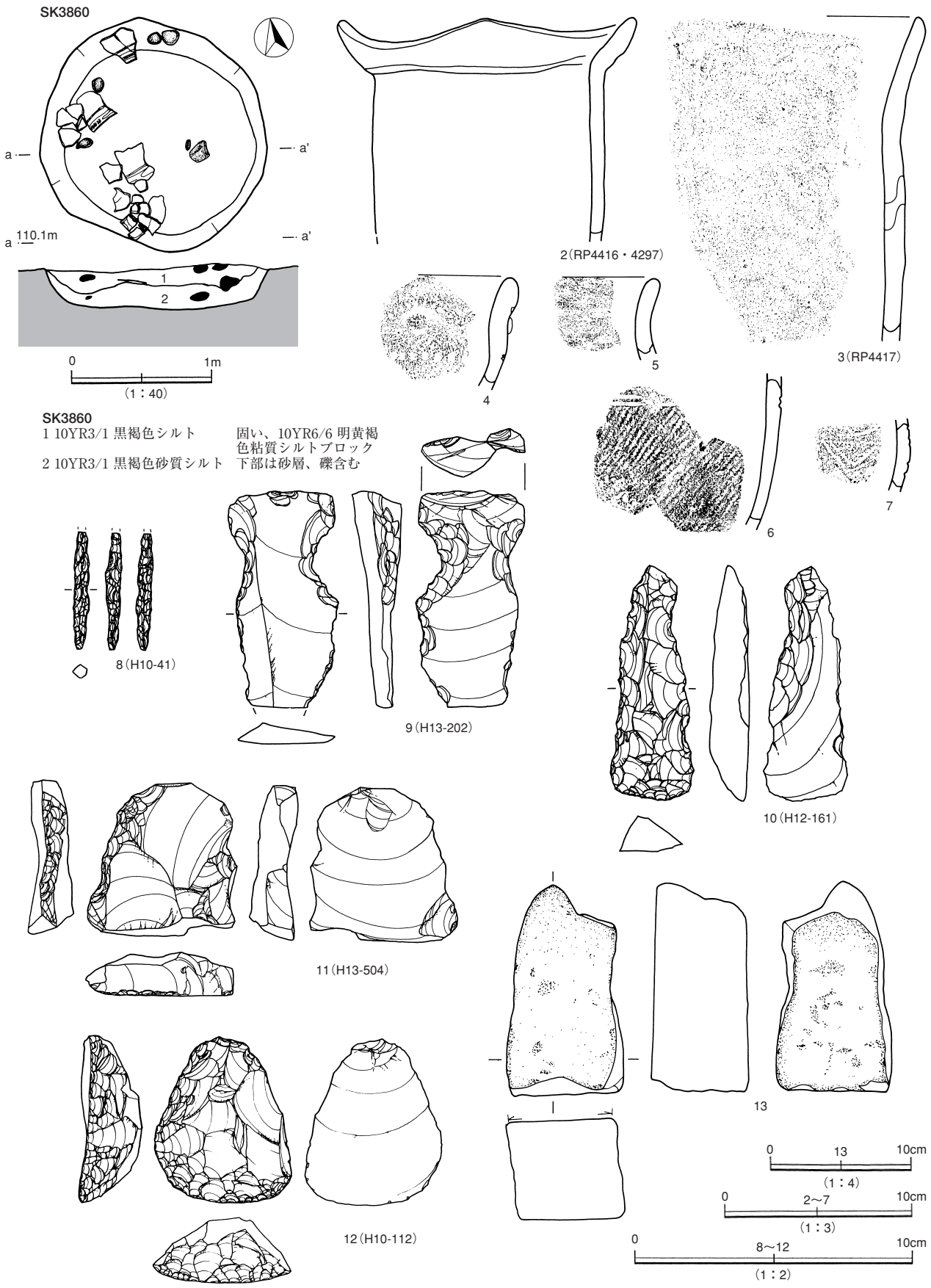






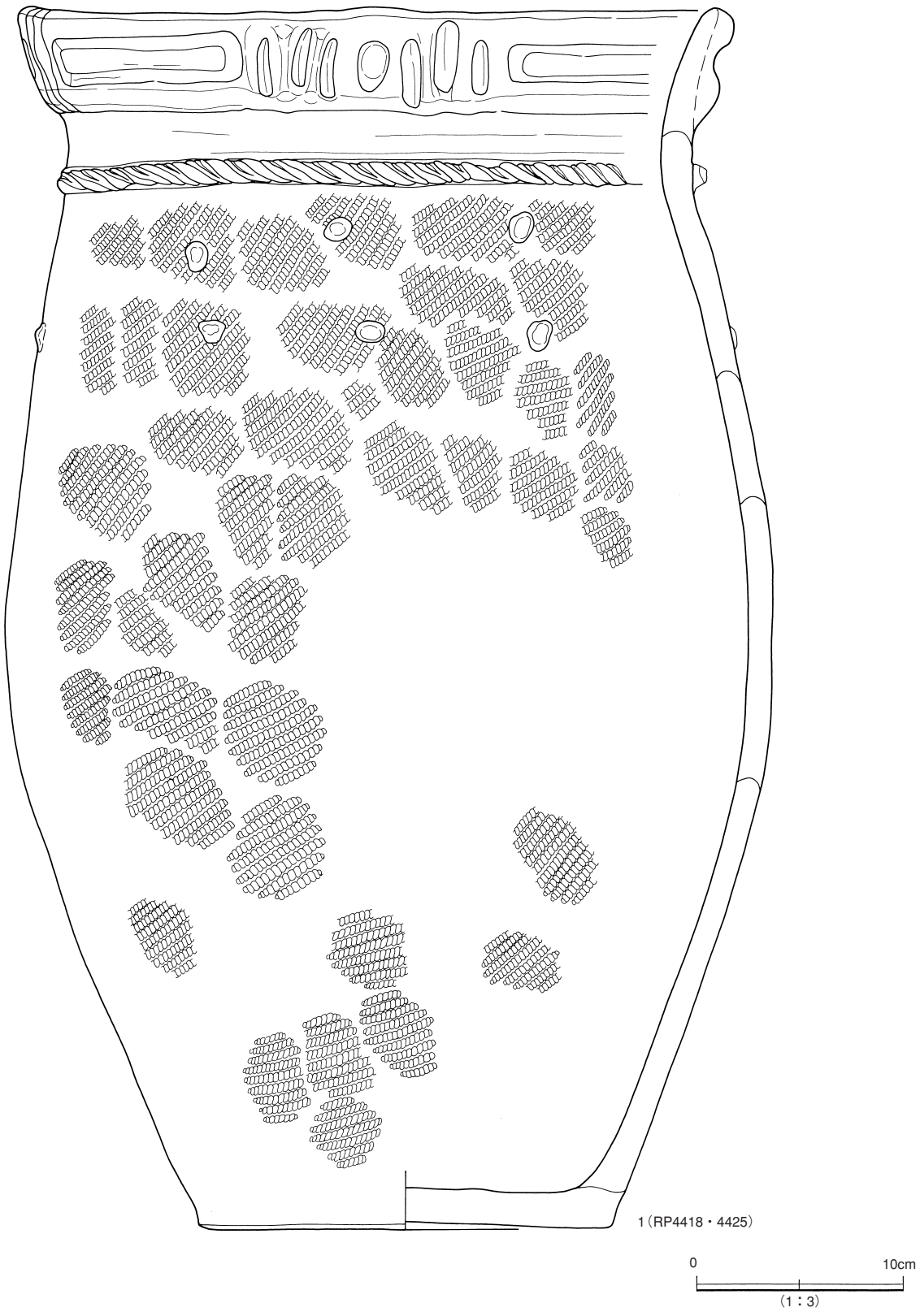
第182図　ST3202 住居跡・出土遺物（17）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:216 Date: 2005/03/19 Sat 16:08:18



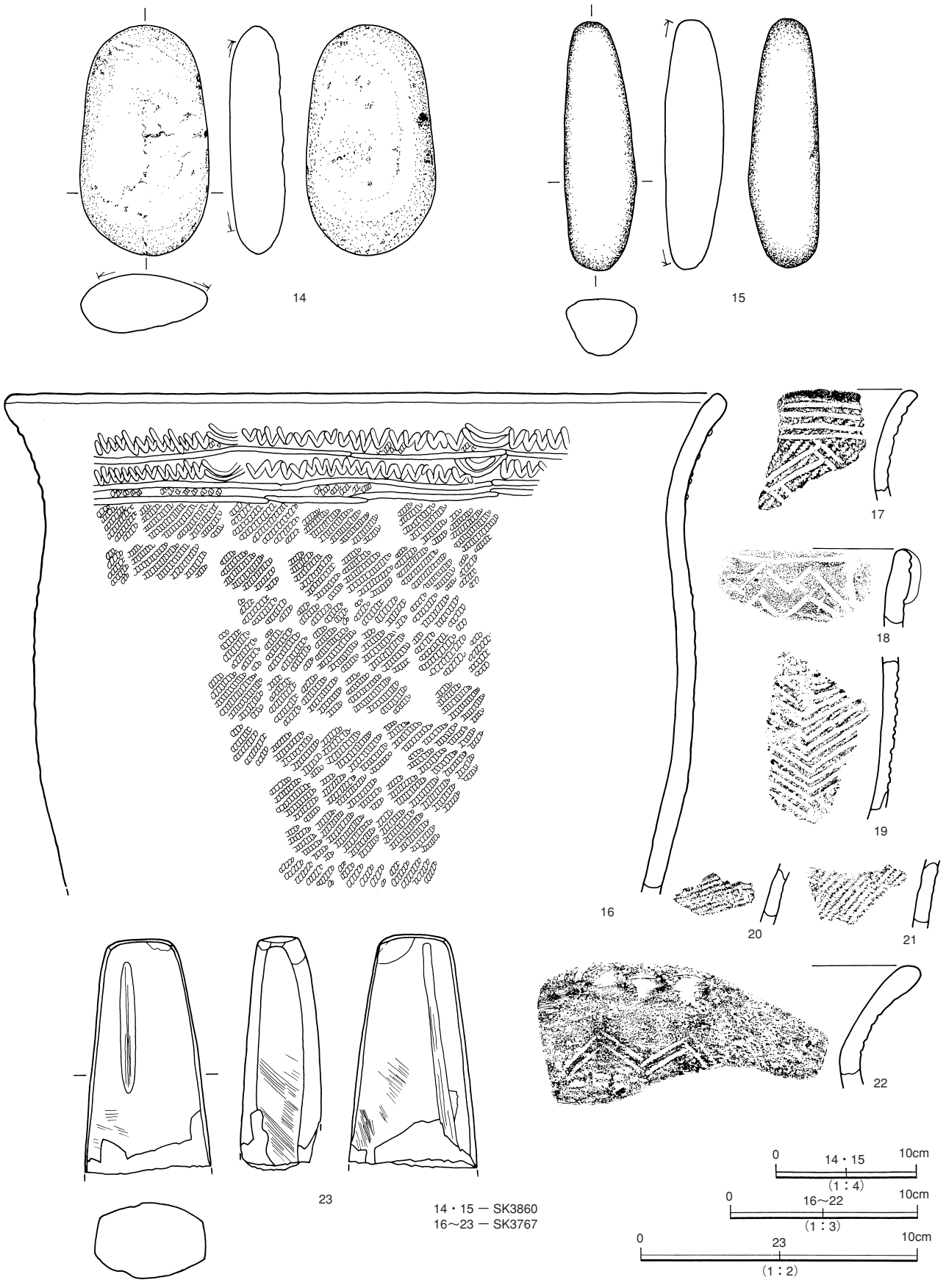
第183図　ST3202 住居跡・出土遺物（18）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:217 Date: 2005/03/19 Sat 16:11:55



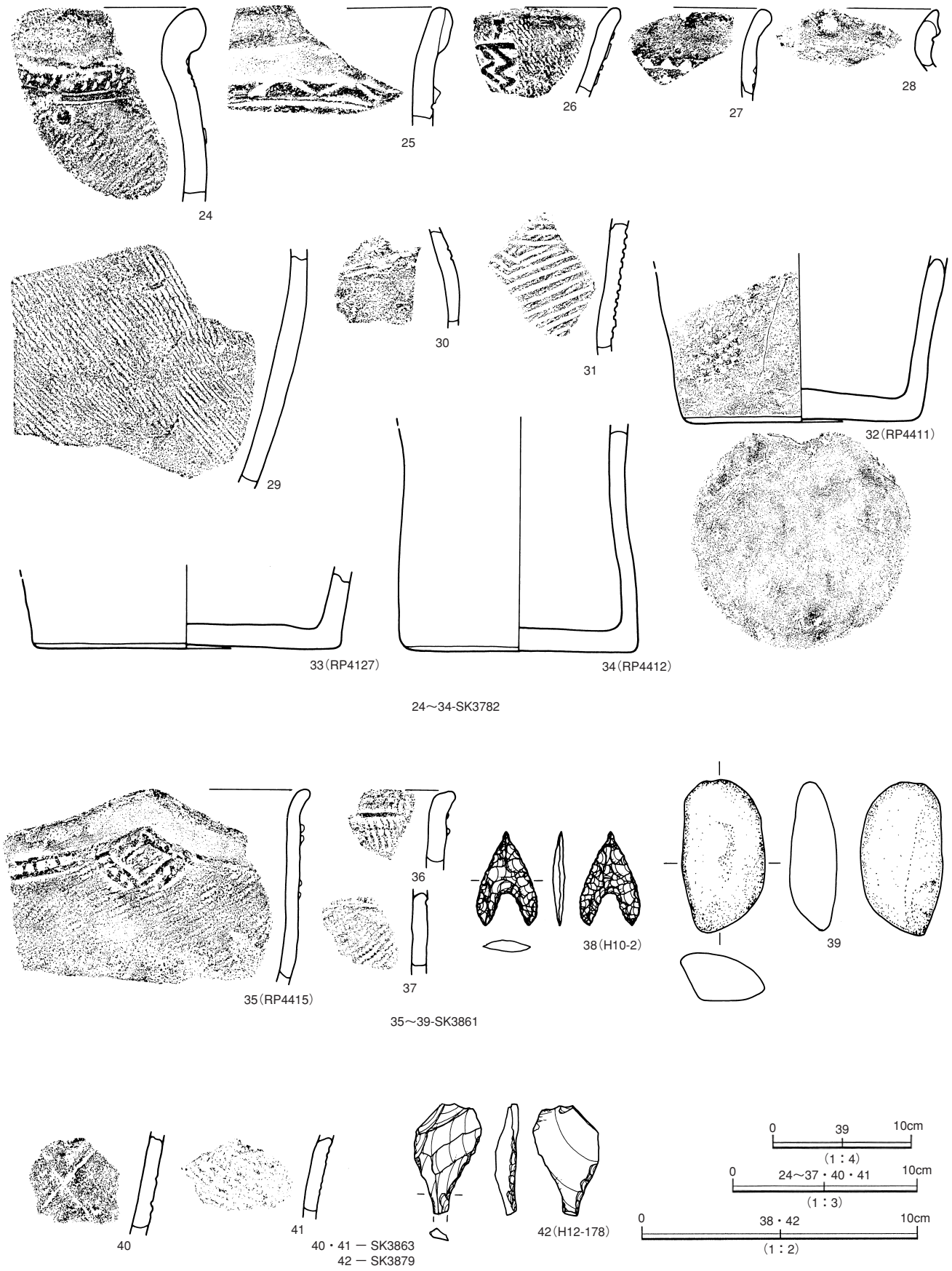
第184図　ST3202 住居跡出土遺物（19）

Title:P199-218_縄文時代.ec6 Page:218 Date: 2005/03/19 Sat 16:16:05



第185図　ST3202 住居跡出土遺物（20）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:219 Date: 2005/03/19 Sat 16:18:53



第186図　ST3202 住居跡出土遺物（21）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:220 Date: 2005/03/19 Sat 16:21:29

ＳＴ3301・3302・3303住居跡

（第187～205図　写遺構－152・153　写遺物－４・16・20・57～59・83・138）

本址はグリッド10・11－98・100、東から西へ緩やかに傾斜する台地の西端に位置する。東壁から南壁のプランが検出され、その形状から３棟の重複住居跡と推測しＳＴ3301・3302・3303とした。北壁付近で大型住居跡ＳＴ3812・4127・3337と重複し、西側で縄文時代中期竪穴住居跡のＳＴ3304と重複する。

重複するプラン

平面形は明確ではない。ＳＴ3301・3302・3303の東壁と南壁のみが検出され、それぞれの全体プランが不明のため、柱穴の範囲で全体のプランを窺うしかない。おそらくは楕円形や隅丸方形を呈するものとみられる。

規模は推定長である。ＳＴ3301東壁から西側は８ｍ以上である。ＳＴ3302の東壁からＳＴ3303の西側のＰ28・31までは17ｍ、南北７ｍを測る。

ＳＴ3301はＳＴ3302東側の壁面プランが北東へ外反し、これがさらに北側に続く様相を呈したためＳＴ3301とした。この壁面プラン付近からＳＫ3806・ＳＫ3739付近までの範囲で直径と深さが１ｍ前後の大型柱穴が多数検出された。当初これらをＳＴ3301の柱穴と考えた。

大型柱穴が多数検出

その後、これら大型柱穴のほとんどが本址と重複するＳＴ3337・4127・4168大型住居跡の柱穴と考えられるようになり、本址の範囲も不明確になる。ＳＴ3301の壁高は東側で25cm前後である。床面は平坦であるが西へ傾斜し、土坑・柱穴など多数の遺構と重複する。床面は黒色粘土と黄褐色粘土ブロックを混入する黒褐色シルト質粘土の貼床である。

ＳＴ3302は当初、東側のＳＫ3799付近で検出された壁面が、ＳＫ3787手前までに描く楕円形のプランを本址の範囲と考えた。これに続くＳＫ3787の南に張り出すプランから西側ＳＫ3811付近までをＳＴ3303とした。

しかし、これらの範囲の根拠となる壁面プランは重複する土坑等により撹乱されていることも考えられる。また本址が西側への斜面に位置するため、遺構検出段階では東側の壁が遺存し覆土が確認されているが、西側では当初から壁面や覆土は確認されていない。

以上のことや柱穴・焼土（炉）の検出状況、その位置などからＳＴ3302とＳＴ3303が同一の遺構と捉えることも可能であると考えた。

壁高は東側のＳＫ3799付近の最も遺存状態の良好な地点で50cmを測り、Ｐ９付近（30cm）、Ｐ12付近（20cm）、ＳＫ3783付近（10cm）、ＳＫ3811付近（５cm）と西に向かい次第に浅くなる。

床面は西に傾斜している。黄褐色粘土と黒褐色土の貼床である。柱穴は多数が検出されている。深いしっかりとした掘り込みの柱穴が多い。

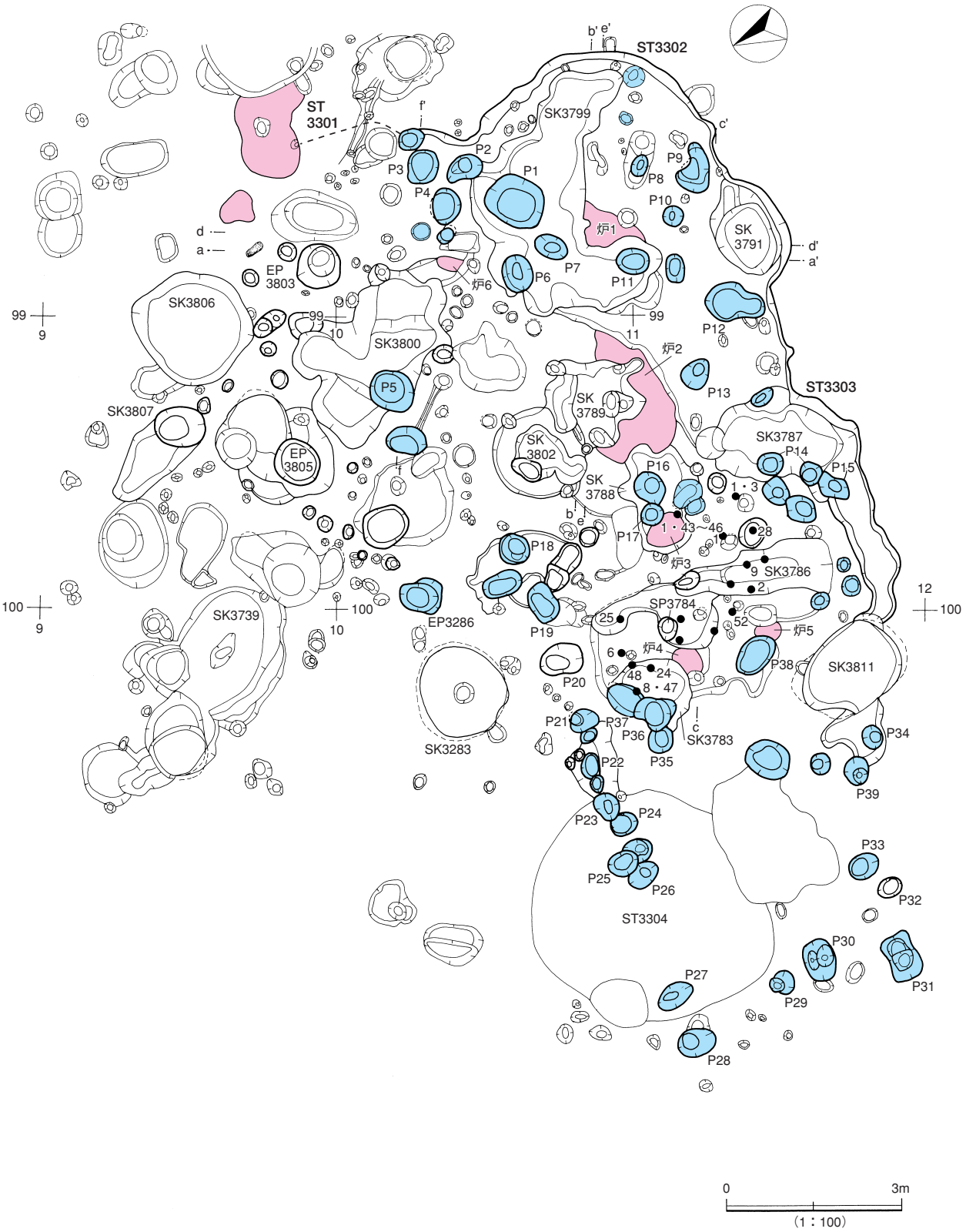
６基の炉

炉は６カ所が検出されている。炉１～４は土坑に切られているが一直線上に並ぶ。炉６はＳＴ3301との境界付近から検出された。

内面からは多数の土坑が検出されている。新旧関係は本址の壁面や炉が切られていることから、本址が古く内面に所在する土坑は新しいものが多いと考える。

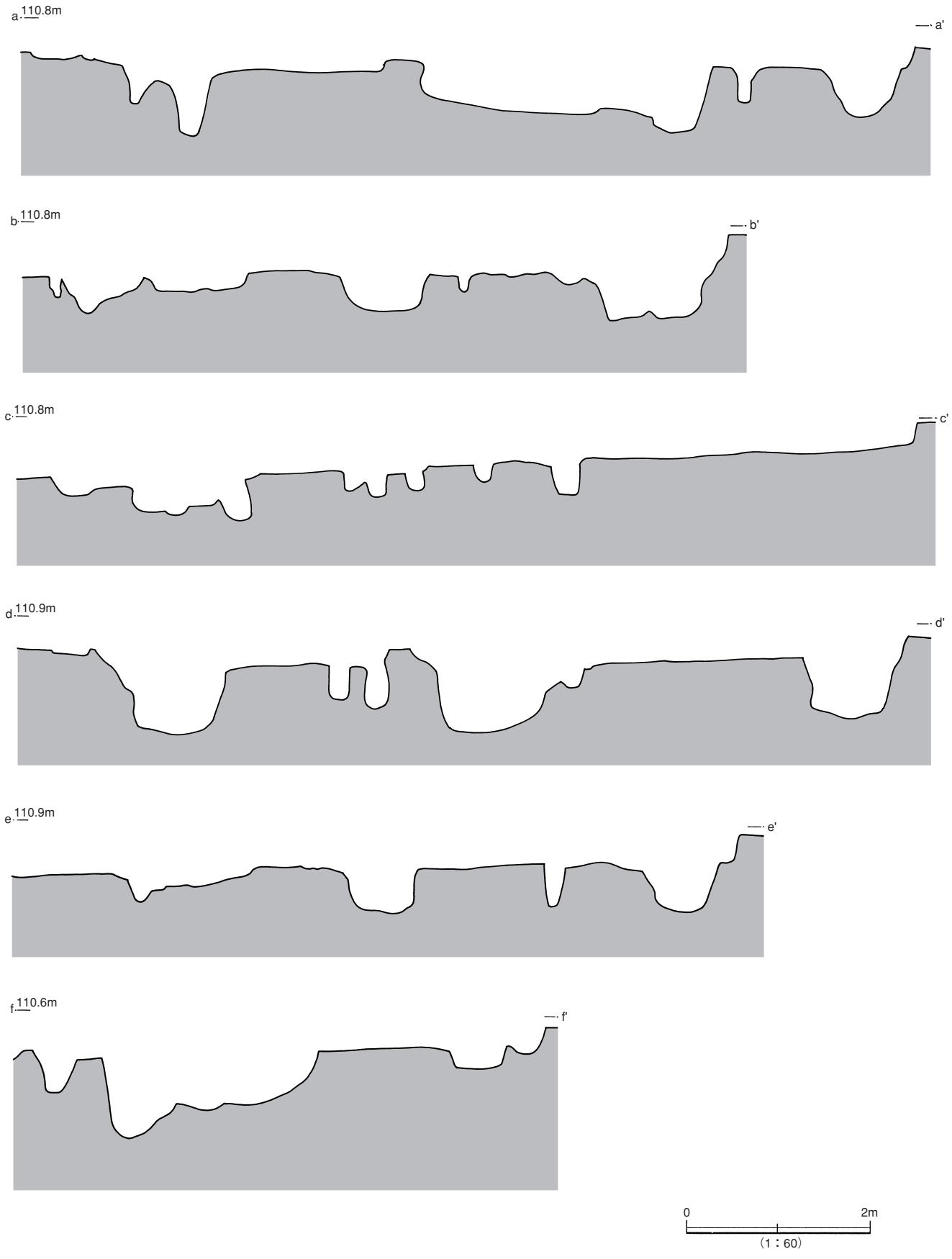
当初、ＳＫ3791・ＳＫ3787・ＳＫ3811・ＳＫ3783・ＳＫ3283・ＳＫ3739・ＳＫ3806が本址の壁面や内部から、ほぼ４ｍ間隔で検出されたことなどから、これらを大型住居跡の柱穴ではないかと考えた。しかしフラスコ状を呈する土坑も含まれていることより、柱穴とすることはで

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:221 Date: 2005/03/19 Sat 16:24:56



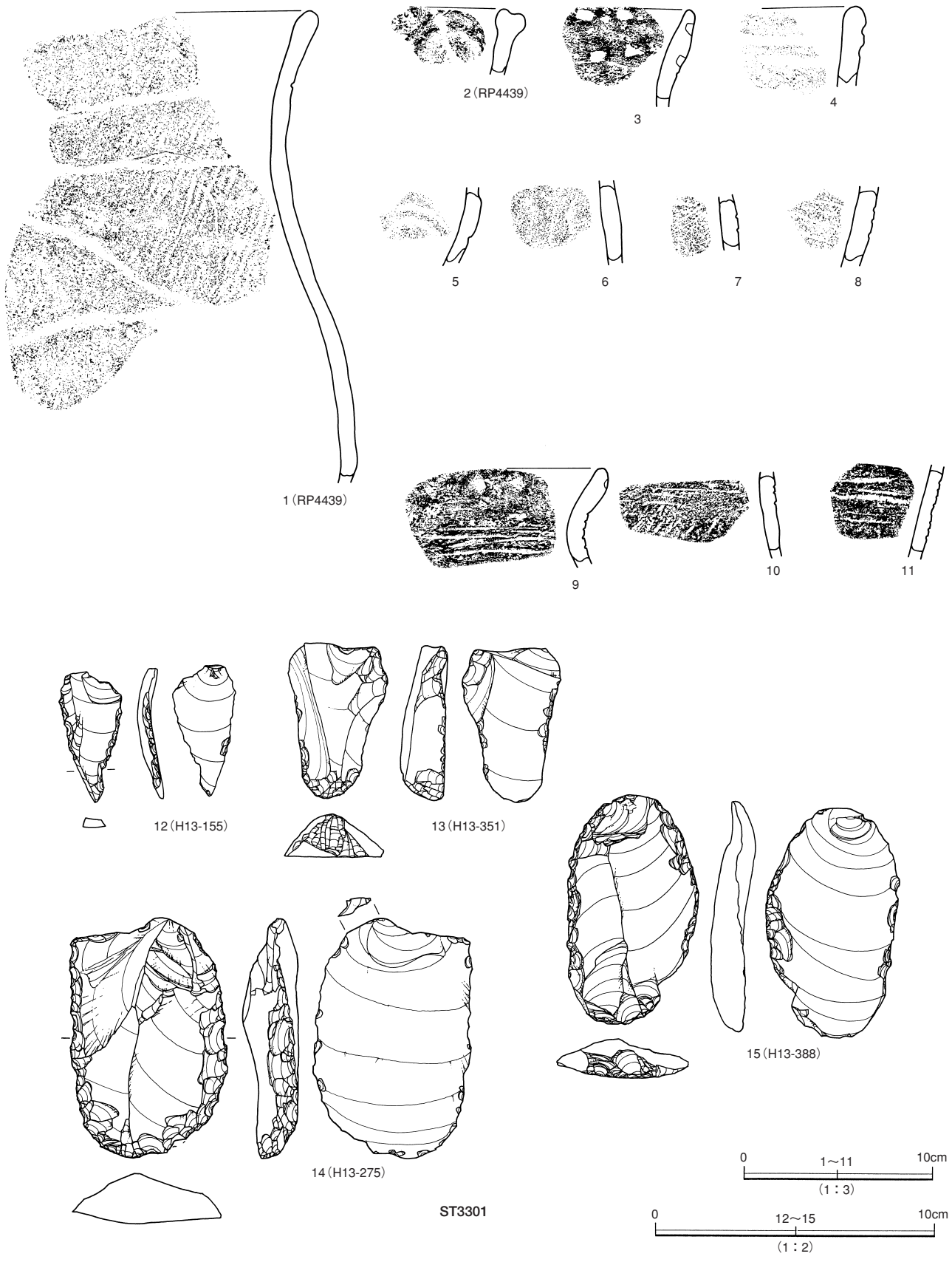
第187図　ST3301・3302・3303 住居跡（１）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:222 Date: 2005/03/19 Sat 16:28:33



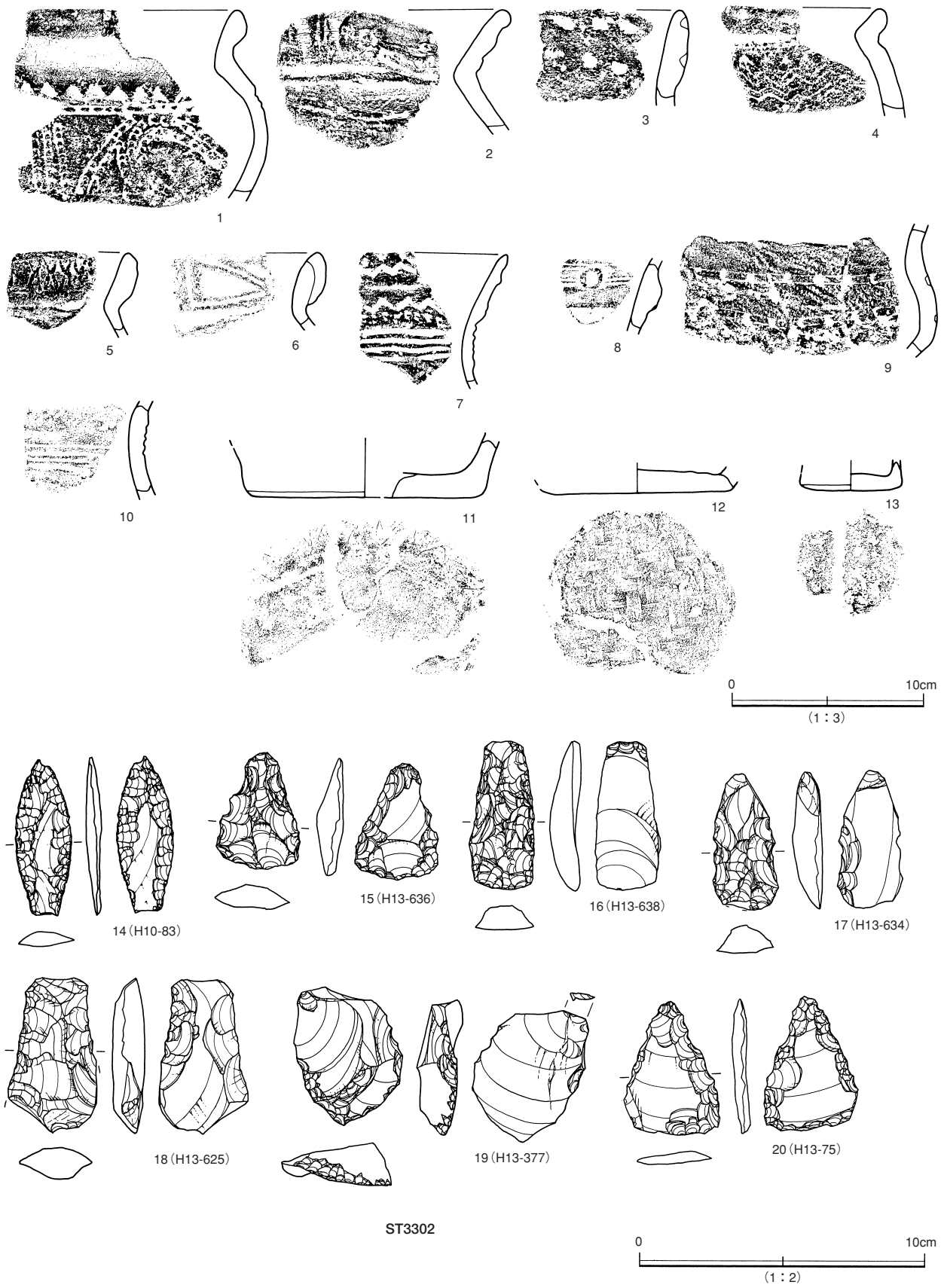
第188図　ST3301・3302・3303 住居跡（２）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:223 Date: 2005/03/19 Sat 16:33:08



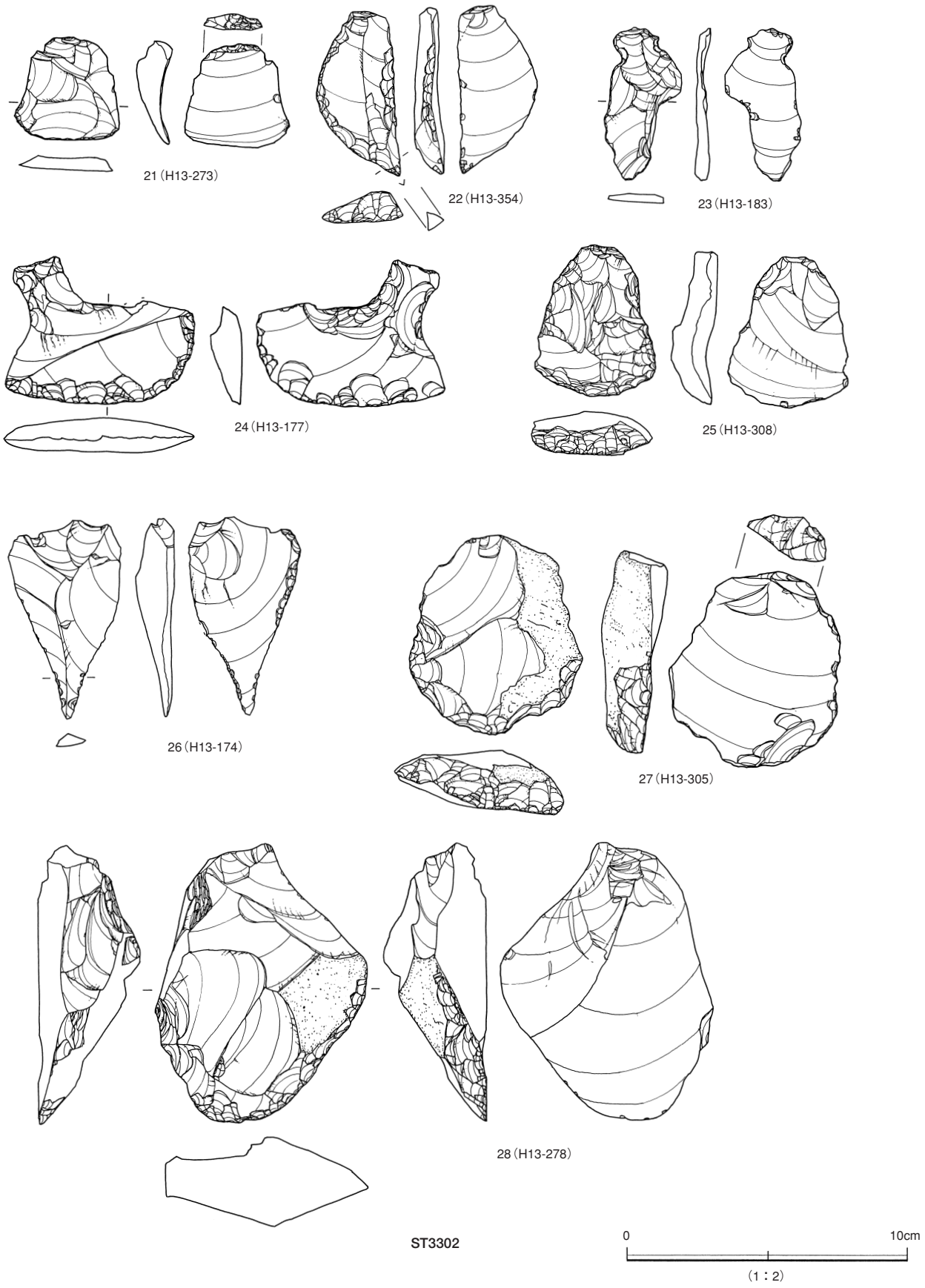
第189図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（1）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:224 Date: 2005/03/19 Sat 16:35:58



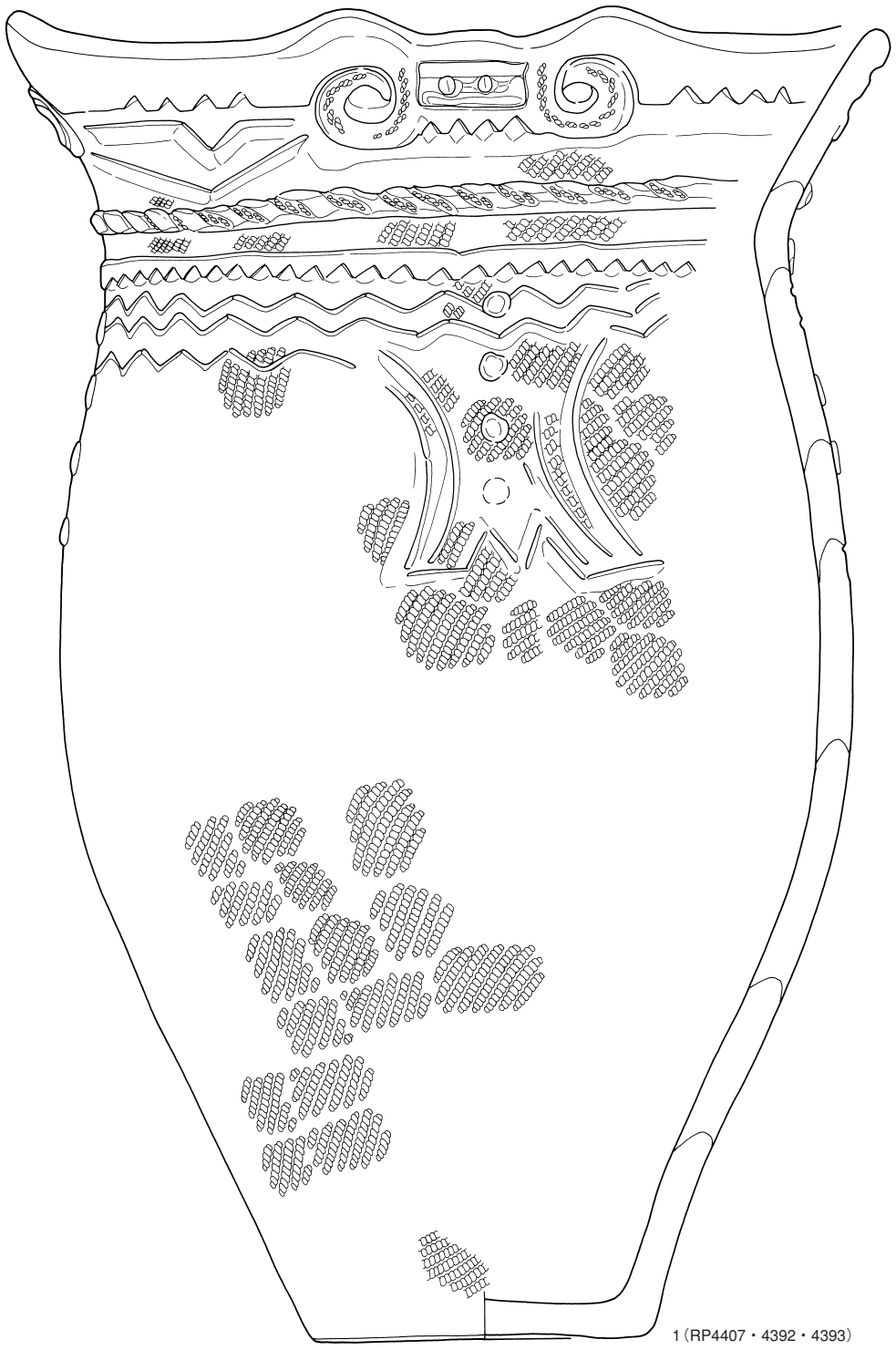
第190図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（２）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:225 Date: 2005/03/19 Sat 16:39:05



第191図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（３）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:226 Date: 2005/03/19 Sat 16:44:42

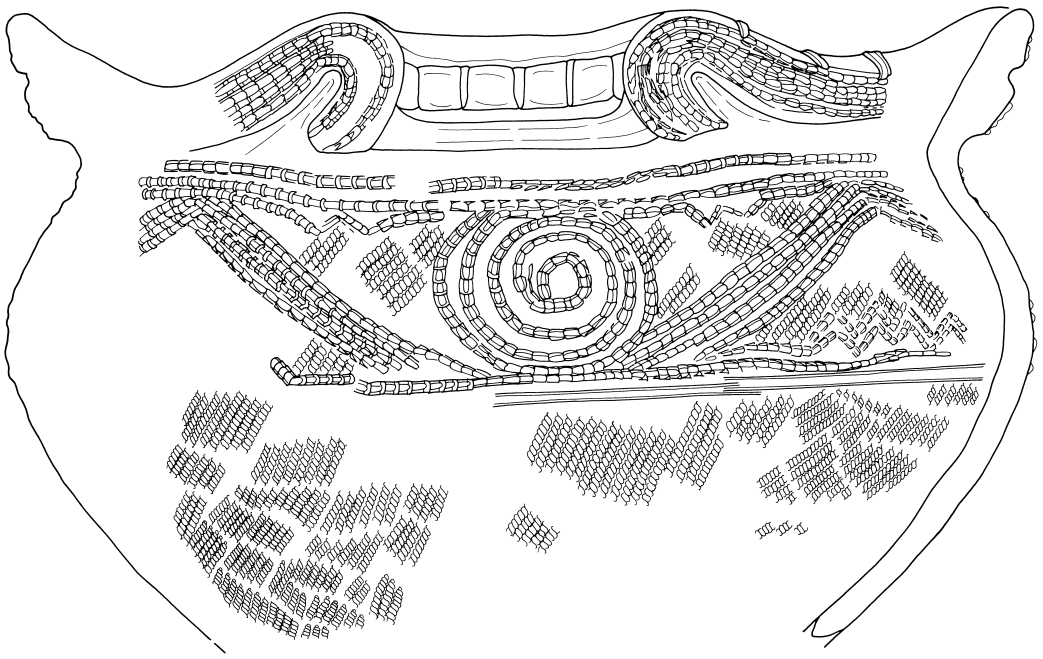


ST3303

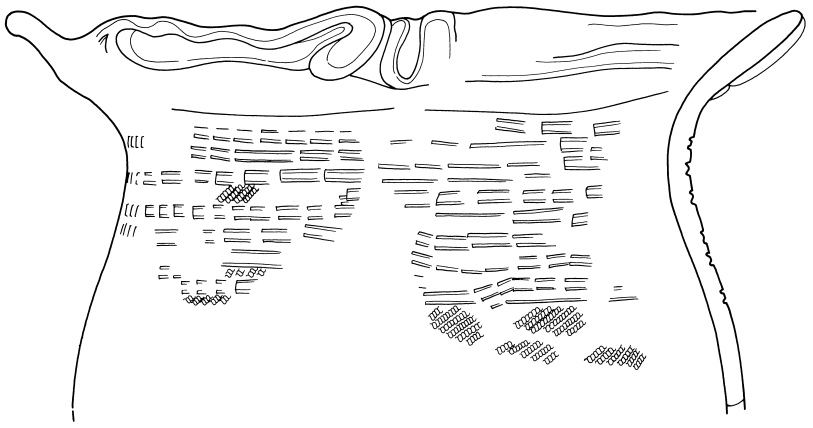
0　10cm
（1：3）

第192図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（４）

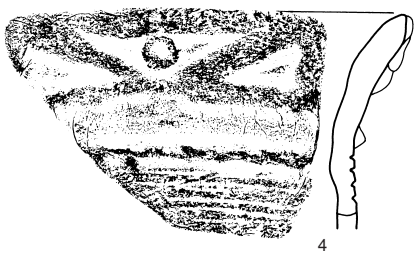
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:227 Date: 2005/03/19 Sat 16:51:19



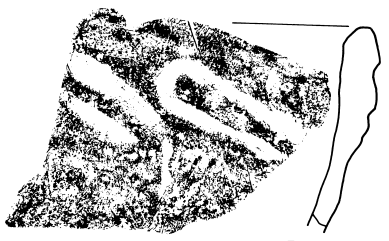
2（RP4396）



3（RP4392）

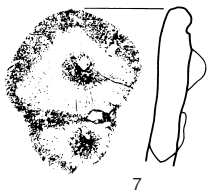


4



5

6（RP4405）



7

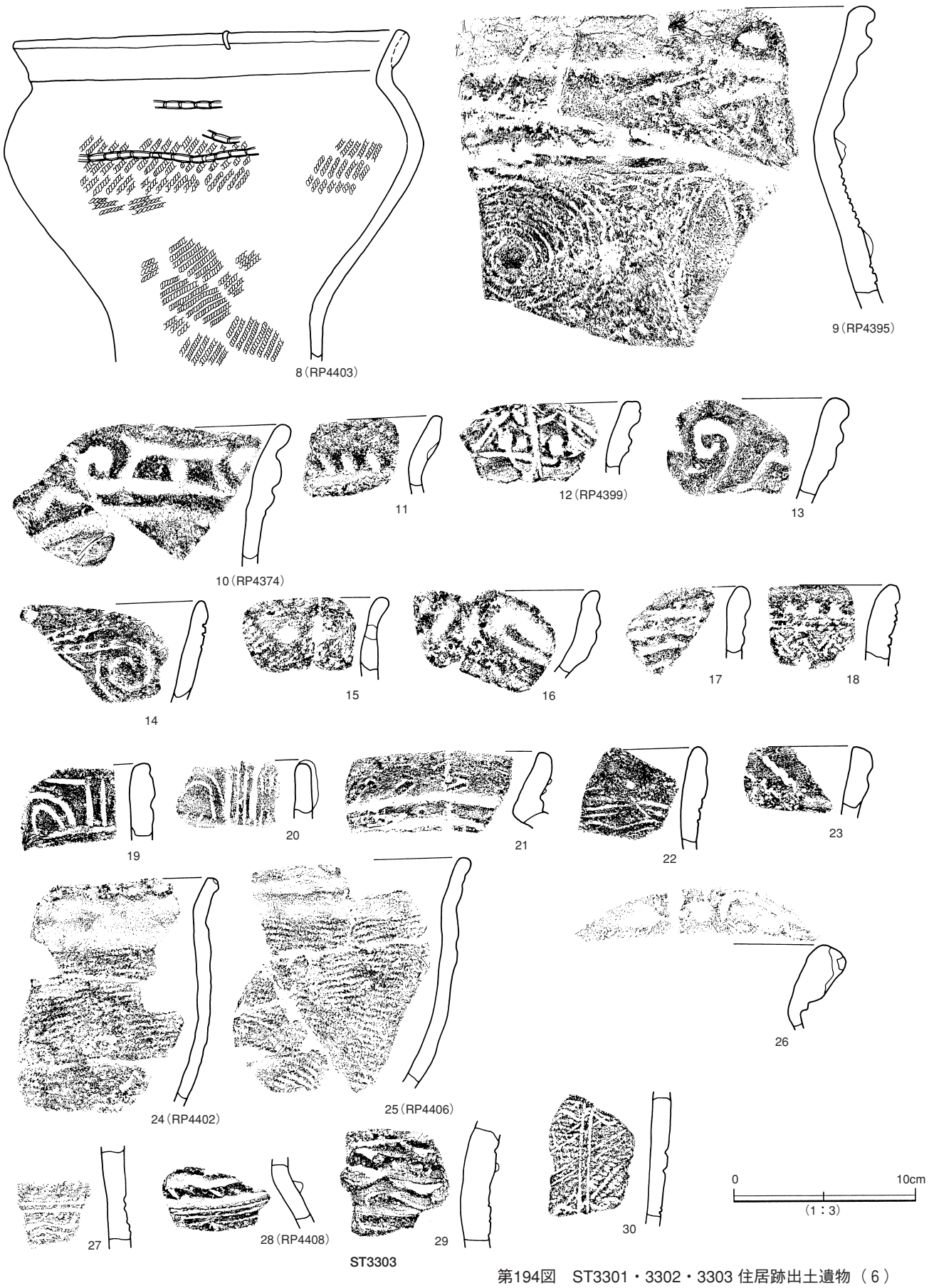
ST3303

0　10cm

（1：3）

第193図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（５）

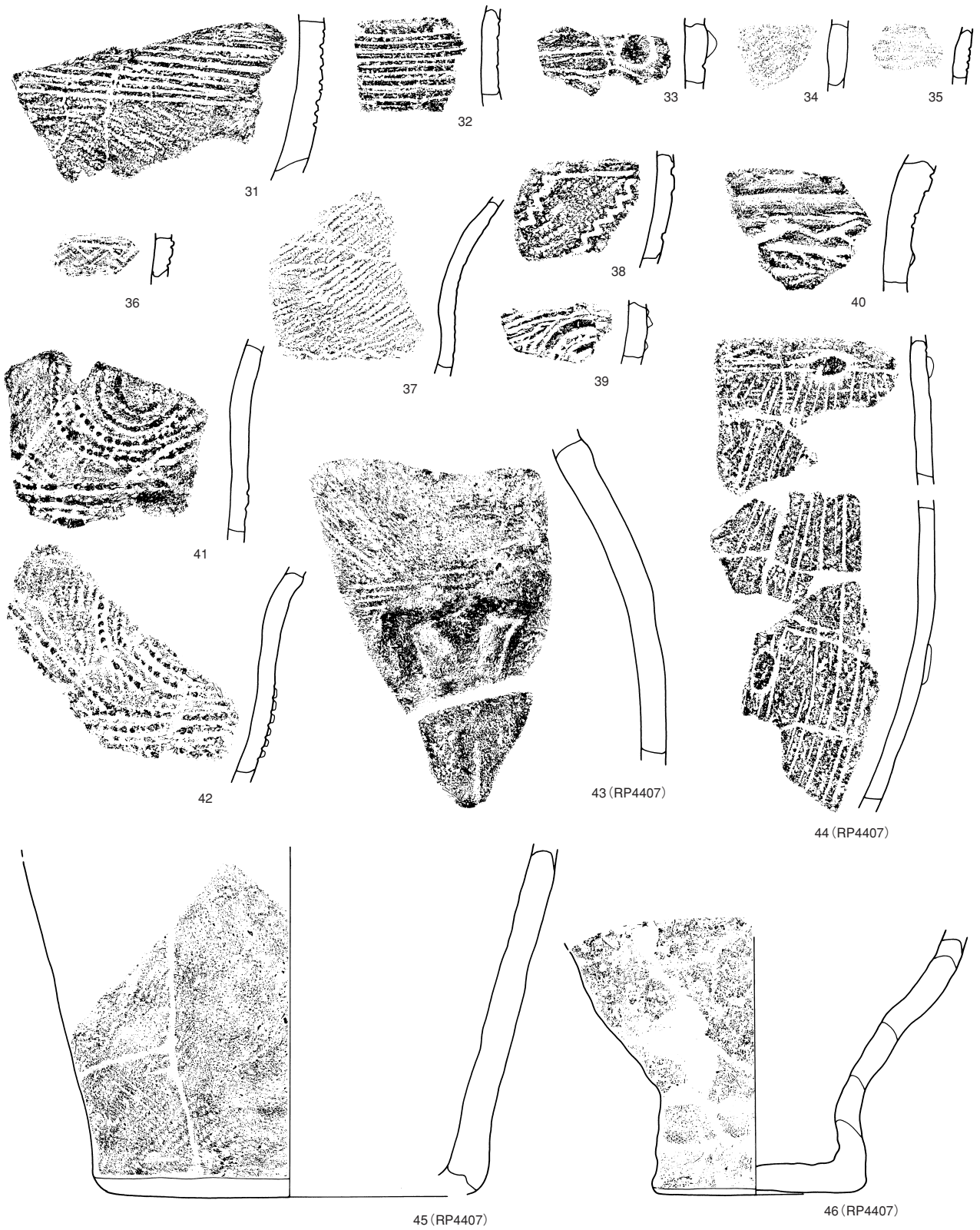
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:228 Date: 2005/03/19 Sat 16:55:44



ST3303

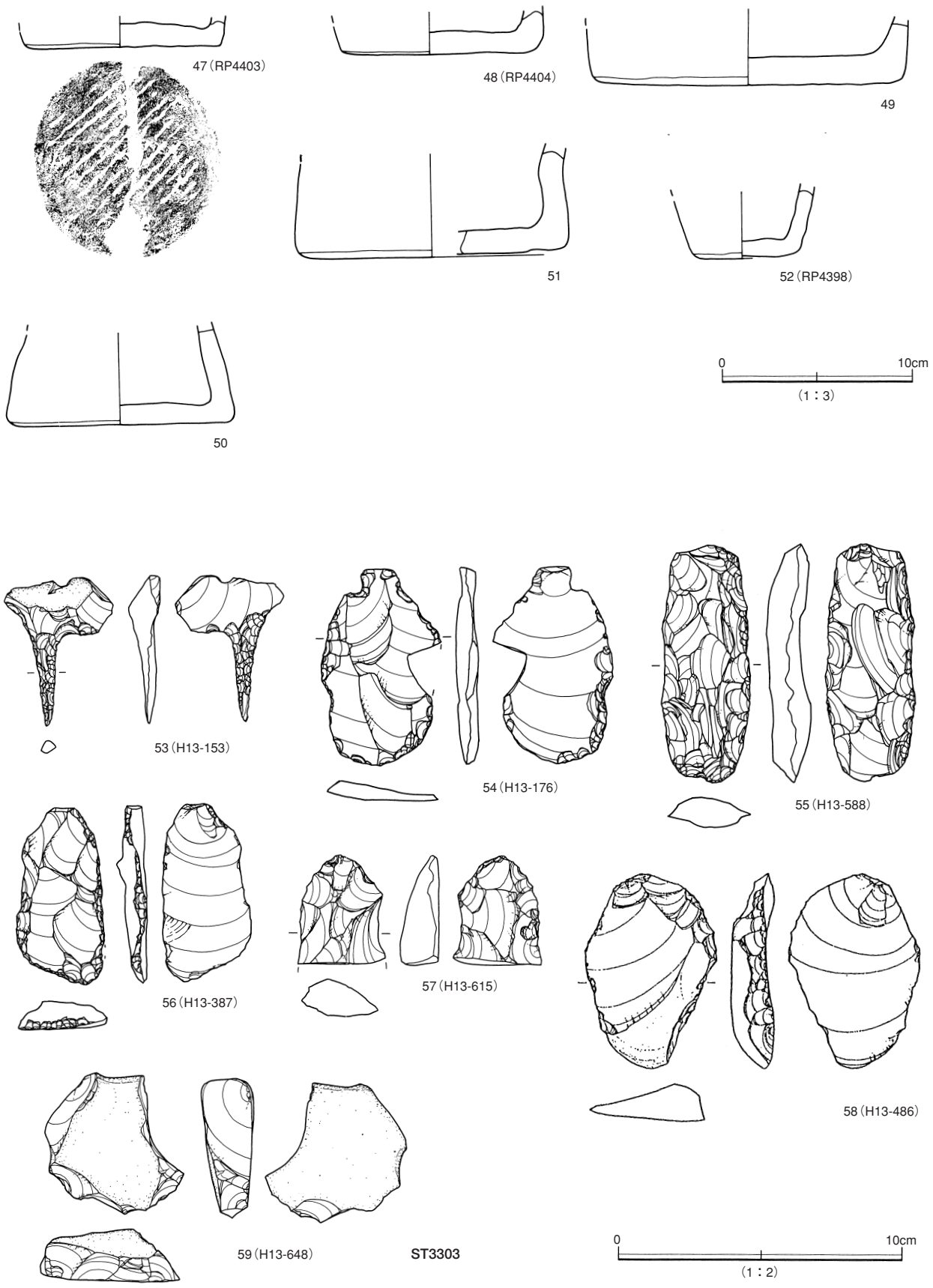
第194図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（６）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:229 Date: 2005/03/19 Sat 17:00:04



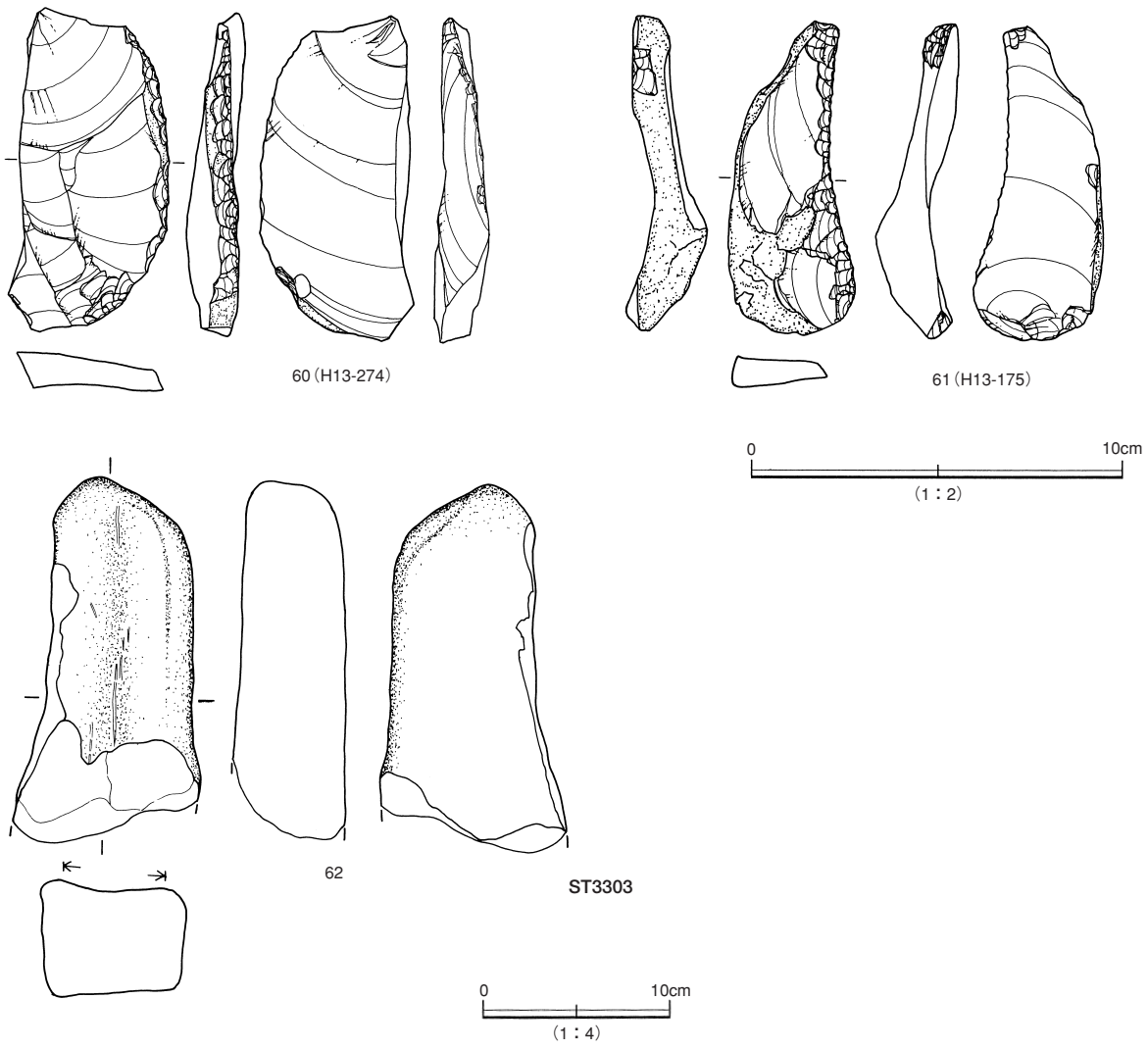
第195図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（７）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:230 Date: 2005/03/19 Sat 17:05:05



第196図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（８）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:231 Date: 2005/03/19 Sat 17:08:55



第197図　ST3301・3302・3303 住居出土遺物（９）

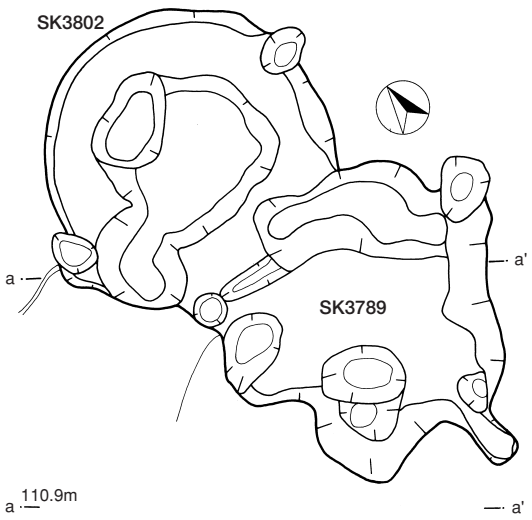
きないと結論に達した。覆土は炭化粒や白色粘土粒子を混入する黒褐色シルト質粘土である。

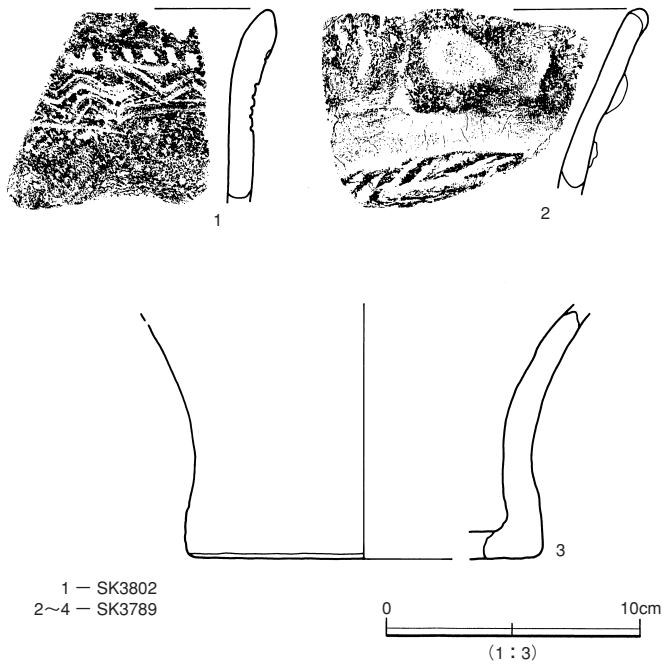
柱穴の深さは次の通りである。Ｐ１（60cm）、Ｐ２（81cm）、Ｐ３（70cm）、Ｐ４（64cm）、Ｐ５（100cm）、Ｐ６（60cm）、Ｐ７（60cm）、Ｐ８（60cm）、Ｐ９（60cm）、Ｐ10（50cm）、Ｐ11（70cm）、Ｐ12（85cm）、Ｐ13（56cm）、Ｐ14（80cm）、Ｐ15（80cm）、Ｐ16（60cm）、Ｐ17（85cm）、Ｐ18（77cm）、Ｐ19（75cm）、Ｐ20（100cm）、Ｐ21（151cm）、Ｐ22（80cm）、Ｐ23（54cm）、Ｐ24（70cm）、Ｐ25（84cm）、Ｐ26（80cm）、Ｐ27（30cm）、Ｐ28（50cm）、Ｐ29（20cm）、Ｐ30（15cm･23cm）、Ｐ31（50cm）、Ｐ32（81cm）、Ｐ33（36cm）、Ｐ34（64cm）、Ｐ35（56cm）、Ｐ36（70cm）、Ｐ37（65cm）、Ｐ38（60cm）、Ｐ39（53cm）である。

多量の出土遺物

遺物はＳＴ3301・3302・3303の範囲と考えた地区や内部に重複する土坑から多量の遺物が出土している。ＳＴ3301では１～15が出土している。１～11は半截竹管文の深鉢、12～15は石錐や掻器である。ＳＴ3302では１～28の土器・石器が出土している。１～13は半截竹管文や三角刻印文の台付鉢や深鉢の口縁部である。14～28は尖頭器・石匙・掻器・削器などである。

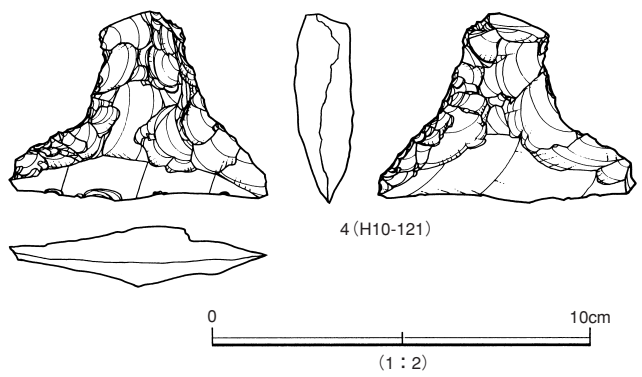
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:232 Date: 2005/03/19 Sat 17:11:40

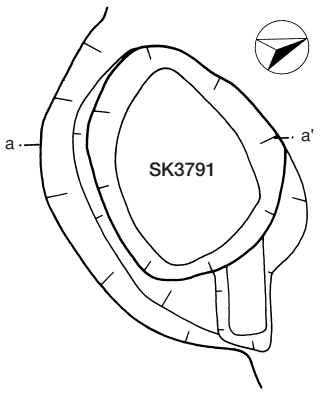




SK3789・SK3802

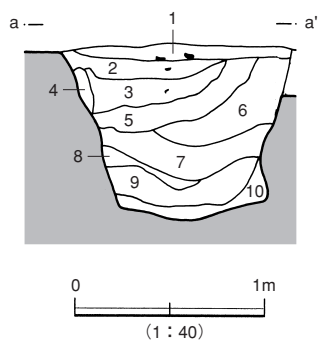
1	10YR4/6	褐色シルト質粘土	上面が焼けている
2	10YR3/2	黒褐色シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック、粒子、炭化粒子を若干含む固くしまっている
3	10YR3/2	黒褐色シルト質粘土	2に近似するが、より粘土ブロックを含む
4	10YR2/2	黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、風化礫粒子を多量に含み、固くしまる（上面は非常に固い）
5	10YR2/3	黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土ブロックを多量に含みやや固い（自然堆積土）
6	10YR4/4	褐色シルト質粘土	黒色粘土、黄褐色粘土ブロックを含むやや固い（人為的に埋め戻す）
7	10YR4/6	褐色粘土	黄褐色粘土ブロックが充満（人為的に埋めている）

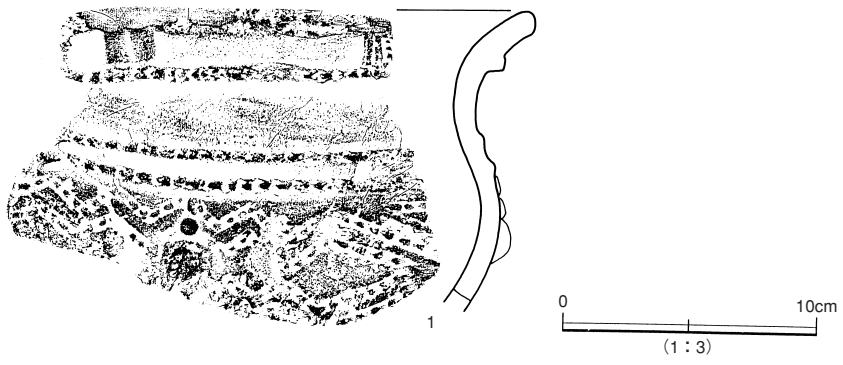




SK3791

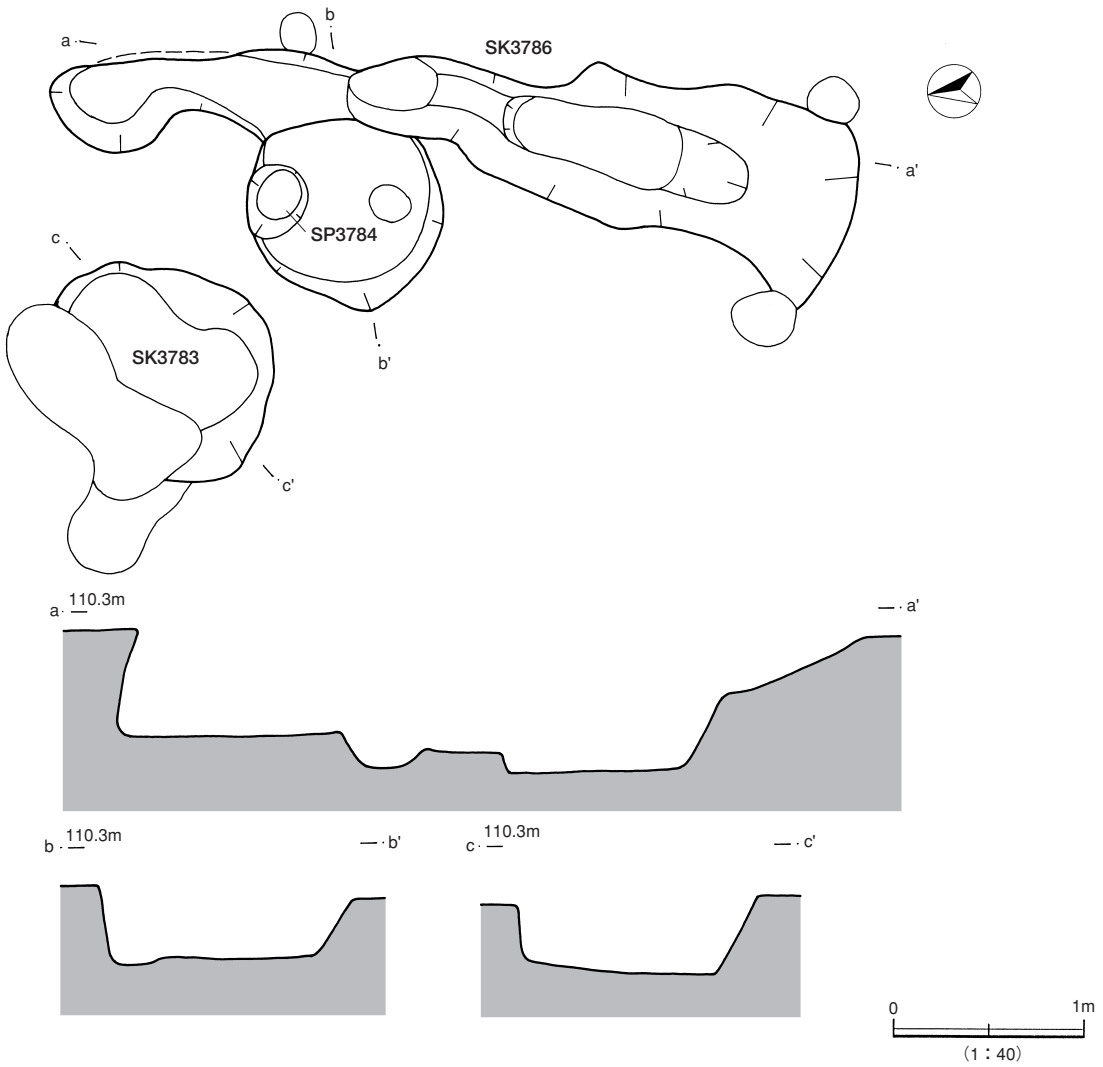
1	10YR2/1	黒色シルト質粘土	若干の炭化粒子、白色風化礫粒子を含み固くしまる
2	10YR3/2	黒褐色シルト質粘土	1に近似するが、色調がやや苦味をます
3	10YR3/3	暗褐色シルト質粘土	黄褐色粘土粒を含み固くしまっている
4	10YR4/6	褐色シルト質粘土	黄褐色粒と砂層が混じる（壁体崩落土）
5	10YR3/3	暗褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土中粒（径2～4cm）を多量に含み、柔らかい
6	10YR3/4	暗褐色シルト質粘土	若干の炭化粒子、黄褐色粘土ブロック（径10～15cm）が多量に混じる
7	10YR3/4	暗褐色シルト質粘土	6に近似するが、やや砂質性が強い
8	10YR4/4	褐色シルト質粘土	黄褐色粘土粒が多量に含む（壁体崩落土？）
9	10YR3/2	黒褐色シルト質粘土	多量の炭化粒や炭化材を含み、また黄褐色粘土が混じる
10	10YR2/3	黒褐色シルト質粘土	黄褐色粘土、黒色粘土、褐灰色粘土が混じり固くしまっている

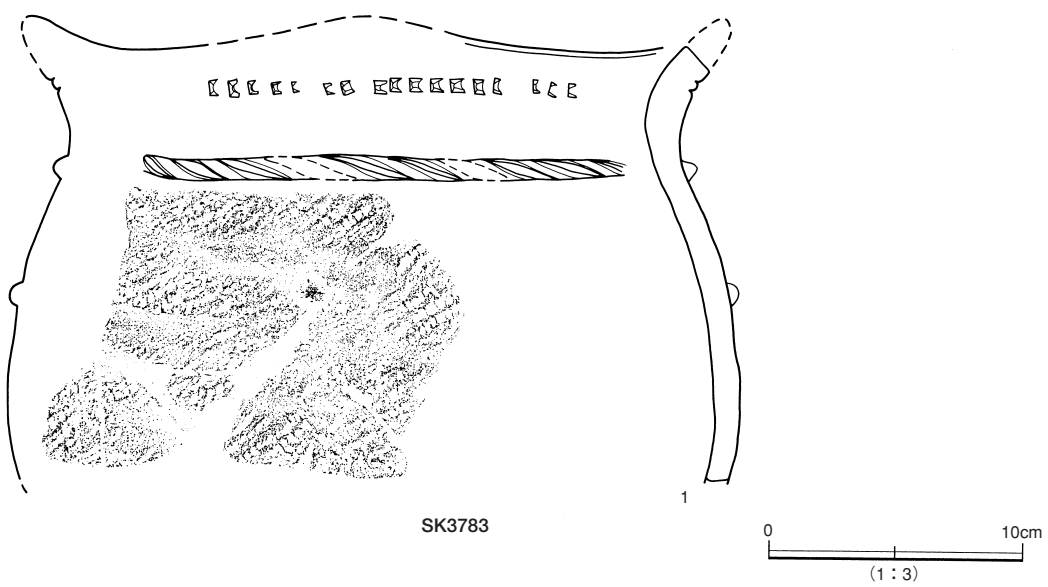




第198図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（10）

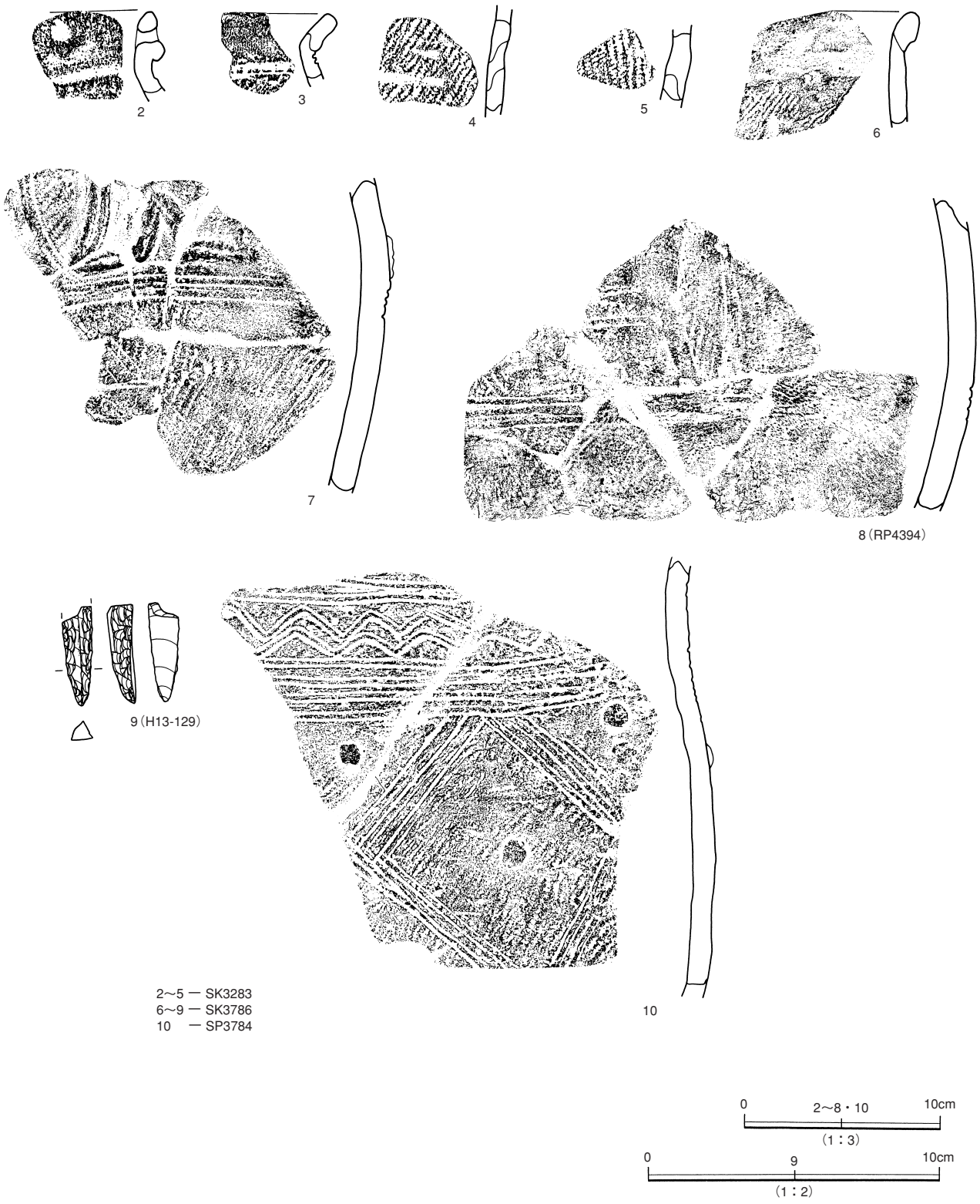
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:233 Date: 2005/03/21 Mon 14:17:52





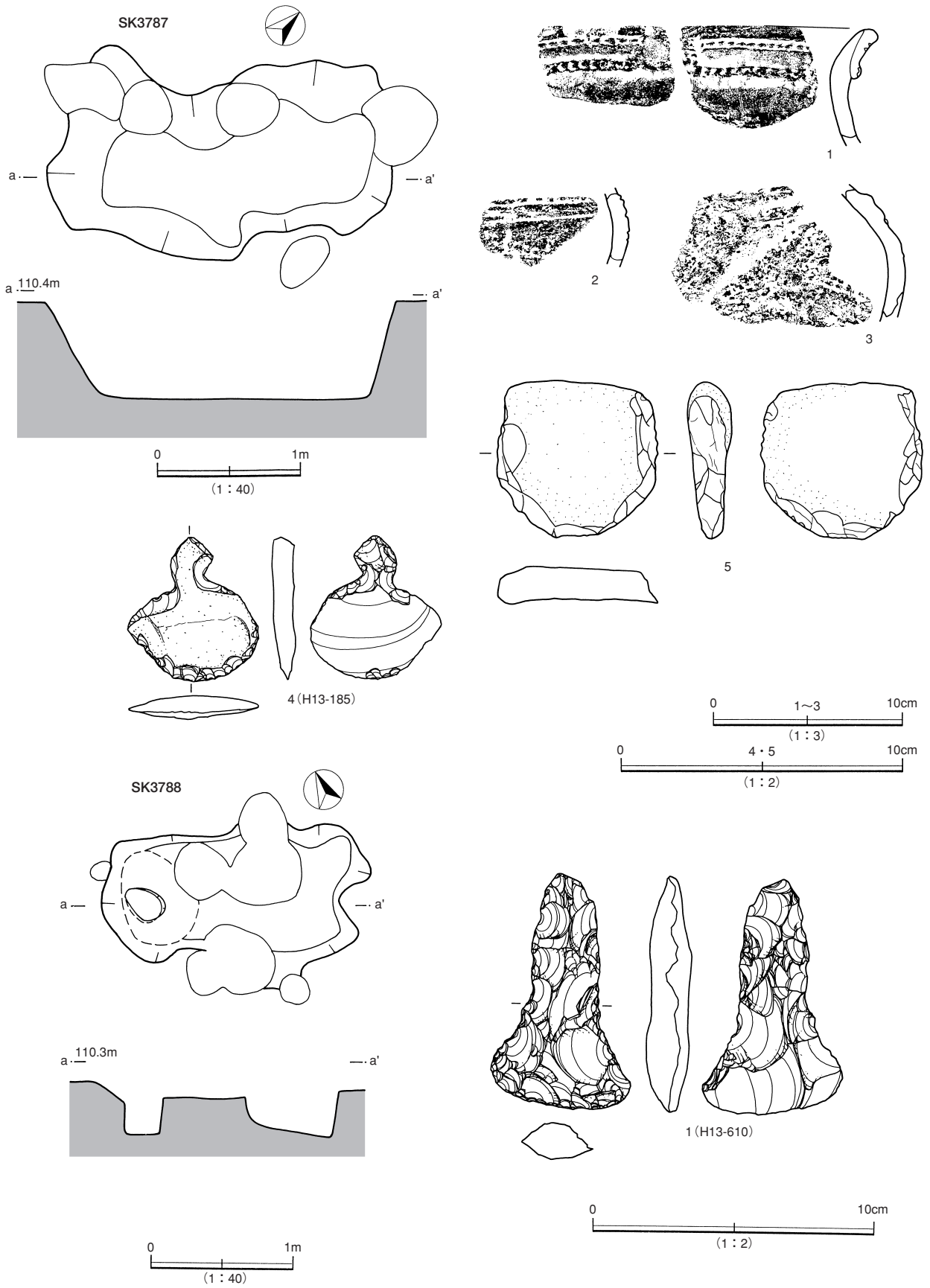
第199図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（11）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:234 Date: 2005/03/19 Sat 17:16:19



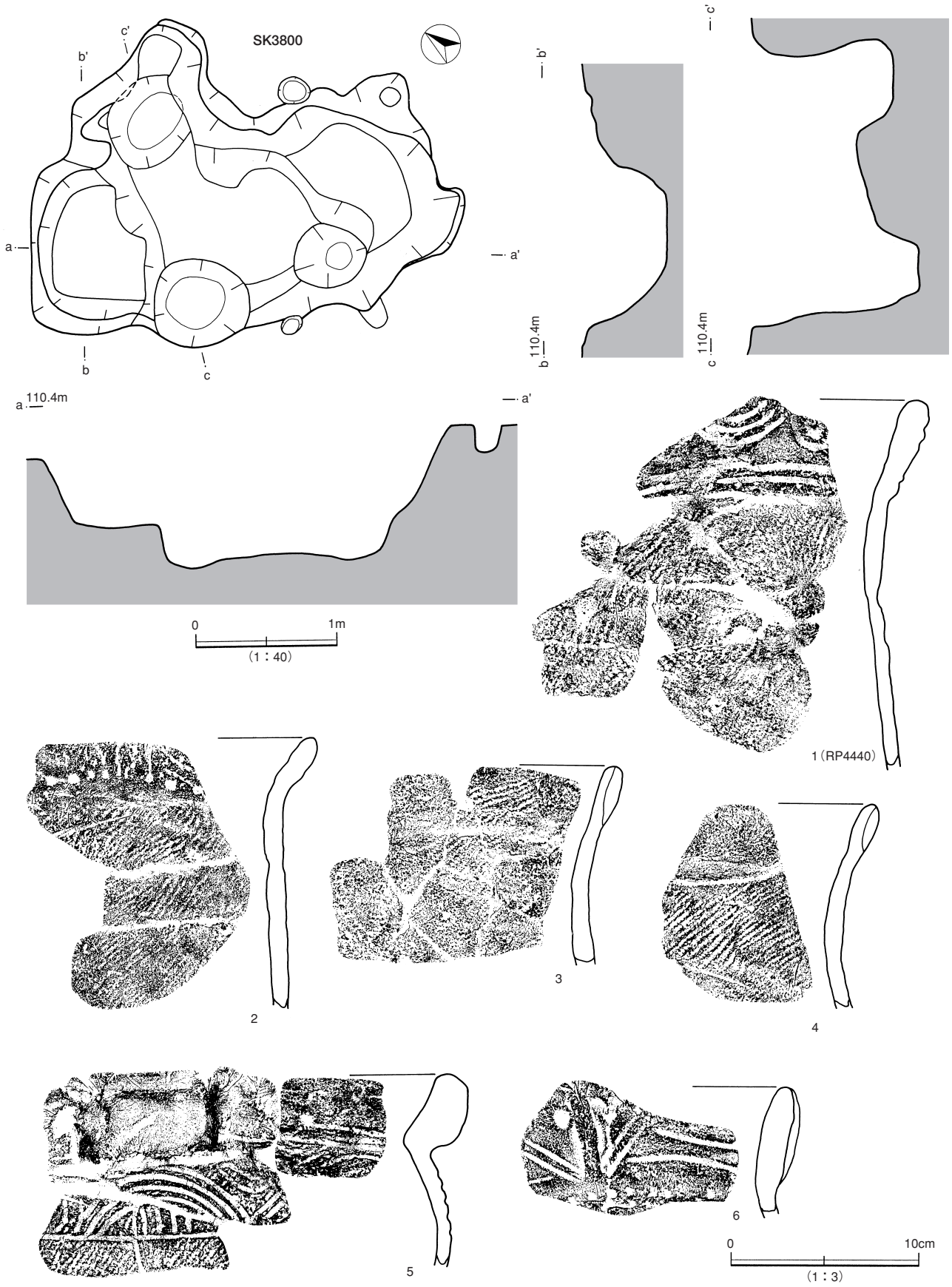
第200図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（12）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:235 Date: 2005/03/19 Sat 17:18:27



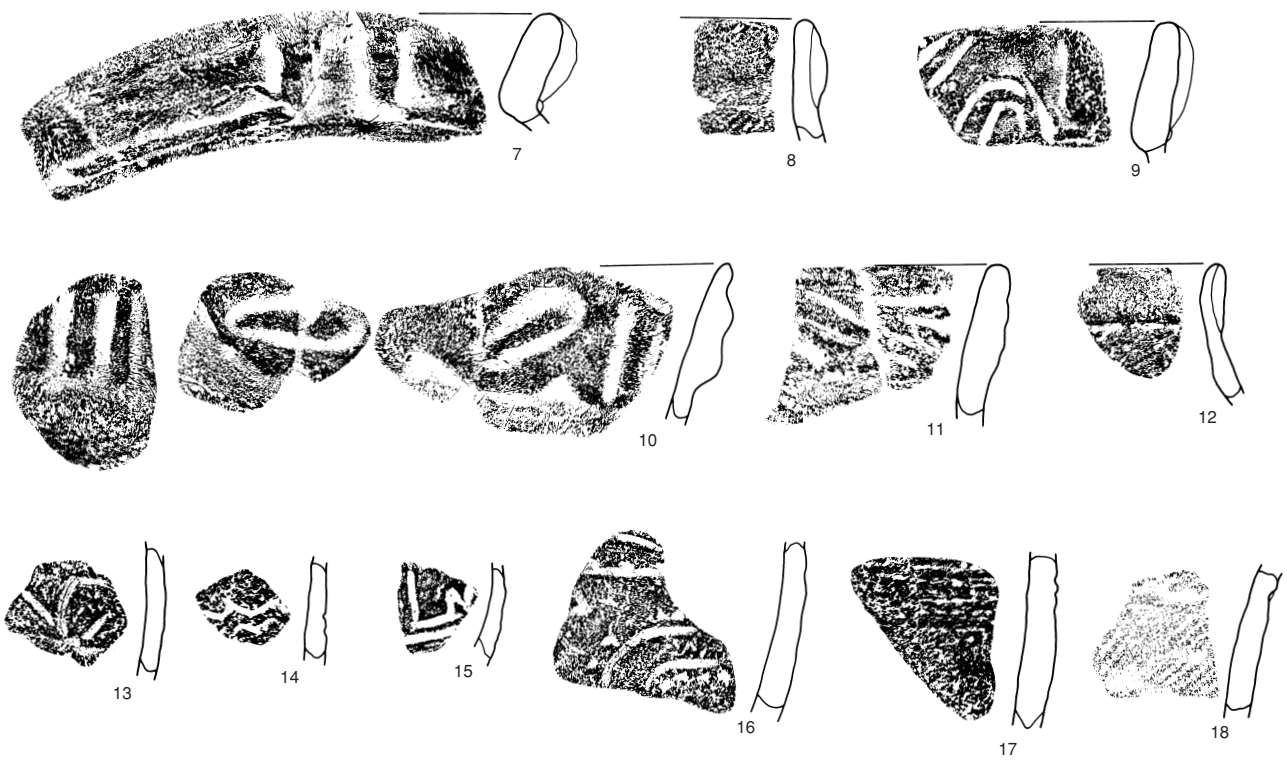
第201図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（13）

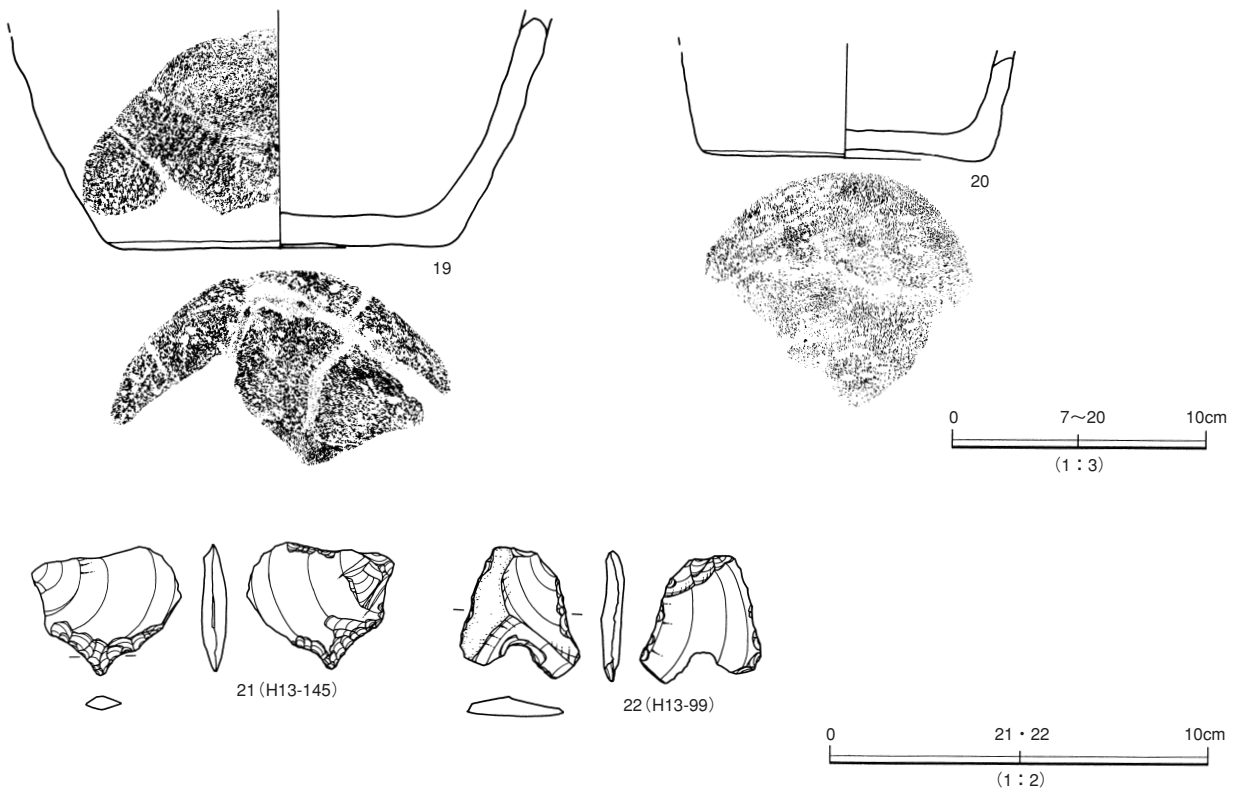
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:236 Date: 2005/03/19 Sat 17:26:13



第202図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（14）

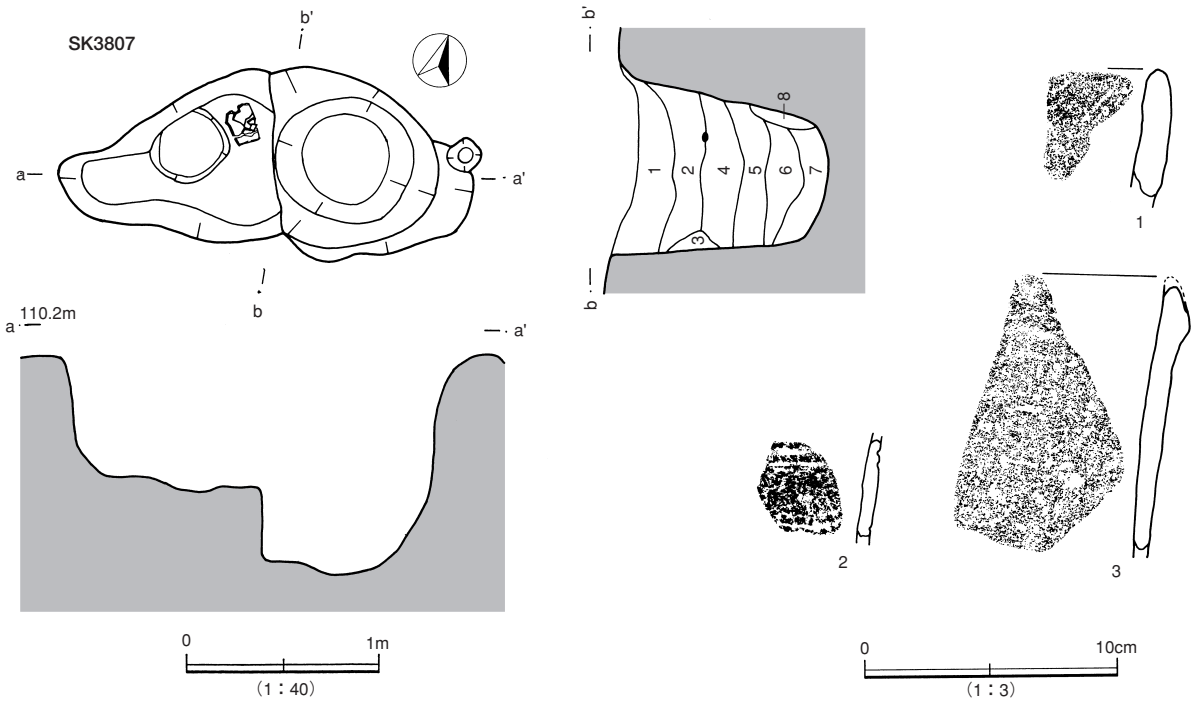
Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:237 Date: 2005/03/19 Sat 17:28:04





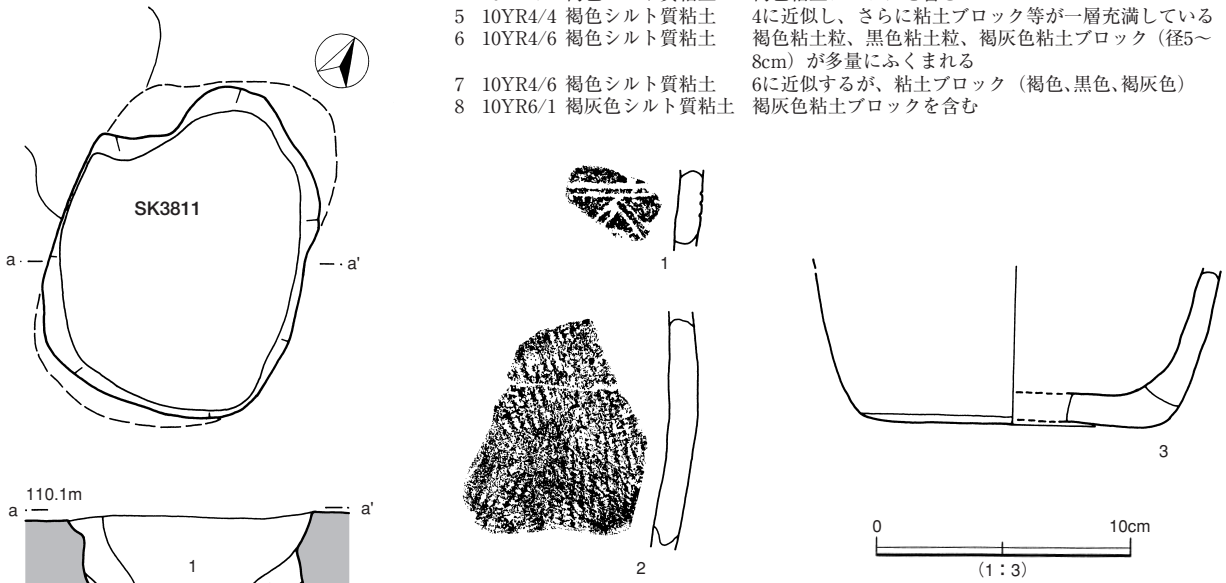
第203図　ST3301・3302・3303 住居跡出土遺物（15）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:238 Date: 2005/03/19 Sat 17:30:14



SK3807

1	10YR3/1 黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、白色風化礫粒、黄褐色粘土粒を多く含みややしまっている
2	10YR4/4 褐色シルト質粘土	褐灰色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロック（径10～15cm）を多量に含み、粘質がありしまる
3	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土	2に近似している、より褐灰色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロックが充満している
4	10YR4/4 褐色シルト質粘土	褐色粘土ブロックを含む
5	10YR4/4 褐色シルト質粘土	4に近似し、さらに粘土ブロック等が一層充満している
6	10YR4/6 褐色シルト質粘土	褐色粘土粒、黒色粘土粒、褐灰色粘土ブロック（径5～8cm）が多量にふくまれる
7	10YR4/6 褐色シルト質粘土	6に近似するが、粘土ブロック（褐色、黒色、褐灰色）
8	10YR6/1 褐灰色シルト質粘土	褐灰色粘土ブロックを含む

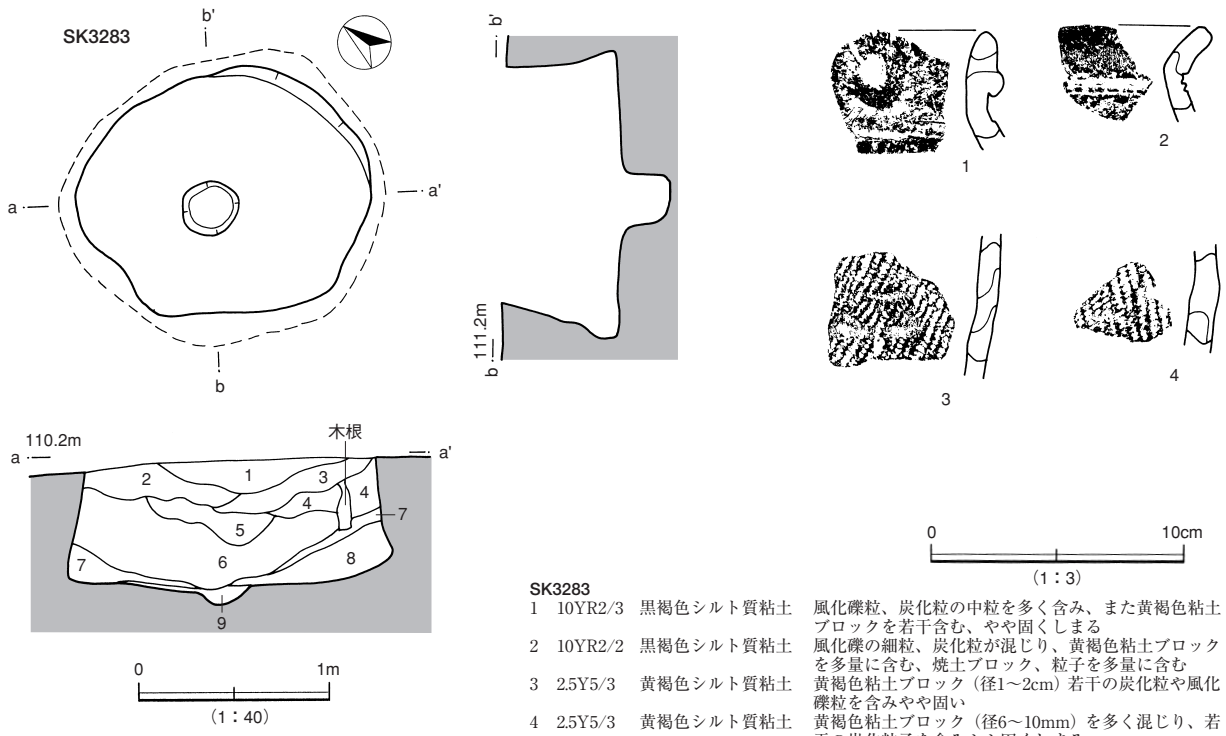


SK3811

1	10YR3/1 黒褐色礫	玉子～親指大の円礫層に腐植土が混じる
2	10YR3/4 暗褐色礫	玉子～親指大の円礫層に腐植土が混じるが、1よりは少ない
3	10YR3/2 黒褐色礫	玉子～親指大の円礫層に腐植土が混じる、腐植土の割合が多い
4	10YR3/3 暗褐色礫	砂が主体で、少量の円礫が入る、腐植土の混入少ない
5	10YR4/3 にぶい黄褐色礫	円礫にシルトが混じる、腐植土の混入少ない
6	10YR3/2 黒褐色礫	円礫にシルト、腐植土が入る、腐植土の混入多い
7	10YR5/4 にぶい黄褐色礫	円礫に腐植土に地山上部のシルトが混じる
8	10YR2/3 黒褐色シルト	自然堆積した腐植土に地山下部の砂が混じる

第204図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（16）

Title:P219-239_縄文時代.ec6 Page:239 Date: 2005/03/19 Sat 17:32:00



SK3283

1	10YR2/3	黒褐色シルト質粘土	風化礫粒、炭化粒の中粒を多く含み、また黄褐色粘土ブロックを若干含む、やや固くしまる
2	10YR2/2	黒褐色シルト質粘土	風化礫の細粒、炭化粒が混じり、黄褐色粘土ブロックを多量に含む、焼土ブロック、粒子を多量に含む
3	2.5Y5/3	黄褐色シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック（径1～2cm）若干の炭化粒や風化礫粒を含みやや固い
4	2.5Y5/3	黄褐色シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック（径6～10mm）を多く混じり、若干の炭化粒子を含みやや固くしまる
5	2.5Y5/3	黄褐色シルト質粘土	4に近似する、炭化粒子の中粒も多く含み、黄褐色粘土ブロックが4より多く含む
6	10YR5/6	黄褐色シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック（径1.5～2.5cm）が多量に充満、若干の炭化粒、風化礫粒を含み固くしまる
7	10YR2/1	黒色シルト質粘土	若干の黄褐色粘土粒子やブロック、炭化粒子を若干含まれ、1～6より粘性が強くなる
8	10YR4/4	褐色シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック、黒色粘土ブロック、炭化粒子を含み、シルト質が強くしまっている
9	10YR4/4	褐色シルト質粘土	8に近似、黄褐色粘土ブロックが8より多く含まれる

第205図　ST3301・3302・3303 住居跡・出土遺物（17）

ＳＴ3303では三角刻印文・太い沈線文・ボタン状貼付文・押圧縄文を施す１の大型深鉢、２の結節状浮線文の大型の台付鉢がある。この他、半截竹管文、太い沈線文、ボタン状貼付文の台付鉢、深鉢がある。53～61は石錐・掻器・削器、62は砥石である。

ＳＴ3301・3302・3303内部の土坑から出土した遺物は次の通りである。ＳＫ3783・3786・ＳＰ3784からは半截竹管文や粘土紐貼付文やボタン状貼付文などの深鉢が出土。ＳＫ3787からは円盤状石製品や石匙、ＳＫ3788からは削器、ＳＫ3800からは太い沈線文の深鉢口縁部や石錐などが出土。大型の柱穴状を呈するＳＫ3807からは深鉢片、フラスコ状土坑のＳＫ3811・ＳＫ3283からは半截竹管文の深鉢片が出土している。ＳＫ3283は整った円形のフラスコ状土坑で中央にピットを有する。

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:240 Date: 2005/03/25 Fri 11:10:46

ＳＴ3337住居跡（第206～217図　写遺構－156・157・187　写遺物－61・101・137）

本址はグリッド９・10－98～102に位置し、ＳＴ3703とＳＴ3301の間に所在する。ＳＴ4127大型住居・ＳＴ4168、ＳＫ3130・ＳＫ3338・ＳＫ3131・ＳＫ3806・ＳＫ3261・ＳＫ3739・ＳＫ3256と重複している。

ＳＫ3338との切り合い関係ではＳＫ3338の覆土中に、本住居跡の焼土（ＥＬ3881）が入り込んでいることからＳＫ3338が古いことがわかる。

またＳＴ4127とは両者の重複は見られるものの新旧を明確にできなかったが、柱穴ＥＰ3133・ＥＰ3128の切り合いや柱穴の配列、炉（ＥＬ3298）のあり方などから、ＳＴ3337がＳＴ4127より古い住居跡であることを確認している。ＳＴ4127の柱穴は本址よりも新しい遺構となる。従って本址を中心として遺構の新旧関係は古い方から次のようになる。

ＳＫ3338・ＳＫ3806・ＳＫ3739→ＳＴ3337→ＳＴ4127となる。

本址は、黒褐色～暗褐色のプランとして南東から北西方向に長方形に広く確認されたが、北西方向に行くほど斜面部のため確認の難しい状況にあった。

26ｍの大型住居

長軸線を挟んで南側と北側に、ほぼ並行して柱穴列が並ぶ。柱穴を結ぶ線がほぼ住居の規模を示すとすれば、住居長軸は推定で26m、短軸は９ｍほどの長方形を呈するものと考えられる。

覆土は比較的締まりのある暗褐色土（10YR３／３）や褐色土（10YR４／４）を主体とし、これに炭化物や土器片・石器が混入する。また、小柱穴の覆土は暗褐色土や黄橙色土との混合土である。住居跡の東側壁は垂直に掘り込まれ、壁高は20cmほど確認した。西側及び北側、南側の壁は検出できなかった。床面は全体的に堅緻で、踏み固められた状況である。

主柱穴はＥＰ3126・ＥＰ3251・ＥＰ3745・ＥＰ3133・ＥＰ3804・ＥＰ3512・ＥＰ3260・ＥＰ3805・ＥＰ3265・ＥＰ3741・ＥＰ3394・ＥＰ3226・Ｐ１・Ｐ２の14本で構成される。主柱穴は長軸に沿って２本セットで並列にならぶ。この中でＰ１は深さ90cmほどで遜色ないが、Ｐ２は40cmと他柱穴と比べ非常に浅く、柱間距離もＰ１－ＥＰ3741間に比較してかなり短い。

１ｍを超える大型住穴

主柱穴の規模は検出面で径60～120cm、深さ100～160cmを測る。当初、その規模の大きさから土坑として登録したほど大型の柱穴である。また実際に土坑と重複した柱穴も多い。Ｐ１はＳＫ3736のフラスコ状土坑、Ｐ２はＳＫ3224フラスコ状土坑、ＥＰ3741はＳＫ3236と重複する。さらにＥＰ3265はＳＫ3739と、ＥＰ3805も土坑の中に重複し、ＥＰ3394もＳＫ3742と重複している。

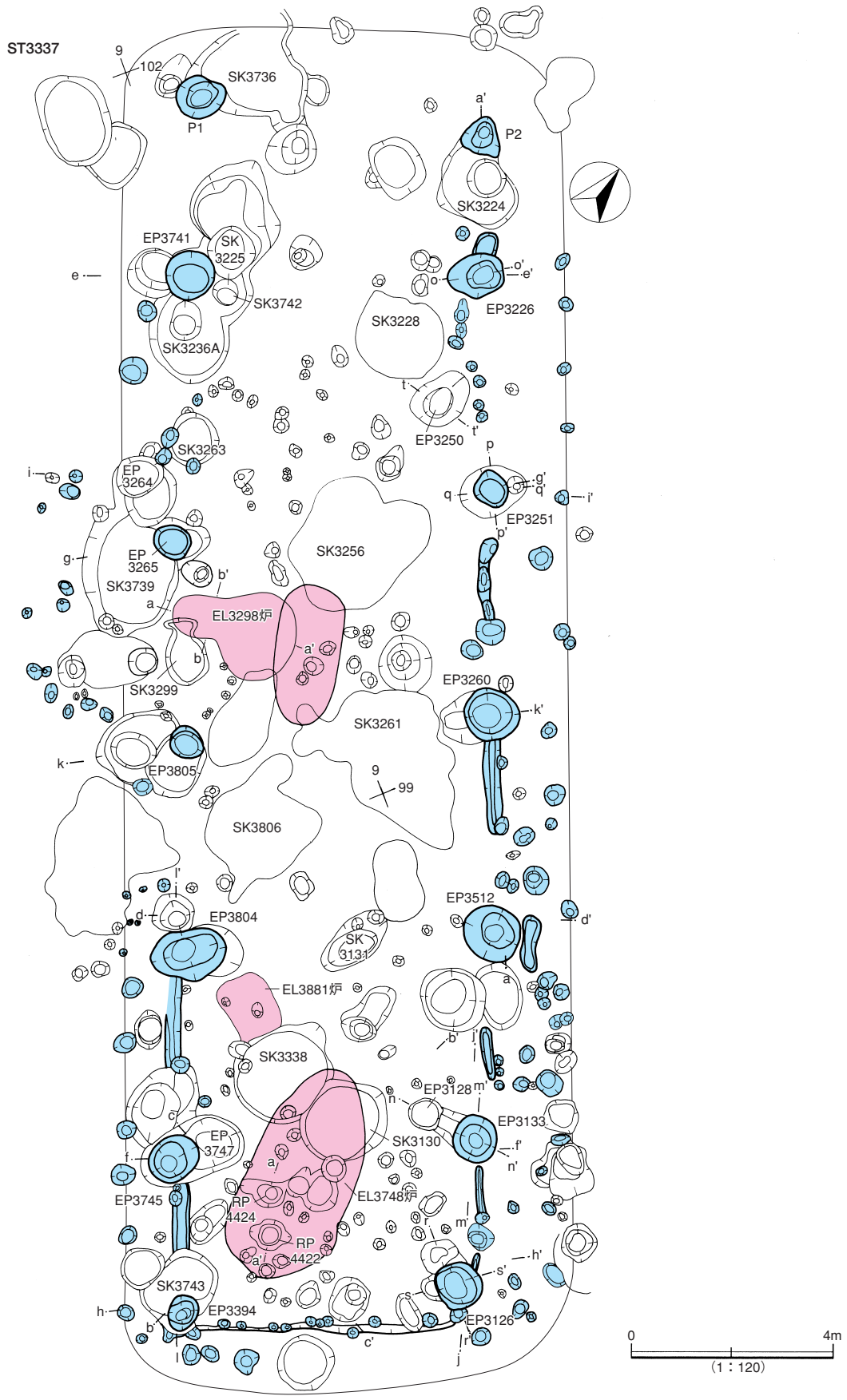
これら主柱穴は、堆積状況から自然堆積の様子が看取でき、柱が抜き取られていることが判る。主柱穴のプランは、２本並列長方形に位置し、柱穴間距離は３～5.4mほどである。覆土の状況から、柱は直立して立っていたものとみられる。

主柱穴に並び小穴と溝が延びる。また、主柱穴を結んだ線から外側50cmほどの位置に、周囲を取り囲むように直径15cmほどの小穴が並行して巡る。

炉に埋設土器

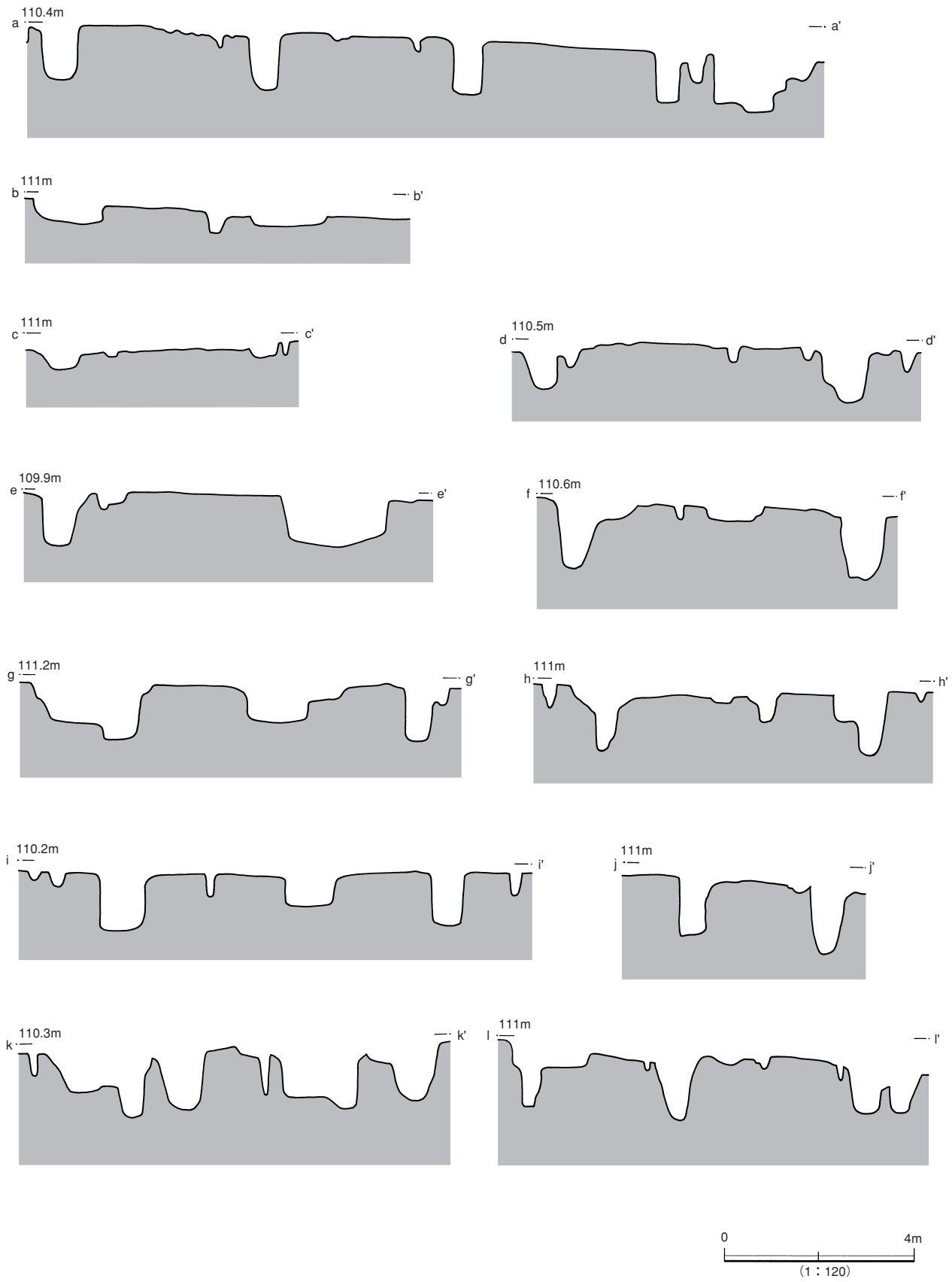
住居跡には地床炉（ＥＬ3748・3881・3298）が長軸中心線にそってみられる。不整円形で周辺からは加熱を受けた土器（ＲＰ4387・4388・4422・4423・4424・4350・4445）が出土している。ＥＬ3748では２カ所に埋設土器が検出された。１つは図示した１の器高40cmほどの深鉢が直立状態で埋設されていた。もう１つは17の深鉢胴下半部が横位で検出された。炉周辺には小ピットが検出され、付属施設の痕跡とみられる。

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:241 Date: 2005/03/19 Sat 17:37:48



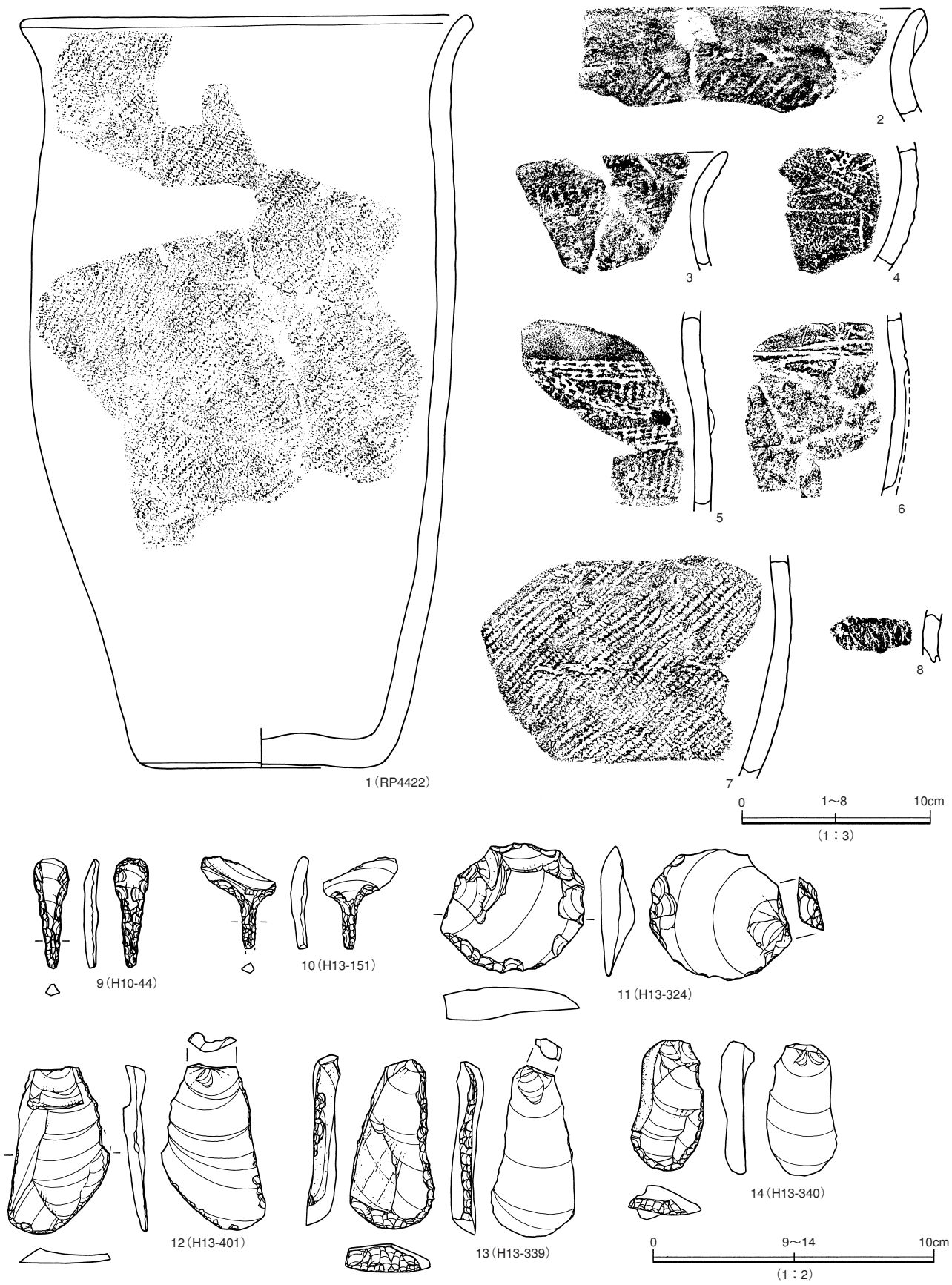
第206図　ST3337 住居跡（1）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:242 Date: 2005/03/19 Sat 17:42:21



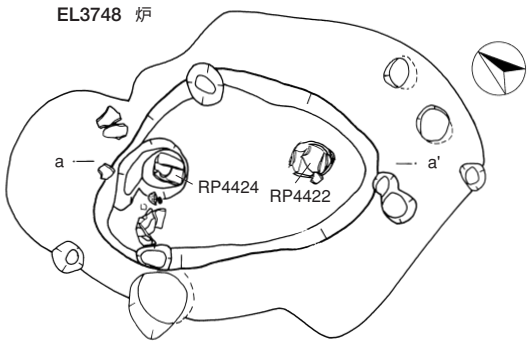
第207図　ST3337 住居跡（２）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:243 Date: 2005/03/19 Sat 17:45:04



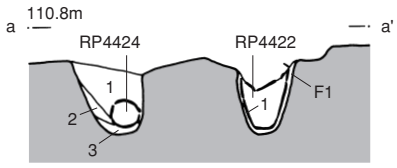
第208図　ST3337 住居跡出土遺物（１）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:244 Date: 2005/03/25 Fri 13:24:57



15（RP4422）

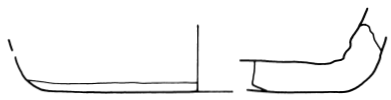
0　15　10cm
（1：3）



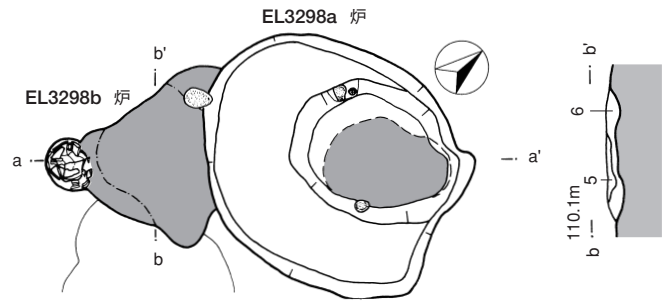
0　1m
（1：40）

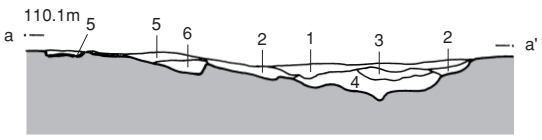
EL3748

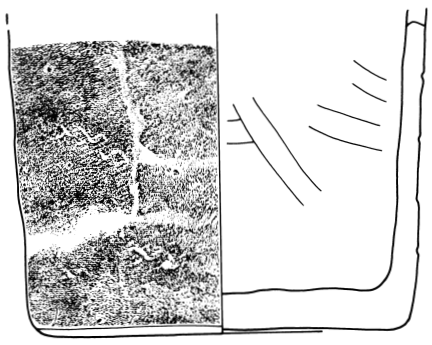
F1	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質シルト	焼土粒混じり、柔らかい
1	10YR5/3	にぶい黄褐色砂質シルト	焼土、炭化物含む
2	10YR4/4	褐色シルト	下部にRP4424が入る
3	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質シルト	



16（RP4445）



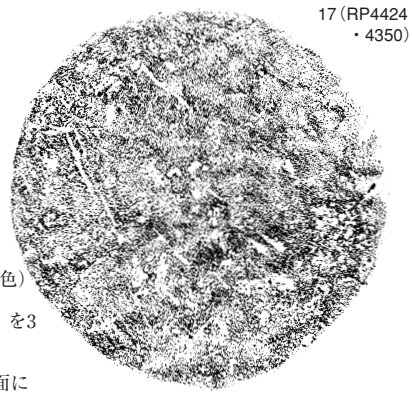




17（RP4424・4350）

0　1m
（1：40）

15･17 ― EL3748
16　― EL3298



0　16・17　10cm
（1：3）

EL3298a

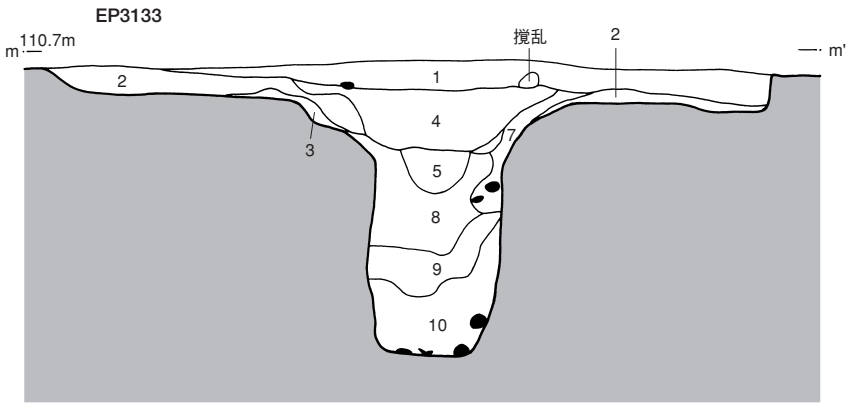
1	10YR3/2	黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒、焼土粒を含み、柔らかい
2	10YR3/3	暗褐色シルト質粘土	炭化粒子、焼土粒子、黄褐色粘土ブロックを含み柔らかい（砂質性）
3	10YR3/4	暗褐色シルト質粘土	炭化粒子、焼土ブロック（径5～8cm、2.5YR3/4暗赤褐色）を多量に含む
4	5YR3/2	暗赤褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒、焼土粒子、粒（径2～3cm）を3より多く含む（焼土が堆積）

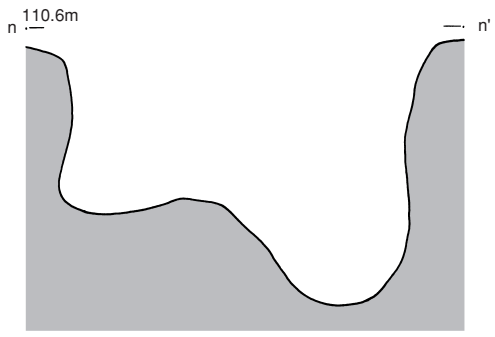
EL3298b

5	5YR4/6	赤褐色シルト質粘土	焼土ブロック（径4～7cm、2.5YR3/6暗赤褐色）が上面に固く踏みしめられ、堆積する
6	2.5YR4/8	赤褐色シルト質粘土	焼土粒子、炭化粒子が混じる、焼土が厚く堆積する、ややしまる

第209図　ST3337 住居跡・出土遺物（２）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:245 Date: 2005/03/19 Sat 17:50:27

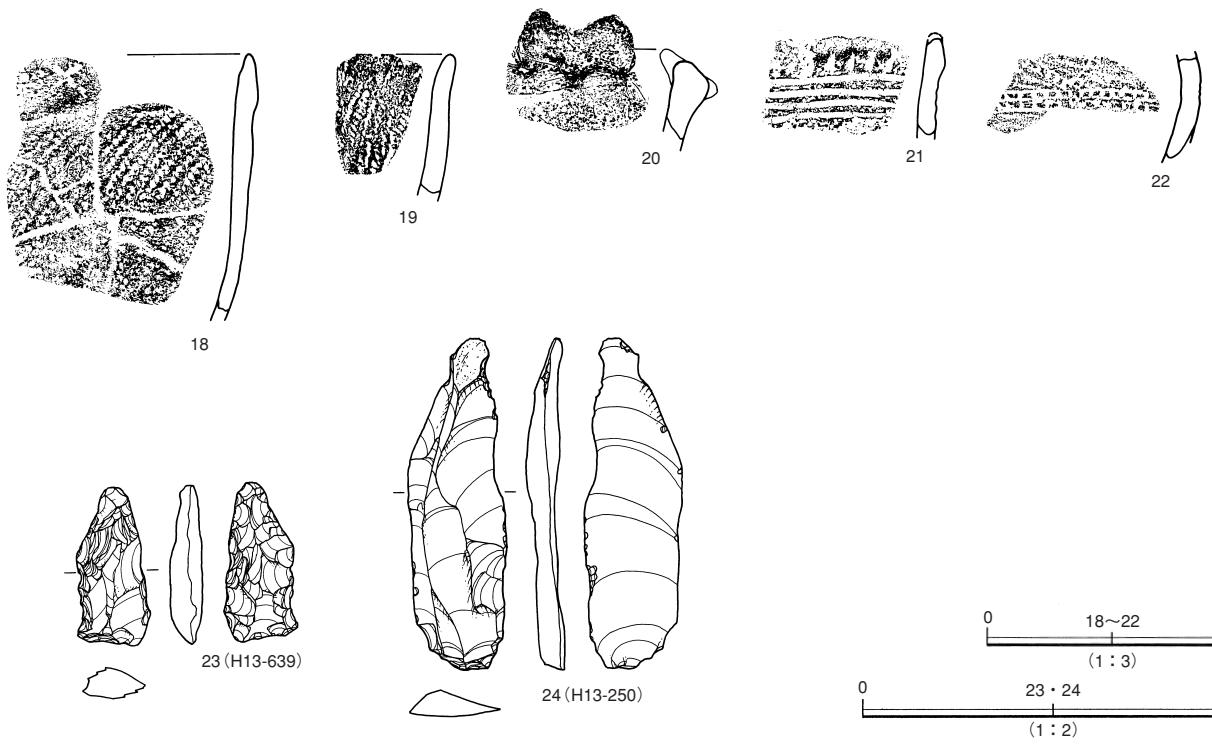




EP3133

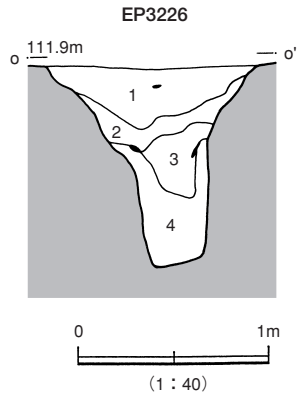
1	10YR3/2	黒褐色土	
2	10YR3/4	暗褐色土	
3	10YR3/4	暗褐色粘質シルト	固くしまっている、壁土
4	10YR3/2	黒褐色シルト	小礫入る、炭化物粒、下部に粘土粒混じり
5	10YR3/2	黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルト粒がまばらに混じる
6	10YR3/2	黒褐色土	柔らかい、パサパサ、根撹乱
7	10YR3/1	黒褐色腐植土	柔らかい、下部に礫が入る、流れ込み
8	10YR3/2	黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック多量に含む、遺物有
9	10YR3/1	黒褐色粘質シルト	固くしまり粘性あり、遺物含み下部は砂多い
10	10YR3/3	暗褐色砂質シルト	パサパサ5～10cm礫混じり

0　1m
（1：40）



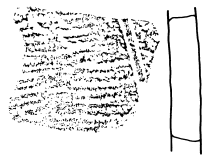
第210図　ST3337 住居跡・出土遺物（３）

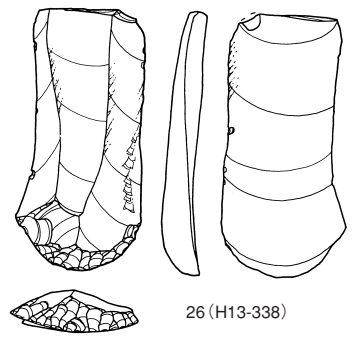
Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:246 Date: 2005/03/19 Sat 17:53:55

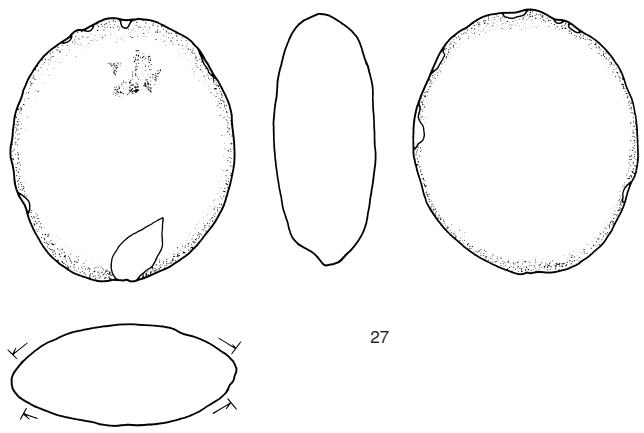


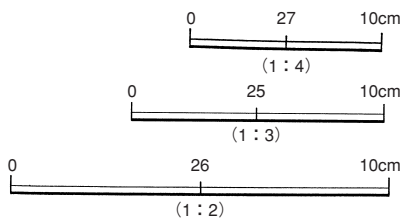
EP3226

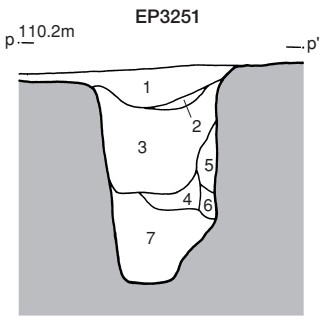
1　10YR3/3　暗褐色腐植土　10YR6/6明黄褐色粘質シルト、小（1～3cm）ブロック粒混じり、土器、石器あり
2　10YR3/3　暗褐色腐植土　10YR6/6明黄褐色粘質シルト、柔らかい、礫2ヶ、斜に土器あり
3　10YR3/2　黒褐色シルト　炭化物粒混じり、土器大片斜方向入る、柔らかい、礫入る
4　10YR4/4　暗褐色シルト　しまりなし、炭化物粒含む

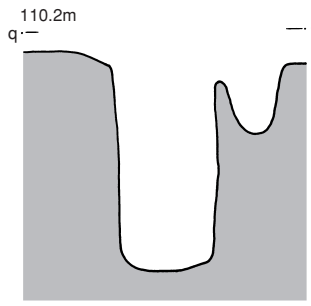






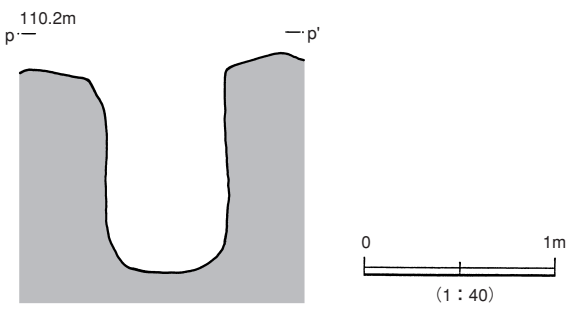


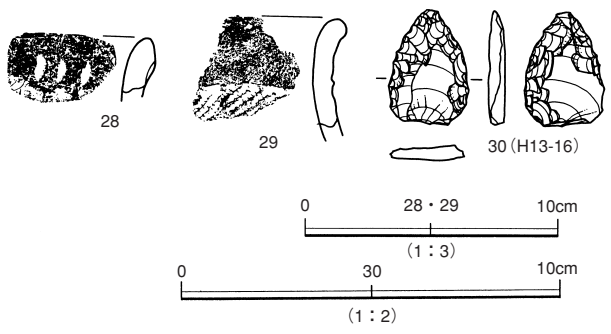




EP3251

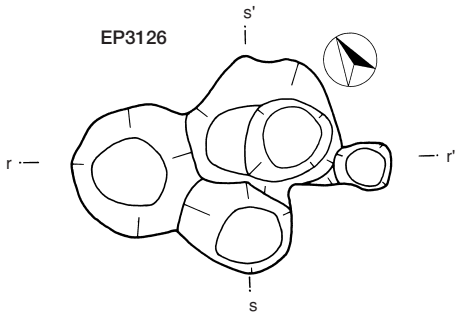
1　10YR3/3　暗褐色腐植土
2　10YR3/3　暗褐色腐植土　10YR6/6黄褐色粘質土ブロック粒
3　10YR3/4　褐色シルト　炭粒含む
4　10YR3/3　暗褐色腐植土　10YR6/6明黄褐色粘質土の混じり土、小粒
5　10YR6/6　明黄褐色シルト　粘土小ブロック混じり、壁面を固めた土と思われる
6　10YR6/6　明黄褐色シルト　粘土小ブロック混じり、壁面を固めた土と思われる
7　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　下部は砂層と炭化物粒混じる

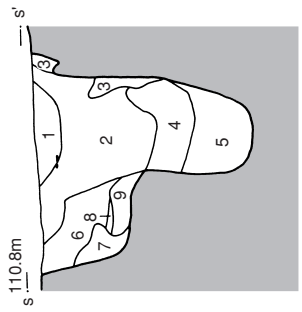


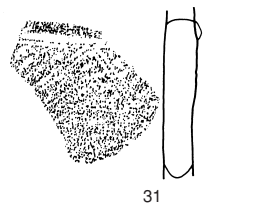


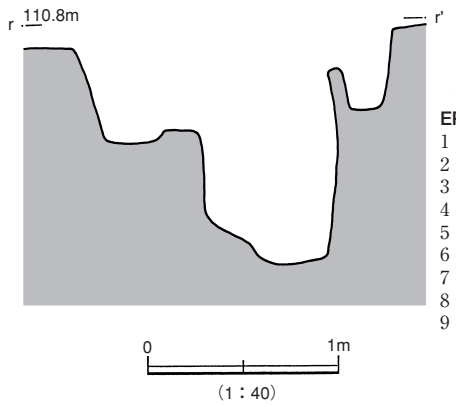
第211図　ST3337 住居跡・出土遺物（４）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:247 Date: 2005/03/19 Sat 17:59:11



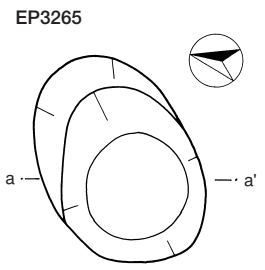


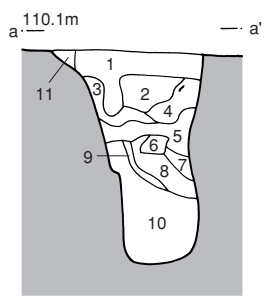


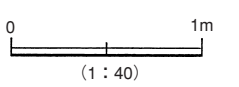


EP3126

1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト	10YR6/6明黄褐色シルトブロック、粗砂混じり、炭片あり
2	10YR3/3 暗褐色腐植質シルト	粘土ブロック5cm大、数カ所あり、炭化物混じり
3	10YR4/4 褐色砂質シルト	壁崩れ
4	10YR4/4 褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘土ブロック小1～3cm、しまりあり
5	10YR4/4 褐色砂質シルト	柔らかい
6	10YR4/4 褐色シルト	4に近い
7	10YR4/4 褐色シルト	4よりもやや固い、粗砂混じり
8	10YR3/2 黒褐色腐植土	炭化物粒
9	10YR4/4 褐色砂質シルト	柔らかい



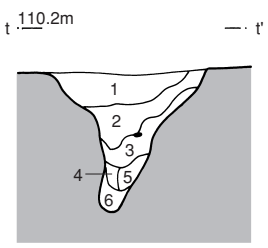


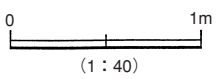


EP3265

1	10YR3/2 黒褐色シルト	土器片含む
2	10YR3/2 黒褐色シルト	地山ブロックを所々に含む
3	10YR4/2 灰黄褐色シルト	2に比べ地山ブロック少ない
4	10YR2/2 黒褐色シルト	炭化粒、地山ブロックを少し含む
5	10YR2/3 黒褐色シルト	4に比べて地山ブロック、炭化粒を多く含む
6	10YR2/2 黒褐色シルト	炭化粒を少し含む
7	10YR3/3 暗褐色シルト	地山の中に黒色土が斑に入る
8	10YR3/1 黒褐色シルト	親指大の地山ブロック、炭化粒含む
9	10YR4/4 褐色シルト	地山の中に粒土を少し含む
10	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックを含む、炭化粒はほとんど含まない
11	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト	

EP3250



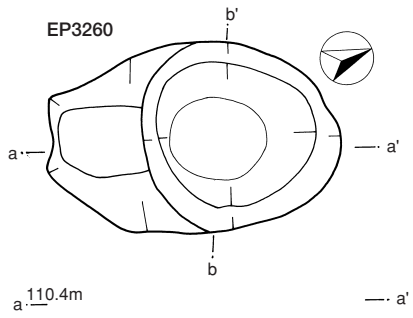


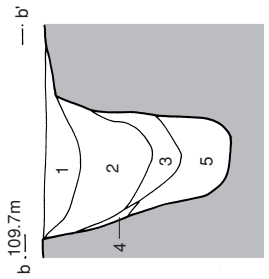
EP3250

1	10YR3/3 暗褐色腐植土	粘性少ない
2	10YR3/2 暗褐色腐植土	粘性有り、下部はシルト質
3	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト	礫入る、固いしまり、東斜面流れ込み
4	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト	しまり無い
5		３に近いがやや砂を多く含む、炭化物あり
6	10YR4/2 灰黄褐色砂	柔らかい、炭化物あり

第212図　ST3337 住居跡・出土遺物（５）

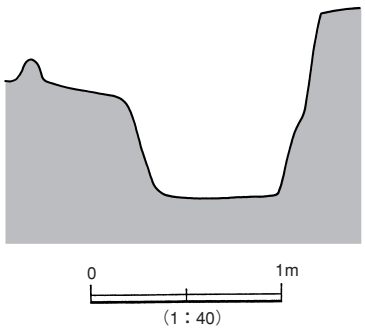
Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:248 Date: 2005/03/21 Mon 08:41:54

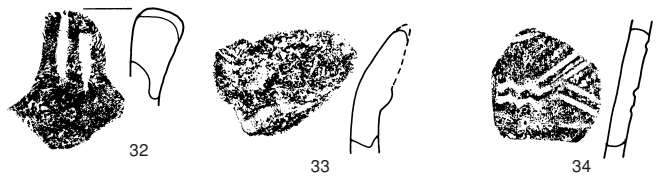


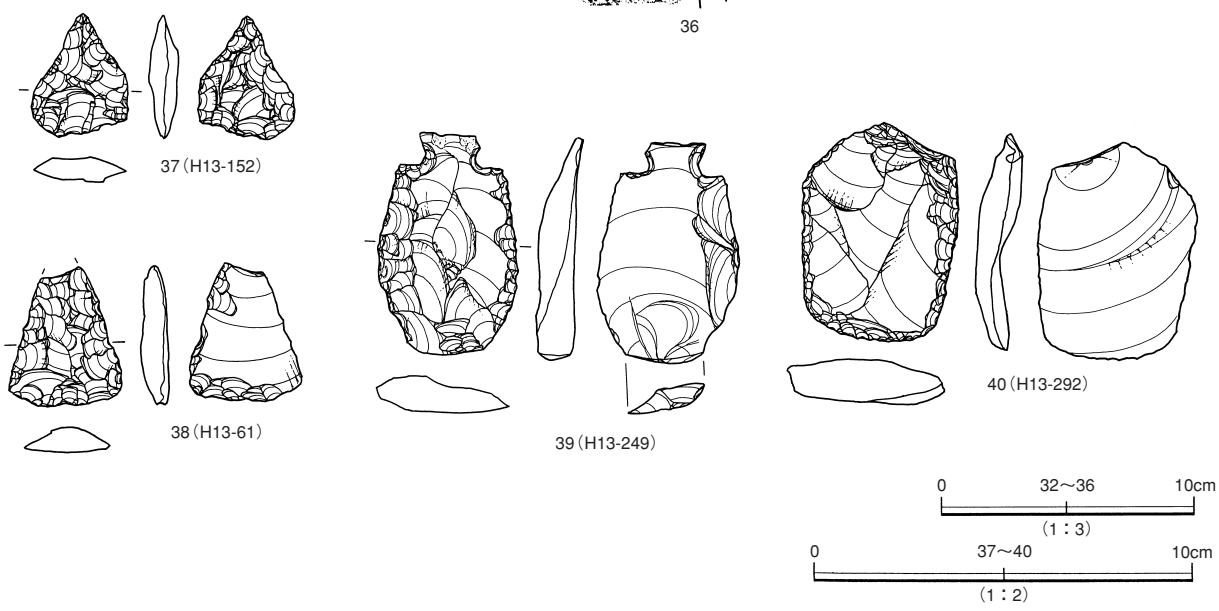


EP3260

1	10YR3/1 黒褐色腐植土	粘質シルト化、土器小礫含む固い
2	10YR3/1 黒褐色腐植土	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック1～6cm大がまばらに含む、土器あり
3	10YR3/1 黒褐色腐植土	2よりもやや10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロックが多く混じる、下部にシルト化
4	10YR4/4 褐色砂質シルト	壁崩れ
5	10YR4/4 褐色砂質シルト	下部に砂層、柔らかい（壁面が崩れて、堆積したものと思われる）

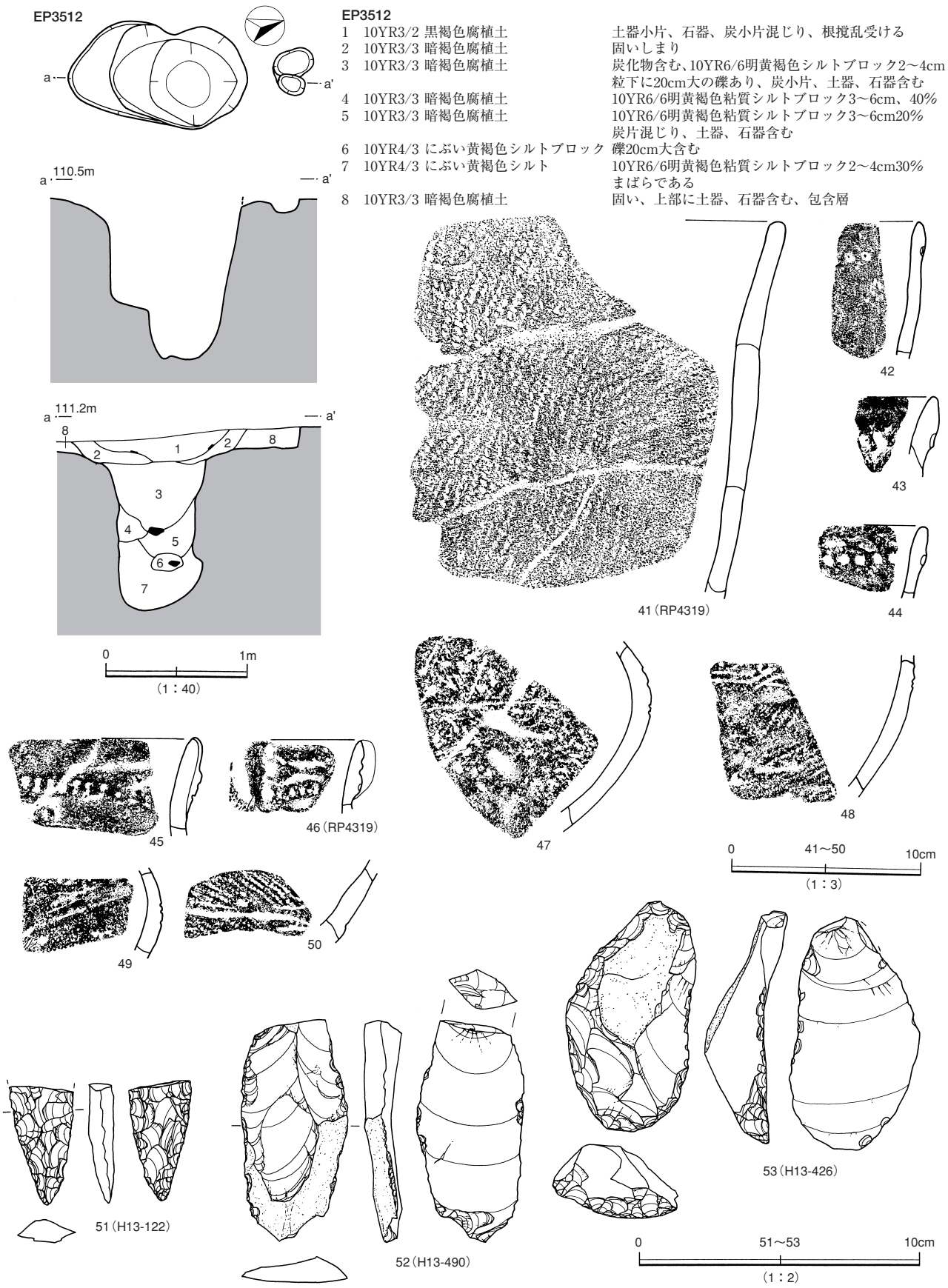






第213図　ST3337 住居跡・出土遺物（６）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:249 Date: 2005/03/21 Mon 08:45:51

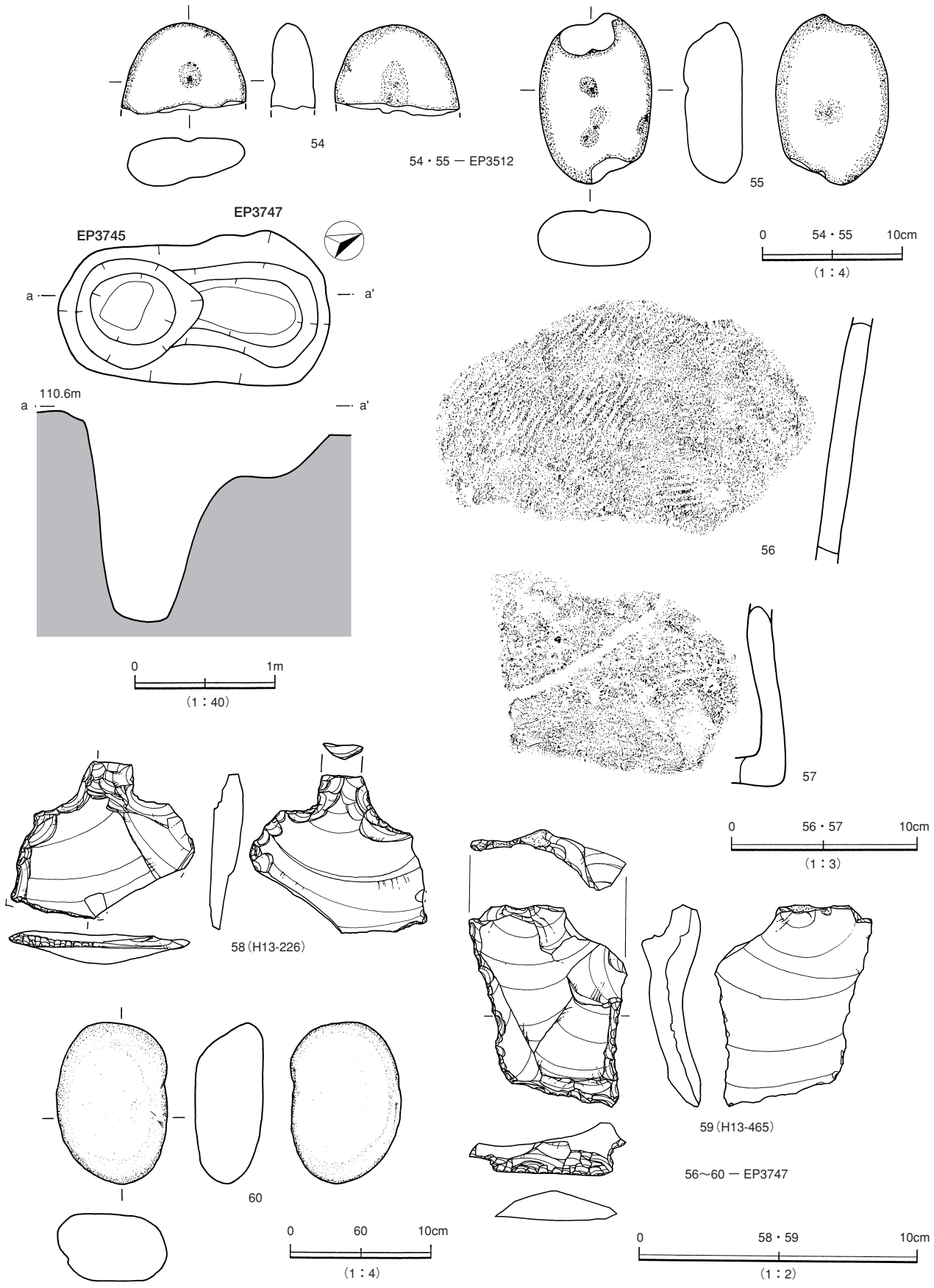


EP3512

1	10YR3/2 黒褐色腐植土	土器小片、石器、炭小片混じり、根撹乱受ける
2	10YR3/3 暗褐色腐植土	固いしまり
3	10YR3/3 暗褐色腐植土	炭化物含む、10YR6/6明黄褐色シルトブロック2～4cm粒下に20cm大の礫あり、炭小片、土器、石器含む
4	10YR3/3 暗褐色腐植土	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック3～6cm、40%
5	10YR3/3 暗褐色腐植土	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック3～6cm20%炭片混じり、土器、石器含む
6	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトブロック	礫20cm大含む
7	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック2～4cm30%まばらである
8	10YR3/3 暗褐色腐植土	固い、上部に土器、石器含む、包含層

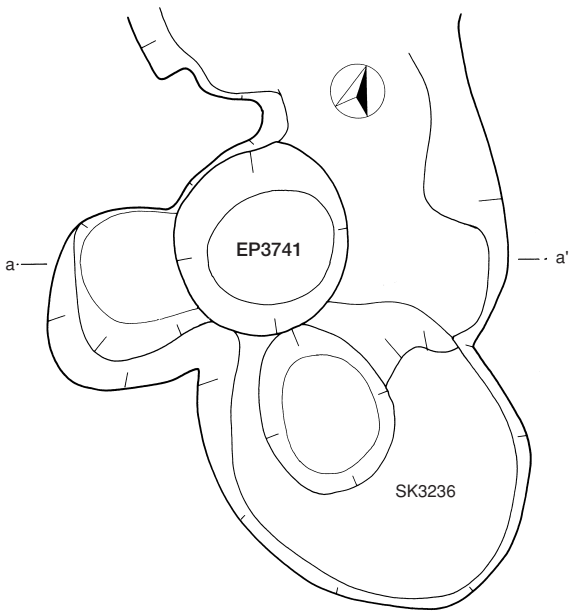
第214図　ST3337 住居跡・出土遺物（７）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:250 Date: 2005/03/21 Mon 08:48:24



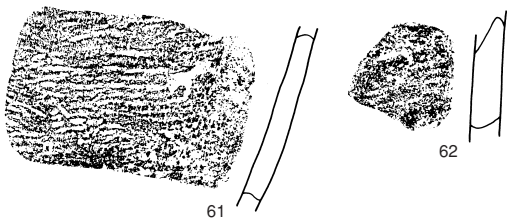
第215図　ST3337 住居跡・出土遺物（８）

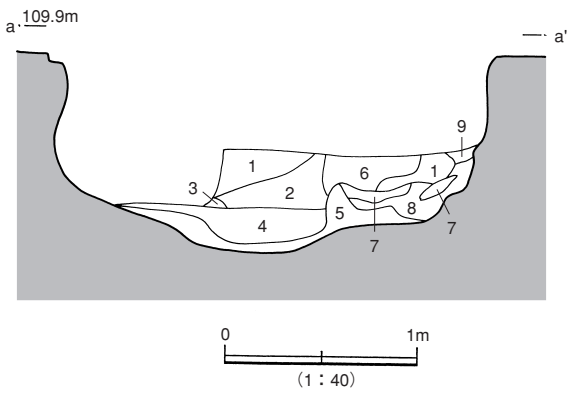
Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:251 Date: 2005/03/21 Mon 08:50:47



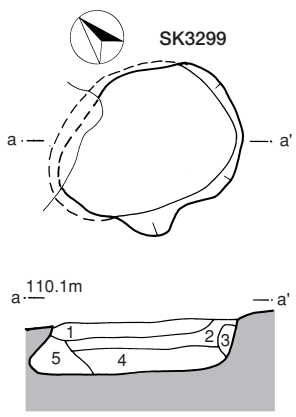
EP3741

1	10YR2/2 黒褐色土	黄褐色土粒多量に混入
2	10YR3/2 黒褐色砂質土	黄褐色砂多く、黄褐色土粒多量に混入
3	10YR8/2 灰白色砂	黒褐色土粒少量混入
4	10YR3/2 黒褐色土	黄褐色土ブロック、同粒子多量に混入
5	10YR8/2 灰白色砂	地山、非常に軟弱砂
6	10YR3/2 黒褐色砂質土	2と似るが、2よりも多量に黄褐砂混入
7	10YR5/6 黄褐色砂	5の砂と黒色土を混入
8	10YR2/2 黒褐色土	1とほぼ同じだが、やや黄褐色砂多い（2よりも黄褐色砂少ない）
9	10YR5/6 黄褐色粘質土	黒色土少量混入





0　61～64　10cm
（1：3）

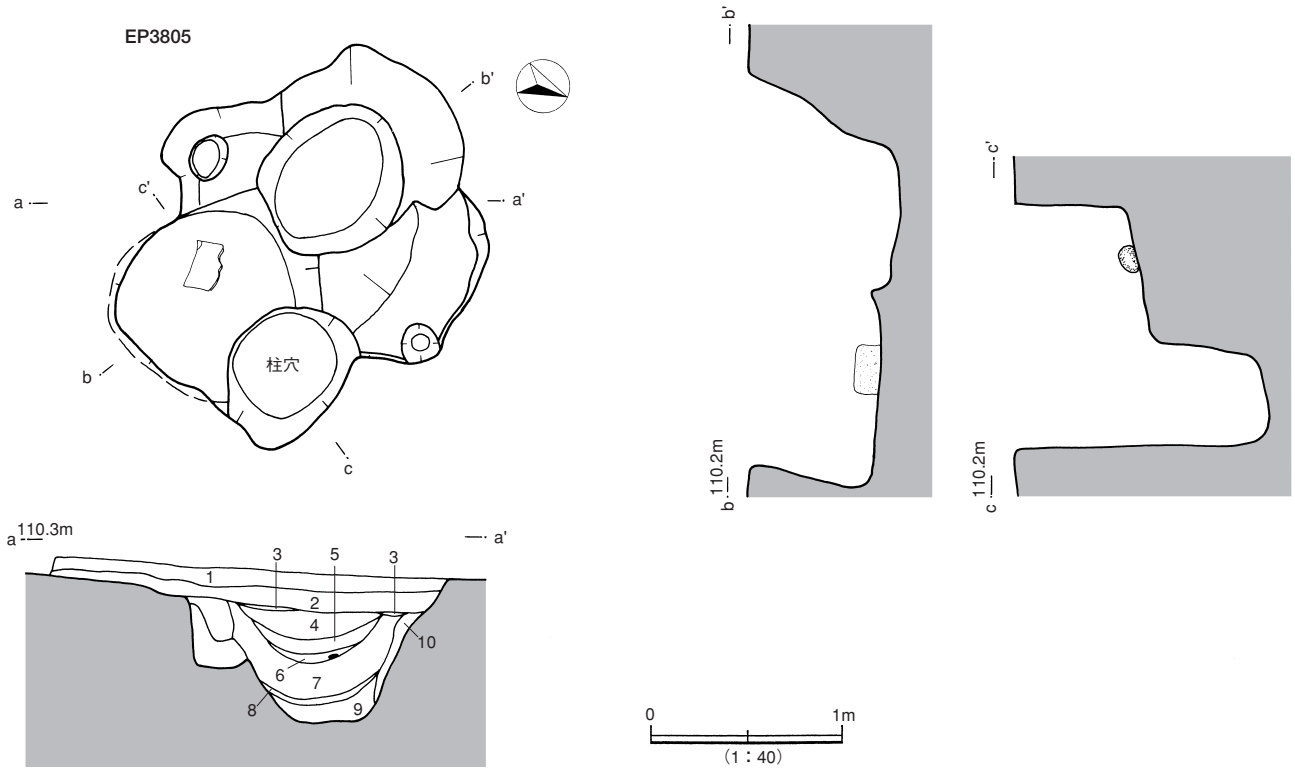


SK3299

1	10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロックを多量に含み、上面が非常に固くなる（住居跡床面）
2	10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	7に近似するが、黄褐色粘土粒を多量に含み、ややシルト質が強い
3	10YR3/1 黒褐色シルト質粘土	若干の炭化粒子、黄褐色粘土粒を含み、粘質が強く柔らかい（ブロック状に堆積）
4	10YR4/4 褐色シルト質粘土	炭化粒子、褐灰色粘土ブロック、黄褐色粘土粒を多量に含み柔らかい
5	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土	若干の炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロックを含み柔らかい（壁体崩落土）

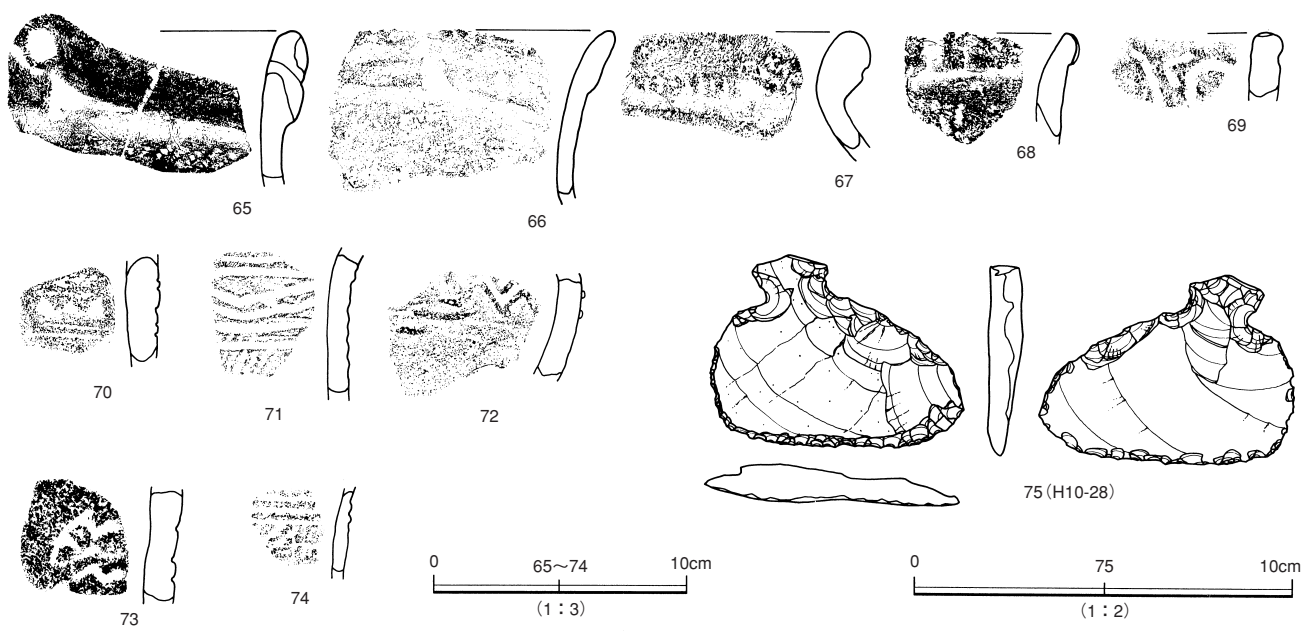
第216図　ST3337 住居跡・出土遺物（９）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:252 Date: 2005/03/21 Mon 08:52:35



EP3805

1　10YR3/1 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子、白色風化礫粒や粒子を含み、やや固くしまる土質
2　10YR3/1 黒褐色シルト質粘土　1に近似するが、炭化粒子や風化礫をやや多く含み、やや固くしまる土質
3　10YR3/2 黒褐色シルト質粘土　黒色粘土ブロック、黄褐色粘土粒やブロックを含む、固く踏みしめられている（ST3301床面、貼床）
4　10YR2/1 黒色シルト質粘土　炭化粒子、白色風化礫粒を多量に含み、固くしまっている（自然堆積土）
5　10YR2/2 黒褐色シルト質粘土　炭化粒子、炭化粒を多量に含み、柔らかい（自然堆積土）
6　10YR3/2 黒褐色シルト質粘土　5に比べて色調が明るく、5に近似するが、黄褐色粘土粒子が混じり、より柔らかくなる（自然堆積土）
7　10YR2/3 黒褐色シルト質粘土　炭化粒子、暗褐色粘土粒やブロックが多量に混じり、砂質性が強くややしまっている（自然堆積土）
8　10YR2/1 黒色シルト質粘土　炭化粒子や炭化材を多く含み、柔らかい（自然堆積土）
9　10YR2/2 黒褐色シルト質粘土　炭化粒子、黄褐色粘土ブロック、黒色粘土ブロックが混じりややしまっている（自然堆積土）
下部で黒色粘土、褐灰色粘土ブロックが固くなる
10　10YR3/3 暗褐色砂質シルト　壁体の崩壊土



第217図　ST3337 住居跡・出土遺物（10）

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:253 Date: 2005/03/25 Fri 11:13:52

ＥＬ3298は、本址だけでなくＳＴ4127・4168の炉としても認定されている。ＳＫ3299は重複する径80cmほどの小フラスコ土坑である。

遺物は、覆土中・床面・主柱穴からの出土が多い。１～14は覆土・床面からの出土で、半截竹管文の深鉢、石錐・掻器・削器などがある。１・15・17の深鉢はＥＬ3748に埋設されていた。ＥＬ3298から16が出土している。

主柱穴ＥＰ3133からは18～24の深鉢片･石匙･尖頭器が出土。ＥＰ3226からは25～27の深鉢片･掻器・磨石、ＥＰ3251から28～30の深鉢片・石鏃、ＥＰ3126から31の深鉢片が出土。ＥＰ3260から32～40の深鉢・台付鉢・石鏃・石匙・掻器が出土している。

また、ＥＰ3512からは41～50の深鉢片、51～53の尖頭器・掻器、54・55の凹石が出土。ＥＰ3747では56～60の深鉢片・石匙・磨石が出土。ＥＰ3741からは61～64の土器片、ＥＰ3805からは65～75の深鉢口縁部片、石匙が出土している。ＥＰ3741とＥＰ3805はフラスコ状土坑等と重複しており、遺物の所属が明確でない部分がある。

ＳＴ3404住居跡（第218・219図　写遺構－159　写遺物－136）

グリッド12・13－98に位置する。環状集落西側の斜面寄りの、やや傾斜する地区に所在する。ＳＴ3403と切り合い、ＳＴ3467大型住居跡の北西コーナーに重複し、ＳＴ3482と隣接する。

覆土は13層が確認された。１～10層までは人為的に埋め戻された土層で、12・13層は自然堆積層である。

特に１・２層上面は非常に堅緻で踏み固められた状態である。上面に構築された住居跡等の床面として使用されたと考えられる。

その上面に構築された遺構は本址と重複・隣接するＳＴ3467大型住居跡ないしはＳＴ3482ｂと推測される。本址と重複するＳＴ3403は断面図では本址が切っており、ＳＴ3403の上面も踏み固められていたことが確認されていることからＳＴ3403の可能性は低い。

平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北2.7m、東西2.4mを測る。壁は垂直に掘り込まれる。壁高は40～70cmを測る。西壁に撹乱を受け、北壁中央部から東壁にかけてＳＴ3403と重複する。

床面に溝状遺構

床面には中央に溝状遺構を有する。その規模は長さ２m、幅80cmで床面からの深さは25cmの太い隅丸長方形の溝である。その溝の東側と西側の床面では５～10cmほどの高低差がある。東側は平坦であるが西側は凹凸が著しい。

対向する壁柱穴

主柱穴は明確ではないが壁際に小ピットが10基検出された。Ｐ１・２は南北の壁中央に配置される。深さは床面から20cmほど掘り込まれ、主柱穴の可能性がある。他は10cmほどの浅いものである。

遺物は１・２の深鉢片と石匙・掻器が少量と、擦痕があり砥石に使用されたとみられる７や８の磨石などが出土している。

ＳＴ3403住居跡（第219図）

グリッド12－98に位置する。ＳＴ3404と重複し全体の１/２が切られる。平面形は小判形を呈していたとみられる。

規模は長軸2.4m、短軸2.1mを測る。覆土は自然堆積で黒褐色シルト質粘土である。覆土の上面は堅く踏み固められていた。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、壁高は約30cmである。東壁中央部から東南コーナー付近までの

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:254 Date: 2005/03/30 Wed 16:45:23

壁面はオーバーハングして抉れている。

床面に溝状遺構

床面は平坦だが長軸方向に溝状遺構を有する。幅40～50cm、深さ15～20cmを測る。柱穴は溝の端部の壁中にＰ２があり、それに隣接して壁外にＰ１がある。Ｐ２は掘り込みの状態から、柱が住居中央に傾いて斜めに立てられていたとみられる。Ｐ２は床面から20cm、Ｐ１は検出面から20cmの深さである。重複により西半部は検出されないが、本来はＰ２に対向するピットが西壁の溝端部にも掘り込まれていたものと推測される。

遺物は半截竹管による刺突文のある深鉢片や石錐が僅かに出土している。

ＳＴ3406住居跡（第220・221図　写遺構－160　写遺物－60・136）

グリッド12－97・98の地山面で検出した。南壁でＳＴ3467大型住居跡 ・ＳＤ3411と切り合い、ＳＴ3406→ＳＴ3467→ＳＤ3411と新旧が追える。

平面形は隅丸方形を呈する。規模は遺構確認面で長軸4.4m、短軸3.3mを測る。床面までの深さは52cmである。

覆土は11層を確認した。１～４層は自然堆積層で、６層は灰黄褐色粘土の人為的に埋め戻された土である。

壁面はほぼ垂直に立ち上がる。壁の高さは50cmほどである。床は平坦で締まりがある貼床で、褐色粘質シルトを敷いている。北東コーナーに特に堅緻な部分があり、その壁面の張り出しは入口部分と想定する。床面に焼土など炉の痕跡は認められなかったが、中央付近に炭化物の分布がみられた。

対向する壁柱穴

柱穴は床面および壁中、壁外で30カ所確認した。その内、対になるＰ１、Ｐ２が主柱穴と思われる。この柱穴の深さはＰ１が74cm、Ｐ２は60cmであり、かなりしっかりした掘り込みである。

各コーナー及び壁面の中央にもピットが配置される。コーナーにはＰ３～６があり、深さ24～50cmで比較的しっかり掘り込まれた柱穴である。中央のＰ８・13は９～14cmでやや浅い。

Ｐ１・２及び各コーナーのピットは斜めに建てられていた柱とみられる。この他にも床面には20cm前後の小穴がみられる。

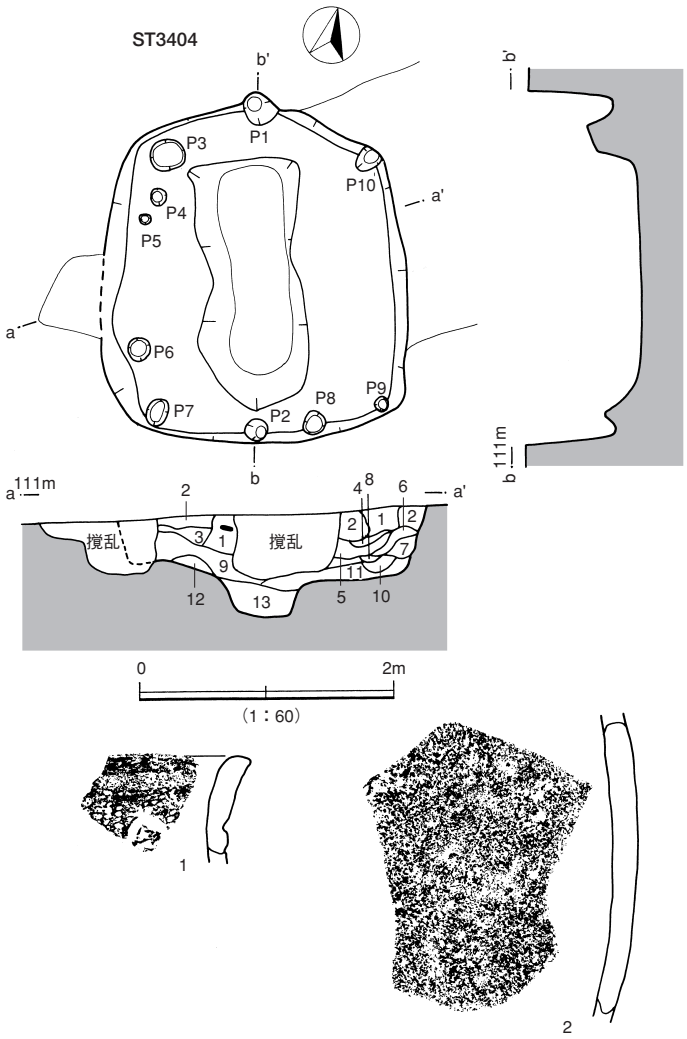
壁の外側を巡る径10cm前後の小穴は垂木穴とみられる。また、Ｐ14・Ｐ17・Ｐ20～Ｐ22・Ｐ26・Ｐ30は上端がオーバーハングし、断面はフラスコ状を呈する小ピットである。

Ｐ７・Ｐ15・Ｐ18・Ｐ23・Ｐ24・Ｐ27・Ｐ28は下端が上端よりかなりずれていることから柱が斜めに建てられていたとみられる。

各柱穴の深さは次の通りである。Ｐ１（74cm）、Ｐ２（60cm）、Ｐ３（38cm）、Ｐ４（30cm）、Ｐ５（50cm）、Ｐ６（24cm）、Ｐ７（31cm）、Ｐ８（９cm）、Ｐ９（24cm）、Ｐ10（Ｐ11）・Ｐ12（36cm）、Ｐ13（14cm）、Ｐ14（15cm）、Ｐ15（11cm）、Ｐ16（24cm）、Ｐ17（28cm）、Ｐ18（30cm）、Ｐ19（38cm）、Ｐ20（31cm）、Ｐ21（20cm）、Ｐ22（25cm）、Ｐ23（34cm）、Ｐ24（48cm）、Ｐ25（41cm）、Ｐ26（37cm）、Ｐ27（25cm）、Ｐ28（51cm）、Ｐ29（53cm）、Ｐ30（20cm）である。

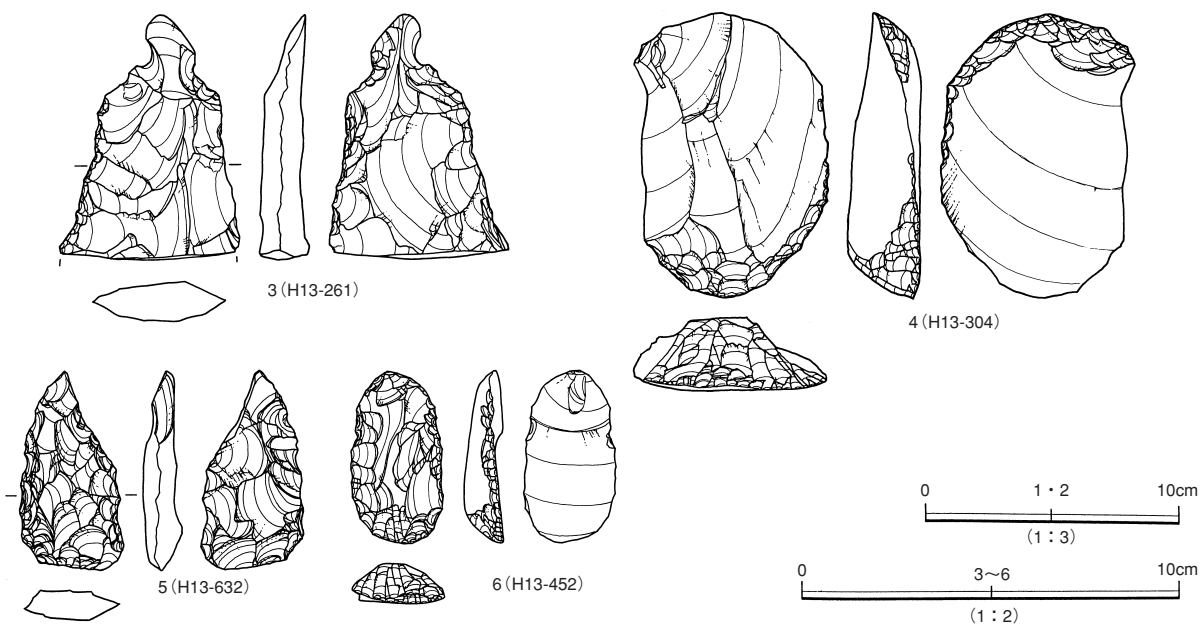
遺物は１～６の波状口縁、細い粘土紐貼付、半截竹管文の深鉢、７～10の石器数点が出土している。遺構の遺存は良好であるが遺物の出土は非常に少ない。

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:255 Date: 2005/03/21 Mon 08:57:21



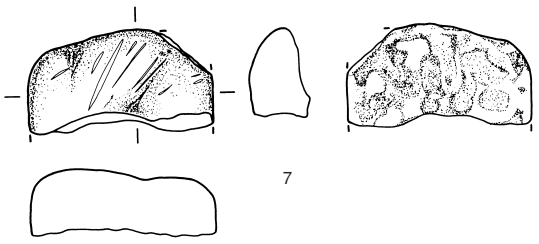
ST3404

1	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土	若干の黒褐色粘土ブロックと黄褐色粘土ブロックが多量に混じり、固く踏みしめられている
2	10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	多量の黄褐色粘土ブロック（小径1～2cm）や粘土粒を灰褐色粘土ブロックが混じり、固くしまっている
3	10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	多量の炭化粒子と黄褐色粘土粒やブロック（径5～6cm）若干の黒色粘土ブロックが混じり、固くしまっている
4	10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	3に近似するが、黒色粘土ブロックを含まない、3より柔らかいが固くしまっている
5	10YR2/2 黒褐色シルト質粘土	炭化粒子と黄褐色粘土粒及び、白色風化礫粒が多量に混じり、1～4より柔らかくなる
6	10YR4/1 褐灰色シルト	砂層中に黄褐色粘土粒や黒褐色粘土ブロック（径1～2cm）が混じる
7	10YR3/2 黒褐色シルト質粘土	若干の炭化粒子と黄褐色粘土粒子を含み、やや固くしまる土質である
8	10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	7に近似する土質であるが、色調が明るくなる
9	10YR4/4 褐色シルト質粘土	若干の炭化粒、黒色粘土ブロック混じる、多量の黄褐色粘土粒やブロック（径3～5cmと径9～13cm）を斑状に含む
10	10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒を多く含む7に近似しているが、色調が明るく柔らかくなる
11	10YR3/2 黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒がブロック（径1～3cm）が多量に混じり、柔らかい若干粘質土に富んでいる
12	10YR4/6 褐色シルト	黄褐色粘土粒が混じる（壁体の崩落土）
13	10YR3/2 黒褐色シルト質粘土	炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロック（径2～7cm）が多量に混じり、やや粘質があり柔らかい、上面が貼床状に固く踏みしめられている

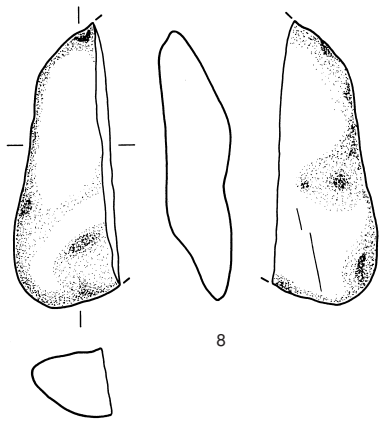


第218図　ST3404 住居跡・出土遺物

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:256 Date: 2005/03/21 Mon 08:58:55

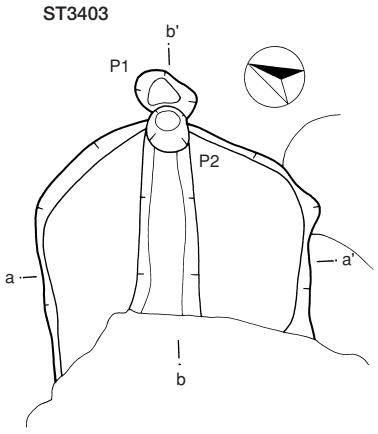


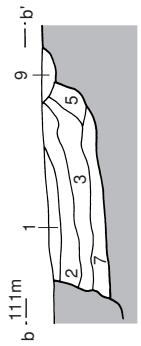
ST3404

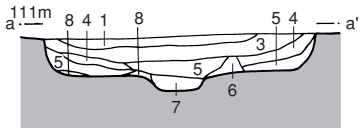


0　7・8　10cm
（1：4）

ST3403







0　2m
（1：60）

ST3403

1　10YR3/1 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子、黄褐色粘土粒、多量の白色風化礫や粒子が混じり、非常に固くしまっている

2　10YR2/2 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロック（小）、黒色粘土粒が混じりやや固くしまっている

3　10YR2/3 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子と黄褐色粘土粒やブロック（径1～2cm）が多量にやや固くしまるが、1・2に比べて砂質性が強い

4　10YR2/2 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子と黄褐色粘土粒やブロック（径3～4cm）が多量に混じる

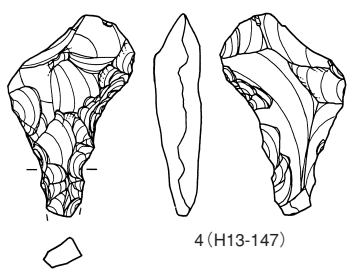
5　10YR2/2 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子と黄褐色粘土粒と黒色粘土ブロック（径7～9cm）が多量に混じりやや固くしまる

6　10YR3/4 暗褐色シルト　砂層中に黄褐色粘土粒子が多量に混じる

7　10YR3/2 黒褐色シルト質粘土　多量の炭化粒子や黄褐色粘土粒ブロック、若干の黒色粘土ブロックが混じり柔らかい

8　10YR3/1 黒褐色シルト質粘土　黄褐色粘土粒ブロックと黒色粘土ブロック及び若干の褐色粘土ブロックが混じり踏み固められる

9　10YR3/2 黒褐色シルト質粘土　若干の炭化粒子、白色風化礫粒子黄褐色粘土粒が混じり固くしまるがやや砂質性強い

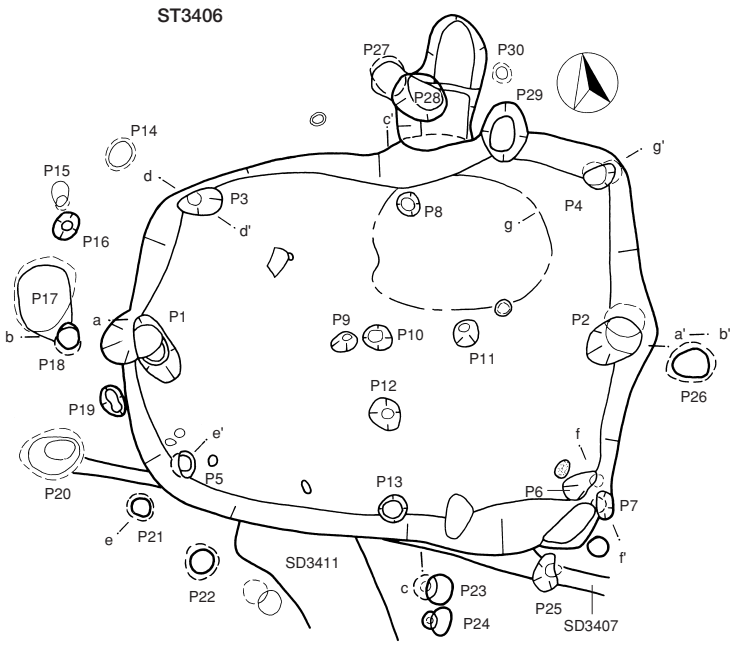


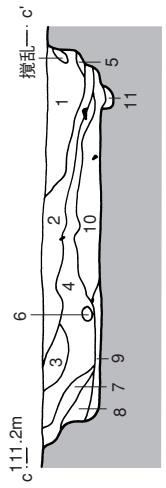
0　1～3　10cm
（1：3）

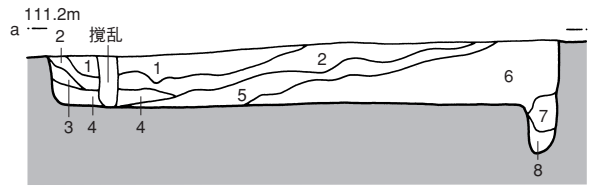
0　4　10cm
（1：2）

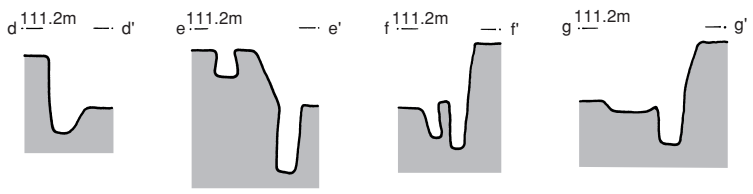
第219図　ST3404・3403 住居跡・出土遺物

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:257 Date: 2005/03/21 Mon 09:00:31









0　2m
（1：60）

ST3406

a-a'

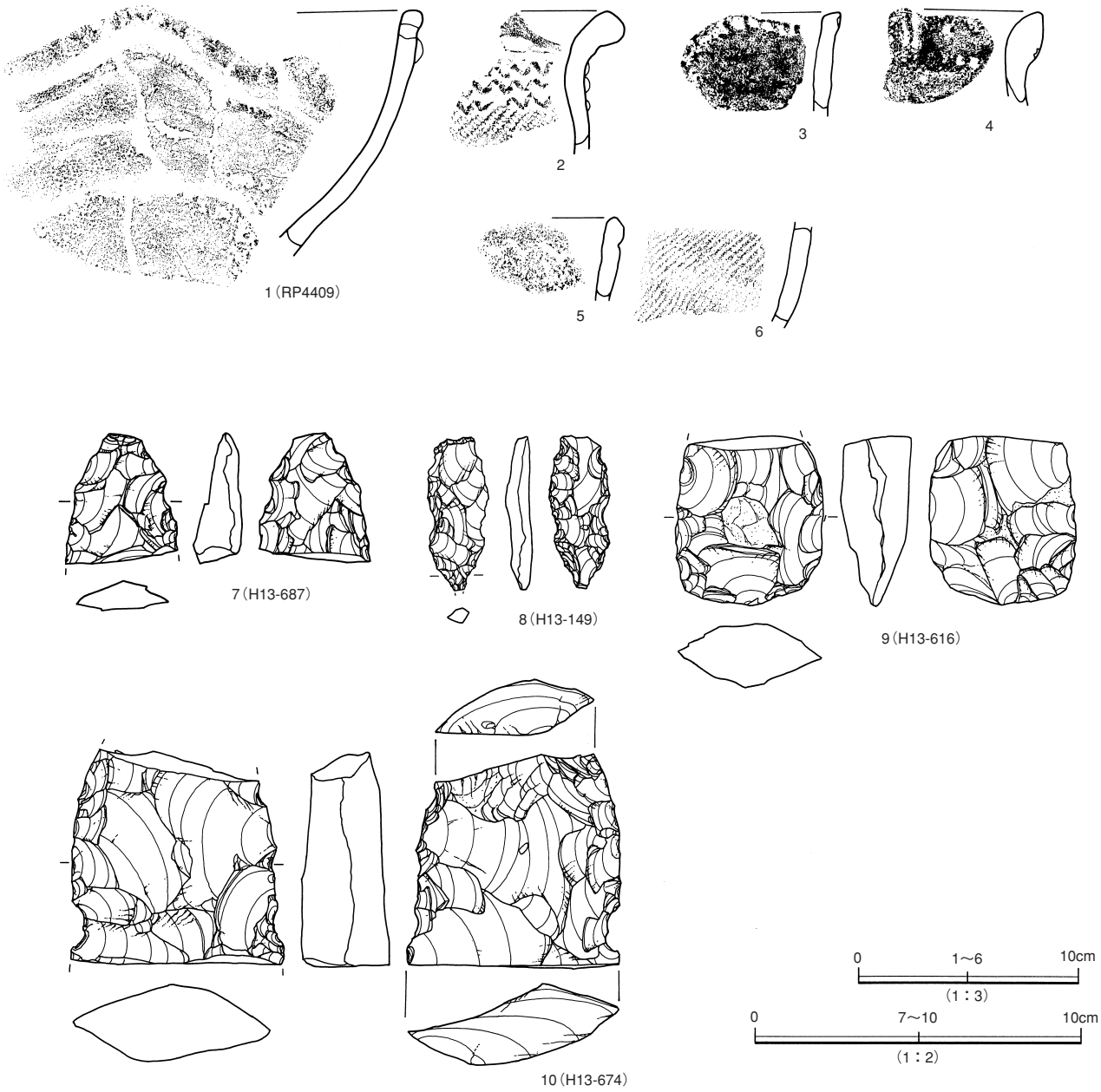
1	10YR5/3	にぶい黄褐色腐植質シルト	10YR6/6明黄褐色粘質土ブロック20cm大1ケ所あり、しまり固い
2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	柔らかい
3	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質シルト	壁崩れ、柔らかい
4	10YR5/2	灰黄褐色砂質シルト	一部黄褐色土ブロック15～20cm大あり、柔らかい
5	10YR6/2	灰黄褐色シルト	上部はやや2の汚れ受ける、粘性あり、RP4409含む
6	10YR4/2	灰黄褐色粘質シルト	10YR6/6明黄褐色粘性シルト30%、炭片小1cm大多い、土器出土
7	10YR4/2	灰黄褐色砂質シルト	柔らかい
8	10YR4/1	褐灰色砂	柔らかい

c-c'

1	10YR6/6	明黄褐色粘質シルト	固い、埋められている
2	10YR3/3	暗褐色腐植シルト	炭小片混じり、土器あり
3	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	
4	10YR6/6	明黄褐色粘質シルト	1と同じだが、腐植している、石器、礫少量含む、柔らかい
5	10YR3/2	黒褐色腐植土	壁際に入る
6	10YR3/2	黒褐色腐植土	根？
7	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	
8	10YR4/4	褐色シルト	10YR3/1黒褐色小粒1～4cmが混じる、壁際流れ
9	10YR3/1	黒褐色腐植質シルト	固い、床土か、土器出土
10	10YR4/2	灰黄褐色シルト	固い、礫、土器出土、炭化物含む
11	10YR4/1	褐灰色砂質シルト	柔らかい

第220図　ST3406 住居跡

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:258 Date: 2005/03/21 Mon 09:01:59



第221図　ST3406 住居跡出土遺物

Title:P240-259_縄文時代.ec6 Page:259 Date: 2005/03/21 Mon 09:03:07

ＳＴ3467住居跡（第222～231図　写遺構－161　写遺物－12・62・139・140）

グリッド12～14－95～98に位置する。本址の地区内には多数の遺構が重複する。西側ではＳＴ3403・ＳＴ3404、北側ではＳＴ3406と重複し、これらを切る。他にＳＫ3521・ＳＫ3989・ＳＫ3976・ＳＫ3856・ＳＫ3930・ＳＫ3777・ＳＫ3468等と重複する。

ＳＫ3521・ＳＫ3989は本址の周溝を破壊している様相を呈しているため、本址が切られるとみられる。他の土坑は本址内部に位置するが新旧関係は不明である。

平面プランは主柱穴の周りに巡らされている周溝の形態から方形を呈していたものとみられる。規模は東西16.5m、南北8.5mを測る大型住居跡である。平面プランは二次堆積の可能性のある明黄褐色粘土面で検出されている。堆積土は黒褐色土を主体とする。

16.5mの大型住居

壁面は上部削平され未検出のため不明である。床面は踏み固められた堅緻な床面は検出されていない。しかし、炉とみられる焼土範囲が検出されたため、この検出面が床面とほぼ同レベルと考えられる。

主柱穴は次の対向する12本が確認された。ＥＰ3514－ＥＰ3513、ＥＰ3882－ＥＰ4026、ＥＰ3987－ＥＰ3912、ＥＰ3992－ＥＰ3917、ＥＰ3974－ＥＰ3972、ＥＰ3520－ＥＰ3465である。

柱の太さは30～50cmと推定され、掘り方の規模は１～1.5mの大型の柱穴が確認されている。柱穴はそれぞれ２本が対向しているが、柱の深さもほぼ同様である。各主柱穴の深さは次の通りである。ＥＰ3514（43cm）、ＥＰ3513（37cm）、ＥＰ3882（112cm）、ＥＰ4026（125cm）、ＥＰ3987（129cm）、ＥＰ3912（126cm）、ＥＰ3992（131cm）、ＥＰ3917（140cm）、ＥＰ3974（162cm）、ＥＰ3972（160cm）、ＥＰ3520（62cm）、ＥＰ3465（50cm）である。

この他、主柱穴の周囲に径20～30cmの補助柱穴が配置される。特に住居跡の東面と西面に多数検出されている。住居跡の内面にも小ピットが多数検出されているが、所属は明確ではない。

周溝は住居跡の北面と南面で検出されている。幅15～30cm、深さ10cmほどである。東面・西面では周溝が全く検出されていないことから、当初から構築されていない可能性がある。これは補助柱穴が東面・西面に多く、北面・南面には少ないことと関連すると推測する。

炉は直径70～90cmほどの焼土範囲が３カ所、他に８カ所の小形の焼土範囲が確認されている。炉１はＳＫ3777の廃棄後に構築されている。

遺物は住居跡内、柱穴内から多数出土しており、その内１～90を図示した。１は口縁部と胴部に半截竹管文を縦位に施文する深鉢、２・３・13は三角刻印文、４～27は沈線文・半截竹管文・ボタン状貼付文の深鉢である。27は深鉢の底部付近まで半截竹管文が施されている。

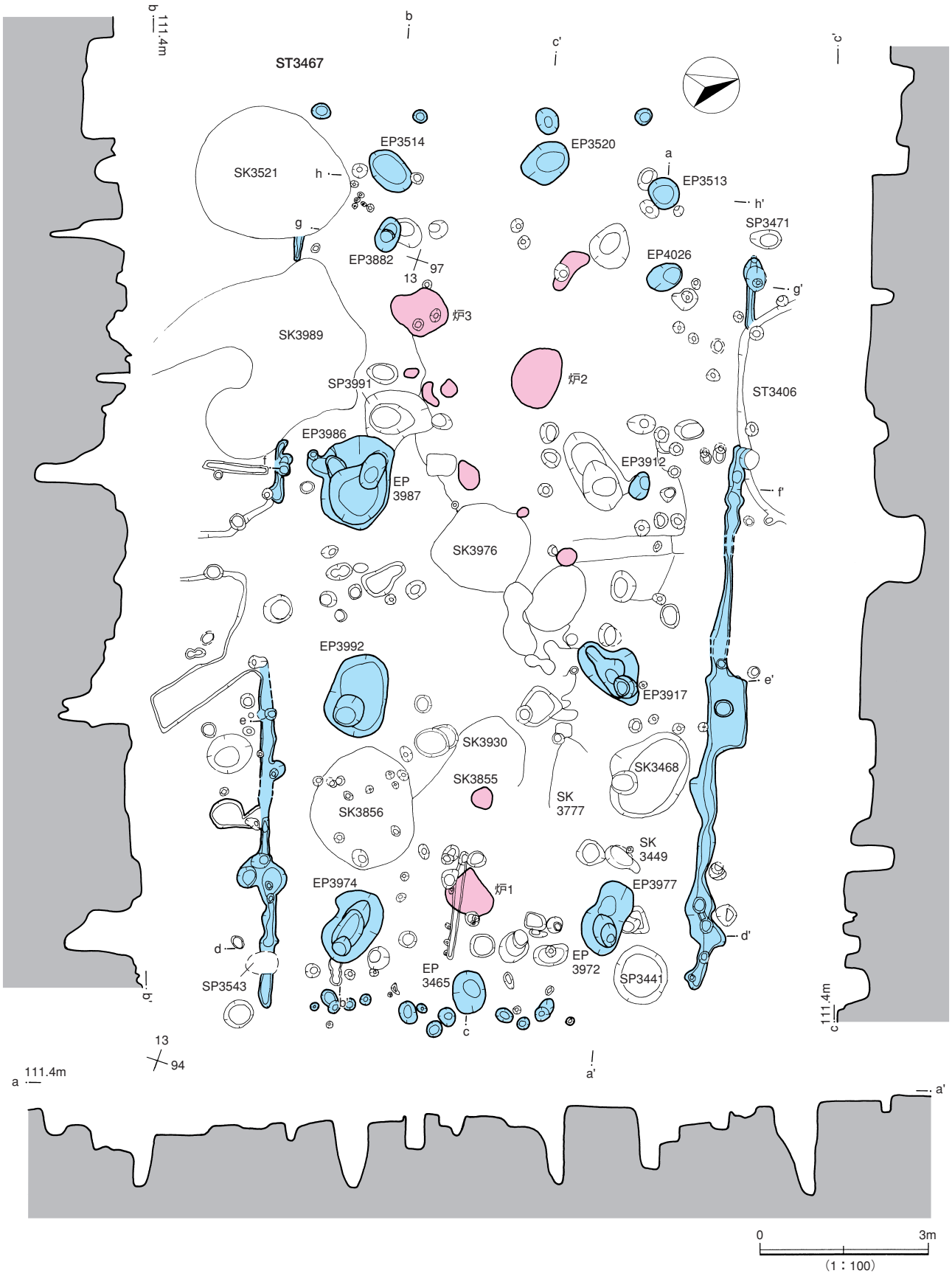
28～57は石鏃・石錐・石匙・掻器・削器である。58は円盤状石製品、59は尖頭器、60・63は磨石、61・62は凹石である。

64～66は本址内及び周辺のピット出土の石器である。64はＳＰ3471、65はＳＰ3991、66はＳＰ3543出土の掻器・石匙・黒曜石剥片である。ＥＰ3986では66～75が出土している。66～73は半截竹管文の台付鉢、74・75は尖頭器である。

76～87はＥＰ3992出土である。76～83は深鉢、83～87は石鏃・尖頭器。88はＥＰ3917出土の深鉢、89・90は周溝付近から出土している深鉢。90は縄文中期大木８ｂ式土器である。

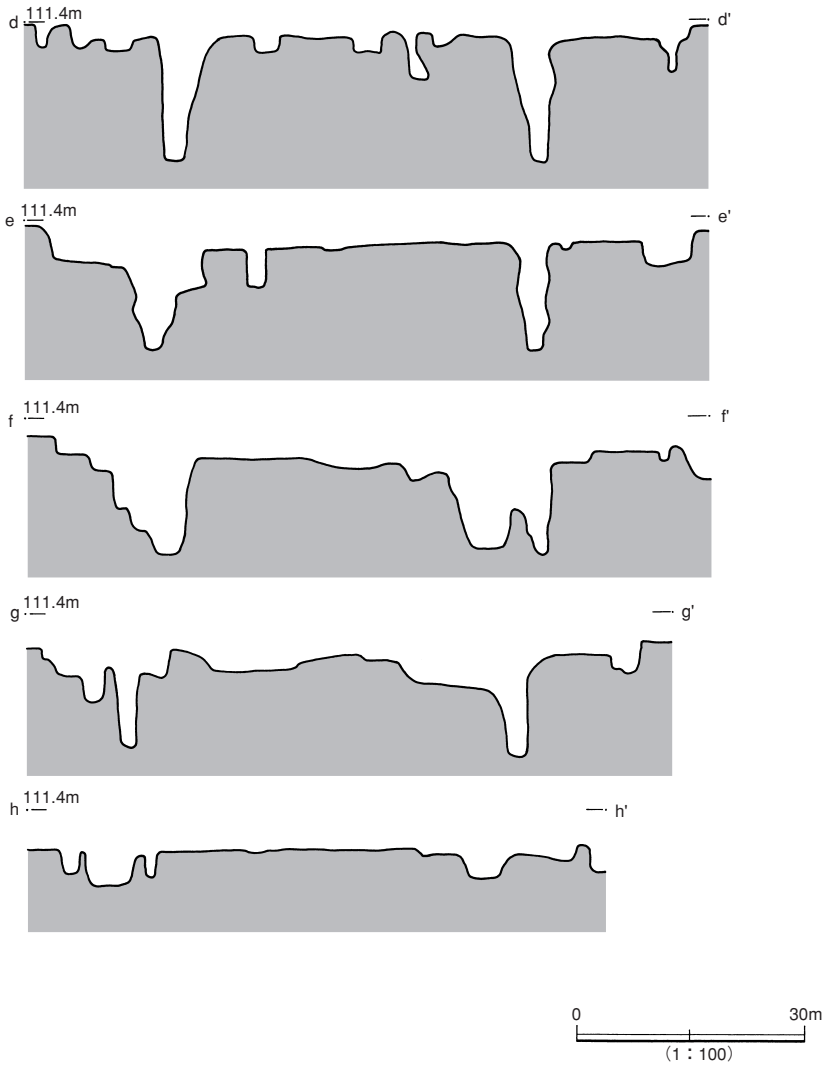
ＳＫ3468は本址内に重複する土坑である。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸２m、短軸１mを測る。覆土は黒褐色～暗褐色シルトを主体として８層が確認され、土器や石器、炭化物を

Title:P260-282_縄文時代.ec6 Page:260 Date: 2005/03/19 Sat 17:37:26



第222図　ST3467 住居跡（1）

Title:P260-282_縄文時代.ec6 Page:261 Date: 2005/03/19 Sat 17:39:48



第223図　ST3467 住居跡（２）

混入する。

３層で検出された焼土は廃棄されたものではなく、この土坑の中で燃焼した焼土とみられる。これは、ＳＴ3467に関連する土坑、燃焼施設の可能性もある。

壁は平坦な底面からオーバーハングして立ち上がる。検出面からの深さは60～70cmである。底面付近からは石器剥片が多数出土し、一括廃棄されたものとみられる。

石器剥片の一括廃棄